

**IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.2.2

**IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.2.2

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC18-9283-01
IBM DB2 Information Integrator
OmniFind Edition
Administering Enterprise Search
Version 8.2.2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

本書のトピックについて **xiii**

本書の対象読者 xiii

エンタープライズ・サーチとは? 1

エンタープライズ・サーチでサポートされているデータ・ソース・タイプ	1
エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要	2
エンタープライズ・サーチ・クローラー	3
エンタープライズ・サーチ・パーサー	4
エンタープライズ・サーチ索引	6
エンタープライズ・サーチ用検索サーバー	8
エンタープライズ・サーチ管理コンソール	9
エンタープライズ・サーチ・システムのモニター	10
エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル	11
エンタープライズ・サーチのカスタマイズ	12
エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション	13
エンタープライズ・サーチのデータ・フロー	14

エンタープライズ・サーチ管理の概要 . . . 17

管理コンソールへのログイン	21
単一サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更	22
複数サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更	23

エンタープライズ・サーチ・コレクション 29

コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成	30
「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成	31
コレクションの編集	33
コレクションの削除	34

エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理 37

クローラーの作成	39
クローラーのプロパティの編集	40
クローラー・スペースの編集	41
クローラーの削除	42
Content Manager クローラー	42
AIX での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成	44
Linux での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成	46
Windows での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成	47
DB2 クローラー	49
Exchange Server クローラー	50
NNTP クローラー	52

Notes クローラー	52
UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成	55
Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成	57
Notes クローラーに対する DIOP プロトコルの構成	59
UNIX ファイル・システム・クローラー	60
VeniceBridge クローラー	61
UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成	62
Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成	63
Web クローラー	65
ユーザー・エージェントの構成	66
JavaScript のサポート	67
Web クローラー・スペースを制限する規則	68
Web クローラーにおける再クロール間隔の設定	72
Web クローラーにおける URL アクセスのオプション	72
Web クローラーがソフト・エラーのページを処理する方法	73
プロキシ・サーバーによってサービスされている Web サイト	74
セキュア Web サイトのクロールのサポート	75
Cookie の管理	78
グローバル Web クロール・スペースの構成	79
リンクをたどらない、索引付けしないディレクティブ	81
Web ページでのリンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしないディレクティブのオーバーライド	82
Windows ファイル・システム・クローラー	83
データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成	84
エンタープライズ・サーチ・クローラーでサポートされるファイル・タイプ	85
エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット	86

エンタープライズ・サーチ用文書の構文解析 93

カテゴリーに関する作業	94
ルール・ベースのカテゴリー	95
モデル・ベースのカテゴリー	97
カテゴリー・ツリー	98
カテゴリー化タイプの選択	98
カテゴリーの構成	100
XML 検索フィールドの作業	102
XML 検索フィールド	102
XML エlementを検索フィールドにマップ	102

HTML 検索フィールドの作業	104	サンプル検索アプリケーションへのアクセス	152
HTML 検索フィールド	105	サンプル検索アプリケーションに対するセキュリテ	
検索フィールドへの HTML メタデータ・エレ		ーの使用可能化	153
メントのマッピング	105	エンタープライズ・サーチからの検索結	
カスタム・テキスト分析	106	果	157
分析エンジンとシステムとの関連付け	108	照会方式の種類	157
分析エンジンとコレクションとの関連付け	109	テキスト・ベースのスコアリング	159
共通分析構造への XML エLEMENT のマッピ		静的ランキング	160
グ	110	動的要約	160
分析結果の索引付け	111	検索結果内のサマリーのカスタマイズ	161
ネイティブ XML 検索のサポートの使用可能化	113	エンタープライズ・サーチ・セキュリテ	
中国語、日本語、韓国語の文書の言語分析	114	ィー	163
N-gram セグメンテーション	114	管理役割	164
空白文字からの改行文字の除去	114	管理ユーザーの構成	166
コレクション・パーサーと Stellent セッションに関		認証とアクセス制御	166
連付けられた文書タイプ	115	WebSphere Application Server 内でエンタープライ	
文書タイプとコレクション・パーサーとの関連付		ズ・アプリケーションのセキュリティーを使用不可	
け	115	にする	168
デフォルトのコレクション・パーサー・サービ		コレクション・レベルのセキュリティー	169
規則	117	重複文書分析	169
文書タイプと Stellent セッションとの関連付け		アンカー・テキスト分析	170
Stellent セッション用デフォルト構文解析規則		禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索	
	120	引作成	171
エンタープライズ・サーチ索引の管理	123	検索アプリケーション ID を使用したセキュリ	
索引作成のスケジューリング	124	ティー	172
索引スケジュールの変更	125	文書レベル・セキュリティー	173
索引スケジュールの使用可能および使用不可設定		保管されたセキュリティー・トークンによる検証	
索引の並行作成の構成	127	照会処理中の現行の信用証明情報の検証	174
索引の検索可能表示に影響するオプション	128	ユーザー・プロファイル	175
照会内のワイルドカード文字	128	ID 管理のサポートの構成	176
照会でのワイルドカード文字のサポートの構成		LDAP サーバー・プロパティの構成	178
有効範囲	130	文書レベル・セキュリティーを使用不可にする	179
有効範囲の構成	131	エンタープライズ・サーチの	
省略表示した URI	132	WebSphere Portal との統合	183
検索結果内の URI の省略表示	134	WebSphere Portal へのエンタープライズ・サーチ・	
索引から URI を除去	135	ポートレットのデプロイ	185
検索サーバーの管理	137	エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索す	
検索キャッシュ	138	ためのポータル検索エンジンの構成	186
検索キャッシュの構成	138	ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリテ	
カスタム同義語辞書	139	ィー	186
検索アプリケーションの同義語サポート	140	WebSphere Portal からエンタープライ	
同義語に使用できる XML ファイルの作成	141	ズ・サーチへのマイグレーション	189
同義語辞書の作成	142	WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造の	
同義語辞書とシステムとの関連付け	143	マイグレーション	189
同義語辞書とコレクションとの関連付け	143	WebSphere Portal からのコレクションのマイグレー	
クイック・リンクに関する作業	144	ション	191
クイック・リンク	144	マイグレーションされたコレクションの設定	193
クイック・リンクの構成	145	マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル	195
エンタープライズ・サーチの検索アプリ		エンタープライズ・サーチの開始と停止	197
ケーション	147	エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始	197
コレクションとの検索アプリケーションの関連付け	148		
サンプル検索アプリケーションの機能	149		
サンプル検索アプリケーション・プロパティの編			
集	150		

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止	199	FFQC1042E	242
エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニター	201	FFQC1043E	242
単一コレクション内の文書数の見積もり	201	FFQC1044E	242
システム・リソースの可用性のチェック	202	FFQC1046W	243
コレクションのモニター	203	FFQC1072W	243
URI についての詳細表示	204	FFQC2034E	243
クローラーのモニター	205	FFQC2605E	244
Web クローラーのアクティビティ詳細の表示	207	FFQC2607W	244
Web クローラーのスレッドの詳細	208	FFQC2611W	244
Web クローラー・アクティブ・サイト	209	FFQC2613W	244
Web クローラーのクロール速度	209	FFQC2616W	245
Web クローラー・レポートの作成	210	FFQC3025E	245
Web クローラーの HTTP 戻りコード	212	FFQC3026E	245
パーサーのモニター	215	FFQC4815E	245
コレクションの索引アクティビティのモニター	216	FFQC4838E	246
エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター	217	FFQC5201E	246
検索サーバーのモニター	219	FFQC5217E	246
データ・リスナーのモニター	220	FFQC5228W	246
		FFQC5233E	246
		FFQC5234W	247
		FFQC5235E	247
		FFQC5238E	247
		FFQC5800E	247
		FFQC5801E	248
		FFQC5802E	248
		FFQC5803E	248
		FFQC5804E	248
		FFQC5805E	249
		FFQC5806E	249
		FFQC5807E	249
		FFQC5808E	249
		FFQC5809E	249
		FFQC5810W	250
		FFQC5811W	250
		FFQC5812E	251
		FFQC5813E	251
		FFQC5814E	251
		FFQC5815E	251
		FFQC5816E	252
		FFQC5817E	252
		FFQC5818E	252
		FFQC5819E	252
		FFQC5820E	252
		FFQC5821E	253
		FFQC5822E	253
		FFQC5823E	253
		クローラーのメッセージ (FFQD)	253
		FFQD1003E	253
		FFQD1011E	253
		FFQD1031E	254
		FFQD1034E	254
		FFQD1035E	254
		FFQD1036E	254
		FFQD1037E	255
		FFQD1101E	255
		FFQD1106E	255
エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理	223		
アラート	223		
コレクション・レベル・アラートの構成	224		
システム・レベル・アラートの構成	226		
ログ・ファイルの構成	227		
SMTP サーバー情報の構成	228		
ログ・メッセージについての E メール受信	229		
ログ・ファイルの表示	232		
エンタープライズ・サーチのバックアップおよびリストア	235		
エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップ	236		
エンタープライズ・サーチ・システムのリストア	236		
エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを新規のサーバーにリストアする	237		
エンタープライズ・サーチのメッセージ	239		
コントローラーのメッセージ (FFQC)	239		
FFQC0008E	239		
FFQC0020I	239		
FFQC0023E	239		
FFQC0027E	240		
FFQC0032E	240		
FFQC0641E	240		
FFQC1000E	240		
FFQC1002E	241		
FFQC1003E	241		
FFQC1008E	241		
FFQC1010E	241		
FFQC1018E	241		
FFQC1023E	242		
FFQC1041W	242		

FFQD1107E	255	FFQD2253E	267
FFQD1108E	256	FFQD2254E	267
FFQD1123E	256	FFQD2255E	267
FFQD1128E	256	FFQD2256E	268
FFQD1138E	256	FFQD2257E	268
FFQD1139E	256	FFQD2258E	268
FFQD1142E	257	FFQD2270E	268
FFQD1407E	257	FFQD2271E	268
FFQD1420E	257	FFQD2272E	269
FFQD2005E	257	FFQD2273E	269
FFQD2007E	257	FFQD2274E	269
FFQD2100E	258	FFQD2275E	269
FFQD2102E	258	FFQD2276E	269
FFQD2103E	258	FFQD2277E	269
FFQD2104E	258	FFQD2278E	270
FFQD2105E	258	FFQD2279E	270
FFQD2106E	259	FFQD2280E	270
FFQD2107E	259	FFQD2282E	270
FFQD2108E	259	FFQD2800E	270
FFQD2109E	259	FFQD2801W	271
FFQD2130E	259	FFQD2802I	271
FFQD2131E	260	FFQD2803I	271
FFQD2132E	260	FFQD2804I	271
FFQD2133E	260	FFQD2805I	271
FFQD2135E	260	FFQD2806E	271
FFQD2136E	260	FFQD2807E	272
FFQD2137E	261	FFQD2808E	272
FFQD2160E	261	FFQD2809E	272
FFQD2161E	261	FFQD2810E	272
FFQD2162E	261	FFQD2811E	272
FFQD2163E	261	FFQD2812E	272
FFQD2164E	262	FFQD2813E	273
FFQD2190E	262	FFQD2900E	273
FFQD2191E	262	FFQD2901I	273
FFQD2210E	262	FFQD2902W	273
FFQD2211E	262	FFQD2903I	273
FFQD2212I	263	FFQD2904E	274
FFQD2213E	263	FFQD2905E	274
FFQD2214E	263	FFQD2906I	274
FFQD2215E	263	FFQD2907E	274
FFQD2216E	264	FFQD2908E	274
FFQD2217E	264	FFQD2909E	275
FFQD2218E	264	FFQD2910I	275
FFQD2240E	264	FFQD2911E	275
FFQD2241E	265	FFQD2912W	275
FFQD2242E	265	FFQD2913I	275
FFQD2243E	265	FFQD2914I	276
FFQD2244E	265	FFQD2915I	276
FFQD2245E	265	FFQD2916I	276
FFQD2246E	266	FFQD2917E	276
FFQD2247E	266	FFQD2997E	276
FFQD2248E	266	FFQD2998E	276
FFQD2249E	266	FFQD2999E	277
FFQD2250E	266	FFQD3000I	277
FFQD2251E	267	FFQD3001E	277
FFQD2252E	267	FFQD3002I	277

FFQD3003E	277	FFQD3059E	287
FFQD3004I	277	FFQD3060E	287
FFQD3005E	278	FFQD3061E	288
FFQD3006I	278	FFQD3062E	288
FFQD3007E	278	FFQD3063E	288
FFQD3008E	278	FFQD3064E	288
FFQD3009I	278	FFQD3065I	288
FFQD3010I	278	FFQD3066I	289
FFQD3011E	279	FFQD3067I	289
FFQD3012I	279	FFQD3068I	289
FFQD3013W	279	FFQD3069E	289
FFQD3014E	279	FFQD3070E	289
FFQD3015E	279	FFQD3071E	289
FFQD3016E	279	FFQD3072E	290
FFQD3017E	280	FFQD3073E	290
FFQD3018E	280	FFQD3074E	290
FFQD3019I	280	FFQD3075E	290
FFQD3020I	280	FFQD3076E	290
FFQD3021W	280	FFQD3077E	291
FFQD3022W	280	FFQD3078E	291
FFQD3023W	281	FFQD3079E	291
FFQD3024E	281	FFQD3080E	291
FFQD3025E	281	FFQD3081E	291
FFQD3026E	281	FFQD3082E	292
FFQD3027E	281	FFQD3083W	292
FFQD3028E	281	FFQD3084E	292
FFQD3029E	282	FFQD3085E	292
FFQD3030E	282	FFQD3086E	292
FFQD3031E	282	FFQD3087E	292
FFQD3032E	282	FFQD3088W	293
FFQD3033E	282	FFQD3089W	293
FFQD3034I	282	FFQD3090W	293
FFQD3035W	283	FFQD3091W	293
FFQD3036I	283	FFQD3102E	293
FFQD3037E	283	FFQD3103E	294
FFQD3038E	283	FFQD3104E	294
FFQD3039E	283	FFQD3105E	294
FFQD3040E	283	FFQD3106E	294
FFQD3041I	284	FFQD3107E	295
FFQD3042E	284	FFQD3108E	295
FFQD3043I	284	FFQD3109W	295
FFQD3044E	284	FFQD3110E	295
FFQD3045I	284	FFQD3111E	295
FFQD3046E	284	FFQD3112E	296
FFQD3047I	285	FFQD3113E	296
FFQD3048E	285	FFQD3114E	296
FFQD3049E	285	FFQD3115E	296
FFQD3050E	285	FFQD3116E	296
FFQD3051E	285	FFQD3117E	297
FFQD3052E	286	FFQD3118E	297
FFQD3053E	286	FFQD3119E	297
FFQD3054E	286	FFQD3120E	297
FFQD3055E	286	FFQD3121W	297
FFQD3056E	286	FFQD3122E	298
FFQD3057E	287	FFQD3123E	298
FFQD3058E	287	FFQD3124E	298

FFQD3125E	298	FFQD4004E	309
FFQD3126E	298	FFQD4005E	310
FFQD3127I	298	FFQD4006E	310
FFQD3128E	299	FFQD4007E	310
FFQD3129E	299	FFQD4008E	310
FFQD3130E	299	FFQD4009E	310
FFQD3131W	299	FFQD4010E	311
FFQD3132W	300	FFQD4011E	311
FFQD3133E	300	FFQD4012E	311
FFQD3134W	300	FFQD4013E	311
FFQD3135E	300	FFQD4014E	311
FFQD3136E	300	FFQD4015E	312
FFQD3137E	300	FFQD4016E	312
FFQD3138E	301	FFQD4017E	312
FFQD3500E	301	FFQD4018E	312
FFQD3501W	301	FFQD4019E	312
FFQD3502W	301	FFQD4020E	313
FFQD3503W	301	FFQD4021E	313
FFQD3504W	302	FFQD4022E	313
FFQD3505W	302	FFQD4023E	313
FFQD3506W	302	FFQD4024E	313
FFQD3507W	302	FFQD4025W	314
FFQD3508W	302	FFQD4026W	314
FFQD3509W	303	FFQD4027W	314
FFQD3510W	303	FFQD4028W	314
FFQD3511W	303	FFQD4029W	314
FFQD3512W	303	FFQD4030W	314
FFQD3513W	303	FFQD4031E	315
FFQD3514W	304	FFQD4032E	315
FFQD3515W	304	FFQD4033E	315
FFQD3516W	304	FFQD4034E	315
FFQD3517W	304	FFQD4035E	316
FFQD3518W	304	FFQD4036E	316
FFQD3519W	305	FFQD4037E	316
FFQD3520W	305	FFQD4038E	317
FFQD3521W	305	FFQD4039E	317
FFQD3522W	305	FFQD4040E	317
FFQD3523W	306	FFQD4041E	318
FFQD3524E	306	FFQD4042E	318
FFQD3534E	306	FFQD4043E	318
FFQD3540E	306	FFQD4044E	318
FFQD3541E	306	FFQD4045E	319
FFQD3543E	307	FFQD4046E	319
FFQD3544E	307	FFQD4047E	319
FFQD3545E	307	FFQD4048E	320
FFQD3546E	307	FFQD4049E	320
FFQD3547E	307	FFQD4050E	320
FFQD3548E	308	FFQD4051E	320
FFQD3549E	308	FFQD4052E	321
FFQD3550E	308	FFQD4053E	321
FFQD3551E	308	FFQD4054E	321
FFQD3553E	308	FFQD4055E	321
FFQD4000E	309	FFQD4056E	321
FFQD4001E	309	FFQD4057E	321
FFQD4002E	309	FFQD4058E	322
FFQD4003E	309	FFQD4059E	322

FFQD4060E	322	FFQD4214E	332
FFQD4061E	322	FFQD4215E	332
FFQD4062E	322	FFQD4216E	332
FFQD4063E	322	FFQD4217E	333
FFQD4064E	323	FFQD4218E	333
FFQD4065E	323	FFQD4219E	333
FFQD4066E	323	FFQD4220E	333
FFQD4067E	323	FFQD4221E	333
FFQD4068E	323	FFQD4222E	333
FFQD4069E	323	FFQD4223E	334
FFQD4070E	324	FFQD4224E	334
FFQD4071E	324	FFQD4225E	334
FFQD4072E	324	FFQD4226E	334
FFQD4073E	324	FFQD4227E	335
FFQD4074E	324	FFQD4228E	335
FFQD4075E	324	FFQD4230E	335
FFQD4076E	325	FFQD4231E	336
FFQD4077E	325	FFQD4232E	336
FFQD4078E	325	FFQD4300E	336
FFQD4079E	325	FFQD4301E	336
FFQD4080E	325	FFQD4302E	336
FFQD4081E	326	FFQD4303E	337
FFQD4082E	326	FFQD4304E	337
FFQD4083E	326	FFQD4305E	337
FFQD4084E	326	FFQD4306E	337
FFQD4085E	326	FFQD4307E	337
FFQD4086E	326	FFQD4308E	338
FFQD4087E	327	FFQD4309E	338
FFQD4088E	327	FFQD4310E	338
FFQD4089E	327	FFQD4311E	338
FFQD4090E	327	FFQD4312E	339
FFQD4091W	327	FFQD4313E	339
FFQD4092E	327	FFQD4314E	339
FFQD4093E	328	FFQD4315E	339
FFQD4094E	328	FFQD4316E	340
FFQD4095E	328	FFQD4317E	340
FFQD4096E	328	FFQD4318E	340
FFQD4097E	328	FFQD4319E	340
FFQD4098E	329	FFQD4320E	341
FFQD4099E	329	FFQD4321E	341
FFQD4100E	329	FFQD4322E	341
FFQD4101W	329	FFQD4323W	341
FFQD4102E	329	FFQD4324I	342
FFQD4200I	330	FFQD4325I	342
FFQD4201I	330	FFQD4326E	342
FFQD4202W	330	FFQD4327W	342
FFQD4203W	330	FFQD4328E	342
FFQD4204W	330	FFQD4402W	343
FFQD4205W	331	FFQD4409W	343
FFQD4207E	331	FFQD4413W	343
FFQD4208E	331	FFQD4414E	343
FFQD4209E	331	FFQD4415E	343
FFQD4210E	331	FFQD4416E	344
FFQD4211E	331	FFQD4417E	344
FFQD4212E	332	FFQD4418E	344
FFQD4213E	332	FFQD4419W	344

FFQD4420W	344	FFQD4624E	356
FFQD4421W	345	FFQD4625E	356
FFQD4422W	345	FFQD4626E	356
FFQD4423W	345	FFQD4627E	356
FFQD4427E	345	FFQD4628E	356
FFQD4428E	346	FFQD4629E	357
FFQD4433W	346	FFQD4631E	357
FFQD4434W	346	FFQD4632W	357
FFQD4435W	346	FFQD4633W	357
FFQD4436W	346	FFQD4707E	357
FFQD4437E	347	FFQD4708E	358
FFQD4449E	347	FFQD4709E	358
FFQD4450E	347	FFQD4710E	358
FFQD4451E	347	FFQD4711E	358
FFQD4452E	347	FFQD4712E	358
FFQD4453W	348	FFQD4713E	358
FFQD4454W	348	FFQD4714E	359
FFQD4455W	348	FFQD4715E	359
FFQD4456W	348	FFQD4716E	359
FFQD4457W	349	FFQD4718E	359
FFQD4458E	349	FFQD4719E	359
FFQD4461E	349	FFQD4720E	360
FFQD4500E	349	FFQD4721E	360
FFQD4501E	349	FFQD4722E	360
FFQD4502E	350	FFQD4723E	360
FFQD4503E	350	FFQD4724E	360
FFQD4504E	350	FFQD4725E	361
FFQD4505W	350	FFQD4726E	361
FFQD4506W	350	FFQD4728W	361
FFQD4507E	350	FFQD4729W	361
FFQD4508E	351	FFQD4730E	361
FFQD4509E	351	FFQD4731E	362
FFQD4510E	351	FFQD4732E	362
FFQD4511E	351	FFQD4733E	362
FFQD4600E	352	FFQD4734E	362
FFQD4601E	352	FFQD4735E	363
FFQD4602E	352	FFQD4736E	363
FFQD4603I	352	FFQD4737W	363
FFQD4604I	352	FFQD4738W	363
FFQD4605I	352	FFQD4739E	363
FFQD4607E	353	FFQD4741W	364
FFQD4608E	353	一般システム・メッセージ (FFQG)	364
FFQD4609E	353	FFQG0026E	364
FFQD4610E	353	オペレーティング・システム・サブシステム (OSS)	
FFQD4611E	353	のメッセージ (FFQO).	364
FFQD4612E	354	FFQO0034E	364
FFQD4613W	354	FFQO0086E	365
FFQD4614W	354	FFQO0141E	365
FFQD4616E	354	FFQO0164E	365
FFQD4617E	354	FFQO0165E	365
FFQD4618E	355	FFQO0168E	365
FFQD4619E	355	FFQO0193W	366
FFQD4620E	355	FFQO0223E	366
FFQD4621E	355	FFQO0258E	366
FFQD4622E	355	FFQO0259E	366
FFQD4623E	356	FFQO0273W	366

パーサーのメッセージ (FFQT)	367
FFQT0059E	367
FFQT0060E	367
FFQT0061E	367
FFQT0062E	368
FFQT0065I	368
FFQT0066I	368
FFQT0067I	368
FFQT0072I	369
FFQT0078W	369
FFQT0084E	369
FFQT0085E	369
FFQT0086W	369
FFQT0138E	370
ユーティリティのメッセージ (FFQU)	370
FFQU0269E	370
FFQU0270E	370
FFQU0271E	371
FFQU0272E	371
FFQU0273E	371
同義語辞書のメッセージ (FFQV)	371
FFQV0001E	371
FFQV0002E	372
FFQV0003E	372
FFQV0004E	372
FFQV0005E	372
FFQV0006E	372
FFQV0007E	373
FFQV0008E	373
FFQV0009E	373
FFQV0010E	373
FFQV0011E	373
FFQV0012E	373
FFQV0021E	374
マイグレーション・ウィザードのメッセージ (FFQW)	374
FFQW0001E	374
FFQW0002E	374
FFQW0003E	374
FFQW0008E	375
FFQW0011E	375
FFQW0012E	375
FFQW0013E	375
FFQW0014E	375
FFQW0016E	376
FFQW0019E	376
FFQW0120I	376
FFQW0140I	376

FFQW0141I	376
FFQW0142I	377
FFQW0154I	377
FFQW0155I	377
FFQW0156I	377
FFQW0157I	377
FFQW0158I	377
FFQW0159I	378

エンタープライズ・サーチの用語集 . . . 379

DB2 Information Integrator の資料 385

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料	385
z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料	386
Linux、UNIX、および Windows におけるイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料	386
Linux、UNIX、および Windows におけるフェデレーテッド機能に関する資料	387
z/OS におけるフェデレーテッド機能に関する資料	389
z/OS におけるレプリケーション機能に関する資料	390
Linux、UNIX、および Windows におけるエンタープライズ・サーチ機能に関する資料	390
リリース情報およびインストール要件	391
リリース情報およびインストール要件の表示	392
PDF 文書の表示および印刷	392
DB2 Information Integrator の資料へのアクセス	393

アクセス支援 . . . 395

キーボードによる入力およびナビゲーション	395
キーボード・フォーカス	395
キーボード入力	395
キーボード・ナビゲーション	395
アクセスしやすい表示	396
フォントの設定	396
色に依存しない	396
支援テクノロジーとの互換性	396
アクセスしやすい資料	396

IBM と連絡を取る . . . 397

製品情報	397
------	-----

特記事項 . . . 399

商標	401
----	-----

索引 . . . 403

本書のトピックについて

IBM® DB2® Information Integrator OmniFind™ Edition バージョン 8.2.2 システムを管理するときにこの情報を使用してください。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind Edition) には、エンタープライズ・サーチ という機能が搭載されています。エンタープライズ・サーチ のコンポーネントは、DB2 II OmniFind Edition 製品のインストール時に、インストールされます。エンタープライズ・サーチ という用語は、インストール・パスおよび製品パッケージ化ラベルを参照する場合をのぞき、DB2 II OmniFind Edition の資料全体で使用されています。

エンタープライズ・サーチの管理資料では、以下のトピックについて説明します。

- エンタープライズ・サーチの概念、コンポーネント、および機能の紹介
- コレクションの作成、モニター、および管理の方法に関する説明
- データの解析方法、および検索や取り出しを最適化するために解析アクティビティをカスタマイズする方法
- 解析データの索引付けの方法と、索引付けアクティビティを管理する方法
- 検索サーバーがデータを検索する方法と検索結果を戻す方法
- カスタム検索アプリケーションを使用可能にしてコレクションを検索する方法
- エンタープライズ・サーチで使用可能なセキュリティ・レベルの概要
- エンタープライズ・サーチを IBM WebSphere® Portal に組み込む方法
- WebSphere Portal の分類法とコレクションをエンタープライズ・サーチのカテゴリ・ツリーとコレクションにマイグレーションする方法
- システムのバックアップとリストアの方法
- ログ・ファイルの作成と表示方法
- エンタープライズ・サーチに関するメッセージの説明

本書の対象読者

本書は、エンタープライズ・サーチ・コレクションの作成、モニター、および管理を担当するシステム管理者およびシステム・オペレーターを対象としています。

本書では、コレクションの作成、コレクションのコンテンツの選択、コンテンツを検索可能にするオプションの構成について説明します。また、コレクションおよびシステム・アクティビティのモニター、エンタープライズ・サーチ管理者としてのユーザーの登録、検索アプリケーションとコレクションの関連付けについても説明します。

本書を活用するためには、Web アプリケーションを十分理解していること、検索したいデータ・ソースについての経験があることが必要です。

エンタープライズ・サーチとは?

エンタープライズ・サーチ・システムは、1 度の照会で任意の数の構造化された、および構造化されていない データ・ソースを検索する広範な機能を提供するシステムです。エンタープライズ・サーチ・システムは照会に対する応答が早く、結果セットを統合してランク付けする機能があるため、必要な情報を簡単に見つけることができます。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind Edition) と共にインストールされ、企業全体に渡って情報を収集し、それらの情報を検索で利用できるようにします。ユーザーは、Web ブラウザーに照会を入力するだけで、ローカルおよびリモート・データベース、コラボレーション・システム、コンテンツ・マネージメント・システム、ファイル・システム、および内外の Web サイト を同時に検索することができます。

エンタープライズ・サーチ・システムは、既存のシステムとシームレスに統合できるように設計されており、多種多様なソースからデータを収集して高速に検索するために必要な流れを処理します。また、エンタープライズ・サーチでは、言語分析その他の分析をデータに適用し、有用性の高い検索結果を提供することができます。異なるタイプのリポジトリを検索する場合でも、異なるインターフェースの使い方を習得する必要もありません。

セキュリティーは、エンタープライズ・サーチに不可欠な要素です。システム管理は、権限のあるユーザーしか操作できないようになっています。IBM WebSphere Application Server で使用可能なセキュリティー機構を使用することにより、管理役割を構成し、管理ユーザーを認証することができます。管理役割を構成することにより、種々の管理機能に対するユーザーのアクセス権を制限することができます。

また、データ収集時に、セキュリティー・トークンを収集データに関連付けるオプションを指定することもできます。検索アプリケーションでセキュリティーを使用可能にすれば、これらのトークンを使用して、アクセス制御を施行し、適切な信用証明情報を持つユーザーのみがデータ照会を実行し、検索結果を表示できるようにすることができます。

関連概念

163 ページの『エンタープライズ・サーチ・セキュリティー』

エンタープライズ・サーチのセキュリティー機構によって、無許可でソースが検索されないようにし、管理機能の使用を特定のユーザーに制限することができます。

エンタープライズ・サーチでサポートされているデータ・ソース・タイプ

データ・ソースを検索する場合に、さまざまなデータ・ソース・タイプが検索できるようにあらかじめサポート設定されています。

IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、次の各タイプのデータ・ソースからのデータの収集を開始できます。

- IBM DB2 Content Manager 項目タイプ (文書、リソース、および項目)
- IBM DB2 Universal Database™ for z/OS®, IBM Informix®, Microsoft® SQL Server、Oracle、およびフェデレーテッド・データベースのための IBM DB2 Information Integrator ニックネーム表。
- IBM DB2 Universal Database データベース
- IBM Lotus Notes® データベース
- Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダー
- Microsoft Windows® ファイル・システム
- NNTP ニュースグループ
- UNIX® ファイル・システム
- Venetica VeniceBridge リポジトリ (Documentum、FileNet Panagon Content Services、および Hummingbird® 項目クラス)。VeniceBridge は、IBM WebSphere Information Integrator Content Edition に名前が変更されました。
- Web サイト (インターネット上およびイントラネット内)

エンタープライズ・サーチ用の Data Listener アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、ここにリストされていない独自のデータベースやレガシー・データベースなど、他のタイプのソースにサポートを拡張できます。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『データ・リスナー』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要

エンタープライズ・サーチでは、そのコンポーネントによって、企業全体からデータを収集し、収集した情報を分析、解析、カテゴリー化し、ユーザーが検索に使用する索引を作成します。

エンタープライズ・サーチ・コレクション は、ユーザーが 1 回の照会で検索できるデータ・ソースの集合を表します。コレクションを作成する場合、コレクションに入れるソースを指定し、ユーザーが索引付けされたデータを検索するときのオプションを構成します。

コレクションは複数作成することができ、各コレクションにはさまざまな種類のデータ・ソースのデータを入れることができます。例えば、IBM DB2 Universal Database、IBM Lotus Notes、および IBM DB2 Content Manager データベースの文書を含むコレクションを作成することができます。ユーザーがこのコレクションを検索すると、検索結果にはこれらの各データ・ソースの文書が含まれることになります。

フェデレーテッド検索のサポートにより、ユーザーは単一の照会で複数のコレクションを検索することができるようになります。場合によっては、検索結果にエンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのデータ・ソースとすべてのコレクションの文書が組み込まれる可能性があります。

コレクションの作成および管理には、次のようなアクティビティがあります。

データの収集

クローラー・コンポーネントによって、連続的に、または指定したスケジュールに従ってデータ・ソースから文書が収集されます。頻繁にクローリングを行うことにより、ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようになります。

データの分析

パーサー・コンポーネントによって、文書からテキストが抽出され、クローラーがクローリングした各文書に対して言語分析その他の分析が行われます。この詳細なコンテンツ分析により、検索結果の品質が向上します。

データの索引作成

索引コンポーネントが、定期的にスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報が索引に追加されます。索引コンポーネントでは、コレクション内の文書に対してグローバル分析を行い、検索結果の品質を高めます。

データの検索

検索コンポーネントによって、索引が検索され、検索アプリケーションと連携して検索要求を処理し、処理された検索結果を戻します。

他の DB2 Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントによって、セキュリティの設定、システム・アクティビティのモニター、さらに問題が発生した場合のトラブルシューティングが行えるようになります。また、この製品では、独自の検索アプリケーションを作成するときのテンプレートとして使用できる検索アプリケーションの実用サンプルも提供されています。

関連概念

37 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

93 ページの『エンタープライズ・サーチ用文書の構文解析』

文書の検索性を高めるために、文書やメタデータをエンタープライズ・サーチ索引に追加する前に、構文解析、分析、および分類方法のオプションを指定できます。

123 ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

137 ページの『検索サーバーの管理』

検索サーバーに指定できるオプションとして、検索結果を戻すキャッシュ・スペースを使用すること、検索結果に表示する文書サマリーの最大長を制御すること、照会用語の同義語を含む文書も検索できるようにするカスタム同義語辞書を関連付けること、および、照会に特定の用語が使用されたときに事前定義しておいた URI を検索結果に戻すことが含まれます。

エンタープライズ・サーチ・クローラー

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、これらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供されているクローラー・コンポーネントには、次のような機能があります。

- クローラーを構成すると、ディスカバリー・プロセスは、Lotus Notes データベースのすべてのビューとフォルダー名、または UNIX サーバーの全ファイル・システム名など、クローリング使用することができるソースに関する情報を探し出します。
- クローリングするソースを選択し、クローラーを開始すると、クローラー・コンポーネントはソースからデータを収集し、それらのデータが分析および索引作成できるようにします。

1 つのコレクションには複数のクローラーを入れることができ、各クローラーは特定タイプのデータ・ソースからデータを収集するように設計されています。例えば、ファイル・システム、Notes® データベース、およびリレーショナル・データベースのデータを結合するために、3 つのクローラーを同じコレクションに作成することができます。また、同一タイプのクローラーを複数作成し、各クローラーがクローリングしているデータの変更頻度に従って、それぞれ異なるクローリング・スケジュールを設定することもできます。

Web および Network News Transfer Protocol (NNTP) ソースのクローラーなど、一部のクローラーは連続して実行されます。クローリング対象の URL または NNTP ニュースグループを指定すると、クローラーは、新規または変更されたデータがないか定期的にそれらの対象に戻ってチェックします。他のタイプのクローラーは、手動で開始および停止することもできますし、クローリング・スケジュールを設定することもできます。クローラーのスケジュールを設定する場合、初回実行の日時、および新規および変更された文書をクローリングするためにデータ・ソースにクローラーがアクセスする頻度を指定します。

クローラーのプロパティは、特定のクローラーがクローリングするときの動作を制御する規則の集合です。例えば、クローラーのシステム・リソースの使用を制御する規則を指定します。クローリング対象として適格なデータ・ソースの集合は、クローラーのクローリング・スペース を構成します。クローラーを作成後、クローラーのプロパティは、いつでも編集し、クローラーのデータ収集指定を変更することができます。また、クローリング・スペースを編集して、クローリング・スケジュールの変更、新規ソースの追加、または今後検索しないソースの除去を行うこともできます。

エンタープライズ・サーチ・パーサー

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供されているパーサー・コンポーネントは、文書コンテンツおよび文書のメタデータを分析します。分析結果は、索引作成コンポーネントがアクセスできるようにデータ・ストアに格納します。パーサーは、以下のようなタスクを実行します。

- さまざまなフォーマットによる文書からテキストを抽出する。例えば、パーサーは、XML および HTML 文書のタグ内のテキストを抽出します。Stellent for IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition Outside In Viewer Technology の使用により、パーサーは Microsoft Word および Adobe Acrobat の PDF 文書などのバイナリー・フォーマットのテキストも抽出します。

- 各文書の文字セット・エンコードを検出する。パーサーは、言語分析を行う前処理として、検出したこの情報を使用してすべてテキストをユニコードに変換します。
- 各文書のソース言語を検出する。
- コレクションに管理者が指定した解析規則を適用する。パーサーの構成時、次の項目を構成できます。

XML 文書および HTML 文書のフィールド・マッピング規則

このオプションを使用して、ユーザーは XML 文書および HTML 文書内の構造化されたコンテンツ、および構造化されていないコンテンツを区別して検索することができます。XML エlementまたは HTML メタデータ・Elementをエンタープライズ・サーチ索引の検索フィールドにマップすると、ユーザーは照会でフィールド名を指定して、XML 文書および HTML 文書の特定の部分を検索することができます。(特定フィールドを検索する照会では、文書の全コンテンツを検索するフリー・テキスト照会より精度の高い検索結果が得られます。)

カテゴリ

このオプションで、ユーザーは、文書が属するカテゴリを基準にして文書を検索できます。また、ユーザーは検索結果でカテゴリを選択して、同じカテゴリに属する文書だけを参照することもできます。

コレクションの作成時に、カテゴリを使用する場合は、使用するカテゴリのタイプを選択します。「ルール・ベース」のカテゴリを使用すると、文書は管理者が定義した規則に従ってカテゴリに関連付けられます。ルール・ベースのカテゴリは、新規作成したエンタープライズ・サーチ・コレクションと IBM WebSphere Portal からマイグレーションしたコレクションで構成することができます。

「モデル・ベース」のカテゴリを使用すると、文書は WebSphere Portal システムにあるモデル・ベースのカテゴリに関連付けられます。このオプションを使用するには、エンタープライズ・サーチ索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされている必要があります。また、WebSphere Portal のカテゴリ化ツールを使用して、カテゴリを管理する必要があります。

カスタム・テキスト分析

アプリケーション開発者は、ユーザーが検索するデータに複雑な言語分析を実行するために、カスタム分析プログラムを作成することができます。こうしたプログラムをエンタープライズ・サーチ・システムに埋め込み、これを使用してコレクションのコンテンツに注釈を付けることができます。注釈に索引付けをすることで、コレクションにセマンティック検索を行うことができます。

例えば、ユーザーは、互いに隣接して出現する照会用語や、同一文に出現する照会用語を検索したり、あるいは、照会用語間の関係を検索することができます (例: Smith という名前の IBM 技術者ではなく、Smith という名前の IBM 営業担当者についての文書、など)。

N-gram セグメンテーションのサポート

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書の検索性能を高めるためには、字句解析の N-gram セグメンテーション方式を使用可能にします。この分析

方法では、ワードの区切りに空白文字を使用しません。(コレクション作成後に、セグメンテーション方式を変更することはできません。)

ネイティブ XML 検索での XML 文書検索サポート

ネイティブ XML 検索は、XML マークアップを検索することで、より正確な検索結果を提供できます。例えば、照会で、あるワードが特定の XML エlement に出現しなければならないと指定することができます。

- テキストを抽出し、トークンを追加してデータの検索機能を拡張する。このプロセスでは、パーサーは、以下のタスクを実行します。
 - 大文字の正規化、およびドイツ語のウムラウトなどの発音区別符号の正規化などの文字の正規化。
 - 段落、文、単語、および空白文字の構造分析。パーサーは、このような言語分析により、複合語を分解し、辞書検索および同義語検索ができるようにするためのトークンの指定を行います。

関連概念

94 ページの『カテゴリーに関する作業』

カテゴリーを使用すると、共通の特性を共用する文書をグループにまとめ、そのグループのメンバーに対する 基準に合う文書だけを検索、取得することができます。

102 ページの『XML 検索フィールド』

XML 検索フィールドは、ユーザーによる XML 文書の特定部分の照会を可能にします。

105 ページの『HTML 検索フィールド』

HTML 検索フィールドにより、ユーザーは HTML 文書の属性を照会できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『言語サポート』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれているテキスト分析』

関連タスク

215 ページの『パーサーのモニター』

パーサーによって分析される文書に関する情報を表示する必要がある場合に、それらがエンタープライズ・サーチ索引に追加される前にパーサーをモニターします。オプションを使用して、統計を検討し、パーサーのアクティビティを管理できます。

エンタープライズ・サーチ索引

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

エンタープライズ・サーチの索引コンポーネントは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition と併せて インストールされます。

ユーザーが、常に検索対象のソースの最新情報にアクセスできるようにするため、索引の作成には、次の 2 つの 段階があります。

索引の再編成

索引を再編成すると、構成が最適な編成になるように索引全体が再作成されます。索引作成プロセスによって、クローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータが読み込まれます。

索引のリフレッシュ

索引をリフレッシュすると、最後の索引の再編成の後にクロールされた情報が、索引に追加されます。

コレクションの索引オプションを構成する場合、索引の再編成およびリフレッシュのスケジュールを指定できます。索引の再編成やリフレッシュの頻度は、システム・リソースや、索引付けされるソースが静的コンテンツと動的コンテンツのどちらを含むかによって異なります。

確実に新しい情報を利用できるようにするため、索引のリフレッシュ・スケジュールは頻繁に行うようにしてください。また、定期的に索引の再編成をスケジュール設定して、新規の情報がすべて統合され、新規のコンテンツが分析されて、索引のパフォーマンスが最適化されるようにしてください。

索引キューに同時に入れることができる索引は、1 コレクションにつき 1 つに限られますが、複数のコレクションからの索引ならば複数の索引をキューに入れることができ、同時に索引作成することができます。同時に索引作成を行うと、大規模の索引の再編成で、他の索引のリフレッシュを妨げないようにすることができます。索引作成は、リソースを集中的に使用するプロセスになりかねませんので、大規模なシステムの場合、システム負荷をモニターして再編成およびリフレッシュ頻度を調整するようにしてください。

また、索引作成プロセスは、スケジューリングせずに開始することもできます。例えば、特定の解析規則を変更し、その変更を使用している検索アプリケーションで有効になるようにしたい場合、索引の再編成が開始されるようにスケジュールされている日時を待たずに、データが再クロール、解析された時点で索引の再編成を開始することができます。

索引作成時、索引プロセスでは、グローバル文書分析を行います。この分析では、文書の重複を識別し、文書のリンク構造を分析し、アンカー・テキスト (ハイパーテキスト・リンクでターゲット・ページを記述するテキスト) に対する特殊処理を行うアルゴリズムが適用されます。

以下の索引付けアクティビティのオプションが指定できます。

- ユーザーが末尾ワイルドカード文字を指定できるように、照会用語を索引に拡張するサポートを構築するか、照会処理中に照会用語を拡張することを指定します。これを判断するときは、リソースの使用量と照会応答時間のトレードオフを考慮する必要があります。
- 有効範囲を構成できます。有効範囲を設定すると、ユーザーがコレクションで表示できる内容を制限することができます。例えば、技術サポート部の文書の URI を含む有効範囲を作成したり、人事部の文書の URI を含む別の有効範囲を作成したりすることができます。検索アプリケーションで有効範囲をサポートすると、ユーザーはコレクション中の該当するサブセットだけを対象として文書を検索、取得することができます。

- 同じ URI 接頭部をもつ検索結果文書を省略表示するオプションが指定できません。また、URI 接頭部が異なる文書を検索結果にまとめて省略表示できるようにグループ名を指定することもできます。
- 索引を作成後、ユーザーに検索させたくない URI を削除することができます。

関連概念

123 ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

128 ページの『照会内のワイルドカード文字』

ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を含め、指定のパターンで始まるワードを検索できるようにすることができます。

130 ページの『有効範囲』

ユーザーにコレクションの限定ビューを表示する場合に、有効範囲を構成します。

132 ページの『省略表示した URI』

エンタープライズ・サーチは、検索結果を編成し、索引で URI 接頭部が同じ結果文書をグループ化して、検索結果に省略表示できます。

関連タスク

124 ページの『索引作成のスケジューリング』

索引を再編成するスケジュールと、索引を新しいコンテンツでリフレッシュするスケジュールを指定できます。

127 ページの『索引の並行作成の構成』

複数の索引が、索引付けプロセスを共用できます。プロセスを共用すると、大規模の索引の再編成で、キューで作成を待っている他の索引の可用性を妨げないようにすることができます。

135 ページの『索引から URI を除去』

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

216 ページの『コレクションの索引アクティビティのモニター』

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

217 ページの『エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター』

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

エンタープライズ・サーチ用検索サーバー

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

エンタープライズ・サーチ用検索サーバーは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時にインストールされます。コレクションに検索サーバーを設定すると、コレクションを検索する方法のオプションを指定できます。

- 検索キャッシュを構成して、頻繁に要求される検索結果を保持することができます。検索キャッシュを利用すると、検索効率が高まります。
- コレクション内の文書検索のデフォルト言語を指定できます。
- アプリケーション開発者がカスタム同義語辞書を作成すれば、それを特定のコレクションに関連付けることができます。ユーザーがコレクションを照会すると、照会言語の同義語を含む文書が検索結果に組み込まれます。
- 特定の文書が特定の照会に関連付けられることが事前にわかっている場合、クイック・リンクを構成することができます。クイック・リンクでは、特定の URI と特定のキーワードおよび句を関連付けます。照会にクイック・リンク定義で指定したキーワードまたは句がある場合、関連付けられた URI が自動的に検索結果に戻されます。

複数サーバー構成では、障害保護がサーバー・レベルではなく、コレクション・レベルで使用可能です。1つの検索サーバー上のコレクションがいかなる理由にしろ使用不可になった場合、その後そのコレクションの照会は、自動的に別の検索サーバーにルーティングされます。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

138 ページの『検索キャッシュ』

検索サーバーの負荷が高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフォーマンスを向上できます。

139 ページの『カスタム同義語辞書』

検索結果の質を向上させるために、ユーザーがコレクションを検索するときに、その照会用語の同義語を検索できるようにします。

144 ページの『クイック・リンク』

クイック・リンクを使用すると、照会用語と関連があると事前指定された文書へのリンクをユーザーに提供できるようになります。

関連タスク

219 ページの『検索サーバーのモニター』

ある特定のコレクションについて検索サーバーのアクティビティに関する詳細な状況情報を表示するか、または、エンタープライズ・サーチ・システム全体について検索サーバーの詳細な状況情報を表示することができます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソール

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザで稼働します。すなわち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできるようになります。同時に、セキュリティ機構によって、管理機能にアクセスすることを許可されたユーザーしかコンソールにアクセスできないことが保証されています。

エンタープライズ・サーチの管理コンソールは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、検索サーバーにインストールされます。

管理コンソールには、さまざまな基本的管理用タスクの実行を助けるウィザードが付属しています。例えば、コレクション・ウィザードを使用すれば、簡単にコレクションを作成でき、ドラフト・モードで作業をする手間が省けます。クローラー・ウィザードは、データ・ソース・タイプによって異なり、コレクションに入れるソースを選択し、検索可能にする作業を支援します。

他の管理タスクについては、管理する個別の項目を選択します。例えば、コレクションを編集する場合、索引スケジュールを変更するには「索引」ページを選択し、XML 文書の構文解析規則を変更するには「解析」ページを選択します。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

164 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

関連タスク

21 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を 指定した後で、管理コンソールにログインします。

エンタープライズ・サーチ・システムのモニター

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システム・アクティビティをモニターし、必要に応じてその運用を調整することができます。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールし、最少でも 1 つのコレクションを作成すると、主要な各アクティビティ (クロール、解析、索引作成、検索) の詳細な統計データを表示することができます。統計データには、平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールまたは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティは、管理者が開始および停止することができます。例えば、アクティビティを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシューティングを行い、アクティビティを進められる状況になった時点で処理を再開することができます。

また、アラートを設定することもでき、これによりモニターしている事象が発生したときはいつでも、特定のモニター・アクティビティに関する E メールを受信できるようになります。例えば、検索応答時間が指定したしきい値を超過した場合にアラートを受信することができます。

関連概念

201 ページの『エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニター』

システム・アクティビティおよびコレクション・アクティビティをモニターすると、さまざまな プロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、または、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

197 ページの『エンタープライズ・サーチの開始と停止』
コレクションを作成したあと、データのクロール、解析、索引付け、および検索のコンポーネントを開始しなければなりません。コレクションに変更を加えた後も、各コンポーネントを停止して再始動してください。

エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

特定のエンタープライズ・サーチ・コレクションまたはシステムに対してロギング・オプションを構成する場合、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メッセージ、警告メッセージなど) を指定します。また、新しいメッセージのスペースを確保するためにシステムが古くなったログ・ファイルを循環使用する頻度を指定します。特定のメッセージ (アラートを含む)、あるいはエラーが発生したときのすべてのエラー・メッセージについて、E メールを受信するオプションを選択できます。

ログ・ファイルを表示する場合、表示するログ・ファイル (ファイル名を見れば、ファイル作成日時、メッセージを発行したコンポーネントがわかります) を選択します。表示フィルターを指定することもできます。例えば、エラー・メッセージだけを表示したり、特定エンタープライズ・サーチ・セッションから出されたメッセージだけを表示することができます。

関連概念

223 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理』
コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを選択し、ログ・ファイルの作成と表示のオプション、アラート受信のオプション、およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

223 ページの『アラート』

エンタープライズ・サーチでは、特定のイベントの発生が検出された場合に、メッセージをログ・ファイルに書き込むように構成することができます。

239 ページの『エンタープライズ・サーチのメッセージ』

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・メッセージについて、修正処置の説明および提案が提供されます。

関連タスク

227 ページの『ログ・ファイルの構成』

ログに記録したいメッセージのタイプを指定し、ログ・ファイル作成のオプションを指定できます。

228 ページの『SMTP サーバー情報の構成』

エンタープライズ・サーチのアクティビティに関する E メールを受信できるようにするには、その前に、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの情報を構成しておく必要があります。

229 ページの『ログ・メッセージについての Eメールの受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

232 ページの『ログ・ファイルの表示』

システムおよびコレクション・コンポーネントが共通ログ・ファイルに書き込むログ・メッセージを表示できます。また、フィルターを指定して、特定の重大度レベルのメッセージ、および特定のエンタープライズ・サーチ・セッションのメッセージのみを表示することもできます。

エンタープライズ・サーチのカスタマイズ

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、カスタム検索アプリケーション、コレクションのコンテンツを更新するカスタム・アプリケーション、テキスト分析用のプログラム、およびカスタム同義語辞書を作成することができます。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、エンタープライズ・サーチ・コレクションの拡張に使用可能な、次の一連の API が使用できるようになります。

Search and Index API (SI-API)

この API は、カスタム検索アプリケーションの作成に使用します。

データ・リスナー API

この API は、外部クローラーからデータを検索する場合に使用します。外部クローラーは、エンタープライズ・サーチのデータ・リスナーに接続でき、その後コレクションにデータを追加したり、コレクションからデータを除去したりすることができます。

言語分析用カスタム・プログラムをエンタープライズ・サーチ・コレクションと統合することで情報の検索性を高めることができます。カスタム・テキスト・アノテーターをシステムに追加すると、それをコレクションに関連付けることができます。ユーザーがコレクションを照会したときに、カスタム・プログラムで索引に構築したワードの関連付けが有効に働きます。例えば、ユーザーは単に用語そのものだけではなく、用語と用語の間の関係を検索できます。

また、頭字語、省略語、業界固有の用語などを反映したカスタム同義語辞書を統合することで、情報をより多く取得できるようになります。カスタム同義語辞書をシステムに追加すると、それをコレクションに関連付けることができます。ユーザーがコレクションを照会したとき、検索結果に照会用語の同義語を含む文書も表示されるという利点がもたらされます。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『Search and Index API (SI-API)』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『データ・リスナー』

関連タスク

84 ページの『データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成』

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタープライズ・サーチを拡張することができます。カスタム・データ・リスナー・アプリケーションは、コレクションへのデータの追加、コレクションからのデータの除去、または Web クローラーに対する URL へのアクセスおよび再アクセスの指示を行えます。

エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション

カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

サンプル検索アプリケーションは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、併せてインストールされます。サンプル検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチで使用可能な多くの検索、取り出し機能を実際に試すことができます。また、このアプリケーションは、実用的なサンプルで、これによってエンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのアクティブ・コレクションを検索できます。新規コレクションをユーザーに提供する前に、サンプル・アプリケーションを使用したテストができます。

サンプル検索アプリケーションは、一度に複数のコレクションの検索を可能にして、フェデレーテッド検索の対応も実際に試すことができます。また、このアプリケーションは、以下の機能の実演もできます。

- クイック・リンク
- 検索結果の省略表示
- 文書が属するカテゴリーや有効範囲を基準にして文書を参照する機能
- 照会用語のスペル・チェッカー
- 同義語検索

WebSphere Application Server とユーザーのコレクションでグローバル・セキュリティを使用可能にした場合、および、Lotus Notes 文書のオプション設定時にはユーザーの現行の信用証明情報を検証すると指定した場合に、サンプル検索アプリケーションを使用してユーザー・プロファイルを構成することができます。ユーザー・プロファイルに指定した信用証明情報は暗号化され保管されるので、認証のために信用証明情報の提示をプロンプトで求められずに、コレクションを検索できます。

サンプル検索アプリケーションの使用方法については、アプリケーションの使用中に「ヘルプ」をクリックしてください。独自の検索アプリケーションを作成する場合は、エンタープライズ・サーチの Search and Index API を使用してください。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『Search and Index API (SI-API)』

149 ページの『サンプル検索アプリケーションの機能』

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションを使用して、カスタム 検索アプリケーションに構築できる検索機能のほとんどを実際に試してみることができます。このアプリケーションを使用して、一度に 1 つ、一度に複数、あるいは一度にすべての コレクションの検索を行うことができます。

関連タスク

150 ページの『サンプル検索アプリケーション・プロパティの編集』

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションは、システムの中のすべてのアクティブなコレクションを検索できます。プロパティ・ファイルを編集して、Web サーバー環境のオプションを指定したり、デフォルト・アプリケーションとして異なる検索アプリケーションを使用したりできます。

152 ページの『サンプル検索アプリケーションへのアクセス』

Web ブラウザーで URL を指定することにより、サンプル検索アプリケーションにアクセスします。

153 ページの『サンプル検索アプリケーションに対するセキュリティーの使用可能化』

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にし、サンプル検索アプリケーションを使用して機密保護機能のあるコレクションを検索しようとする場合は、サンプル検索アプリケーションおよび WebSphere Application Server で構成設定を変更する必要があります。

エンタープライズ・サーチのデータ・フロー

コレクションは、クローラーが収集し、パーサーが分析し、さらに検索可能な索引が作成されたデータで構成されています。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition と共にインストールされるエンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、互いに連携してシステム内のデータ・フローを確保しています。クローラーは、企業全体のデータ・ソースから文書を収集します。パーサーは、クロール済みの文書から有用な情報を抽出し、さらに、例えば文書をカテゴリーに関連付け、検索要求にある用語と文書の適合性を判断するときに役立つトークンを生成します。そして、索引コンポーネントは、効率的な検索が行われるようにデータを保管します。

Web ブラウザーと検索アプリケーションを使用することにより、ユーザーは索引処理済みのコレクションを検索します。検索アプリケーションは、ユーザーがブラウザーでクリックして利用できる結果リストを表示することができます。また、より高度に使用して、さまざまなデータ・ソースの情報に基づいて動的に生成されたコンテンツを戻すこともできます。

例えば、カタログ検索アプリケーションを使用すれば、検索要求を満たす結果表示をカスタマイズすることができます。1 回の照会で、例えば IBM DB2 Content Manager と Lotus Notes リポジトリにある文書の組み合わせなど、異なるタイプのデータ・ソースから文書を検索することができます。

管理者は、収集対象のデータを指定し、それらのデータのクロール、解析、索引作成、および検索に関する設定を行います。システム・アクティビティをモニターすることにより、管理者は、必要な調整を行ってデータのスループットを最適にします。

次のダイアグラムは、エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータの流れを示しています。

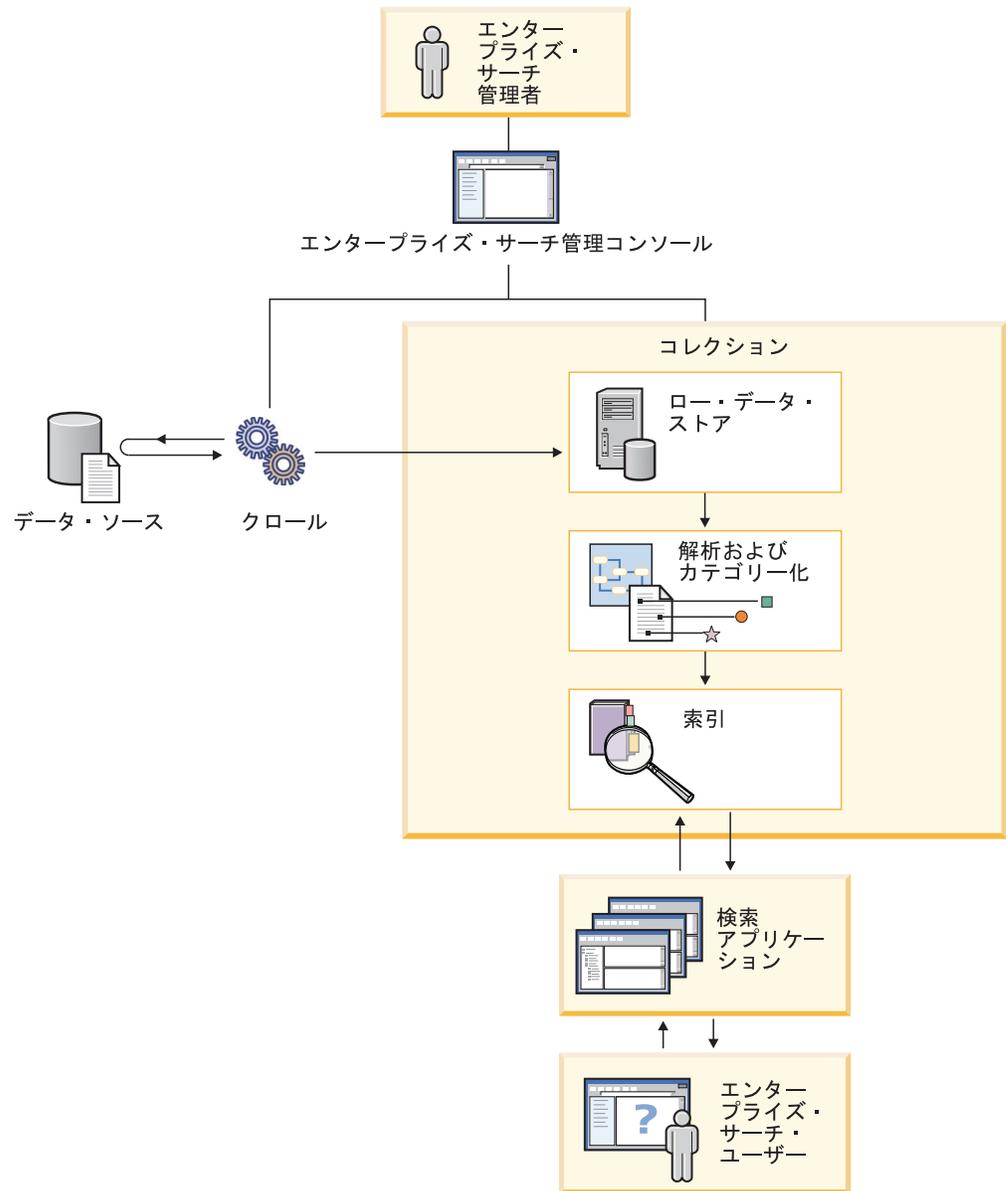


図 1. エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータ・フロー

エンタープライズ・サーチ管理の概要

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

「コレクション」ビュー

最初のコレクションを作成し、システムを管理する場合、以下のステップをガイドラインとして作業を行ってください。

1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。

「コレクション」ビューは、コレクションの作成および管理のエントリー・ポイントです。

2. コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、「**コレクション・ウィザード**」をクリックし、ウィザードの指示に従ってください。
3. 「コレクション」ビューを使用してコレクションを作成するには、「**コレクションの作成**」をクリックし、「コレクションの作成」ページの各フィールドに必要なデータを入力して「**OK**」をクリックします。

新規コレクションは空なので、編集してコンテンツを追加する必要があります。またデータをクロールするときやデータを検索可能にする場合のオプションを指定します。

4. 作成した新規のコレクションに対して「 **編集**」をクリックし、続いてそのコレクションのオプションを指定するページを選択します。

重要: Web ブラウザーで「戻る」または「最新表示」ボタンをクリックすると、矛盾した結果が出たり、潜在的なデータ損失が起きる可能性があります。コレクション構成時に、前のページに戻ったり、管理コンソールの情報を最新表示する必要がある場合は、Web ブラウザーの「戻る」や「最新表示」ボタンではなく、エンタープライズ・サーチ管理コンソールの「**前へ**」および「**最新表示**」ボタンをクリックしてください。

- オプション: 「一般」ページでは、コレクション全体に適用するオプションを指定できます。

- 一般オプションを編集して、コレクションの名前や説明を変更したり、あるいは、コレクションの見積もりサイズを変更することができます。
- コレクション ID や検索結果で文書をランキングする静的ランキング方法などのコレクションに関する変更不可能な情報を表示することができます。
- コレクション作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能に設定している場合、文書レベルでセキュリティー制御を使用可能にしたり、使用不可にすることができます。

- 「クロール」ページでは、クローラーを必ず 1 つは構成します。

1つのコレクションには、さまざまな種類のデータ・ソースのデータを入れることができます。コレクションに組み込む各データ・ソースのタイプごとに、1つ以上のクローラーを構成する必要があります。クローラーを作成する場合、クロール対象のデータ・タイプに固有のウィザードがあり、これを使用すると簡単にクローラーを構成できます。

- オプション: 「解析」 ページでは、クロール対象データの検索が効率的に行われるようにするための解析方法のオプションを設定します。
 - ネイティブ XML 検索で検索できるように XML 文書を解析するかどうかを指定することができます。
 - 文書をカテゴリーに関連付けることができます。こうすることでユーザーはコレクションのサブセットを検索したり、文書が含まれるカテゴリーを基準にして検索結果の文書を参照することができます。
 - XML エlementと HTML メタデータ・Elementを索引の検索フィールドにマップすると、ユーザーが照会にフィールド名を指定して文書の特定部分を検索することができますようになります。
 - 複数のカスタム分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムに追加された場合、コレクションで使用するものを 1 つ選択し、テキスト分析オプションを指定して情報の検索性を高めることができます。
- 「索引」 ページでは、索引の再編成およびリフレッシュのスケジュールを設定します。スケジュールは、ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、索引作成が頻繁に実行されるように設定してください。オプションで次のようなアクティビティーを実行することもできます。
 - ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を指定できるようにします。
 - 有効範囲を設定し、ユーザーが索引のすべての文書ではなくコレクションの限定された一部分を検索できるようにします。
 - 検索結果を省略表示して、同じソースの文書をすべてグループ化して、検索結果にまとめて省略表示されるようにします。
 - 索引から URI を除去します。たとえば、コレクション作成後に、特定の文書をユーザーが表示できないようにする必要がある場合に行います。
- オプション: 「検索」 ページで、コレクションの文書を検索するためのオプションを指定します。
 - 検索結果用のキャッシュ・スペースを確保し、またコレクションのデフォルト言語を変更できます。
 - エンタープライズ・サーチ・システムに複数のカスタム同義語辞書が追加されている場合、コレクションの検索に使用する辞書を 1 つ選択できます。
 - 検索結果に表示する文書サマリーの長さを指定できます。
 - 照会に特定のキーワードまたは句が含まれているときに必ず特定の URI が自動的に表示されるように、クイック・リンクを構成することができます。
- オプション: 「ログ」 ページで、以下のアクティビティーを実行することができます。
 - ログに記録するメッセージのタイプと、ログ・ファイルのリサイクル頻度を指定します。

- コレクション・アクティビティーに関するアラートを受信する場合のオプションを指定します。例えば、検索の平均応答時間が指定した限度を超える場合にアラート通知されるように設定することができます。
- また、特定のメッセージあるいは特定タイプのメッセージがログに記録された場合に、必ず E メールを受信するようにするオプションを指定できます。

コンポーネントの始動

クロール対象のデータ・ソース、およびデータ収集、検索に関するオプションを指定すると、コレクション作成プロセスを開始することができます。コンポーネントを開始する順序は重要です。クローラーは、データ解析の前にクロールする必要があり、パーサーはクロール・データが索引付けされる前にデータ分析する必要があり、索引は、検索サーバーが検索要求処理を開始する前にリフレッシュあるいは再編成される必要があります。

「システム」ビュー

エンタープライズ・サーチ管理者の役割を担当している場合、ツールバー上の「システム」をクリックして以下のアクティビティーを行うことができます (コレクション管理者、オペレーター、およびモニター担当者はこのビューにアクセスできません)。

- システム・リソースの Availability を確認する。
- クライアントのデータ・リスナー・アプリケーションを構成する。
- カスタム・テキスト分析エンジンと同義語辞書をシステムに追加する。
- 同時並行で作成できる索引の数を指定する。
- システム・レベルのイベントに対するアラートを構成する。
- システム・レベル・セッションで生成されるメッセージのログ記録についてオプションを指定する。
- メール・サーバーに関する情報を指定して、エンタープライズ・サーチ・アクティビティーに関する E メールを受信できるようにする。

「セキュリティ」ビュー

エンタープライズ・サーチ管理者の役割を担当している場合、「セキュリティ」をクリックしてセキュリティ・オプションを指定することができます。コレクション管理者、オペレーター、およびモニター担当者は、このビューにはアクセスできません。

IBM WebSphere Application Server でセキュリティを使用可能に設定している場合、「セキュリティ」ビューを使用して管理役割を構成することができます。管理役割を構成することで、システム管理を実施できるユーザーを増やすと同時に、それぞれのユーザーがアクセスできる対象を、特定の機能およびコレクションに制限することができます。

WebSphere Application Server で、セキュリティを使用可能に設定している場合、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーに関する情報を構成すること

もできます。ユーザーがコレクションを検索する場合、検索サーバーは LDAP サーバー・データを使用して個々のユーザーが検索できるソースに制限をつけることができます。

独自の検索アプリケーションを作成するまでは、サンプル検索アプリケーションを使用して、あらゆるコレクションの検索ができます。カスタム検索アプリケーションを作成した後は、「セキュリティー」ビューを使用してアプリケーションを、検索可能なコレクションに関連付けてください。

「モニター」ビュー

 「モニター」をクリックすると、システムまたはコレクション・コンポーネントをいつでもモニターできます。管理役割で権限が与えられていれば、モニターするだけでなく、コンポーネント・プロセスの開始および停止もできます。

関連概念

9 ページの『エンタープライズ・サーチ管理コンソール』

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザで稼働します。すなわち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできることとなります。同時に、セキュリティー機構によって、管理機能にアクセスすることを許可されたユーザーしかコンソールにアクセスできないことが保証されています。

関連タスク

197 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクローラー、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

199 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止して再始動する必要があります。

30 ページの『コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成』

エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従いながら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細を提供し、途中で設定を保管できます。

31 ページの『「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成』

「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。すると、このコレクションを編集して、コレクションにデータを追加したり、コレクションを検索可能にするオプションを指定できます。

39 ページの『クローラーの作成』

クローラーを作成するとき、作成するクローラーのタイプを指定します。コレクションに含めるデータについて、指定する情報をウィザードがガイドします。

203 ページの『コレクションのモニター』

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

管理コンソールへのログイン

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を指定した後で、管理コンソールにログインします。

始める前に

ログインに使用するユーザー ID は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールへのアクセスを認可されている必要があります。

- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしていない場合、管理コンソールにアクセスできるのは、DB2 II OmniFind Edition のインストール中に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者だけです。
- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定してある場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、管理役割を構成できます。構成するユーザー ID は、WebSphere Application Server ユーザー・レジストリー内に存在していなければなりません。管理役割を構成すると、より多くのユーザーが管理コンソールにログインするのを許可することになりますが、各管理ユーザーがアクセス可能な機能およびコレクションを制御できます。

手順

エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインするには、次のようにします。

1. Web ブラウザーで、管理コンソールの URL を入力します。 例:

```
http://SearchServer.com/ESAdmin/
```

SearchServer.com は、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーのホスト名です。

ご使用の Web サーバー構成によっては、ポート番号を指定する必要がある場合もあります。例:

```
http://SearchServer.com:9080/ESAdmin/
```

2. 「ようこそ」ページで、ユーザー ID とパスワードを入力し、「**ログイン**」をクリックします。

システムおよびコレクションの管理の入り口である「コレクション」ビューが表示されます。管理役割を使用する場合、実行できるアクションと表示されるコレクションは、使用する管理役割によって決まります。

一定の時間セッションが非アクティブな状態が続くと、システムによって自動的にログアウトされます。システムの管理を続けるには、もう一度ログインしてください。

コレクションの管理の終了後、「**ログアウト**」をクリックすると、コンソールをログアウトできます。その後、別の ID とパスワードを使ってログインすることもできますし、Web ブラウザーを閉じて管理コンソールを終了することもできます。

関連概念

9 ページの『エンタープライズ・サーチ管理コンソール』

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザで稼働します。すなわち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできることとなります。同時に、セキュリティー機構によって、管理機能にアクセスすることを許可されたユーザーしかコンソールにアクセスできないことが保証されています。

164 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

関連タスク

197 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクローリング、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

単一サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、暗号化されたフォーマットで保管されます。パスワードを変更するには、`eschangepw` スクリプトを使用してください。

始める前に

エンタープライズ・サーチ管理者の ID とパスワードは、ご使用のオペレーティング・システムで有効であり、さらに DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限がなければなりません。

このタスクについて

初期のエンタープライズ・サーチ管理者 ID のパスワードは、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されます。

このパスワードを変更するためには、`eschangepw` スクリプトを実行して、エンタープライズ・サーチ・システム全体に変更を周知させる必要があります。インストール・プログラムでは、`eschangepw` スクリプトで使用できる、次の 2 つの環境変数を生成します。

ES_INSTALL_ROOT

エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー

ES_NODE_ROOT

エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー。エンタープライズ・サーチ管理者 ID のパスワードは、このディレクトリーの `es.cfg` ファイルに保管されます。

`eschangepw` スクリプトは、`ES_INSTALL_ROOT/bin` ディレクトリーにインストールされるため、システムのどこからでも、それを実行できます。

手順

単一サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードを変更するには、以下のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
2. 次のコマンドを入力してサーバーを停止します。 `esadmin stop`
3. WebSphere Application Server の管理コンソールを開いて、 `server1` と `ESSearchServer` エンタープライズ・アプリケーションを停止します。
4. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Microsoft Windows のパスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。
5. 以下のスクリプトを実行します。ここで、 `newValue` は、ステップ 4 で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	<code>eschangepw.sh newValue</code>
Windows	<code>eschangepw newValue</code>

6. WebSphere Application Server の管理コンソールで、 `server1` および `ESSearchServer` アプリケーションを開始します。
7. 以下のコマンドを入力し、DB2 II OmniFind Edition 共通通信層 (CCL) を再生させます。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	<code>stopccl.sh</code> 、次に <code>startccl.sh -bg</code>
Windows コマンド・プロンプト	<code>stopccl</code> 、次に <code>startccl</code>
Windows Services 管理ツール	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Services を起動する。 2. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックして、「停止」を選択する。 3. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「プロパティ」を選択する。 4. 「ログオン」タブをクリックする。 5. <code>newValue</code> を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。 6. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「開始」を選択する。

8. 次のコマンドを入力して、エンタープライズ・サーチを再始動します。 `esadmin start`

複数サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、暗号化されたフォーマットで保管されます。このパスワードを変更するには、ご使用のエンタープライズ・サーチ・システムのすべてのコンピューターで `eschangepw` スクリプトを実行して変更してください。

始める前に

エンタープライズ・サーチ管理者の ID とパスワードは、ご使用のオペレーティング・システムで有効であり、さらに DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限がなければなりません。

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、DB2 II OmniFind Edition のこのインストール環境に属するすべてのコンピューターで同一である必要があります。

このタスクについて

初期のエンタープライズ・サーチ管理者 ID のパスワードは、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されます。

パスワードを変更し、その変更をエンタープライズ・サーチ・システム全体に周知させるには、複数サーバー構成の各コンピューターで、`eschangepw` スクリプトを実行する必要があります。インストール・プログラムでは、`eschangepw` スクリプトで使用できる、次の 2 つの環境変数を生成します。

ES_INSTALL_ROOT

エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー

ES_NODE_ROOT

エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー。エンタープライズ・サーチ管理者 ID のパスワードは、このディレクトリーの `es.cfg` ファイルに保管されます。

`eschangepw` スクリプトは、`ES_INSTALL_ROOT/bin` ディレクトリーにインストールされるため、システムのどこからでも、それを実行できます。

手順

複数サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードを変更するには、以下のようにします。

1. 索引サーバーをインストールしたコンピューターで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、システム保守モードを開始します。 `esadmin system maintenance`
3. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Microsoft Windows のパスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。
4. 以下のスクリプトを実行します。ここで、`newValue` は、ステップ 3 で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	<code>eschangepw.sh newValue</code>
Windows	<code>eschangepw newValue</code>

5. 索引サーバーで以下のコマンドを入力し、DB2 II OmniFind Edition 共通通信層 (CCL) を再生させます。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	stopccl.sh、次に startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	stopccl、次に startccl
Windows Services 管理ツール	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Services を起動する。 2. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックして、「停止」を選択する。 3. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「プロパティ」を選択する。 4. 「ログオン」タブをクリックする。 5. <i>newValue</i> を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。 6. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「開始」を選択する。

6. クローラー・サーバーをインストールしたコンピュータで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
7. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Windows パスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。このパスワードは、ステップ 3 (24 ページ) で指定したパスワードと一致している必要があります。
8. 以下のスクリプトを実行します。ここで、*newValue* は、ステップ 3 (24 ページ) で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	eschangepw.sh <i>newValue</i>
Windows	eschangepw <i>newValue</i>

9. 以下のコマンドを入力してクローラー・サーバーの CCL を再生します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	stopccl.sh、次に startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	stopccl、次に startccl

オペレーティング・システム	コマンド
Windows Services 管理ツール	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Services を起動する。 2. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックして、「停止」を選択する。 3. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「プロパティ」を選択する。 4. 「ログオン」タブをクリックする。 5. <i>newValue</i> を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。 6. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「開始」を選択する。

10. 索引サーバーをインストールしたコンピューターで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、次のコマンドを入力してエンタープライズ・サーチを開始します: `esadmin start`
11. 検索サーバーをインストールしたコンピューターの 1 つで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
12. IBM HTTP Web サーバーを停止します。(このステップにより Network Dispatcher が照会を該当サーバーにルーティングしないようにします。)
13. 以下のコマンドを入力して検索サーバーの CCL を停止します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	<code>stopccl.sh</code>
Windows コマンド・プロンプト	<code>stopccl</code>
Windows Services 管理ツール	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Services を起動する。 2. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックして、「停止」を選択する。

14. WebSphere Application Server の管理コンソールを開いて、`server1` と `ESSearchServer` アプリケーションを停止します。
15. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Windows パスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。このパスワードは、ステップ 3 (24 ページ) で指定したパスワードと一致している必要があります。
16. 以下のスクリプトを実行します。ここで、*newValue* は、ステップ 3 (24 ページ) で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	<code>eschangepw.sh newValue</code>
Windows	<code>eschangepw newValue</code>

17. 以下のコマンドを入力して検索サーバーの CCL を再始動します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	startccl
Windows Services 管理ツール	<ol style="list-style-type: none">1. Windows Services を起動する。2. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックして、「プロパティ」を選択する。3. 「ログオン」タブをクリックする。4. <i>newValue</i> を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。5. 「DB2 Information Integrator OmniFind Edition」を再度右クリックして、「開始」を選択する。

18. 2 番目の検索サーバーで、ステップ 11 (26 ページ) から 17 までを繰り返します。
19. IBM HTTP Web サーバーを開始します。
20. WebSphere Application Server の管理コンソールで、server1 と ESSearchServer エンタープライズ・アプリケーションを開始します。
21. 索引サーバーをインストールしたコンピュータで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、次のコマンドを入力してエンタープライズ・サーチを開始します: `esadmin start`
22. エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインして、コレクションをモニターし、「検索」ページをクリックしてから、「停止」と「開始」をクリックして検索サーバーを再始動します。ご使用のエンタープライズ・サーチ・システムのそれぞれのコレクションごとにこのステップを繰り返してください。

エンタープライズ・サーチ・コレクション

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複数のコレクションを 1 回の照会で検索することができます。

コレクションを作成する場合、コレクション全体に適用されるオプションを指定します。コレクションは、コンテンツを追加するまでは空の状態です。

コレクションをエンタープライズ・サーチ・システムに追加する方法には、次の 2 つの方法があります。

- エンタープライズ・サーチ管理コンソールの操作に不慣れな場合、また、さまざまなコレクション・コンポーネントが連携してどのように機能するかが、まだよくわからない場合は、コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成してください。コレクション・ウィザードを使用すれば、作成タスクを順序良く実行することができ、ドラフト・コレクションで作業する手間が省けます。
- 管理コンソールの操作に慣れている場合は、「コレクション」ビューで管理を行う特定のページを選択しながらコレクションを作成する方法もあります。

コレクションの作成後は、「コレクション」ビューのコントロールを使用して、コレクション、エンタープライズ・サーチ・システム、およびセキュリティー・オプションの編集とモニターをすることができます。

コレクション・フェデレーション

フェデレーションのサポートが検索アプリケーションに組み込まれて構築されている場合、ユーザーは同時に複数のコレクションを検索できます。また、フェデレーションによりコレクションのサイズ制限 (コレクションあたり 20 000 000 文書) を超えて拡大させることができます。例えば、それぞれに 20 000 000 個の文書を含む 2 つのコレクションを検索できます。

検索の質は、マージされて最終的な結果セットを構成する前の、個別のコレクションで生成されたスコアに依存します。結果は、2 つの別々の検索を実行してから、その結果をマージしてランキングした場合と同じになります。

関連タスク

203 ページの『コレクションのモニター』

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

191 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに コレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成

エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従いながら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細を提供し、途中で設定を保管できます。

始める前に

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクション内のコンテンツの解析、索引付け、または検索方法のオプションを指定したりするには、エンタープライズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

コレクションの作成途中で、それをドラフト状態として保管できます。それがドラフト状態にある間、コレクションを管理する権限を持つ管理者は、それを変更することができます。例えば、Lotus Notes ソースに詳しいコレクション管理者に Notes クローラーを構成してもらいたい場合があります。そのあと、UNIXシステムに詳しいコレクション管理者が、ドラフト・コレクションを編集して、UNIX ファイル・システムクローラーを構成することも考えられます。

手順

コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. 「**コレクション・ウィザード**」をクリックします。
3. ウィザードの指示に従って、空のコレクションを作成し、それにコンテンツを追加します。

コレクションについての一般情報を構成し、少なくとも 1 つのクローラーを作成しなければなりません。その他の構成オプションについては、デフォルト値を受け入れることも、あるいは、新規コレクションのオプションを指定することもできます。

4. コレクションの作成が完了する前にコレクションを保管するには、「**ドラフトとして保管**」をクリックします。

そのコレクションが他のドラフト・コレクションと一緒に「**コレクション**」ビューにリストされます。コレクションのセキュリティーを使用可能にしてある場合、 「**コレクション・セキュリティー使用可能**」アイコンがコレクション名の横に表示されます。

5. 作成途中のコレクションに戻るには、「**コレクション**」ビューで、「**ウィザードに戻る**」をクリックします。
6. 「**完了**」をクリックして、コレクションを作成します。

新規コレクションが他のコレクションと一緒に「コレクション」ビューにリストされます。

コレクションを作成したあと、コレクションのクローल、解析、索引付け、および検索のプロセスを開始しなければなりません。コレクションを検索できる検索アプリケーションにコレクションを関連付ける準備ができるまで、サンプル検索アプリケーション (名前は Default) を使用して、新規コレクションを検索できます。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成

「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。すると、このコレクションを編集して、コレクションにデータを追加したり、コレクションを検索可能にするオプションを指定できます。

始める前に

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクション内のコンテンツの解析、索引付け、または検索方法のオプションを指定したりするには、エンタープライズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

新規コレクションに指定できる値の情報は、コレクションを作成している間に「ヘルプ」をクリックすると表示されます。

手順

「コレクション」ビューからコレクションを作成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」ビューで、「**コレクションの作成**」をクリックします。
2. 「コレクションの作成」ページで、次のフィールドに情報を入力するか、選択を行います。
 - **コレクション名**。コレクションのコンテンツまたは目的の記述名を指定します。
 - **コレクション・セキュリティ**。コレクションのセキュリティを使用可能にするかどうかを指定します。コレクションが作成された後、この値を変更することはできません。コレクション・セキュリティが使用可能であれば、あとで、文書レベルのアクセス制御を実行するためのオプションを指定できます。

- **文書の重要度 (静的ランキング・モデル)**。検索結果での文書のランク付けに使用される静的ランキング要素を割り当てるための方法を指定します。コレクションの作成後、この値を変更することはできません。
 - **カテゴリー化タイプ**。文書を、所属するカテゴリーで検索できるようにするかどうかを指定します。
 - **デフォルト言語**。コレクション内の文書検索のデフォルト言語を指定します。
3. 次のフィールドについては、デフォルト値を受け入れることも、あるいは、このコレクションで使用するオプションを指定することもできます。
- **説明**。デフォルトでは、説明は作成されません。
 - **見積もり文書数**。コレクションのデフォルトの見積もり文書数は 1 000 000 です。システムは、この値を使用して、コレクションのメモリーとディスク・リソースを見積もります。コレクションのサイズを制限することはありません。
 - **コレクション・データの場所**。コレクション関連ファイルのデフォルトの場所は、索引サーバー上にあります。コレクションの作成後、この値を変更することはできません。
 - **コレクション ID**。デフォルトのコレクション ID は、コレクション名に基づきます。コレクションの作成後、この値を変更することはできません。(カスタムのコレクション ID を指定すると、検索アプリケーションは、システムが作成する意味の分かりにくい ID の代わりにこの ID を使用してコレクションを呼び出します。)
 - **N-gram セグメンテーション**。デフォルトのセグメンテーション方式は、Unicode ベースの、空白文字セグメンテーションです。このオプションは、コレクションに中国語、日本語、または韓国語の文書が含まれており、ワードを区切るのにパーサーに N-gram セグメンテーションを使用させたい場合にのみ、選択します。コレクションの作成後、この値を変更することはできません。
4. 「OK」をクリックします。

「コレクション」ビューに、新規コレクションが、エンタープライズ・サーチ・システム内の他のコレクションと一緒にリストされます。コレクションのセキュリティーを使用可能にしてある場合、 「**コレクション・セキュリティー使用可能**」アイコンがコレクション名の横に表示されます。

コレクションは、コンテンツを追加するまでは空の状態です。新規コレクションにコンテンツを追加するには、「コレクション」ビューでコレクションを選択し、それを編集し、少なくとも 1 つのクローラーを作成します。そして、データの解析、索引付け、および検索の方法を指定します。

そして、コレクションのクロール、解析、索引付け、および検索のプロセスを開始しなければなりません。ユーザーのカスタム検索アプリケーションでの検索に使用できるようになるまでは、新規コレクションの検索にサンプル検索アプリケーションを使用できます。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリ

ケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

コレクションの編集

コレクションに入れる文書に関する情報を指定するために、コレクションを編集します。

始める前に

コレクションを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

コレクションを編集するときに、データ・ソースのクロール、文書の解析、索引の再編成とリフレッシュ、索引付きコンテンツの検索、およびエラー・メッセージのログ記録のオプションを指定します。コレクションを作成するときに、コレクションを編集して、それにコンテンツを追加しなければなりません。あとでコレクションを編集して、コンテンツを更新したり、情報のクロール、解析、索引付け、検索、またはログの方法を変更したりできます。

手順

コレクションを編集するには、次のようにします。

1. ツールバーの中の「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで編集したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 次のページで変更を行います。

| **一般** コレクションに関する一般情報を指定して、変更できない設定を表示します。コレクションの作成時にそのコレクションに対してセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティーのオプションを構成することができます。

クロール

クロールするデータ・ソースを指定し、コンテンツのクロール方法のオプションを指定します。すべてのコレクションは、それぞれ少なくとも 1 つのクロールを含む必要があり、1 つのコレクションに、複数のタイプのデータ・ソースからのデータを含めることができます。コレクションに含めるデータ・ソースのタイプごとに、少なくとも 1 つのクロールを構成しなければなりません。

解析

| **解析** クロールされた文書の解析および分析方法のオプションを指定します。カテゴリーを構成することで、ユーザーがコレクションのサブセットを検索できるようにすることができます。また、XML 文書および HTML 文書の特定の部分をユーザーが検索できるようにする規則を構成できます。エンタープライズ・サーチ・システムにカスタム分析エンジンがされている場合、その 1 つを、このコレクションのコンテンツの分析と注

積付けに使用するよう選択してから、文書の分析と分析結果を索引に追加するためのオプションを指定できます。

索引 全体の索引を再編成するスケジュールと、新規および変更されたコンテンツで索引をリフレッシュするスケジュールを指定します。照会でワールドカード文字を使用するためのオプション、コレクションのビューを一連の URI に制限するためのオプション、同じ Web サイトからの検索結果を縮小するためのオプション、索引から URI を除去するためのオプションも構成できます。

検索 検索キャッシュの構成、検索言語の選択といった、コレクションの検索のオプションを指定します。また、クイック・リンクを構成することもできます。これは、ユーザーが照会の中に特定の語または句を含めたときは、必ず事前に決められた URI が戻されるようにする機能です。エンタープライズ・サーチ・システムにカスタム同義語辞書が追加されている場合、その 1 つをこのコレクションでの検索に使用するよう選択できます。

ログ ログに記録するメッセージのタイプと、ログ・ファイルの作成と循環のオプションを指定します。また、特定のイベントが発生した時に通知されるようにアラートを構成し、特定のメッセージ、つまり特定のタイプのメッセージがログに記録されたら必ず E メールを受信するというオプションを指定することもできます。

コレクションの削除

コレクションを削除して、そのコレクションに関するすべての情報を エンタープライズ・サーチ・システムから除去します。

始める前に

コレクションを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

コレクションを削除するには、その前に、そのコレクションに関連付けられたすべてのプロセスを停止しなければなりません。

このタスクについて

コレクションの削除は、処理に時間がかかることがあります。ユーザーがコレクションの削除を確認すると、システムは、システムの中でコレクションに関連するすべてのデータを削除します。

ヒント: プロセスがバックグラウンドでまだ実行されているにもかかわらず、要求された操作がタイムアウトになったというメッセージが表示される場合があります。タスクが完了したかどうかを判断するには、管理コンソールで「リフレッシュ」をクリックします (Web ブラウザーの「リフレッシュ」はクリックしないでください)。削除処理は、コレクション名がコレクション・リストに表示されなくなったときに完了します。

手順

コレクションを削除するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、削除したいコレクションを指して、 「削除」をクリックします。

エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

クローラーの構成

クローラーの作成、編集、および削除には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。クローラーの構成は、通常、クロール対象のデータ・タイプに精通した担当者が行います。例えば、Lotus Notes データ・ソースをクロールするクローラーをセットアップする場合、コレクション管理者には Notes 管理者がなるか、または、クロール対象のデータベースを十分理解している担当者と緊密な協力を得ながら作業を行います。

クローラーは、システム・デフォルト値、または既存のクローラーに指定された値に基づいて作成することができます。既存のクローラーを新規クローラーのベースとして使用すると、類似したプロパティを持つ複数のクローラーを手早く作成でき、それらのクローラーを構成して異なるソースをクロールするようしたり、また、例えば、異なるクロール・スケジュールで運用したりすることができます。

クローラーを作成する場合、クロール対象のデータ・タイプ専用のウィザードがあり、これを使用するとクローラーによるシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定できます。また、このウィザードによって検索対象のソースを選択することもできます。

既存のクローラーは、いつでも変更できます。クローラー・プロパティの編集またはクロール・スペースの一部変更を必要に応じて行うことができます。クローラー・ウィザードを使用すれば、これらの変更を行うこともできます。

新規のクローラーにベースとなる値を移植する

クローラーは、システム・デフォルト値、または既存のクローラーに指定された値に基づいて作成することができます。既存のクローラーを新規クローラーのベースとして使用すると、類似したプロパティを持つ複数のクローラーを手早く作成でき、それらのクローラーを構成して異なるソースをクロールするようしたり、また、例えば、異なるクロール・スケジュールで運用したりすることができます。

同一のクローラーをコピーすれば、同じクロール規則に従う複数のクローラーにクロールの負荷を分散することができます。例えば、異なる Notes サーバーで同じプロパティおよびフィールド・クロール規則を使用する場合、同一の Notes クローラーをコピーすることが考えられます。この場合、各クローラーで異なるのは、クロール対象のデータベースとクロール・スケジュールだけとなります。

単一コレクション内で異なるクローラー・タイプを組み合わせる

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、特定タイプのデータ・ソースから情報を収集するように設計されています。コレクションに対してクローラーを構成する

場合、さまざまな異なるデータ・ソース・タイプをどのように組み合わせればユーザーが簡単にエンタープライズ・データを検索できるか、その組み合わせを決定する必要があります。例えば、ユーザーが Microsoft Windows ファイル・システムと Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーを 1 回の照会で検索できるようにするには、Windows ファイル・システム・クローラーと Exchange Server クローラーを含むコレクションを作成します。

1 つのコレクションに複数のタイプのクローラーを組み合わせる場合、必ずすべてのクローラーが同一の静的ランキング方式を使用できることを確認してください。(静的ランキング方式は、コレクション作成時に指定します。) 例えば、Web ソース (ランキング係数として文書リンクを使用) と NNTP ソース (ランキング係数として、通常、文書日付を使用) を組み合わせてしまうと、検索結果の品質が低下する可能性があります。

文書レベル・セキュリティ

コレクションの作成時に、そのセキュリティを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティ・オプションを構成することができます。各クローラーは、クローラー対象の文書にセキュリティ・トークンを関連付けることができます。クローラーの構成時に文書レベルのセキュリティを使用することを指定すると、そのクローラーは指定したセキュリティ・トークンを各文書に関連付けます。そして、これらのトークンは文書の索引に追加されます。

カスタム検索アプリケーションでセキュリティを使用可能にした場合、そのアプリケーションはクローラーが文書に関連付けたセキュリティ・トークンを使用してユーザーを認証します。この機能を使えば、コレクション内の一部の文書をアクセス制限し、他の文書はすべてのユーザーが検索できるように設定することができます。例えば、あるコレクションで、Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダー内の全文書をすべてのユーザーがアクセスできるようにし、Lotus Notes データベース文書にアクセスできるのは特定のユーザー ID のユーザーだけに限定するように設定できます。

Lotus Notes ソースの場合、さらにセキュリティ制御を追加指定することができます。例えば、照会処理中にユーザーの信用証明情報を元のデータ・ソースが保守しているアクセス制御に対して検証するよう指定することができます。この現行の信用証明情報に関する検証は、エンタープライズ・サーチ索引に保管されているセキュリティ・トークンとユーザーの信用証明情報が比較されるときに起こる検証の代わりに、あるいはその検証に加えて行うことができます。

クローラーのスケジューリング

Web ソースおよび NNTP ニュースグループに対して作成したクローラーは、連続的に実行されます。このようなクローラーについては、クローラーをいったん始動後は、通常、クローラーの構成を変更しない限り特に停止する必要はありません。

それ以外のすべてのクローラー・タイプについては、クローラーの構成時にクローラー・スケジュールを指定します。データ・タイプによっては、1 つのスケジュールで、クローラーがクローラー・スペース内のすべてのデータ・ソースにアクセスする日時が管理されます。また、他のデータ・ソース・タイプの場合は、特定のデー

タ・ソースに対して複数の異なるスケジュールを指定できます。例えば、Notes データベースについて、クローラーがクロールする各データベースに異なるクロール・スケジュールを指定できます。

複数のクローラー・スケジュールを作成すれば、クローラーのターゲット・ソースへのアクセス日時をより適切に管理できます。例えば、異なるタイム・ゾーンにある複数のデータベースをクロールする場合、ユーザーが日中の仕事を終了していると思われる時間にクローラーがクロールするように、タイム・ゾーンに合わせて複数のスケジュールを設定できます。

関連概念

3 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラー』

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、それらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

関連タスク

205 ページの『クローラーのモニター』

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、クローラーのアクティビティに関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』

エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

クローラーの作成

クローラーを作成するとき、作成するクローラーのタイプを指定します。コレクションに含めるデータについて、指定する情報をウィザードがガイドします。

始める前に

クローラーを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

コレクションのクローラーを少なくとも 1 つ作成しなければなりません。作成するクローラーのタイプは、コレクションに含めるデータのタイプによって異なります。ウィザードは、作成するクローラーのタイプについて、クローラーのオプションの指定をガイドします。ウィザードは、例えば、クローラーがシステム・リソースをどのように使用するかについてのオプションを指定する手助けをします。また、ウィザードは、コレクションに含めるデータ・ソースの選択の手助けもします。

手順

クローラーを作成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。

2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、「クローラーの作成」をクリックします。
4. クローラー・タイプと、クローラーの基本値を選択します。
 - a. Web サイト、Lotus Notes データベース、または UNIX ファイル・システムなど、クロールするデータのタイプをサポートするクローラーのタイプを選択します。

クローラー・タイプを選択したあと、その作成方法についてのオプションが表示されます。

- b. クローラーの基本値を選択します。

システム・デフォルト値に基づいてクローラーを作成

デフォルトのクローラー設定値に、インストールのデフォルト値を設定します。

このオプションを選択した場合、「次へ」をクリックすると、新規クローラーの構成が開始されます。

既存のクローラーに基づいてクローラーを作成

デフォルトのクローラー設定値に、このタイプの別のクローラーに構成した値を設定します。

このオプションを選択すると、このクローラー・タイプに一致するクローラーのリストが表示されます。新規クローラーとして使用するクローラーを選択し、「次へ」をクリックして、新規クローラーの構成を開始します。

作成しているクローラー・タイプ用のウィザードが開きます。ウィザードのプロンプトに従って、クローラーを作成します。ウィザードのどのページでも、「ヘルプ」をクリックすると、そのタイプのクローラーに指定できるオプションの説明が表示されます。

新規クローラーは、そのコレクションに属する他のクローラーと一緒に「クロール」ページにリストされます。クローラーを変更する必要があるときはいつでも、クローラーのプロパティおよびクロール・スペースを編集するオプションをクリックできます。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティ実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

クローラーのプロパティの編集

クローラーについての情報と、クローラーがデータをクロールする方法を変更できます。例えば、クローラーがシステム・リソースを使用する方法を変更できます。

始める前に

クローラー・プロパティを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

クローラーのプロパティを編集するときに、「ヘルプ」をクリックすると、変更できるタイプを知ることができます。編集できるプロパティは、クローラー・タイプによって異なります。

手順

クローラーのプロパティを編集するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、クローラーを追加したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、編集したいクローラーを指して、 「クローラーのプロパティ」をクリックします。
4. クローラーのプロパティを変更して、「OK」をクリックします。
5. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。(クローラー名または説明のみを変更した場合、クローラーを再起動する必要はありません。)

クロール・スペースの編集

クローラーがクロールするデータ・ソースについての情報を変更できます。例えば、データ・ソースの追加、データ・ソースの除去、クロール・スケジュールの変更、および、特定のデータ・ソース内の文書のクロール規則の変更を行うことができます。

始める前に

クロール・スペースを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

管理するクローラーのタイプで行える変更については、クロール・スペースを編集している間に「ヘルプ」をクリックすると説明が表示されます。

手順

クロール・スペースを編集するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、編集したいクローラーを指して、 「クロール・スペース」をクリックします。
4. 変更するオプションを選択して、クロール・スペースを変更します。

選択できるオプションは、クローラー・タイプによって異なります。データ・ソースをコレクションに追加するといった一部のオプションについては、クローラー・タイプのウィザードが開き、クロール・スペースの変更を手助けします。

5. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

クローラーの削除

クローラーを削除して、そのクローラーに関するすべての情報を エンタープライズ・サーチ・システムから除去します。前にそのクローラーでクロールされた情報は、索引を再編成するまで、索引の中に残ります。

始める前に

クローラーを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

クローラーの削除は、時間のかかるプロセスです。ユーザーがクローラーの削除を確認すると、システムは、システムの中でクローラーに関連するすべてのデータを削除します。

ヒント: このタスクは完了するのに時間がかかるため、プロセスがバックグラウンドでまだ実行中であっても、要求された操作のタイムアウトに関するメッセージが表示されます。タスクが完了したかどうかを確認するには、時々、管理コンソールで「リフレッシュ」をクリックします (Web ブラウザーの「リフレッシュ」をクリックしないでください)。クローラー名がクローラーのリストに表示されなくなったら、削除プロセスは終了です。

手順

クローラーを削除するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「編集」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、削除するクローラーを指して、 「削除」をクリックします。

Content Manager クローラー

IBM DB2 Content Manager 項目タイプをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Content Manager クローラーを構成する必要があります。

クローラー・サーバーのセットアップ

DB2 Content Manager サーバーをクロールするには、あらかじめクローラー・サーバーで特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、DB2

Information Integrator OmniFind Edition で提供されますが、これによって Content Manager クローラーが DB2 Content Manager サーバーと通信できるようになります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Content Manager クローラーを構成する前に、ご使用の環境に合わせて次のタスクを実行してください。

- 44 ページの『AIX での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成』
- 46 ページの『Linux での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成』
- 47 ページの『Windows での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成』

Content Manager クローラーの構成

Content Manager クローラーを使用すれば、任意の数の DB2 Content Manager サーバーをクロールすることができます。クローラーを構成する場合、クローラーがクロール・スペースのすべての DB2 Content Manager サーバーをクロールするためのオプションを指定します。また、各サーバーでクロールする特定の項目タイプも選択します。

Content Manager クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内のすべての DB2 Content Manager サーバーの全項目タイプに対するクロールを制御します。
- クロール対象の DB2 Content Manager サーバー を選択します。
- DB2 Content Manager サーバーのコンテンツにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードを指定します。
- サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- 各 DB2 Content Manager サーバーでクロールする項目タイプを選択します。
- 一部の項目タイプの属性を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、検索結果に戻すことのできる属性を指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの DB2 Content Manager サーバー および項目タイプの追加。
- クローラーが特定のサーバーに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- 特定のサーバーのクロール・スケジュールの変更。
- 特定の項目タイプの文書のクロールに関するオプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティ・オプションの変更。
- クロール・スペースからの DB2 Content Manager サーバー および項目タイプの除去。

AIX での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind Edition を IBM AIX® コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Manager クローラーが IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

このタスクについて

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java™ コネクタを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Manager クローラーが DB2 Content Manager で機能するようにするには、コネクタをインストールした後で、DB2 II OmniFind が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行します。

手順

クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタをインストールします。
 - a. クローラー・サーバーに、root ユーザーとしてログインします。

```
su - root
```

- b. db2profile ファイルを実行します。

```
./home/db2inst/sql1lib/db2profile
```

- c. JAVAHOME 環境変数をエクスポートします。例:

```
export JAVAHOME=/usr/IBMJava2-141
```

- d. Java ディレクトリーを PATH 環境変数に追加します。

```
export PATH=$PATH:$JAVAHOME/bin
```

- e. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入して、インストールのスク립トを実行します。

```
./frnxsetup.sh
```

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- f. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います。
 - 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクター」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選択します。
 - 2) 「コンポーネント」リストから「コネクター・ツールキットとサンプル」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選択します。
 - g. プロンプトが出されたら、DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースのユーザー名とパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。
- 2. クローラー・サーバーに、DB2 管理グループの中のユーザー ID でログインします。
 - 3. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに 接続できることを確認します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port  
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

- 4. オプション: root ユーザーとしてログインし、データベース接続をテストします。

```
./usr/lpp/cmb/bin/cmbenv81.sh  
cd /usr/lpp/cmb/samples/java/icm  
javac *.java  
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name Cadmin_ID Cadmin_password
```

- 5. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スク립トを実行します。
 - a. 次のようにして、ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーに移動します。

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/bin
```

- b. 以下のスク립トを開始し、プロンプトに応答します。

```
escrcm.sh
```

- 6. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

```
esadmin stop  
stopccl.sh  
startccl.sh -bg  
esadmin start
```

Linux での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind Edition を Linux™ コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Managerクローラーが IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

このタスクについて

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Content Manager Linux Toolkit 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Managerクローラーが DB2 Content Managerで機能するようにするには、コネクタをインストールした後で、DB2 II OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行します。

手順

クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタをインストールします。

- a. root ユーザーとしてログインします。

```
su - root
```

- b. db2profile ファイルを実行します。

```
./home/db2inst/sqlllib/db2profile
```

- c. JAVAHOME 環境変数をエクスポートします。例:

```
export JAVAHOME=/opt/IBMJava2-141
```

- d. Java ディレクトリーを PATH 環境変数に追加します。

```
export PATH=$PATH:$JAVAHOME/bin
```

- e. DB2 Content Manager Linux Toolkit インストール CD を挿入して、該当する言語のディレクトリーに移動します。例えば、English ディレクトリーに移動するには、次のように入力します。

```
cd English
```

- f. インストール・スクリプトを実行します。

```
./setuplinux.bin
```

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- g. 「セットアップ・タイプ」ウィンドウで、「**カスタム**」を選択します。
- h. 「機能リスト」ウィンドウで、「**Content Manager V8 コネクタ**」を選択します。

- i. プロンプトが出されたら、DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースのユーザー名とパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。
2. クローラー・サーバーに、DB2 管理グループの中のユーザー ID でログインします。
3. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに 接続できることを確認します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

4. オプション: root ユーザーとしてログインし、データベース接続をテストします。

```
. /opt/IBMcmb/bin/cmbenv81.sh
cd /opt/IBMcmb/samples/java/icm
javac *.java
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name CMadmin_ID CMadmin_password
```

5. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
 - a. 次のようにして、ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーに移動します。

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/bin
```

- b. 以下のスクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

```
./escrcm.sh
```

6. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

Windows での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind Edition を Microsoft Windows コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、Content Manager クローラーが IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

このタスクについて

Content Manager クローラーは、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに、IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 をインストールすると、インストールされます。Content Manager クローラ

ーが DB2 Content Manager で機能するようにするには、コネクタをインストールした後で、DB2 II OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行します。

手順

クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに、Content Manager バージョン 8 の Java コネクタをインストールします。

- a. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入します。インストール・プログラムが自動的に始動します。

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- b. 「マシン・タイプの選択」ウィンドウで、「EIP 開発ワークステーション」を選択します。
- c. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います。
 - 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクタ」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクタ」を選択します。
 - 2) 「コンポーネント」リストから「コネクタ・ツールキットとサンプル」を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクタ」を選択します。
- d. プロンプトが出されたら、DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースのユーザー名とパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。

2. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに接続できることを確認します。クローラー・サーバー上のコマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote hostname server port
db2 catalog database database_name as alias at node node_name
```

3. オプション: データベース接続をテストします。
 - a. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「Enterprise Information Portal for Multiplatforms and Development」を選択します。
 - b. 次のコマンドを入力します。

```
cd %cmbroot%samples%java%icm
javac *.java
java SConnectDisconnect ICMdatabase_name CMadmin_ID CMadmin_password
```

4. クローラー・サーバー上で、Content Manager クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
 - a. 次のようにして、ES_INSTALL_ROOT\bin ディレクトリーに移動します。

```
cd %ES_INSTALL_ROOT%\bin
```

- b. 以下のスクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

```
escrcm.vbs
```

5. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

- a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを停止します。

```
esadmin stop
```

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択して、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Editionサービスを再始動します。

- c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを始動します。

```
esadmin start
```

DB2 クローラー

DB2 クローラーは、IBM DB2 Universal Database データベースをコレクションに入れる場合に使用します。また、DB2 クローラーを使用すれば、IBM DB2 Universal Database for z/OS、IBM Informix、Oracle、および Microsoft SQL Server データベースに対して作成したニックネーム表を入れることもできます。

クローラーは、クロール対象の各データベース・サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。クローラーを構成する場合、クローラーが同じサーバー上のすべてのデータベースをクロールするときのオプションを指定します。また、各データベースでクロールする特定の表も選択します。

DB2 クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによる特定のデータベース・サーバーのすべてのデータベースに対するクロールを制御します。
- クロールするデータベースのタイプに関する情報を指定します。

ローカル・データベース・サーバーでカタログされていないリモート・データベースをクロールする予定がある場合、まず、リモート・サーバーで DB2 Administration Server を始動しなければ、DB2 クローラーを使用してそれらのデータベースをクロールすることはできません。また、クローラーの構成時にそのリモート・データベースのホスト名とポートを指定する必要があります。

- クロールするデータベースを選択します。
- アクセス制御をしているデータベースにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID と パスワードを指定します。

- データベースをクロールするスケジュールを設定します。
- 各データベースでクロールする表を選択します。
重要: ディスカバリー・プロセスのパフォーマンスを最適化するため (そしてクローラー構成プロセスがタイムアウトになるのを防止するため)、すべての表をクロールする選択は、データベース中の表の数が少ない場合か、各表に含まれる列の数が少ない場合のみ行うようにしてください。一部の表についてすぐにクロールする選択をした場合、後からクロール・スペースを編集して、さらに多くの表をコレクションに追加できます。
- 特定の表の列を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定の列をパラメトリック照会で使用できるようにしたり、検索結果に戻すことのできる列を指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティ・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティ・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのデータベースおよび表の追加。
- クローラーが特定のデータベースに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- 特定のデータベースのクロール・スケジュールの変更。
- 特定の表の列のクロールに関するオプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティ・オプションの変更。
- クロール・スペースからのデータベースおよび表の除去。

Exchange Server クローラー

Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーを エンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Exchange Server クローラーを構成する必要があります。

Exchange Server クローラーを使用すれば、Exchange Server のパブリック・フォルダー・サーバー上の任意の数のフォルダーおよびサブフォルダーをクロールすることができます。クローラーの作成時に、パブリック・フォルダー・サーバーでクロールする対象コンテンツを選択します。クロール対象については、後からクロール・スペースを編集して、別のパブリック・フォルダー・サーバーのコンテンツを追加することができます。

Exchange Server クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全サーバーの全サブフォルダーに対するクロールを制御します。
- クロールする Exchange Server パブリック・フォルダー・サーバーに関する情報を指定します。

クローラーがサーバーのコンテンツにアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。サーバーが Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用している場合、クローラーがクローラー・サーバーの鍵ストア・ファイルにアクセスできるようにするためのオプションを指定することができます。

- パブリック・フォルダー・サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするフォルダーおよびサブフォルダーを選択します。
- サブフォルダー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外することができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの別のパブリック・フォルダー・サーバーの追加。
- クロール・スペースへのサブフォルダーの追加。
- クローラーが特定のサーバーに対するアクセスに使用するパスワード（および鍵ストア・ファイル情報）の変更。
- サーバーのクロール・スケジュールの変更。
- 特定のサブフォルダーにある文書のクロールおよび検索のオプション変更。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションの変更。
- クロール・スペースからのサーバーおよびサブフォルダーの除去。

NNTP クローラー

NNTP ニュースグループの記事をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、NNTP クローラーを構成する必要があります。

NNTP クローラーを使用すれば、任意の数の NNTP サーバーをクロールすることができます。クローラーの構成時に、各サーバーごとにクロールするニュースグループを選択します。また、対象から除外するニュースグループのパターンを指定することもできます。この設計により、特定サーバーの大多数のニュースグループをクローラーのクロール対象として容易に許可することができ、また、ユーザーに検索してほしくない少数のニュースグループをクロール禁止にすることができます。

例えば、特定の NNTP サーバーのすべてのニュースグループを含むが、そのサーバーのニュースグループのうち、「private」というストリングを名前を含むニュースグループは除外する規則を指定できます。

NNTP クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全ニュースグループに対するクロールを制御します。
- クロール対象のニュースグループを指定し、さらにクロール・スペースから除外する一定のニュースグループのパターンを指定します。
- 文書レベルのセキュリティ・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティ・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのニュースグループの追加。
- 文書レベルのセキュリティ・オプションの変更。
- クロール・スペースからのニュースグループの除去。

Notes クローラー

IBM Lotus Notes データベースをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Notes クローラーを構成する必要があります。

クローラー・サーバーのセットアップ

クロールする予定の Lotus Notes サーバーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用している場合、クローラー・サーバーに対して特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供され、これによって Notes クローラーが NRPC を使用するサーバーと通信できるようになります。

クロールする予定の Lotus Notes サーバーが Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIO)P) を使用している場合、クローラー・サーバーに対してセットアップ・スクリプトを実行する必要はありません。ただし、Notes クローラーがその Lotus Notes サーバーにアクセスできるようにサーバーを構成する必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Notes クローラーを構成する前に、ご使用の環境に合わせて次のタスクを実行してください。

- 55 ページの『UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成』。
- 57 ページの『Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成』。
- 59 ページの『Notes クローラーに対する DIIO)P) プロトコルの構成』。

要件: NRPC を使用する Notes クローラーをコレクションに対して構成した後は、クローラーをいったん停止しないと、NRPC を使用する Notes クローラーの追加構成は実行できません。NRPC を使用するディスカバリー・プロセス(これによって、クロール可能なソースに関する情報が取得される)と NRPC を使用するクローラー・プロセスを並行して実行することはできません。

Notes クローラーの構成

Notes クローラーを使用すれば、任意の数の標準 Lotus Notes データベース (.nsf ファイル) をクロールすることができます。クローラーを作成するときに、単一の Lotus Notes サーバーからクロールするデータベースまたはディレクトリーを選択します。後でクロール・スペースを編集して、同じクロール・スペースに別の Lotus Notes サーバーから文書を追加できます。クローラーを作成または編集するときに、サーバー上のすべてのデータベースまたはディレクトリーをクロールするか、あるいは、特定のデータベース、ビューまたはフォルダーをクロールするかを指定できます。

Notes クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定します。クローラーのプロパティーで、クローラーがクロール・スペース内のすべての文書をクロールする方法を制御します。
- Lotus Notes サーバーのホスト名、ポート、および通信プロトコルを指定します。
- クロールするデータベースまたはディレクトリーを選択します。
- データベースまたはディレクトリーをクロールするスケジュールを設定します。

- クロールする文書を選択します。ディレクトリー内のすべての文書、データベース内のすべての文書、またはデータベース内の選択したビューおよび選択したフォルダー内の文書をクロールすることができます。
- さまざまなデータベース、ビュー、およびフォルダーのフィールドを検索可能にするオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、添付ファイル検索のオプションを指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証するオプションを選択することもできます。この場合、ユーザーの信用証明情報は索引付きセキュリティー・データと比較されるのではなく、元のデータ・ソースで維持されている現在のアクセス制御リストと比較されます。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティーまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティーの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの Lotus Notes ディレクトリー、データベース、ビュー、およびフォルダーの追加。同じ Lotus Notes サーバーから文書を追加したり、あるいは、新しい Lotus Notes サーバーに関する情報でクロール・スペースに組み込みたい情報を指定することができます。
- クローラーが Lotus Notes サーバーに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- データベースまたはディレクトリーのクロール・スケジュールの変更。
- 個々のディレクトリー、データベース、ビュー、あるいはフォルダーにある文書のクロールに関するオプションの変更。
- 個々のディレクトリー、データベース、ビュー、あるいはフォルダーにある文書の検索に関するセキュリティー・オプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティーのデフォルト・オプション、およびフィールドのクロールおよび検索に関するデフォルト・オプションの編集。Notes クローラーは、個別のオプションを構成していないすべてのディレクトリー、データベース、ビュー、およびフォルダーについては、これらのオプションを使用します。
- ディレクトリー、データベース、ビュー、またはフォルダーでクロール・スペース全体に定義されたデフォルト・オプションを使用している場合、そのリソース内の文書にオプションを構成するという指定。ディレクトリー、データベース、ビュー、またはフォルダーに明示的に構成したオプションの使用を中止する場合には、クロール・スペースのデフォルト・オプションの使用を開始するという指定。

- クロール・スペースからの Lotus Notes ディレクトリー、データベース、ビュー、およびフォルダーの除去。

UNIX での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成

AIXコンピュータまたは Linuxコンピュータに DB2 II OmniFind Editionをインストールし、Notes Remote Procedure Call (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーをクロールする予定の場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、Notesクローラーが Lotus Notes サーバーと通信できるようにします。

制約事項

Lotus Domino[®] Serverは、NRPC を使用するよう構成された Notesクローラーと同じコンピュータ上で同時に実行することはできません。Domino が稼働中に Notes クローラーを開始しようとする、エラーが発生し、クローラーは停止します。

このタスクについて

NRPC 用の Notes クローラーは、Lotus Notes クライアント として Domino ライブラリーを使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus Domino Server バージョン 6.0.2 以降をインストールすることによってインストールされます。Notes クローラー が Domino ライブラリーと連動できるようにするため、Domino ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind Edition によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

手順

クローラー・サーバー が Lotus Notes サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバー上にユーザー notes とグループ notes を 作成します。
 - a. root ユーザーとしてログインします。

```
su - root
```

- b. ユーザーを追加します。

```
useradd notes
```

- c. このユーザーのパスワードを追加します。

```
passwd notes
```

パスワードを変更するようプロンプトが出されます。

2. クローラー・サーバーに Domino Server をインストールします。
 - a. Domino Server CD バージョン 6.0.2 以降を挿入し、マウントします。(CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
 - b. ご使用のオペレーティング・システムに応じたフォルダーに移動します。

AIX コンピューターでは、次のように入力します: `cd /mnt/cdrom/aix`

Linux コンピューターでは、次のように入力します: `cd /mnt/cdrom/linux`

- c. インストール・プログラムを開始します。

```
./install
```

- d. プロンプトに回答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパスなど) を 指定します。

Domino Server のインストールで不明な点があれば、Domino 資料を参照してください。

3. クローラー・サーバー上で、Notes クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。

- a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
b. 以下のスクリプトを開始します。これは、\$ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーにインストールされています。

```
escrnote.sh
```

- c. プロンプトに回答します。

- 次のプロンプトに対して、Domino Server がデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、 そうでない場合は N と回答します。

```
Lotus Notes ディレクトリー・パス /opt/lotus/notes/latest/linux  
が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?
```

AIX コンピューターでのデフォルトのパスは、/opt/lotus/notes/latest/ibmpow です。 Linux コンピューターでのデフォルトのパスは、/opt/lotus/notes/latest/linux です。

- Domino Server がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリーにインストールされていない場合、次のプロンプトに対して Domino がインストールされている場所を指定します。

```
Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください
```

例えば、Linux コンピューターの場合、次のように指定します
/opt/lotus/notes/latest/linux

- 次のプロンプトに対して、Domino Server データ・ディレクトリーがデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、 そうでない場合は N と回答します。

```
Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス /local/notesdata  
が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?
```

Linux および AIX コンピューターでのデフォルトのパスは、/local/notesdata です。

- Domino Server データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー上のデフォルトの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、Domino データ・パスを指定します。

```
Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。
```

4. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

Windows での Lotus Notes 用クローラー・サーバーの構成

Microsoft Windows コンピューターに DB2 II OmniFind Edition をインストールし、Notes Remote Procedure Call (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーをクローラーする予定の場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、Notes クローラーが Lotus Notes サーバーと通信できるようにします。

制約事項

Lotus Domino Server および Lotus Notes クライアントは、NRPC を使用するよう構成された Notes クローラーとは、同じコンピューター上で同時に稼働できません。Domino が稼働中に Notes NRPC クローラーを開始しようとする、エラーが発生し、クローラーは停止します。

このタスクについて

NRPC 用の Notes クローラー は、Lotus Notes クライアント・ライブラリーを使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus Notes リリース 6.0.2 以降をインストールすることによってインストールされます。Notes クローラー が Lotus Notes クライアント・ライブラリーと連動できるようにするため、Lotus Notes クライアント・ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind Edition によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

手順

クローラー・サーバー が Lotus Notes サーバーをクローラーできるように構成するには、次のようにします。

1. クローラー・サーバー上で、管理者グループのメンバーであるユーザー ID でログインします。このユーザー ID に Lotus Notes をインストールする権限があることを確認してください。
2. Lotus Notes をインストールします。
 - a. Lotus Notes CD リリース 6.0.2 以降を挿入します。(CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
 - b. インストール・プログラム `setup.exe` を開始します。
 - c. プロンプトに応答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパスなど) を 指定します。

Lotus Notes のインストールで不明な点があれば、Lotus Notes 資料を参照してください。

3. クローラー・サーバー上で、Notes クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。

- a. エンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
- b. 以下のスクリプトを開始します。これは、%ES_INSTALL_ROOT%\bin ディレクトリーにインストールされています。

```
escrnote.vbs
```

- c. プロンプトに応答します。
 - 次のプロンプトに対して、Lotus Notes がデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、 そうでない場合は N と応答します。

```
Lotus Notes ディレクトリー・パス c:%lotus%notes が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?
```

```
Windows コンピューターでの標準的なインストール・パスは、  
c:%lotus%notes または c:%lotus%domino です。
```

- Lotus Notes がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリーにインストールされていない場合、次のプロンプトに対して Lotus Notes がインストールされている場所を指定します。

```
Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください
```

- 次のプロンプトに対して、Lotus Notes データ・ディレクトリーがデフォルトの場所にデプロイされている場合は Y、 そうでない場合は N と応答します。

```
Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス c:%lotus%notes%data  
が見つかりました。  
これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?
```

```
Windows コンピューターでの標準的なパスは、c:%lotus%notes%data また  
は c:%lotus%domino%data です。
```

- Lotus Notes データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー上のデフォルトの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、データ・ディレクトリー・パスを指定します。

```
Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。
```

4. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

- a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを停止します。

```
esadmin stop
```

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択して、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Editionサービスを再始動します。

- c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを始動します。

```
esadmin start
```

Notes クローラーに対する DIIOP プロトコルの構成

Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用する Lotus Notes サーバーをクローリングするには、Notesクローラーがこのプロトコルを使用できるように Lotus Notes サーバーを構成する必要があります。

始める前に

クローリングしたい Lotus Notes サーバーは、DIIOP タスクおよび HTTP タスクを実行中でなければなりません。

手順

DIIOP プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーのサーバー設定を構成するには、次のようにします。

1. サーバー文書を構成します。
 - a. クローリングしたい Lotus Notes サーバー上で server 文書を開きます。この文書は、Domino ディレクトリーに格納されています。
 - b. 「構成」ページで、「サーバー」セクションを拡張します。
 - c. 「セキュリティ」ページの「プログラマビリティ制約事項」領域の以下のフィールドに、ご使用の環境に適したセキュリティ制約事項を指定します。

- 制限された Lotus Script/Java エージェントの実行
- 制限された Java/Javascript/COM の実行
- 制限されない Java/Javascript/COM の実行

例えば、アスタリスク (*) を指定して Lotus Script/Java エージェントによる無制限のアクセスを許可し、Java/Javascript/COM 制約事項に対しては Domino ディレクトリーに登録済みのユーザー名を指定します。

重要: DIIOP プロトコルを使用する Lotus Notes サーバーをクローリングするために構成する Notesクローラーは、これらのフィールドに指定するユーザー名を使用できなければなりません。

- d. 「インターネット・プロトコル」ページを開き、次に「HTTP」ページを開き、「HTTP クライアントにデータベースの参照を許可する」オプションを「はい」に設定します。
2. ユーザー文書を構成します。

- a. クローリングしたい Lotus Notes サーバー上の user 文書を開きます。この文書は、Domino ディレクトリーに格納されています。
- b. 「基本」ページの「インターネット・パスワード」フィールドに、パスワードを指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してこの Lotus Notes をクローリングするためのオプションを構成する場合、このユーザー ID とパスワードを、「クローリングする Notes サーバーの指定」ページで指定します。クローラーは、この情報を使用して Lotus Notes サーバーにアクセスします。

3. Lotus Notes サーバーで DIIOP タスクを再始動します。

UNIX ファイル・システム・クローラー

UNIX ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、UNIX ファイル・システム・クローラーを構成する必要があります。

UNIX ファイル・システム・クローラーを使用すれば、任意の数の UNIX ファイル・システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロールするローカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択します。

Windows コンピューターにクローラー・サーバーをインストールした場合、そのサーバーを使用して UNIX ファイル・システム・ソースをクロールすることはできません (UNIX ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプのリストに表示されません)。

UNIX ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。
- クローラーがクロールするサブディレクトリー、サブディレクトリーのレベルを選択します。
- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外することができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティーまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティーの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのサブディレクトリーの追加。
- ファイル・システムのクロール・スケジュールの変更。
- 特定のサブディレクトリーにある文書のクロールのオプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションの変更。
- クロール・スペースからのサブディレクトリーの除去。

VeniceBridge クローラー

Venetica VeniceBridge リポジトリをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、VeniceBridge クローラーを構成する必要があります。(VeniceBridge は、IBM WebSphere Information Integrator Content Edition に名前が変更されました。)

クローラー・サーバーのセットアップ

VeniceBridge ソースをクローラーするには、あらかじめクローラー・サーバーで特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、DB2 Information Integrator OmniFind Edition で提供されますが、これによって VeniceBridge クローラーがターゲット・サーバーと通信できるようになります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して VeniceBridge クローラーを構成する前に、ご使用の環境に合わせて次のタスクを実行してください。

- 62 ページの『UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成』。
- 63 ページの『Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成』。

VeniceBridge クローラーの構成

VeniceBridge クローラーを使用すれば、Documentum、FileNet Panagon Content Services および Hummingbird リポジトリをクローラーすることができます。クローラー対象の各サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。

クローラーを構成する場合、クローラーがクローラー・スペースのすべてのリポジトリをクローラーするときのオプションを指定します。また、各リポジトリでクローラーする特定の項目クラスも選択します。

VeniceBridge クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、サーバーのすべての項目クラスに対するクローラーを制御します。
- クローラーするサーバーを選択します。
- このサーバーでクローラーする Documentum、FileNet、および Hummingbird リポジトリを選択します。
- 選択されたりポジトリのコンテンツにクローラーがアクセスできるようにするためのユーザー ID と パスワードを指定します。
- リポジトリをクローラーするスケジュールを設定します。
- 各リポジトリでクローラーする項目クラスを選択します。
- 項目クラスのプロパティを検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクローラー・スペースから除外したり、特定リポジトリの特定バージョンをクローラーすると指定したりすることができます。

- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティーまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティーの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへの項目クラスの追加。
- クローラーが特定のリポジトリに対するアクセスに使用するパスワードの変更。
- リポジトリのクロール・スケジュールの変更。
- 特定の項目クラスの文書のクロールに関するオプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションの変更。
- クロール・スペースからの項目クラスの除去。

UNIX での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind Editionを AIX コンピューターまたは Linux コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、VeniceBridge クローラーが VeniceBridge サーバーと通信できるようにします。

このタスクについて

VeniceBridge クローラーは、VeniceBridge の Java ライブラリーを VeniceBridge Java クライアントとして使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 以降をインストールすることによってインストールされます。VeniceBridge クローラー が Java ライブラリーと連動できるようにするため、Domino ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind Edition によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

手順

クローラー・サーバーを構成して、VeniceBridge サーバーをクロールできるようにするには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 をインストールします。
 - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
 - b. VeniceBridge CD を挿入し、vbr_unix.tar ファイルを `untar` して、一時インストール場所に保管します。

- c. GenericUnix ディレクトリーに移動します。
- d. VeniceBridge インストーラーを開始します。

```
./install.bin
```

- e. 「製品フィーチャーの選択」ウィンドウで、インストール・オプションに「ブリッジのみ」を選択します。
 - f. 「インストールするブリッジの選択」ウィンドウで、「サンプル・ファイル・システム・ブリッジ」を選択します。
2. クローラー・サーバー上で、VeniceBridge クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
- a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
 - b. 以下のスクリプト (これは、`$ES_INSTALL_ROOT/bin` ディレクトリーにインストールされています) を開始し、プロンプトに応えます。

```
escrvbr.sh
```

3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

```
esadmin stop
stopccl.sh
startccl.sh -bg
esadmin start
```

4. クロール対象の VeniceBridge サーバーが WebSphere Application Server を使用する場合、`vbr_access_services.jar` ファイル を VeniceBridge サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。

コピー元:

`vbr_access_services.jar` ファイルは、次のデフォルト場所に あります。

```
was_install_root/installedApps/server_name/application_name
```

ここで、`was_install_root` は WebSphere Application Server インストール・ディレクトリー、`server_name` はサーバーに対して指定した名前、`application_name` は WebSphere Application Server 内の VeniceBridge アプリケーションに指定した名前です。

コピー先:

クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは、`vbr_install_root/lib` です。ここで、`vbr_install_root` はクローラー・サーバー上の VeniceBridge インストール・ディレクトリーです。

Windows での VeniceBridge 用クローラー・サーバーの構成

DB2 II OmniFind Edition を Microsoft Windows コンピューターにインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、VeniceBridge クローラーが VeniceBridge サーバーと通信できるようにします。

このタスクについて

VeniceBridge クローラーは、VeniceBridge の Java ライブラリーを VeniceBridge Java クライアントとして使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 以降をインストールすることによってインストールされます。VeniceBridge クローラー が Java ライブラリーと連動できるようにするため、Domino ライブラリーをインストールした後、DB2 II OmniFind Edition によってクローラー・サーバー上に提供されているセットアップ・スクリプトを実行します。

手順

クローラー・サーバーを構成して、VeniceBridge サーバーをクローラーできるようにするには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーに Venetica VeniceBridge 5.0.5 をインストールします。
 - a. VeniceBridge CD を挿入します。
 - b. Windows ディレクトリーに移動します。
 - c. VeniceBridge インストーラーを開始します。

`install.exe`

- d. 「製品フィーチャーの選択」ウィンドウで、インストール・オプションに「**ブリッジのみ**」を選択します。
 - e. 「インストールするブリッジの選択」ウィンドウで、「**サンプル・ファイル・システム・ブリッジ**」を選択します。
2. クローラー・サーバー上で、VeniceBridge クローラーのセットアップ・スクリプトを実行します。
 - a. エンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします (このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
 - b. 以下のスクリプト (これは、%ES_INSTALL_ROOT%\bin ディレクトリーにインストールされています) を開始し、プロンプトに応えます。

`escrvbr.vbs`

3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。
 - a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを停止します。
 - b. 「**スタート**」 → 「**プログラム**」 → 「**管理ツール**」 → 「**サービス**」を選択して、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。
 - c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを始動します。

`esadmin start`

4. クローラー対象の VeniceBridge サーバーが WebSphere Application Server を使用する場合、`vbr_access_services.jar` ファイル を VeniceBridge サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。

コピー元:

vbr_access_services.jar ファイルは、次のデフォルト場所に あります。

`was_install_root¥installedApps¥server_name¥application_name`

ここで、`was_install_root` は WebSphere Application Server インストール・ディレクトリー、`server_name` はサーバーに対して指定した名前、`application_name` は WebSphere Application Server 内の VeniceBridge アプリケーションに指定した名前です。

コピー先:

クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは、`vbr_install_root¥lib` です。ここで、`vbr_install_root` はクローラー・サーバー上の VeniceBridge インストール・ディレクトリーです。

Web クローラー

Web サイトのデータをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Web クローラーを構成します。

Web クローラーを使用すれば、任意の数の HTTP サーバーおよびセキュア HTTP (HTTPS) サーバーをクロールすることができます。クローラーが Web サイトにアクセスし、サイト上のデータおよび情報を読み取ります。その後、文書内のリンクをたどって他の文書をクロールします。Web クローラーは、個々のページあるいはフレームセット (HTML フレームを使用して作成されたページ) のリンクをクロールして、抜き出すことができます。

クロールされたデータは、フォーマットもソースも様々です。一般的に使用されるフォーマットは数多くありますし、イントラネットまたはインターネットの様々なところから取得されます。一般的なフォーマットには、HTML、PDF、Microsoft Word、Lotus® WordPro、Extensible Markup Language (XML) などがあります。

Web クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。また、この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティを指定します。クローラーのプロパティは、クローラーによるクロール・スペース内の全 Web ページに対するクロールを制御します。
- 特定の Web サイトまたは一定タイプの文書へのアクセスを許可または禁止するためのパターンおよび規則を指定します。
- Web クローラーがソフト・エラーのページを処理するための規則を指定します。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

- パスワード保護された Web サイトをクローリングする場合のオプションを指定します (クローリング対象の Web サーバーは HTTP 基本認証、またはパスワード入力のプロンプトを出す HTML フォームを使用する必要があります)。
- プロキシ・サーバーによってサービスされている Web サイトをクローリングするためのオプションを指定します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クローリングに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクローリング・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クローリング・スペースの変更。例えば、以下のことができます。
 - 新規または異なる Web サイトにアクセスする場合の規則の追加。
 - 一定タイプの文書のクローリング規則の変更、またはクローリングする深さの変更。
 - クローリング・スペースからの Web サイトまたは一定タイプの文書の除去。
 - ソフト・エラーのページを処理するための規則の変更。
 - 文書レベルのセキュリティ・オプションの変更。
 - クローラーがパスワード保護された Web サイトまたはプロキシ・サーバーによってサービスされている Web サイトをクローリングできるようにするセキュリティの信用証明情報の変更。

ユーザー・エージェントの構成

Web クローラーは、Robots Exclusion プロトコルに従います。このプロトコルを使用する Web サイトをクローリングするには、その Web サイト上の robots.txt ファイルで、Web クローラー用に設定したユーザー・エージェント名が Web サイトへのアクセスを許可されるようにしてください。

エンタープライズ・サーチ・システムが開始されると、Web クローラーは、構成されたユーザー・エージェント名をロードします。クローラーが、まだ訪れたことのない (あるいは、しばらく訪れていない) Web サイトからページをダウンロードする前に、クローラーは、まず robots.txt というファイルをダウンロードしようとします。このファイルは、Web サイトのルート・ディレクトリーにあります。

robots.txt ファイルがない場合、その Web サイトは、制限なくクローリングできるように公開されます。このファイルがある場合、それは、サイト (ディレクトリー) のどの領域がクローラーの立ち入り禁止になっているかを明示します。robots.txt ファイルは、ユーザー・エージェント名を特定してクローラーに許可を出します。

Robots Exclusion プロトコルは、任意のものですが、エンタープライズ・サーチ Web クローラーはこれに従います。

- robots.txt ファイルに、Web クローラー用に設定されたユーザー・エージェント名の項目が含まれている場合、Web クローラーはそのユーザー・エージェント上の制約に従います。

- ユーザー・エージェント名が robots.txt ファイルになく、最後の項目が `User-agent: *` (任意のユーザー・エージェントを意味する) と指定されていて、その制約が `Disallow: /` (この Web サイトのルートを起点とするいかなるクローラーも許可しないことを意味する) になっている場合、Web クローラーはそのサイトのクローリングができません。
- ユーザー・エージェント名が robots.txt ファイルになく、最後の項目が `User-agent: *` と指定されていて、その制約が `Allow: /` になっている場合は、Web クローラーはそのサイトをクローリングすることができます。

Web サイト管理者は、明示的にアクセスを認可されていないすべてのクローラーに対してアクセスを禁止する最後の項目を指定することがよくあります。新規に Web クローラーを構成するとき、クローリング対象の Web サイトの一部で Robots Exclusion プロトコルを使用していることがわかっている場合は、Web サイト管理者に依頼して、クローラーの項目をその robots.txt ファイルに追加してもらってください。

Web クローラーのプロパティと対象とする Web サイトに含まれるすべての robots.txt ファイルに同じユーザー・エージェント名が指定されていることを確認してください。

クローリング予定の Web サイトのいずれも Robots Exclusion プロトコルを使用していない場合は、ユーザー・エージェント・プロパティに指定する値は通常、何でもかまいません。ただし、一部のアプリケーション・サーバー、JSP、およびサーブレットでは、ユーザー・エージェント名に対応するように調整しています。例えば、ブラウザの非互換性に対処するために異なる応答が用意されています。このような場合は、Robots Exclusion プロトコルの使用に関係なく Web クローラーに指定したユーザー・エージェント名が重要になります。このタイプのサイトをクローリングする必要がある場合は、Web サイト管理者に相談して Web クローラーのアクセスが許可されるようにしてください。

JavaScript のサポート

エンタープライズ・サーチの Web クローラーが、Web 文書の JavaScript™ 部分に含まれているリンク (URL) を検出する場合があります。

Web クローラーは、相対リンクと絶対リンクの両方を検出できます。HTML 文書に BASE エlementが含まれている場合、クローラーはそのElementを使用して相対リンクを解決します。そうでない場合は、クローラーは、文書固有の URL を使用します。

JavaScript のサポートはリンク抽出に限定されています。クローラーは JavaScript の解析、DOM (Document Object Model) の構築、および、JavaScript ステートメントの解釈や実行は行いません。クローラーは JavaScript ステートメントの URL である可能性の高いストリングを 文書コンテンツ (JavaScript 部分を含むがそれに限定しない) で検索します。これは 2 つのことを意味しています。

- 一部の URL は検出されても、厳しい HTML パーサーでは無視されます。クローラーは、構文的に有効でない URL はすべて拒否しますが、スキャンのステップで戻される有効な URL の中には、検索にあまり重要でないものがあります。

- ・ 人がブラウザでページを表示させて、そのブラウザが JavaScript を実行するときなどに JavaScript によって生成される文書コンテンツは、Web クローラーでは見ることができず、したがって、索引付けもされません。

Web クロール・スペースを制限する規則

ユーザーが Web サイトにアクセスするときに、検索を許可するサイトに限ってアクセスするように するため、Web クローラーがクロールできる対象を制限する規則を指定します。

Web クローラーが Web ページをクロールするときに他のページへのリンクをディスカバーすると、それらのリンクを次にクロールされるようにキューに入れます。このクロールとディスカバーは、時間とメモリー・リソースが許す限り繰り返して行われます。Web クローラーを構成する場合、クローラーがクロールを開始する場所を指定します。Web クローラーは、この初期 URL (シード URL と言います) から 始めて、シード URL から直接または間接的にリンクで接続されているあらゆる文書に到達することができます。

クロール・スペースを制限するには、Web クローラーを構成するときに特定の URL は完全にクロールし、関心がある領域外を示すリンクは無視するように設定します。デフォルトではクローラーは、ディスカバーしたすべての URL を受け付けるようになっているため、コレクションに入れる URL を指定し、それ以外のページは除外する規則を指定する必要があります。

Web クローラーにクロール対象とクロールから除外する対象を指定するには、いくつかの方法があります。次のような指定を行うことができます。

- ・ 3 種類のクロール規則 (ドメイン、IP アドレス、URL 接頭部)
- ・ 除外対象の文書を指定するファイル拡張子のリスト
- ・ クロール対象の文書を指定する MIME タイプのリスト
- ・ 1 つの URL パスに許容される最大ディレクトリー数
- ・ クローラーがクロールを開始するシード URL のリスト

クロール規則は、次の書式で指定します。

action type target

action は forbid または allow、type はドメイン (domain)、IP アドレス (IP address)、または URL 接頭部 (HTTP または HTTPS) で、target は type の値によって異なります。パターンに一致するターゲットの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を指定できますが、その使用は限定的になります。

ドメイン規則

ドメイン規則のターゲットは DNS ドメイン・ネームです。例えば、www.ibm.com ドメイン全体をクロール対象にする場合、次のように指定します。

allow domain www.ibm.com

ターゲットの最初の文字は、アスタリスクでもかまいません。その場合、ホスト名の末尾が後半部分のパターンに一致するあらゆるホスト名がこの規則に該当することになります。例えば、次のパターンに一致するすべてのドメインをクロール対象から除外する場合、次のように指定します。

```
forbid domain *.ibm.com
```

ホスト名の突き合わせでは、具体的なドメイン・ネームを明示して 指定した場合でも、ドメイン・ネームのパターンを指定した場合でも大/小文字は区別されます。例えば、「*.user.ibm.com」と指定すると、「joe.user.ibm.com」および「mary.smith.user.ibm.com」は一致となりますが、「joe.user.IBM.com」は一致となりません。

ポート番号を指定しないドメイン規則は、そのドメイン上のすべてのポートに適用されます。以下の例では、foo ドメインのすべてのポートが許可されています。

```
allow domain foo.ibm.com
```

ドメイン規則でポート番号を指定する場合、その規則はそのポートのみに適用されます。以下の例では、bar ドメインのポート 443 のみ許可されています。

```
allow domain bar.ibm.com:443
```

アドレス規則

アドレス規則は、ターゲットとして IP アドレス (IPv4 のみ) とネットマスクを指定することにより、ホストまたはネットワーク全体のクロールを制御します。例えば、次のように指定します。

```
allow address 9.0.0.0 255.0.0.0
```

ネットマスクを使用するとパターン・マッチングを指定できます。アドレス規則を候補となる IP アドレスに適用するには、規則の IP アドレスと候補 IP アドレスが、ネットマスクでゼロで隠されている部分を除き、同一でなければなりません。アドレス規則はパターンを定義し、ネットマスクはアドレス・パターン中の有意のビット部分を定義します。ネットマスク中のゼロは、ワイルドカードのような働きをし、アドレス内でゼロと同じビット位置にある値はすべて一致すると見なされます。

上記の例の allow 規則は、最初のオクテットが 9 で末尾の 3 つのオクテットが任意の値のすべての IP アドレスに適合します。

規則リストの最後に入れるアドレス規則として、「forbid address 0.0.0.0 0.0.0.0」を入れておくと便利です。この規則は、ネットマスクの全ビットを有意でないビットとしているため、あらゆる IP アドレスが一致となります (この規則では、規則リストでこの前のすべての規則で許可されていないすべてのアドレスを禁止することになります)。

接頭部規則

接頭部規則は、指定されたストリングで始まる URL のクロールを制御します。ターゲットは、単独の URL で、通常、1 つ以上アスタリスクを入れてパターンを指定します。例えば、よくある方法として、接頭部ストリングの末尾文字にアスタリスクを指定します。

接頭部規則を使用すれば、Web サイトのすべて、または一部をクロールすることができます。ディレクトリー・パスかパターンを指定し、ディレクトリー・ツリーのそれ以降のすべてを対象として、クロールを許可または禁止します。例えば、次の

2 つの規則では、foo.ibm.com の「public」ディレクトリーのすべてのコンテンツをクローラーのクローリング対象とし、そのサイトの他のすべてのページについてはアクセスを禁止します。

```
allow prefix http://foo.ibm.com/public/*
forbid prefix http://foo.ibm.com/*
```

接頭部規則を指定する場合、アスタリスクは複数指定が可能で、末尾に限らず接頭部ストリングの任意の位置に指定できます。例えば、次の規則では、foo.ibm.com サイトでディレクトリー名の末尾が「fs」の最上位ディレクトリーの文書のクローリングを禁止しています。(検索索引で有用な情報がないファイル・システム・マウントなどの場合が考えられます。)

```
forbid http://foo.ibm.com/*fs/*
```

クローリング規則の順序

クローラーは、URL のディスカバリーおよびクローリング処理中、クローリング規則を何度も適用します。規則の順序は重要ですが、それは同タイプの規則に限られます。あるアドレス規則が別のアドレス規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味が異なりますが、あるアドレス規則が別の接頭部規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味の違いはありません。クローラーがこの 2 つの規則を同時に適用することはないからです。

同タイプの規則セット内については、クローラーは候補ドメイン、アドレス、または URL を最初に指定した規則から順次最後の規則まで適合する規則が見つかるまで 1 つずつテストします。適合する最初の規則に指定された処置が使用されます。

重要: 適合する規則がない場合は、デフォルトの処置として、候補のドメイン、アドレス、または URL に対してクローリングが許可されます。

順序の依存性から、多くのクローリング規則について、次のように典型的な規則構成が導かれます。

- ドメイン規則のセットは、通常、クローリング・スペースから単独のドメインを除外する forbid 規則を先に置きます。例えば、コレクション管理者は、有用な情報がないドメインをここで除外指定します。
- forbid 規則のリストの後には、通常、ワイルドカード文字を入れた一連の allow 規則を設定し、これによって、エンタープライズ・イントラネットを定義する上位レベルのドメイン・ネームが末尾に来る任意のドメイン (*.ibm.com、*.lotus.com など) をクローラーがアクセスできるようにします。

ドメイン規則のセットの最後には、次のデフォルト・ルールを入れ、それより前の規則で許可されなかったドメインをすべてクローリング対象から除外します。

```
forbid domain *
```

この規則は、クローリング・スペースにインターネット全体が入るのを防ぐ機能があるため、重要です。

- アドレス規則のセットは、通常、少数の allow 規則が先頭に置かれ、これによってクローラーがエンタープライズ・イントラネットにわたる上位レベル (クラス A、クラス B、またはクラス C) のネットワークをクローリングできるようにします。

アドレス規則の最後は、通常、次の規則が置かれ、これによってクローラーが企業ネットワーク外の Web サイトをクロールしないようにします。

```
forbid 0.0.0.0 0.0.0.0
```

- 通常、接頭部規則のセットは、ツリーまたはサブツリーで許可および禁止指定される領域が詳細にその都度指定されるため、この規則セットが一番大きなセットになります。よい方法としては、まず、特定ローカルに限定された領域を許可または禁止し、それから逆に一般的なパターンでその他すべての領域を許可または禁止します。

接頭部セクションの最後は、通常の規則とは異なります。ドメイン規則およびアドレス規則について推奨される最終規則を使用すれば、URL をテストするよりも効率的に、クローラーがエンタープライズ・ネットワークを超えてクロールしないようにすることができます。

接頭部規則の場合、処置 (forbid または allow) 別に規則をまとめるほうが、クローラーはより効率的に処理を行うことができます。例えば、allow および forbid 規則を交互に短い指定で並べるよりも、片方の処置を規定する規則を長く並べ、それから他方の処置を規定する規則を同様に長く並べるようにします。allow 規則と forbid 規則を混在させるようにしても目的のクロール・スペースを作成することはできますが、allow 規則と forbid 規則をそれぞれひとまとめにしたほうが、クローラーのパフォーマンスは良くなります。

ファイル拡張子、MIME タイプ、およびクロールの最大の深さ

これらのオプションを使用すれば、クロール・スペースの内容をさらに詳細に指定することができます。特定タイプの文書を文書のファイル拡張子に基づいて除外したり、文書の MIME タイプを基に特定タイプの文書を組み入れたりすることができます。クローラーにクロールさせる MIME タイプを指定する場合、Web 文書では MIME タイプが誤って設定されていることが多いので注意してください。

クロールの最大の深さは、サイト・ルートから数えた URL 内のスラッシュ数で表されます。このオプションを使用すると、クローラーが深さが無限の再帰的なファイル・システム構造にはまり込むのを防ぐことができます。クロールの深さは、クローラーがある文書から別の文書にリンクをトラバースする時のレベル数とは一致しません。

シード URL

シード URL は、クローラーがクロールを開始する URL のことを指し、クローラーが開始されるたびにこの URL がクロール対象となります。シード URL がすでにディスカバーされた場合は、その URL がクロール規則で許可された他の Web サイトよりも早くクロールないし再クロールされることはありません。

シード URL は Web クローラーが初めて始動され、クロール・スペースが空の場合に重要です。また、まだディスカバーされていなかったシード URL を既存のクロール・スペースに追加するときにも重要となります。

シード URL にはドメイン・ネームだけでなく完全修飾 URL を指定する必要があります。プロトコル、およびポートが 80 でない場合は、ポート番号も指定してください。

以下の URL は有効なシード URL の例です。

```
http://w3.ibm.com/  
http://foo.ibm.com:9080/
```

以下の URL は無効なシード URL です。

```
www.ibm.com
```

また、シード URL はクローリング規則にも入れる必要があります。例えば、クローリング規則でシード URL をクローリング対象として許可していなければ、クローラーは指定された そのシード URL でクローリングを開始することができなくなります。

Web クローラーにおける再クローリング間隔の設定

Web クローラーが URL に再アクセスする頻度を調整するには、Web クローラーのプロパティの オプションを指定します。

エンタープライズ・サーチ・システムの他のほとんどのクローラー・タイプの場合、管理者が指定したスケジュールに従ってクローリングが実行されます。これに対して、Web クローラーの場合、通常、開始されると連続して実行されます。前にクローリングした URL に再アクセスする頻度を調節するには、最大および最小再クローリング間隔を指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Web クローラーを作成する、または Web クローラーのプロパティを編集するとき、拡張プロパティを構成するオプションを選択できます。最大および最小再クローリング間隔は、この「Web クローラーの拡張プロパティ」ページで指定します。Web クローラーは、指定したこの値を使用して、データの再クローリング間隔を計算します。

あるページが最初にクローリングされると、クローラーはそのページがクローリングされた日時と指定された最大と最小再クローリング間隔の平均値を使用して、再クローリング日付を設定します。そのページはその日付までは再クローリングされません。その日付以後、そのページが再クローリングされる実際の日時は、クローラー負荷とクローリング・スペース内の新旧の URL の バランスによって異なります。

毎回、そのページが再クローリングされるごとに、クローラーはその内容に変更がないか確認します。内容に変更がある場合、次の再クローリング間隔は前回よりも短くなりますが、指定された最小再クローリング間隔よりも短くなることはありません。内容に変更がない場合、次の再クローリング間隔は前回よりも長くなりますが、指定された最大再クローリング間隔よりも長くなることはありません。

Web クローラーにおける URL アクセスのオプション

Web クローラーには、特定の URL をできる限り早くアクセスするように強制することができます。

特定の Web サイトの情報でクローリング・スペースをリフレッシュする必要がある場合、クローラーをモニターし、「**アクセスまたは再アクセスする URL**」オプションを選択して、クローリングまたは再クローリングする必要があるページの URL または URL パターンを指定します。

例えば、企業の情報通信部門がイントラネットにある Web ページを追加する、または重要な方針変更があったため、それを反映するようにページを改訂する場合、

その新規、または変更済みのページの URL を指定します。クローラーが実行中の場合、クローラーは指定された URL を次にクロールするようにキューに入れ、アクセスを待機しているページがないかその URL を確認します (通常 10 分ごと)。クローラーが実行されていない場合は、クローラーは指定された URL をキューに入れ、クローラーが次回開始されたときにクロールできるようにします。

クロール規則の中に、指定した URL のアクセスをクローラーに許可する規則が必ず含まれるようにしてください。クローラーは、指定した URL には通常より早くアクセスできますが、前提としてすべてのクロール対象の URL は、その URL のクロールを許可するクロール規則がなければなりません。

新規にクロールされたデータは、次回索引が再編成またはリフレッシュされた時点で検索可能になります。

Web クローラーがソフト・エラーのページを処理する方法

特定ページ要求の返答に標準的なエラー・コードを返したくない場合に、Web サイト管理者が作成したカスタム・ページを処理する Web クローラーを構成することができます。

HTTP サーバーが、クライアントが要求したページを返すことができない場合、サーバーは、通常、ヘッダーから成る応答に戻りコードを付けて返します。戻りコードで、何が問題であることを示します (例えば、ファイルが見つからなかったことを表すエラー 404 など)。Web サイト管理者によっては、問題をより詳細に説明する特別なページを作成し、代わりにそのページを戻すように HTTP サーバーを構成します。こうしたカスタム・ページは、ソフト・エラー・ページと呼ばれます。

ソフト・エラー・ページは、Web クローラーの結果をゆがめることがあります。例えば、クローラーは、問題を表すヘッダーを受け取る代わりに、ソフト・エラー・ページと戻りコード 200 (有効な HTML ページの正常なダウンロードを表す) を受け取ることがあります。しかし、ダウンロードされるこのソフト・エラー・ページは要求された URL には関連せず、その内容は、要求されたページの代わりに戻されるときは毎度、ほとんど同じです。関連のない、ほとんど重複しているこれらのページが、索引および検索結果をゆがめます。

この状況に対応するために、Web クローラーの構成時にソフト・エラー・ページの処理オプションを指定することができます。Web クローラーは、ソフト・エラー・ページを返す各 Web サイトについて 以下の情報を必要とします。

- ソフト・エラー・ページを使用するサイトの URL パターン。この URL パターンは、プロトコル (HTTP または HTTPS)、ホスト名、ポート番号 (標準でない場合)、およびパス名で構成されます。パターンには、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用することができ、非ワイルドカード文字が次に現れる位置までの 1 字以上の文字とマッチングさせることができます。指定するパターンは、大/小文字を区別します。
- HTML 文書の <TITLE> タグに対応するテキストのタイトル・パターン。このパターンの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。指定するパターンは、大/小文字を区別します。
- HTML 文書のコンテンツに対応するテキストのコンテンツ・パターン。<BODY> タグがある場合、コンテンツは、単に <BODY> タグの内容だけでは

ありません。コンテンツは、ファイルの HTTP ヘッダーの後にあるすべてです。このパターンの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。指定するパターンは、大/小文字を区別します。

- 指定した URL、タイトル、およびコンテンツ・パターンと一致する文書に使用する戻りコードを表す整数。

例

以下の構成は、Web クローラーに、`http://www.mysite.com/hr/*` Web サイトから戻される、すべての有効な HTML ページ (戻りコード 200) を、指定されたタイトルおよびコンテンツ・パターンと比較するように指示します。ページの `<TITLE>` タグが、「Sorry, the page」で始まっている、文書のコンテンツに任意の文字 (*) が含まれている場合には、クローラーはそのページを、戻りコード 404 を返す (ページが見つからなかった) 場合と同じ方法で扱います。

表1. ソフト・エラー・ページの例

URL パターン	タイトル・パターン	コンテンツ・パターン	HTTP 戻りコード
<code>http://www.mysite.com/hr/*</code>	Sorry, the page*	*	404

異なる戻りコードを扱うために、同一の Web サイトについて複数の項目を作成できます。同一の Web サイトからの戻りコードはそれぞれ、Web クローラーの構成で固有の項目を必要とします。

ワイルドカードの使用

URL、タイトル、および、コンテンツ・パターンは、正規表現ではありません。アスタリスク文字は、非ワイルドカード文字が次に現れる位置までの任意の文字と一致します。例:

*404 は、*any characters*404 と一致します。

404:* は、404: *any characters* と一致します。

`http://*.mysite.com/*` は、`http://any host.mysite.com/任意のファイル名` と一致します。

* は、*any characters* と一致します。

パフォーマンスへの影響

ソフト・エラー・ページの処理オプションを構成すると、正常にクロールされたページをすべて検査する必要があるため、クローラー・プロセスの時間が長くなります。パターン・マッチングの検査と、ページまたは置き換えた戻りコードを返すかどうかの判断に、さらに処理時間が必要になります。

プロキシ・サーバーによってサービスされている Web サイト

Web クローラーがネットワークへの直接アクセスを許可されていない場合、クローラーが HTTP プロキシ・サーバーを使用してクロール対象のコンテンツにアクセスするように構成することができます。

Web クローラーが稼働するコンピューター上で TCP/IP ネットワークへのアクセスが使用できない場合、あるいは、アクセスが特権のある処理に制限されている場合

は、Web クローラーで HTTP プロキシ・サーバーを使用するように構成できます。HTTP プロキシは、指定されたホストの指定されたポートで HTTP 要求を listen するプロセスです。プロキシ・サーバーは要求を Web サーバーにつなぎ、Web サーバーからの応答を要求元のクライアント (Web クローラー) にリレーします。プロキシ・サーバーは、Web クローラーと同じコンピューター上で稼働することも、別のコンピューター上で稼働することもできます。

プロキシ以外のクローラーでは、URL に対する要求は直接ホストに送信されます。プロキシのクローラーでは、要求はプロキシ・サーバーに送信されます。

Web クローラーの作成や、クローラー・スペースの編集の際は、Web クローラーがプロキシ・サーバー・ドメインでページのクローラーに使用するプロキシ・サーバーの情報を指定してください。以下の情報を入手してから、プロキシ・サーバーをクローラー・スペースに追加してください。

プロキシ・サーバー・ドメイン

プロキシ・サーバーによってサービスされているドメイン。アスタリスク (*) をワイルドカード文字として使用できます。例えば、* は、このプロキシ・サーバーによってサービスされているすべてのドメインと一致し、*.resource.com は、末尾に resource.com があるすべてのドメインと一致します。

プロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレス

DNS ホスト名あるいはプロキシ・サーバーのドットの付いた IP アドレス。

プロキシ・サーバーのポート番号

プロキシ・サーバーが HTTP プロキシ要求を listen する TCP/IP ポート番号。

プロキシ・サーバーを追加した後は、それを選択して、クローラーに処理させたい順序で配置する必要があります。リスト内では、特定のドメイン・ネームを最初に置き、汎用的なドメイン・ネームが続くように配置してください。Web クローラーは、候補 URL を評価するときに、候補 URL と一致して、かつ、リストの最初のドメインに指定されたプロキシ・サーバー・データを使用します。(どのプロキシ規則にも一致しない URL は、クローラーに直接アクセス可能であると想定されます。)

セキュア Web サイトのクローラーのサポート

エンタープライズ・サーチ管理コンソールに信用証明情報を指定することで、アクセスにパスワードが必要な文書などの制限付きコンテンツに Web クローラーが、アクセスできるように設定することができます。

Web サーバーが HTTP 基本認証または HTML フォーム・ベースの認証を使用して、Web サイトへのアクセスを制限している場合、Web クローラーの構成で信用証明情報を指定して、パスワード保護された Web サイト上のページをクローラーできるようにします。また、Cookie ファイルを手動で構成するオプションも指定できます。

HTTP 基本認証によって保護された Web サイト

Web サーバーが HTTP 基本認証を使用して Web サイトへのアクセスを制限している場合、Web クローラーがパスワード保護されたページにアクセスできるように認証のための信用証明情報を指定してください。

ユーザー (あるいはクライアント・アプリケーション) に Web サイト上のページへのアクセス権があるかどうかを判別するために、多くの Web サーバーが HTTP 基本認証と呼ばれるクライアント認証方式を採用し、ユーザーの身元を確認しています。通常、この操作は、対話式に行われます。

- HTTP ユーザー・エージェント (Web ブラウザーなど) が HTTP 基本認証で保護されている ページを要求すると、Web サーバーは、要求側に要求ページへのアクセス権がないことを意味する、戻りコード 401 を返します。
- また、Web サーバーは、ユーザーが制限付きコンテンツへのアクセス許可を得ているかどうかを検証するために信用証明情報を提示するよう要求側に求めます。
- Web ブラウザーは、ユーザー名、パスワード、その他のユーザーの信用証明情報に必要な情報を要求するダイアログをユーザーに表示します。
- Web ブラウザーは信用証明情報をエンコードして、保護されたページの要求のたびにそれを組み込みます。
- 信用証明情報が有効であれば、Web サーバーは、戻りコード 200 と要求ページのコンテンツを返します。
- それ以降の同じ Web サーバーからのページ要求には、通常、同じ信用証明情報が組み込まれ、許可ユーザーが要求のたびごとに信用証明情報の入力を求められることなく、他の制限付きコンテンツにアクセスできるようになります。

一度、ユーザーの身元が確認されると、Web サーバーと HTTP ユーザー・エージェントは、通常、*Cookie* というトークンを交換し、複数の HTTP 要求にわたって維持する必要のあるユーザー・ログイン状況の認識を可能にします。

Web クローラーは対話式で動作しないので、パスワード保護されたページのクロールを可能にするための信用証明情報を、クロールの開始前に指定しておく必要があります。Web クローラーを作成したり、クロール・スペースを編集する場合、クロール対象のセキュア Web サイトそれぞれについて情報を指定してください。

この情報を指定するには、HTTP 基本認証によって保護されている Web サイト または Web サーバーの管理者と緊密に作業する必要があります。管理者は、クロール対象の Web サイトのセキュリティー要件を提供してくれるはずです。これには、Web クローラーの識別の認証や、制限付きページをクロールするアクセス権がクローラーにあるかどうかの判別を使用するあらゆる情報が含まれます。

コレクションの作成時にそのコレクションに対してセキュリティーを使用可能に設定している場合は、文書へのアクセスを制御するために、ユーザー ID、グループ ID、あるいはユーザー役割などのセキュリティー・トークンを、クローラー構成時に指定してください。Web クローラーは、このセキュリティー・トークンを、指定されたルート URL のファイル・システム・ツリーでクロールするあらゆる文書に関連付けます。このトークンは Web クロール・スペース全体に対して設定する文書レベルのセキュリティー・トークンとは別に使用されます。

URL の順序は、重要です。パスワード保護された Web サイトに関する情報を追加したら、それをクローラーに処理させたい順序に配置する必要があります。リスト内では、特定の URL を最初に置き、汎用的な URL が続くように配置してください。Web クローラーは、候補の URL を評価するとき、その候補の URL と一致した、リストの最初にある URL に対して指定された認証データを使用します。

フォーム・ベースの認証によって保護された Web サイト

Web サーバーが HTML フォームを使用して Web サイトへのアクセスを制限する場合、Web クローラーがパスワード保護されたページにアクセスできるようにする認証のための信用証明情報を指定できます。

ユーザー (あるいはクライアント・アプリケーション) に Web サイト上のページへのアクセス権があるかどうかを判別するために、多くの Web サーバーで HTML フォームを使用して、ユーザーの身元を確認しています。通常、この操作は、対話式に行われます。

- HTTP ユーザー・エージェント (Web ブラウザーなど) がフォーム・ベースの認証で保護されているページを要求すると、Web サーバーは、要求にユーザーの身元を証明する Cookie が含まれているかどうかを確認します。
- Cookie がない場合は、Web サーバーはユーザーにプロンプトを出して、セキュリティー・データをフォームに入力するよう求めます。ユーザーがフォームをサブミットすると、Web サーバーは、必要な Cookie を戻し、それからパスワード保護されたページの要求処理が進められます。
- また、必要な Cookie を組み込んでいれば、その後の要求も処理されます。許可ユーザーは、要求のたびごとにフォームへの入力や信用証明情報の指定を求められることなく、他の制限付きコンテンツにアクセスできます。

Web クローラーは対話式で動作しないので、パスワード保護されたページのクロールを可能にするための信用証明情報を、クロールの開始前に指定しておく必要があります。Web クローラーを作成したり、クロール・スペースを編集する場合、クロール対象のセキュア Web サイトそれぞれについて情報を指定してください。

指定したフィールドは、対話式ユーザーが Web ブラウザーにプロンプトで求められて入力するフィールド、および、ログイン実行に必要な隠しフィールドや静的フィールドと対応します。

この情報を指定するには、フォーム・ベースの認証によって保護されている Web サイト または Web サーバーの管理者と緊密に作業する必要があります。管理者は、クロール対象の Web サイトのセキュリティー要件を提供してくれるはずですが、これには、Web クローラーの識別の認証や、制限付きページをクロールするアクセス権がクローラーにあるかどうかの判別に使用するあらゆる情報が含まれます。

URL パターンの順序は、重要です。パスワード保護された Web サイトに関する情報を追加したら、それをクローラーに処理させたい順序に配置する必要があります。リスト内では、特定の URL パターンを最初に置き、汎用的な URL パターンが続くように配置してください。Web クローラーは、候補の URL を評価するとき、その候補の URL と一致した、リストの最初にある URL パターンに対して指定されたフォーム・データを使用します。

Cookie の管理

通常、Cookie の管理は自動的に行われ、エンタープライズ・サーチ管理者が特別な処置をする必要はありません。必要な場合は、Web クロール・セッションの Cookie を手動で指定することができます。

Cookie は、Web サーバーが HTTP 応答ヘッダーの一部としてユーザー・エージェントに戻す内部が見えないトークンです。これは、発行した Web サーバーにのみ意味があるもので、HTTP 要求の間の状態維持に使用されます。例えば、クライアントの認証の間、Web サーバーは Cookie を戻し、認証されたユーザーがすでにログインされていることをサーバーが判断できるようにします。Cookie があることでユーザーは再度ログインを求められることなく、その Web サーバー上の他のページの要求を出すことができます。

Web クローラーは、Web サーバーから受け取った Cookie を保持し、そのクローラー・インスタンスが継続している間、それを使います。Cookie は、cookies.ini ファイルに保管されます。これは、クローラー・セッションが終了するたびに再度書き込まれます。Web クローラーが停止すると、期限切れになっていない Cookie はすべて保管されて次のセッションの開始時に再ロードされます。

手動で Cookie を指定する場合は、まず別ファイルに保管して、必要なときに cookies.ini ファイルの Cookie とマージしてください。クローラーは、期限切れになっていない Cookie を廃棄しませんが、問題が発生して Cookie コレクション全体の書き込みができない場合には、手動で指定した Cookie は失わずにすみませす。クロール・セッションを開始するまでにクローラーが自動的に保守している Cookie とユーザーの Cookie をマージする必要があります。

Cookie フォーマット

エンタープライズ・サーチの cookies.ini ファイルとマージする予定の Cookie は特定のフォーマットである必要があります。

- 各 Cookie は単一行に入っていないなければなりません。ブランク行とコメントは許可されていますが、cookies.ini ファイルに保存することはできません。
- 各 Cookie は次のフォーマットでなければなりません。

```
CookieN(cookie_length,URL_length)cookie_text,validation_URL
```

Cookie

Cookie 項目の始まりを示す必要なキーワード。

Cookie キーワードには、ブランクを含むことはできず、また、最後に 0 か、1 か、2 のいずれかの 1 桁の数字が付いていないなければなりません。この数字は、次の Cookie タイプを表します: バージョン-0 (Netscape)、バージョン-1 (RFC2109)、あるいは バージョン-2 (RFC2965)。ポート・リストは、RFC2965 Cookie ではサポートされていません。

cookie_length

関連した Cookie テキストの文字数。

URL_length

関連した検証 URL の文字数。

cookie_text

発信元の Web サーバーに送信される予定の Cookie のコンテンツ。このスト

リング (HTTP 応答ヘッダーにある Set-Cookie ディレクティブの右側に相当する部分) には、Cookie の名前と値の組、およびその Cookie と一緒に送信するその他のコンテンツ (パス、セキュリティ設定など) が入ります。このストリングの後ろには、区切り記号のコンマ (,) が続きます。

validation_URL

この Cookie がディスカバーされた URL。この URL は、Cookie の送信先の決定に使用されます (例えば、ドメイン名とパス名を指定することで決定します)。検証 URL は、発信元の Web サーバーの Cookie に関するセキュリティとプライバシーの制約事項を満たしている必要があります。

次の例では、読みやすくするために 2 行に分けて示します。Cookie を指定するときは、単一行に入れてください:

```
Cookie0(53,40)ASPSESSIONIDQSQTACSD=SLNSIDFNLSIDNLSIDNLSNL;path=/,  
https://www.ibm.com:443/help/solutions/
```

Web クローラーの Cookie の構成

Web クロール・セッションの Cookie を手動で指定し、Web クローラーが維持する Cookie とマージできます。

始める前に

Web クローラーが使用する Cookie を手動で構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。

手順

Web クローラーの Cookie を手動で構成するには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、Cookie を指定したいコレクションをモニターして、Web クローラーを停止します。
2. クローラー・サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。(このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Editionのインストール時に指定されたものです。)
3. 構成したいクローラーのデータ・ディレクトリーに移動します。ここで、*crawler_session_ID* は、エンタープライズ・サーチ・システムによりクローラー・セッションに割り当てられたものです。例:

```
ES_NODE_ROOT/data/col_56092.WEB_88534
```
4. *cookies.ini* ファイルを編集し、手動で指定した Cookie 項目を、すでにリストされている項目に追加して、そのファイルを保管して終了します。追加する Cookie が、すでに存在しているものをオーバーライドしないようにします。
5. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、停止した Web クローラーを再始動します。

グローバル Web クロール・スペースの構成

Web クローラーのためにグローバル・クロール・スペースを構成できます。これにより索引からの URL の除去をより制御できるようになります。

Web クローラーはそれぞれ、クロール対象の URL あるいは、クロール対象外の URL を定義するクロール・スペースで構成されます。クロール・スペースにあるデ

ディスクカバー済み URL は、後でクロールするときのために (データベースに) 保存されます。クロール・スペースにない URL は、廃棄されます。クローラーが空のデータベースで始動した場合、クローラーが稼働中は、そのクロール・スペースの定義とデータベースは整合しています。

時々、クローラーは停止されて、そのクロール・スペースが、(例えば、ページのクロールを禁止する新規規則によって) 削減されます。クローラーが再始動されるとそのクロール・スペース定義とデータベースは、整合しなくなります。データベースには URL (クロールされるものもあれば、クロールされないものもある) が含まれ、これらの URL は小さくなった新しいクロール・スペースにはありません。

コレクションに Web クローラーが 1 つしかない場合、その Web クローラーがこれらの URL 用の HTTP 戻りコードを 760 (除外される予定であると指定する) に変更し、新規に除外されたページを索引から除去することで、整合性が戻ります。

複数の Web クローラー間でクロール・スペースを分割する場合 (例えば、一部のページは残りのものより頻繁にクロールされるようにするなど)、各 Web クローラーが独立したデータベース表 (初期は空) を保守し、それらはそれぞれ Web クロール・スペースの別の部分をクロールします。元のクローラーのクロール・スペースは削減されて、他のクローラーがクロールする予定の部分が除去された後に残った分のみになります。元のクローラーが、移動済みのページを索引から除去することで整合性を復元しようとするとう問題が発生します。移動済みのページは、他のクローラーによってクロールされているので、そのページは索引に残っている必要があります。

高水準のグローバル・クロール・スペースを構成することで、元のクローラーによってクロールされないが、索引からも削除されない URL を識別することができます。クローラーのクロール・スペースにすでにない URL は、ディスクカバー・プロセスによって除外とマークされたままになり、再度クロールされるときに索引から除去されます。

グローバル・クロール・スペースは、`global.rules` という名前の構成ファイルに定義されます。このファイルは、クローラー構成ディレクトリーに存在しなければなりません。(`global.rules` ファイルがあることで、グローバル・クロール・スペース機能が使用可能になります。) このファイルがある場合は、クローラーの初期化時に読み取られます。このファイルが存在しないと、クローラーは単一レベルのクロール・スペースで作動することになり、クロール・スペースの定義とデータベースの間の整合性を維持するために、必要に応じて索引から文書を除去します。

グローバル・クロール・スペースが存在する場合、クローラーは従来どおり URL が存在するかないかを判定しますが、索引からの URL の除去を要求するのは URL がどの Web クロール・スペースにも存在しない場合のみです。

`global.rules` ファイルは、ローカルの `crawl.rules` ファイルと構文は同じですが、ドメイン名の規則のみを含むことができるのが異なります。この制約事項により、クロール・スペースは IP アドレスや HTTP 接頭部パターンではなく DNS ホスト名に基づいてのみ、複数クローラー間でパーティション化されるようになります。URL 接頭部やローカル・クロール・スペースの IP アドレスの規則で (`crawl.rules` に定義されているように) 除外される URL はグローバル・クロール・スペースによって影響を受けません。そのような URL はやはり除外されます。

グローバル・クロール・スペースは、索引から URL を除去できなくするためにのみ使用されます。この URL はローカルのドメイン規則によってクローラーのクロール・スペースから除去されます。以下の規則が以下の順序で適用されます。

1. ローカルの接頭部規則やアドレス規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去される場合、その URL には戻りコード 760 が割り当てられ、索引から除去されます。URL は再度クロールされません。
2. ローカルのドメイン規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去されて、さらにグローバル・クロール・スペースがない場合に、URL には戻りコード 760 が割り当てられ、索引から除去されます。URL は再度クロールされません。
3. ローカルのドメイン規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去されても、グローバル・クロール・スペースの規則によって明示的に許可されている場合、URL には戻りコード 761 が割り当てられます。クローラーは、その URL を再度クロールしませんが、索引から URL が除去されることはありません。(他のクローラーのローカル・クロール・スペースにあるものと想定されます。)
4. ローカルのドメイン規則によってクローラーのデータベースから URL が除去されており、グローバル・クロール・スペースの規則によって明示的には許可されていない場合、その URL には戻りコード 760 が割り当てられ、索引から除去されます。

グローバル・クロール・スペースは、ローカル・クロール・スペースによりすでに除外されている URL の除去を防ぐためにのみ調べられるので、グローバル・クロール・スペースからのデフォルトの結果は、候補 URL に適用する規則がない場合に、それに対するクロールを禁止することです。

global.rules ファイルは、グローバル・クロール・スペースを共用するあらゆるクローラーの master_config ディレクトリーに存在しなければなりません。global.rules ファイルとローカルの crawl.rules ファイルのすべてのコピーを注意深く編集して、それらが相互に整合性を保っていることを確認してください。

リンクをたどらない、索引付けしないディレクティブ

ページ上のリンクをたどるか、ページに索引付けをするかを制御する Web クローラー用の ディレクティブを指定することで検索の質を上げることができます。

一部の Web ページには、リンクをたどらない、あるいは索引付けをしないディレクティブがあり、これにより Web クローラーなどのロボットがそのページで検出したリンクをたどらないように指示したり、あるいは、そのページのコンテンツを索引に含めないように指示したり、あるいは、そのどちらも行わないように指示します。

これらの設定を制御することで、クロールの質を向上させることができます。例えば、ディレクトリー・ページの中には、多数のリンクを含んでいるものの、他に有効なコンテンツが無いものがあります。こうしたページはクロールしてリンクをたどる必要はありますが、ディレクトリー・ページそのものを索引付けする利点はありません。

また、クローラーが階層の下方に行かないようにしたい場合がありますが、要求したリーフ・ページにリンクが組み込まれていて、しかもリンクをたどらないディレクティブが含まれていない場合があります。これらのページには自動生成されているものがあり、必要なディレクティブを挿入できる所有者がいません。

そうしたページのクローリングに規則を指定するために、`followindex.rules` という名前の構成ファイルを作成、編集します。このファイルに規則を指定するときは、以下のガイドラインに従ってください。

- 設定する規則では、URL 接頭部を指定する必要があります (IP アドレスあるいは DNS ホスト名で Web サイトを識別することはできません)。
- URL 接頭部には、類似した URL を持つ複数のサイトを許可したり禁止するためにワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を含めることができます。
- 順序は重要です (クローラーは、候補 URL と一致する最初の規則を適用します)。
- リンクをたどることや索引付けを明示的に許可および禁止する規則は、ターゲット文書内の設定を含む他の設定に優先します。

Web ページでのリンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしないディレクティブのオーバーライド

構成ファイルに規則を指定して、Web クローラーがリンクをたどらないディレクティブまたは索引付けをしないディレクティブが含まれているページへのリンクまたは索引ページをたどるかどうかを制御できます。

始める前に

Web クローラーについてリンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしないディレクティブを指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。指定されたディレクティブは、クローリングされるページに存在するディレクティブをオーバーライドします。

手順

リンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしないディレクティブをオーバーライドするには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、規則を構成したいコレクションをモニターして、Web クローラーを停止します。
2. クローラー・サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。(このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Editionのインストール時に指定されたものです。)
3. 構成したいクローラーの構成ディレクトリーに移動します。ここで、`crawler_session_ID` は、エンタープライズ・サーチ・システムによりクローラー・セッションに割り当てられたものです。例:
`ES_NODE_ROOT/master_config/col_56092.WEB_88534`
4. `followindex.rules` という名前のファイルを作成または編集します。
5. 以下の形式でクローラーの規則を入力します。ここで、`URLprefix` は、リンクのたどりまたは索引付けを許可または禁止したい Web サイトの先頭文字です。

```
forbid follow URLprefix
allow follow URLprefix
forbid index URLprefix
allow index URLprefix
```

6. ファイルを保管して、終了します。
7. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、停止した Web クローラーを再始動します。

Windows ファイル・システム・クローラー

Microsoft Windows ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合、Windows ファイル・システム・クローラーを構成する必要があります。

Windows ファイル・システム・クローラーを使用すれば、任意の数の Windows ファイル・システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロールするローカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択します。

UNIX コンピューターにクローラー・サーバーをインストールした場合、Windows ファイル・システム・ソースのクロールにそのサーバーを使用することはできません (Windows ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプのリストに表示されません)。

Windows ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインする必要があります。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするサブディレクトリーを選択します。

クローラーでクロールするサブディレクトリーのレベル数も指定できます。リモート・ファイル・システムをクロールするには、クローラーがデータにアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードも併せて指定します。

- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、クローラーが特定サブディレクトリーのファイルにアクセスできるようにユーザー ID とパスワードを指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時にコレクションに対してセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティー・データを索引内の文書に関連付けます。こうすることで検索アプリケーションは、保管されたセキュリティー・データに基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データ・クロールに必要な情報をクローラーに指定する方法を表示することができます。

クローラーを作成後、必要に応じてプロパティまたはクロール・スペースを編集できます。ウィザードに従えば、以下の変更を行うことができます。

- クローラー・プロパティの変更。例えば、クローラーが同時にアクティブにできるスレッド数を変更できます。
- クロール・スペースへのサブディレクトリーの追加。
- ファイル・システムのクロール・スケジュールの変更。
- 特定のサブディレクトリーにある文書のクロールおよび検索のオプションの変更。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションの変更。
- クロール・スペースからのサブディレクトリーの除去。

データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタープライズ・サーチを拡張することができます。カスタム・データ・リスナー・アプリケーションは、コレクションへのデータの追加、コレクションからのデータの除去、または Web クローラーに対する URL へのアクセスおよび再アクセスの指示を行えます。

始める前に

データ・リスナー・アプリケーションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

このタスクについて

クライアント・データ・リスナー・アプリケーションは、エンタープライズ・サーチについて、デフォルトのクローラーではクロールできないデータ・ソース・タイプのクロールを使用可能にします。データ・リスナー・アプリケーションを使用するためには、アプリケーションがコレクションのアクセスおよび更新を行えるようにする信用証明情報を構成しておく必要があります。

クライアント・データ・リスナー・アプリケーションは、データ・リスナーに接続するときに、クライアント・アプリケーション ID とパスワード、更新されるコレクションの ID を渡す必要があります。この情報は、管理コンソールでアプリケーションについて構成した情報と同じでなければなりません。

データ・リスナーは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されるときに自動的に開始されます。管理コンソールでアプリケーションを構成した後でポート番号を変更した場合は、データ・リスナーを再始動する必要があります。

手順

データ・リスナー・アプリケーションのサポートを構成するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「データ・リスナー」ページで、「データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成」をクリックします。
4. 「データ・リスナー・アプリケーション」ページで、クライアント・データ・リスナー・アプリケーションがエンタープライズ・サーチ・コレクションにアクセスできるようにする認証情報を指定します。

データ・リスナーのクライアント ID は、エンタープライズ・サーチ・システム内で固有のものでなければなりません。固有であれば、追加する各データ・リスナー・アプリケーションはコレクションを 1 つだけ更新できます。

5. 「OK」をクリックします。
6. データ・リスナーのポート番号を変更した場合は、以下のステップを行って、データ・リスナーを再始動します。
 - a.  「モニター」をクリックして、システム・モニター・ビューに移動します。
 - b. 「データ・リスナー」ページで、 「再始動」をクリックします。

関連概念

12 ページの『エンタープライズ・サーチのカスタマイズ』

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、カスタム検索アプリケーション、コレクションのコンテンツを更新するカスタム・アプリケーション、テキスト分析用のプログラム、およびカスタム同義語辞書を作成することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『データ・リスナー』

関連タスク

220 ページの『データ・リスナーのモニター』

データ・リスナーをモニターしてその状況を確認し、クライアント・データ・リスナー・アプリケーションのアクティビティーに関する詳細を表示します。

エンタープライズ・サーチ・クローラーでサポートされるファイル・タイプ

エンタープライズ・サーチ・コレクションは、多種多様な文書タイプとコンテンツ・タイプをサポートしています。

Web クローラーのクロール・スペースを構成するときに、そのクローラーが組み込む、あるいは、除外する文書のタイプを指定します。Web クローラーは、以下の条件を満たせば、Web でアクセス可能な文書を何でもクロールすることができます。

- 文書の MIME タイプが、「組み込む文書のタイプ」ページで受け入れ可能であると構成した MIME タイプの 1 つと一致している必要があります。
- 文書のファイル拡張子は、「除外するファイル拡張子」ページで除外すると構成したファイル拡張子と一致してはいけません。

他の多くのクローラー・タイプについても、個々のデータ・ソース (例えば、サブディレクトリー、サブフォルダー、あるいは項目クラスなど) のオプションを構成するときに、どの MIME タイプおよび拡張子を 組み込むか、あるいは、除外する

かを指定することができます。デフォルトでファイル・タイプの多くがクローラから除外されていますが、必要に応じて、項目を追加および削除できるので、クローラでクロールしたい文書のタイプが確実に組み込まれるようにしてください。

エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット

エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

コレクションのカテゴリ、有効範囲、クイック・リンクを構成する際、URI および URI パターンを指定できます。また、索引から文書を除去する必要がある場合、または、特定の URI に関する詳細状況情報を表示する必要があるときにも、URI を指定します。

文書の URI または URI パターンを判別するには、コレクションを検索してください。検索結果内の URI をクリックすれば、興味のある文書を取得できます。検索結果から URI をコピーして、その URI をエンタープライズ・サーチ管理コンソールで使用できます。例えば、URI、または URI に基づいたパターンを指定して、その URI に一致する文書が、エンタープライズ・サーチ・カテゴリに自動的に関連付けられるようにできます。

Content Manager クローラー

Content Managerクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`cm://Server Name/Item Type Name/PID`

パラメーター

Server Name

IBM DB2 Content Manager ライブラリー・サーバーの名前。

Item Type Name

ターゲット項目タイプの名前。

PID DB2 Content Manager 持続 ID。

例

`cm://cmsrvctg/ITEMTYPE1/92+3+ICM8+icmnlsdb12+ITEMTYPE159+26+A1001001A
03F27B94411D1831718+A03F27B+94411D183171+14+1018`

DB2 クローラー

DB2クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`db2://Database Name/Table Name
/Unique Identifier Column Name1/Unique Identifier Value1
[/Unique Identifier Column Name2/Unique Identifier Value2/...
/Unique Identifier Column NameN/Unique Identifier ValueN]`

パラメーター:

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Database Name

データベースの内部名またはデータベースの別名。

Table Name

スキーマの名前を含む、ターゲット表の名前。

Unique Identifier Column Name1

表の先頭の固有 ID 列の名前。

Unique Identifier Value1

先頭の固有 ID 列の値。

Unique Identifier Column NameN

表の *n* 番目の固有 ID 列の名前。

Unique Identifier ValueN

n 番目の固有 ID 列の値。

例 ローカル、カタログ・データベース:

```
db2://LOCALDB/SCHEMA1.TABLE1/MODEL/ThinkPadA20
```

リモート、アンカタログ・データベース

```
db2://myserver.mycompany.com:50001/REMOTEDB/SCHEMA2.TABLE2/NAME/DAVID
```

Exchange Server クローラー

Exchange Server クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

```
exchange://OWA Path[?useSSL=true]
```

パラメーター

OWA Path

プロトコルを含まない、Outlook Web Access (OWA) パス。

[?useSSL=true]

オリジナルの OWA パスのプロトコルが HTTPS である場合に追加される。

例 文書本体:

```
exchange://exchangesvr.ibm.com/public/RootFolder1/Folder1/Document.EML
```

文書添付ファイル:

```
exchange://exchangesvr.ibm.com/public/RootFolder1/Folder1/Document.EML/  
AttachedFile.doc
```

SSL で使用可能:

```
exchange://exchangesvr.ibm.com/public/TeamRoom/Folder1/Document.EML?  
useSSL=true
```

Notes クローラー

Notesクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

```
domino://Server Name[:Port Number]/Database Replica ID/Database Path and Name  
/[View Universal ID]/Document Universal ID  
[?AttNo=Attachment Number&AttName=Attachment File Name]
```

パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Server Name

Lotus Notes サーバーの名前。

Port Number

Lotus Notes サーバーのポート番号。ポート番号はオプションです。

Database Replica ID

データベース・レプリカの ID。

Database Path and Name

ターゲット Lotus Notes サーバー上の NSF データベースのパスとファイル名。

View Universal ID

ターゲット・データベース上で定義された View Universal ID。この ID は、文書がビューまたはフォルダーから選択されたときにのみ指定されます。ビューまたはフォルダーをクロール対象として指定しない場合 (例えば、データベース内の全文書をクロールするよう指定する場合)、View Universal ID は指定されません。

Document Universal ID

クローラーによってクロールされる文書内で定義された Document Universal ID。

Attachment Number

ゼロから始まる、各添付ファイルの連続番号。添付ファイル番号はオプションです。

Attachment File Name

添付ファイルのオリジナル名。添付ファイル名はオプションです。

| **例** ビューまたはフォルダーでクロールするために選択された文書:

| `domino://dominosvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf/`
| `8178B1C14B1E9B6B8525624F0062FE9F/0205F44FA3F45A9049256DB20042D226`

| ビューまたはフォルダーでクロールするために選択されていない文書:

| `domino://dominosvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf//`
| `0205F44FA3F45A9049256DB20042D226`

| 文書添付ファイル:

| `domino://dominosvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf//`
| `0205F44FA3F45A9049256DB20042D226?AttNo=0&AttName=AttachedFile.doc`

| **UNIX ファイル・システム クローラー**

UNIX ファイル・システムクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

`file:///Directory Name/Filename`

パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Directory Name

ディレクトリーの絶対パス名。

Filename

ファイルの名前。

例

file:///home/user/test.doc

VeniceBridge クローラー

VeniceBridgeクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

```
vbr://Server Name/Repository System ID/Repository Persistent ID  
/Item ID/Version ID  
/Item Type/?[Page=Page Number&]JNDI properties
```

パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Server Name

VeniceBridge サーバーの名前。

Repository System ID

リポジトリのシステム ID。

Repository Persistent ID

リポジトリの永続 ID。

Item ID

項目の ID。

Version ID

バージョンの ID。バージョン IDがブランクの場合、この値は文書の最新バージョンを示します。

Item Type

項目のタイプ (CONTENT)。

Page Number

ページ番号。

JNDI properties

J2EE アプリケーション・クライアントの JNDI プロパティ。プロパティには、次の 2 つのタイプがあります。

java.naming.factory.initial

EJB ハンドルを作成するのに使用されるアプリケーション・サーバーのクラスの名前。

java.naming.provider.url

EJB ハンドルを要求するのに使用されるアプリケーション・サーバーのネーミング・サービスへの URL。

例

Documentum:

```
vbr://vbrsrv.ibm.com/Documentum/c06b/094e827780000302//CONTENT/?  
java.naming.provider.url=iiop%3A%2F%2Fmyvbr.ibm.com%3A2809&  
java.naming.factory.initial=com.ibm.websphere.naming.WsnInitContextFactory
```

FileNet PanagonCS:

```
vbr://vbrsrv.ibm.com/PanagonCS/4a4c/003671066//CONTENT/?Page=1&
java.naming.provider.url=iiop%3A%2F%2Fmyvbr.ibm.com%3A2809&
java.naming.factory.initial=com.ibm.websphere.naming.WsnInitContextFactory
```

Windows ファイル・システム クローラー

Windows ファイル・システムクローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

file:///Directory Name/Filename

file:///Network Folder Name/Directory Name/Filename

パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Directory Name

ディレクトリーの絶対パス名。

Filename

ファイルの名前。

Network Folder Name

リモート・サーバー上のみにある文書の場合、Windows ネットワーク上の共有フォルダーの名前。

例 ローカル・ファイル・システム:

file:///d:/directory/test.doc

ネットワーク・ファイル・システム:

file:///filesrv.ibm.com/directory/file.doc

関連概念

37 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

関連タスク

135 ページの『索引から URI を除去』

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

145 ページの『クイック・リンクの構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、文書の URI を、それを検索結果に含ませるためのキーワードと関連付けます。

100 ページの『カテゴリーの構成』

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、各カテゴリーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に関連付けられる文書が決まります。

131 ページの『有効範囲の構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、ユーザーが検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パターンを指定します。

204 ページの『URI についての詳細表示』

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての現在情報および履歴情報を知ることができます。

エンタープライズ・サーチ用文書の構文解析

文書の検索性を高めるために、文書やメタデータをエンタープライズ・サーチ索引に追加する前に、構文解析、分析、および分類方法のオプションを指定できます。

文書コンテンツの構文解析および情報の検索性の最適化のために指定できるオプションには、以下のものがあります。

カテゴリの構成

類似した URI パターンを持つ文書、または特定の語句を含む文書をカテゴリとしてまとめることができます。ユーザーは、コレクションの検索時に、検索結果を特定のカテゴリに属する文書に限定することができます。

検索フィールドの構成

XML 文書のエレメントを索引の検索フィールドにマップします。また、HTML 文書のメタデータ・エレメントも検索フィールドにマップします。エンタープライズ・サーチ索引に検索フィールドを作成することで、ユーザーが XML および HTML 文書の特定部分を照会できるようになり、検索結果の精度を上げることができます。

テキスト分析オプションの構成

カスタム・テキスト分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムに追加されている場合、その 1 つを特定のコレクションで使用するよう選択できます。分析エンジンをコレクションに関連付けたら、コンテンツが言語的に分析され注釈付けされるようにコンテンツをマッピングするオプションを指定できます。また、分析結果をどのようにエンタープライズ・サーチ索引内の検索フィールドおよび検索可能属性にマップするのかを指定することもできます。

中国語、日本語、韓国語の文書の構文解析のオプション構成

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書を構文解析するために N-gram セグメンテーション使用のオプションを指定することができます。また、中国語と日本語の文書内の空白文字から改行文字を除去することもできます。

ネイティブ XML 検索の使用可能化

ご使用のコレクションに XML 文書が含まれている場合、XPath および XML フラグメントなどの、ネイティブ XML 照会構文を使用した検索を可能にできます。ネイティブ XML 検索により、ユーザーは、さまざまな XML エレメント間の関係に基づいた照会を指定できるようになります。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『言語サポート』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれているテキスト分析』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

カテゴリーに関する作業

カテゴリーを使用すると、共通の特性を共有する文書をグループにまとめ、そのグループのメンバーに対する 基準に合う文書だけを検索、取得することができます。

文書がカテゴリーに関連付けられていて、検索アプリケーションがこの機能をサポートする場合、ユーザーはカテゴリー名を指定してコレクションのサブセットを検索することができます。コレクション全体を検索する場合、ユーザーは検索結果を絞り込んで、同じカテゴリーにある文書だけを結果文書として参照できるようにすることができます。

エンタープライズ・サーチでは、文書をカテゴリーに分類する場合、次の 2 つの方式をサポートしています。

ルール・ベース

この方式は、指定した規則に従って文書をカテゴリーに関連付ける場合に使用します。例えば、共通の URI パターンを持つ文書をグループ化したり、または文書コンテンツ (特定の語句を含む、あるいは含まない文書など) に基づいて文書をグループ化することができます。

モデル・ベース

この方法は、IBM WebSphere Portal を使用しており、WebSphere Portal で事前定義されたカテゴリーを使ってエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索する場合に使用します。

カテゴリー化の変更

カテゴリーを作成、管理するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

- コレクションの作成時に、カテゴリー化タイプを選択します。カテゴリーを使用しない、ルール・ベースのカテゴリーを使用する、またはモデル・ベースのカテゴリーを使用する、のいずれかを選択できます。
- コレクションの解析規則を構成する場合、必要に応じてカテゴリー化タイプを変更できます。文書のクロール、索引作成の終了後にカテゴリー化タイプを変更する場合、その全文書を再クロールして、再解析し、索引を再編成しないと、検索の品質が低下します。
- ルール・ベースのカテゴリーを使用する場合、管理コンソールを使用して、カテゴリー・ツリー、カテゴリー、およびカテゴリー規則を管理することができます。文書のクロール、索引作成の終了後にカテゴリーおよびカテゴリー規則を変更する場合、その全文書を再クロールして、再解析し、索引を再編成しないと、検索の品質が低下します。

文書コンテンツ・フィールド

モデル・ベースのカテゴリーあるいは、(URI パターン規則ではなく) 文書コンテンツ規則を使用するルール・ベースのカテゴリーでコレクションを作成する場合、カテゴリー化する文書にコンテンツ・フィールドが含まれるようにしてください。

モデル・ベースのカテゴリーおよび文書コンテンツに基づいたカテゴリー規則は、文書のコンテンツ・フィールドについて作用しますが、文書メタデータは考慮しません。コンテンツ・フィールドを含む文書、あるいは、クローラーの構成時に、コ

コンテンツ・フィールドに構成可能なフィールドを含む文書のみ、これらのカテゴリ
一化オプションを使用してカテゴリ化することができます。

以下のクローラーでクロールされる文書についてのみ、モデル・ベースのカテゴリ
ー、あるいはコンテンツ規則に基づいたカテゴリを構成できます。

- Web および NNTP クローラー。
- UNIX ファイル・システム・クローラーおよび Windows ファイル・システム・クローラー。
- DB2 クローラー。クローラーを作成するとき、個別の表のクロール・オプションを構成する際に (クローラー・ウィザードの最後のステップ)、どのフィールドでコンテンツ・フィールドを構成するか指定します。クローラーがすでに存在する場合は、クロール・スペースを編集し、編集する表を選択してから、どのフィールドでその表のコンテンツ・フィールドを構成するか指定します。
- Content Manager クローラー。クローラーを作成するとき、個別の項目タイプのクロール・オプションを構成する際に (クローラー・ウィザードの最後のステップ)、どのフィールドでコンテンツ・フィールドを構成するか指定します。クローラーがすでに存在する場合は、クロール・スペースを編集し、編集する項目タイプを選択してから、どのフィールドでその項目タイプのコンテンツ・フィールドを構成するか指定します。

関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

ルール・ベースのカテゴリ

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリに関連付ける場合、規則を構成して どの文書を関連付けるか制御することができます。

カテゴリの作成、およびエンタープライズ・サーチで作成したコレクションに対するカテゴリ規則および、IBM WebSphere Portal コレクションからマイグレーションしたルール・ベースのカテゴリに対するカテゴリ規則の作成を行うことができます。文書をカテゴリ化するときの規則を構成する場合、コレクション作成時、またはコレクションの解析規則の指定時にルール・ベースのカテゴリを使用することを指定する必要があります。

パーサーは、指定した規則を使用して文書を 1 つまたは複数のカテゴリに関連付けます。

- 文書が特定のカテゴリ内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーはその文書をその特定カテゴリに関連付けます。
- 文書が複数のカテゴリ内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーはその文書をそれらすべてのカテゴリに関連付けます。
- 文書がカテゴリのどの規則にも該当しない場合は、パーサーはその文書をカテゴリに関連付けません。コレクションを検索すれば、この文書を検索、取得することができますが、特定のカテゴリを検索してもこの文書が取得されることはありません。

コレクションのカテゴリ・ツリー (分類構造) を管理する場合、新規のカテゴリをカテゴリ階層のどこに追加するかを指定します。また、カテゴリ・ツリーを使用して、編集するカテゴリを選択し、文書をカテゴリ化する場合の規則を追加、削除、および個別規則の内容を変更することもできます。

文書のカテゴリ化規則を構成する場合、特定のカテゴリに属する文書の判別に文書の URI を使用するか、文書内のコンテンツを使用するかを選択します。

URI パターン

URI 規則を文書の URI に適用します。URI の一部 (パターン) を指定し、指定されたパターンを URI に持つ文書がその規則に該当することになります。

例えば、規則のテキストに「/hr/」と指定した場合、次に挙げる最初の URI は規則に該当しますが、2 番目の URI は該当しないことになります。

```
file:///corporate/hr/medicalform.doc  
http://company.com/human_resources/medicalform.htm
```

URI はすべてパターンとして扱うため、パターンの最初あるいは最後に指定したワイルドカード文字としてのアスタリスクは、システムによって無視されます。例えば、*/hr/* と /hr/ は、同一の URI とマッチングすることになります。

URI のパターン規則は、大/小文字の区別をしません。URI にスペースが含まれる場合、URI パターンは URI エンコード用のエンタープライズ・サーチ規則に従う必要があります。次の例は、Windows ファイル・システム・パスの URI を指定する場合の正しい方法と間違っている方法を示しています。

```
間違っている URI: file:///c:/program files/  
正しい URI: file:///c:/program+files/
```

文書コンテンツ

文書のテキストにコンテンツ規則を適用します。規則の指定は、照会と同じ書式で行います。文書がその照会に対して有効な場合、その文書は規則に該当することになります。規則を構成する場合、文書に含まれる、または含まれてはならない語句を指定し、語のステミング規則を適用する言語を選択します。

例えば、次の規則では、語として「hr」を含むか、または句として「human resources」を含む文書が規則に該当することになります。

```
hr "human resources"
```

また別の例として、次の規則では、語として「hr」を含み、かつ「benefits」という句を含まない文書が規則に該当することになります。

```
+hr -benefits
```

コンテンツ規則では、Search and Index API (SIAPI) 照会と同様の言語正規化が行われます。しかし、コンテンツ規則の構文でサポートされるのは、SIAPI 照会構文で使用可能な操作のサブセットです。特殊文字は以下のもののみ、使用可能です。

- | + 項の前に正符号を付けると、その項が文書に出現しなければならないことを示します。
- | - 項の前に負符号を付けると、その項が文書に出現してはならないことを示します。
- | " 複数の項を引用符で囲むと、その句が文書中に正確に出現する必要があることを示します。

関連タスク

191 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』
WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに コレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

モデル・ベースのカテゴリ

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリを使用している場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでもそれらのカテゴリを継続して使用することができます。

WebSphere Portal では、2,300 を超えるサブジェクトで構成される事前定義の分類を提供しています。これらのサブジェクトは、「コンピューター」、「金融」、および「交通機関」などの業種別カテゴリに分類されています。Portal ユーザーは、これらのサブジェクト・エリアに対応する文書を自動的に判別するアプリケーションを作成でき、さらに、ユーザーの業務ニーズに合わせてこれらのカテゴリをカスタマイズできます。

WebSphere Portal カテゴリをエンタープライズ・サーチで使用する場合、次の条件に従う必要があります。

- マイグレーション・ウィザードを使ってモデル・ベース分類ファイルをエンタープライズ・サーチにインポートすること。
- コレクションの作成時、またはコレクションの解析規則の構成時に、モデル・ベースのカテゴリの使用を指定すること。
- WebSphere Portal がエンタープライズ・サーチ索引サーバーにインストールされていること。
- カテゴリの管理には WebSphere Portal のカテゴリ化ツールを使用すること。モデル・ベースのカテゴリは、エンタープライズ・サーチ管理コンソールで管理することはできません。

関連タスク

189 ページの『WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション』

ご使用の WebSphere Portal システムの分類管理ポータルレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類構造を選択しても その影響を受けることはありません。

カテゴリ・ツリー

カテゴリ・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべてのカテゴリを表示できます。カテゴリ・ツリーを使って、カテゴリの作成、カテゴリの削除、およびカテゴリに文書を関連付けるときの規則を編集することもできます。

カテゴリ・ツリーは、分類構造とも呼ばれ、階層構造になっています。このツリーは、ルート・カテゴリを起点とし、他のカテゴリはすべてこのルート・カテゴリから分岐します。任意の数のカテゴリおよびサブカテゴリをネスト化して、文書の参照および検索のさまざまな選択肢をユーザーに提供することができます。

例えば、ある文書が複数のカテゴリに規則を受け渡す場合、その文書はそれらすべてのカテゴリに関連付けられます。ユーザーが特定のカテゴリを検索する、または、検索結果を参照するときに特定のカテゴリに属する文書を参照する場合、文書が複数のカテゴリに属していればユーザーがその文書を見つける可能性が高まります。

カテゴリ・ツリーを管理する場合、新規のカテゴリを既存のカテゴリ下にネストすることにより、どの文書がどのカテゴリ (1 つ以上) に属するかを調整することができます。カテゴリを作成するときに、そのカテゴリがルート・レベルで作成されるのか、別のカテゴリのサブカテゴリとして作成するのかを指定できます。また、カテゴリ・ツリーを使用して、コレクションからカテゴリを削除したり、文書をカテゴリに関連付けるときの規則を変更したりすることもできます。カテゴリの編集時には、カテゴリの名前変更、カテゴリ化規則の追加または削除、また個別規則の内容を変更することができます。

カテゴリ・ツリーを管理する場合、検索および参照動作のガイドラインとして以下に記載する説明を参考にしてください。

- ユーザーが上位レベルのカテゴリを検索すると、そのカテゴリ、およびそのカテゴリ以下のすべてのサブカテゴリが、検索基準に合致する文書の検索対象となります。ユーザーがサブカテゴリのないカテゴリを検索する場合、そのカテゴリだけが検索されます。
- ユーザーが検索結果を参照しているときに、特定のカテゴリに属する文書だけを参照するオプションを選択すると、そのカテゴリの文書だけが表示されます。サブカテゴリについては、検索結果にその名前だけが表示されるので、その名前からユーザーは異なるカテゴリに切り替え、そのカテゴリの文書リストを表示できます。

関連タスク

191 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』
WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに コレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

カテゴリ化タイプの選択

カテゴリ化タイプを選択するときに、コレクションの中で文書をカテゴリに関連付けるのに使用する方法を指定します。

始める前に

カテゴリ化タイプを変更するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、変更するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

カテゴリ化タイプは、コレクションが作成されるときに指定されます。必要であれば、コレクションの文書をカテゴリ化する方法を変更できます。コレクションのために特別に構成するルール・ベースのカテゴリを使用するか、IBM WebSphere Portal システムの中にあるモデル・ベースのカテゴリを使用するか、あるいはカテゴリを使用しないこともできます。

重要: データをクロールし、コレクションの索引を作成したあとでカテゴリ化タイプを変更すると、索引の整合性がなくなります。検索結果の正確性を確保するには、コレクション内のすべての文書を再クロールし、文書の解析が済んでから索引を再編成します。

手順

カテゴリ化タイプを選択するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「**編集**」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**カテゴリ化タイプの選択**」をクリックします。
4. 「カテゴリ化タイプの選択」ページで、次のオプションの 1 つを選択します。

なし このオプションは、このコレクションの中の文書をカテゴリ化しない場合に選択します。

ルール・ベース

このオプションは、このコレクションのために特別に構成したカテゴリ規則を含む分類法を使用する場合に選択します。

- エンタープライズ・サーチ用に作成したコレクションを構成する場合は、このオプションを選択して、文書のカテゴリ化のためのカテゴリ名と規則を指定します。
- WebSphere Portal から移行したコレクションを構成する場合は、このオプションを選択して、インポートしたルール・ベースのカテゴリを使用するか変更します。

モデル・ベース

このオプションは、WebSphere Portal システムにあるモデル・ベースのカテゴリに文書を関連付ける場合に選択します。このオプションを使用するには、エンタープライズ・サーチ索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされている必要があります。また、WebSphere Portal のカテゴリ化ツールを使用して、カテゴリを管理する必要があります。

5. 「**OK**」をクリックします。

カテゴリの構成

1つのコレクションのカテゴリはいくつも作成することができ、各カテゴリにはいくつかの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリと自動的に関連付けられる文書が決まります。

始める前に

カテゴリを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのカテゴリが所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

ルール・ベースのカテゴリを使用するオプションが、カテゴリ化タイプとして選択される必要があります。

文書をカテゴリに関連付ける規則をどのように指定するかについての例は、カテゴリを作成または編集しているときに、「ヘルプ」をクリックしてください。

このタスクについて

検索アプリケーションでカテゴリのサポートが使用可能であれば、ユーザーは、カテゴリ名を指定することによって、コレクションのサブセットを検索できます。ユーザーはまた、検索結果の中でカテゴリを選択して、そのカテゴリに属する文書のみを参照することもできます。

重要: データをクロールし、コレクションの索引を作成したあとでカテゴリまたはカテゴリ規則を変更すると、索引の整合性がなくなります。検索結果の正確性を確保するには、コレクション内のすべての文書を再クロールし、文書を再解析してから、索引を再編成します。

手順

カテゴリを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、カテゴリを構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**カテゴリ・ツリーの構成**」をクリックします。
4. 「カテゴリ・ツリー」ページで、カテゴリを追加するツリー内の場所を選択し、「**カテゴリの作成**」をクリックします。

ルートを選択すると、新規カテゴリがルート・レベルに作成されます。カテゴリ名を選択すると、新規カテゴリは、カテゴリ・ツリーの中の選択されたカテゴリの下にネストされます。

ウィザードが開き、文書を新規カテゴリに関連付ける規則の指定をガイドします。

- a. 「カテゴリの作成」ページで、カテゴリの記述名を入力し、「次へ」をクリックします。
- b. 「カテゴリ規則の作成」ページで、「規則の追加」をクリックします。

- c. 「カテゴリ規則の作成」ページで、「規則名」フィールドに規則の固有の名前を入力します。この名前はコレクションの中の全カテゴリで固有でなければなりません。
- d. 文書をこのカテゴリに関連付けるために使用する規則を指定して、「OK」をクリックします。
- 文書がカテゴリに所属するかどうかを決めるときにエンタープライズ・サーチが文書の URI を使用するようには、**「URI パターン」**をクリックして、URI パターンを指定します。

指定したテキストが URI に存在すれば、文書はそのカテゴリに関連付けられます。

例: `file:///c:/program+files/finance`

- 文書がカテゴリに所属するかどうかを決めるときにエンタープライズ・サーチが文書内の語を分析するようには、「**文書コンテンツ**」をクリックして、文書の言語を選択し、文書コンテンツの中に出現しなければならない語、または出現してはならない語を指定します。規則の指定は、照会と同じ書式で行います。

文書に、指定した語が含まれる、または含まれない場合に、文書はそのカテゴリに関連付けられます。

例: `+finance -accounting +"fiscal year"`

- e. 「完了」をクリックします。

新規カテゴリが、このコレクションに所属する他のカテゴリと一緒に、「カテゴリ・ツリー」ページにリストされます。

関連概念

189 ページの『WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション』

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするとき使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

関連タスク

189 ページの『WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション』

ご使用の WebSphere Portal システムの分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類構造を選択してもその影響を受けることはありません。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』
エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

XML 検索フィールドの作業

ユーザーが XML 文書の特定部分を検索できるようにしたい場合、XML エlementを検索フィールドにマップします。

XML エlementを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

XML 検索フィールド

XML 検索フィールドは、ユーザーによる XML 文書の特定部分の照会を可能にします。

XML 文書は、半構造化テキストと構造化されていないテキストの両方を含むため、ますます一般的になってきています。XML の構造はカプセル化されていて、テキストを囲む XML エlementによって明示的に定義されたコンテキストを使用します。例えば、作成者の名前が次のように表されます。

```
<author>John Smith</author>
```

このコンテキストでは、テキスト John Smith によって、XML 文書の作成者が示されます。

エンタープライズ・サーチは、XML エlementの内側にあるテキストを検索フィールド名と関連付ける、つまりマップすることができます。コレクションの解析オプションを構成するときに、どの XML エlementがどの検索フィールド名にマップされるのかを指定します。XML エlementを検索フィールドにマップすると、ユーザーはマップ・フィールド名を照会で指定することで、それらのElementを検索できます。特定フィールドを検索する照会を使用すると、全文書コンテンツを検索するフリー・テキスト照会よりも精度の高い検索結果が得られます。

例えば、コレクション中に XML 文書が含まれていて、title Elementと author Elementを索引内で検索フィールドとしてマークされるように指定すると、ユーザーがこれらの特定Elementを照会できるようになります。author:Smith の検索では、author Elementが Smith である XML 文書を検索します。

関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書进行分析し、文書の索引作成の準備を行います。

XML エlementを検索フィールドにマップ

XML エlementを検索フィールドにマップするときには、ユーザーが照会にフィールド名を指定することで検索可能な XML エlementを指定します。

始める前に

XML エlementを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、その XML 文書が所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

XML フィールド・マッピングを作成した場合、または、既存の XML フィールド・マッピングでフィールドの追加、変更、削除を行った場合、それらの変更内容が有効になるのは、パーサーを停止して再始動した後です。パーサーの再始動後、新規マッピングおよび変更されたマッピングは、解析されるデータに適用されません。新規マッピングおよび変更されたマッピングは、すでに解析され索引付けされたデータには影響しません。

このタスクでは、以下の XML 文書をサンプルとして使用することで、従業員 (personnel) レコードをマップし、ユーザーが特定のエレメントを直接照会できるようにする方法を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<personnel>
  <personnelrecord>
    <phone>5555</phone>
    <email>joe@us.ibm.com</email>
    <jobroles>Manager, architect
      <jobrole>Managing Search Development Group</jobrole>
      <jobrole>Architecting Search Technology</jobrole>
    </jobroles>
    <location>New York</location>
    <section id="expertise">
      <text>Linguistics</text>
    </section>
  </personnelrecord>
</personnel>
```

手順

この例の XML エレメントを検索フィールドにマップするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、XML コレクションをマップしたいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「XML エレメントをフィールドにマップ」をクリックします。
4. 「XML フィールド・マッピング」ページで、「XML マッピングの作成」をクリックします。「XML フィールド・マッピングの作成」ページが開きます。
5. 「XML ルート・エレメント名」フィールドに、ルート・エレメント名 personnel を入力します。

ここで指定する名前が、検索したい XML 文書内のルート・エレメントと完全に一致するようにしてください。エンタープライズ・サーチは、XML 文書の解析および索引付けを行う際、ルート・エレメント名に従って、どのマッピングを使用するのを選択します。

6. 「XML マッピング名」フィールドに、この XML フィールド・マッピング規則セットの名前を入力します。

XML マッピング規則セットを作成した後、この名前が「XML フィールド・マッピング」ページに表示されるので、マッピング規則の追加、削除、または変更を行う対象としてこの名前を選択できます。

7. XML エレメント jobrole を、jobrole という名前の検索フィールドにマップします。

- a. 「フィールド名」フィールドに jobrole と入力します。
 - b. 「XML エlement名」フィールドに jobrole と入力します。
 - c. jobrole フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
8. XML エlement jobroles を、同じ検索フィールドにマップします。
- a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリストに空白行を追加します。
 - b. 「フィールド名」フィールドに jobroles と入力します。
 - c. 「XML エlement名」フィールドに jobrole と入力します。

ヒント: XML エlement名は、検索フィールド名と一致する必要はなく、複数の XML エlementを同じ検索フィールドにマップできます。

- d. jobrole フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
9. 属性 expertise を持つ XML エlement section を、expertise という名前の検索フィールドにマップします。
- a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリストに空白行を追加します。
 - b. 「フィールド名」フィールドに expertise と入力します。
 - c. 「フィールド名」フィールドに section と入力します。
 - d. 「XML 属性名」フィールドに id と入力します。
 - e. 「XML 属性値」フィールドに expertise と入力します。
 - f. expertise フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に expertise 値が表示されるようにするため、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
10. 「OK」をクリックします。

例:

検索 (search) 製品を業務とする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定します。

```
jobrole:search
```

言語 (linguistics) を専門にする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定します。

```
expertise:linguistics
```

HTML 検索フィールドの作業

ユーザーが HTML 文書の特定期間メタデータ部分を検索できるようにする場合、HTML メタデータ・Elementを索引の検索フィールドにマップします。

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

HTML 検索フィールド

HTML 検索フィールドにより、ユーザーは HTML 文書の属性を照会できます。

HTML 文書のメタデータ・エレメントは、文書に関する情報を提供するという点、そのフォーマット方法、および Web 上のアクセス許可の方法の点において、文書の属性と類似しています。例:

```
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" /> ]
<meta name="copyright" content="(C) Copyright IBM Corporation 2005" />
<meta name="content.owner" content="(C) Copyright IBM Corporation 2005" />
<meta name="security" content="public" />
<meta name="abstract" content="This topic describes an IBM product." />
<meta name="format" content="XHTML" />
```

エンタープライズ・サーチは、HTML メタデータ・エレメントの名前を検索フィールド名に関連付ける、すなわちマップすることができます。コレクションの解析オプションを設定するときに、どの HTML メタデータ・エレメントをどの検索フィールド名にマップするのかを指定します。HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップすると、ユーザーは照会に検索フィールド名を指定することで、それらのエレメントを含む文書を検索できます。特定フィールドを検索する照会を使用すると、全文書コンテンツを検索するフリー・テキスト照会よりも精度の高い検索結果が得られます。

例えば、コレクションに HTML 文書が含まれていて、copyright メタデータ・エレメントと abstract メタデータ・エレメントを検索フィールドとして索引付けすると指定すると、ユーザーはこれらの特定エレメントを照会できるようになります。「copyright:IBM」で検索すると、copyright メタデータに IBM という語のある HTML 文書を検出できます。

関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

検索フィールドへの HTML メタデータ・エレメントのマッピング

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするときには、ユーザーが照会にフィールド名を指定することで検索可能な HTML エレメントを指定します。

始める前に

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、その HTML 文書が所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

HTML フィールド・マッピングを 作成したり、既存の HTML フィールド・マッピングでフィールドの追加、変更、削除を行った場合、それらの変更内容が有効にな

るのは、パーサーを停止して再始動した後です。変更は、パーサーを再始動した後で解析されたデータにのみ適用されます。すでに解析され、索引付けられている文書を更新するには、目的の文書を再度クロールして解析してから、索引を再編成する必要があります。

手順

検索フィールドに HTML メタデータ・エレメントをマップするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「HTML メタデータ・エレメントをフィールドにマップ」をクリックします。
4. 「HTML フィールド・マッピング」ページで、「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリストに空白行を追加します。
5. 「フィールド名」フィールドに、マップしようとする HTML メタデータ・エレメントと関連付けたい名前を入力します。ユーザーは、このコレクション内の HTML 文書を照会するときに、このフィールド名を指定できます。
6. 「HTML メタデータ・フィールド」フィールドに、マップした HTML メタデータ・エレメントの名前を入力します。
7. ユーザーがこのフィールドを照会し、検索結果にそれを表示できるようにするために、「フィールド名による検索」および「検索結果に表示」チェック・ボックスを選択します。
8. このフィールドのデータ・タイプが、DECIMAL、DOUBLE、INTEGER、SHORT、TIME、または TIMESTAMP で、かつ、このフィールドの検索時にユーザーがパラメトリック照会を指定できるようにしたい場合は、「パラメトリック検索」チェック・ボックスを選択します。
9. 「OK」をクリックします。

例:

これで、ユーザーは、マップ・フィールド名を照会して、特定のメタデータをもつ HTML 文書を検索できるようになりました。例えば、description という名前の HTML メタデータ・エレメントを、abstract という名前の検索フィールドにマップしてある場合、ユーザーは、以下のような照会を入力すると、Thinkpad に関する文書を検索できます。

```
abstract:thinkpad
```

カスタム・テキスト分析

カスタム・テキスト分析アルゴリズムをエンタープライズ・サーチ・コレクションと統合することにより、検索結果の品質と精度を高めることができます。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition は、IBM Unstructured Information Management Architecture (UIMA) をサポートしています。これは、テキスト分析機能の作成、ディスカバー、合成、デプロイを行うためのフレームワークです。アプ

リケーション開発者は、コンテンツが検索される分析アルゴリズムを作成し、テストしてから、エンタープライズ・サーチにアーカイブを使用するのに必要なすべてのリソースが含まれている処理エンジン・アーカイブ (.pear ファイル) を作成します。カスタム分析アルゴリズムを使ってコレクションを検索できるようにするために、アーカイブ (分析エンジンが含まれています) をエンタープライズ・サーチ・システムに追加する必要があります。

分析エンジン内の分析論理コンポーネントをアノテーター といいます。各アノテーターは、特定の言語分析タスクを実行します。分析エンジンは、任意の数のアノテーターが含まれているものであっても、また、それぞれに固有のカスタム・アノテーターが含まれているいくつかの分析エンジンの複合であっても構いません。

アノテーターによって作成された情報を、分析結果 といいます。分析結果は、検索したい情報に相当するもので、共通分析構造 と呼ばれるデータ構造に書き込まれます。

コレクションについてテキスト分析オプションを構成する際には、以下の操作を行ってください。

- コレクション内の文書に注釈を付けるのに使用する分析エンジンを選択します。
- コレクションに分かりやすいマークアップをもつ XML 文書が含まれており、このマークアップをカスタム・テキスト分析で使いたい場合は、XML マッピング・ファイルをコレクションと関連付けて、XML マッピングの出力を共通分析構造にマップします。

例えば、共通分析構造内で、<addressee> エlementおよび <customer> エlementの内容を Person 注釈にマップできます。こうすると、これらの注釈にカスタム・アノテーターからアクセスできるようになり、その他の情報を検出できます (例えば、Person の性別を検出できます)。Person 注釈をエンタープライズ・サーチ索引にマップすることもできます。こうすると、ユーザーは、元の XML エlementを知らなくても、Person を検索することができます。

ユーザーが照会で元の XML エlementを指定できるようにしたい場合、XML マッピングを定義する必要はありません。その代わりに、解析オプションを構成し、コレクションについてネイティブ XML 検索を使用可能に設定できます。

- エンタープライズ・サーチ索引に共通分析構造をマップします。これにより、注釈が付けられた文書を意味的検索で検索することができます。

例えば、アノテーターによって検出されるエンティティと関係に応じて、ユーザーは、同じ文で発生する概念や、キーワードと概念 (例えば、用語 Alex と電話番号) を検索できます。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『テキスト分析アルゴリズム』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『セマンティック検索アプリケーション』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『セマンティック検索照会』

分析エンジンとシステムとの関連付け

カスタム分析エンジンを作成する場合は、システムにそれを追加してからでないと、エンタープライズ・サーチ用に使用できません。コレクションは、分析エンジンを使用して、文書の分析と注釈付けを行い、検索結果の精度を高めることができます。

始める前に

システムに分析エンジンを追加するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

このタスクについて

アプリケーション開発者は、テキスト分析用の UIMA フレームワークに従い、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するのに必要なすべてのリソースが含まれている処理エンジン・アーカイブ (.pear ファイル) を作成できます。カスタム分析アルゴリズムを使ってコレクションを検索できるようにするために、アーカイブ (分析エンジンが含まれています) をエンタープライズ・サーチ・システムに追加する必要があります。

手順

カスタム分析エンジンをエンタープライズ・サーチ・システムに追加するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「解析」ページで、「分析エンジンの追加」をクリックします。
4. 新しい分析エンジンの記述名を入力します。システムは、この表示名を使用して、管理コンソール全体で分析エンジンを識別します。
5. 追加したいカスタム分析エンジン (.pear ファイル) の完全修飾パスを入力するか、「参照」をクリックしてシステムから該当のファイルを選択します。
6. 「OK」をクリックします。分析エンジンが「解析」ページにリストされます。
7. 分析エンジンの表示名を変更するか、この分析エンジンを使用するコレクションのリストを表示するために、 「編集」をクリックします。
8. 分析エンジンの XML ソースを表示するために、 「詳細」をクリックします。XML ソースを表示すると、分析エンジンの記述子を表示できます。記述子は、このエンジンによって作成される情報を示します。
9. 分析エンジンを削除するために、 「削除」をクリックします。分析エンジンを使用しているコレクションがある場合は、システムから除去できません。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

分析エンジンとコレクションとの関連付け

カスタム分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている場合、そのうちの 1 つを、このコレクションで使用するよう選択できます。そうすると、ユーザーは、コレクションを検索するときに意味的照会を指定し、検索結果の品質と精度を高めることができます。

始める前に

分析エンジンをコレクションと関連付けるには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

分析エンジンがすでにこのコレクションと関連付けられている場合、別の分析エンジンを関連付けるときに、以下のアクションが発生します。

- 分析エンジンを選択するときに「**カスタム分析なし**」を選択した場合、コレクションについて以前に定義したすべてのテキスト分析マッピングはリセットされます。コレクションはシステム・デフォルト値を使用し始めます。
- 別のカスタム分析エンジンを選択した場合、コレクションについて以前に定義したすべてのテキスト分析マッピングは保存されます。例えば、engine_1 から engine_2 に変更した場合、engine_2 は、engine_1 について構成された XML マッピング・ファイルを継承します。

手順

分析エンジンをコレクションと関連付けるには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「**解析**」ページで、「**テキスト分析オプションの構成**」をクリックします。
4. 「**別の分析エンジンの選択**」をクリックします。エンタープライズ・サーチ・システムにカスタム分析エンジンが追加されていない場合、またはコレクションが現在、デフォルトの分析アルゴリズムを使用している場合、分析エンジン名は **Default** です。
5. 「このコレクションの分析エンジンの選択」ページで、このコレクションで使いたい分析エンジンの名前を選択します。選択可能な分析エンジンがない場合、または「**カスタム分析なし**」を選択した場合、パーサーは、文書に注釈を付け、索引の準備をするときに、デフォルトのテキスト分析規則を適用します。
6. 「**OK**」をクリックします。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

共通分析構造への XML エLEMENTのマッピング

カスタム分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている場合、および分析エンジンが 1 つのコレクションと関連付けられている場合は、コレクション内での文書の解析に使用したいカスタム XML マッピング・ファイルを指定できます。

始める前に

XML エLEMENTを共通分析構造にマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

カスタム・テキスト分析が XML 文書内の特定のELEMENTにアクセスできるようにしたり、意味的検索で使用するために共通の Type にいくつかの XML ELEMENTをマップするために、カスタム XML マッピング・ファイルを作成できます。

XML マッピング・ファイルは、テキスト分析のための UIMA フレームワークに従うものでなければなりません。

カスタム分析エンジンを使用するコレクションに XML マッピング・ファイルを追加すると、ソース文書内の XML ELEMENTを共通分析構造内の注釈にマップすることができます。こうすると、これらの注釈をカスタム分析エンジンで使用することができます。それにより、(共通分析構造内の) 分析結果を索引にマップすることができ、ユーザーは、意味的検索を使用してコレクションを検索するときに特定の注釈を照会することができます。

例えば、共通分析構造内で、addressee ELEMENTおよび customer ELEMENTの内容を Person 注釈にマップできます。こうすると、これらの注釈にカスタム・アノテーターからアクセスできるようになり、その他の情報を検出できます (例えば、Person の性別を検出できます)。Person 注釈をエンタープライズ・サーチ索引にマップすることもできます。こうすると、ユーザーは、元の XML ELEMENTを知らなくても、Person を検索することができます。

ユーザーが照会で元の XML ELEMENTを指定できるようにしたい場合、XML マッピングを定義する必要はありません。その代わりに、解析オプションを構成し、コレクションについてネイティブ XML 検索を使用可能に設定できます。

手順

XML ELEMENTを共通分析構造にマップするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「テキスト分析オプションの構成」をクリックします。
4. 「XML エlementを共通分析構造にマップ」領域で、「マッピングの追加」をクリックします。
5. 「XML エlementを共通分析構造にマップ」ページで、XML マッピング・ファイルの記述名を入力します。
6. 追加したい XML マッピング・ファイルの完全修飾パスを入力するか、「参照」をクリックしてシステムから該当のファイルを選択します。
7. 「OK」をクリックします。目的の XML マッピング・ファイルが「テキスト分析オプション」ページにリストされます。
8. XML マッピング・ファイルの XML ソースを表示するために、 「XML ソースの表示」をクリックします。XML ソースを表示すると、XML 構造が表示され、どのように XML エlementをマップしたら情報をより多く取得できるのかが詳しくわかります。
9. XML マッピング・ファイルを削除するために、 「削除」をクリックします。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『XML 文書構造の共通分析構造へのマッピング方法』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『XML マッピング構成ファイル』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『XML マッピング・サンプルおよび出力結果』

分析結果の索引付け

カスタム分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている場合、および分析エンジンが 1 つのコレクションと関連付けられている場合は、意味的検索照会で使用したい分析結果を指定できます。

始める前に

共通分析構造を索引にマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

(共通分析構造内の) カスタム・テキスト分析の結果をエンタープライズ・サーチ索引にマップすることにより、ユーザーが意味的に的確な照会を指定して、検索結果

の品質を高めることができますようにします。分析結果を索引付けるときに、ユーザーが、カスタム分析エンジンによって追加された注釈または XML エlement が共通分析構造にマップされたときに作成された注釈を照会できるようにします。

例えば、アノテーターによって検出されるエンティティと関係に応じて、ユーザーは、同じ文で発生する概念（例えば、特定の人物と任意の競争者名）、あるいはキーワードと概念（例えば、用語 Alex と電話番号）を検索できます。

共通分析構造の索引付けは、カスタム分析エンジンをコレクションと関連付けている場合にのみ行えます。デフォルトの分析エンジンを使用する場合は、デフォルトの共通分析構造を使用する必要があります。エンタープライズ・サーチは、共通分析構造からエンタープライズ・サーチ索引へのデフォルト・マッピングを使用します。

手順

分析の結果に索引付けるには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「**テキスト分析オプションの構成**」をクリックします。
4. 「**1 つの共通分析構造を索引内の検索可能コンテンツにマップ**」領域で、「**別の分析結果のセットを選択**」をクリックします。
5. 「このコレクションの共通分析構造の選択」ページで、エンタープライズ・サーチ索引で使用したいマッピングを選択します。
 - 分析結果をエンタープライズ・サーチ索引にマッピングするためのデフォルトのシステム規則を使用したい場合は、「**デフォルト**」を選択します。分析エンジンをこのコレクションと関連付けていない場合、使用可能なオプションはこのオプションだけです。
 - 分析エンジンをこのコレクションと関連付けてある場合は、「**カスタム**」を選択して、使用したい分析結果を指定します。使用したいマッピングの完全修飾パスを入力するか、「**参照**」をクリックしてシステムから該当のファイルを選択します。
6. 「**OK**」をクリックします。選択したマッピング・ファイルが、「テキスト分析オプション」ページの「**分析結果**」フィールドにリストされます。
7. マッピング・ファイルの XML ソースを表示するために、 「**XML ソースの表示**」をクリックします。XML ソースを表示すると、ユーザーがコレクションを検索するときにアクセスできる分析結果が示されます。意味的検索を使用するか、または検索結果で戻されるフィールドを使用するなど、ユーザーが分析結果にアクセスして使用方法も示されます。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『非構造化情報管理アーキテクチャー (UIMA)』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『カスタム分析結果の索引付けの方法』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『フィーチャー・パスの定義』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『索引作成構成ファイルの作成』

ネイティブ XML 検索のサポートの使用可能化

コレクションに XML 文書が含まれている場合、ユーザーがコレクションのネイティブ XML 検索を使用可能にすることにより文書を検索するときに XML マークアップを使用できるようにすることができます。

始める前に

XML 文書をネイティブ XML 検索で検索するオプションを使用可能にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

XPath または XML フラグメントなど、ネイティブ XML 検索は、照会内で文書の XML マークアップを活用して検索結果の精度を高めることができます。例えば、ユーザーは、特定の XML エlement または属性で照会用語が発生するよう指定できます。

例えば、XML 形式のコンピューター小売業者からの送り状に、<company> Element と <computertype> Element が組み込まれている <order> 項目が含まれていることがあります。IBM ノートブックの注文が含まれている送り状を取得するために、IBM とノートブックのキーワード検索により、Dell ノートブック・コンピューターおよび IBM デスクトップ・モデルが含まれている文書が取り出されます。XML 検索を使用すると、<company> Element に IBM が出現すること、<computertype> Element に notebook が出現すること、さらに、両方の Element が同じ <order> Element の下にあることを指定できます。この方法で、IBM ノートブックを明確に論じている送り状を取得します。

手順

ユーザーがネイティブ XML 検索でコレクションを検索できるようにするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「解析」ページで、「解析オプションの構成」をクリックします。
4. 「XML 文書の検索でネイティブ XML 検索を可能にする」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

中国語、日本語、韓国語の文書の言語分析

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書の検索性を高めるには、言語分析オプションを指定します。

中国語、日本語、韓国語の文書の場合、パーサーで字句解析に N-gram セグメンテーション方式を使用することを指定できます。また、中国語および日本語の文書では、パーサーが空白から改行文字を除去するように設定できます。

N-gram セグメンテーション

コレクションの作成時に、中国語、日本語、および韓国語の文書の構文解析に使用する字句解析のタイプを選択します。

Unicode ベースの空白文字セグメンテーションでは、ワードとワードの間の区切り文字としてブランク・スペースを使用します。N-gram セグメンテーションは、任意の数の文字が並ぶ連続を単一ワードとみなします。ワードの区切り文字としてブランクを使用しない、中国語、日本語、韓国語のような言語では、N-gram セグメンテーションを使用すれば、Unicode ベースの空白文字セグメンテーションよりも質のよい検索結果を戻すことができます。

コレクションの作成時に文書の構文解析に使用するセグメンテーション方式を選択します。コレクション作成後は、構文解析オプションを表示して設定を確認することはできますが、変更することはできません。

空白文字からの改行文字の除去

中国語や日本語など、ワード境界を定めるのに空白文字が使用されない言語では、改行の原因となる特定の空白文字を除去するようパーサーを構成できます。

始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必要があります。

このタスクについて

このオプションがコレクションについて使用可能になっており、文書が中国語または日本語で作成されている場合、パーサーは、非 ASCII 文字範囲から改行文字またはタブ文字のシーケンスを除去します。以下の文字が除去されます。

- タブ (0x09)
- LF または改行 (0x0A)
- CR または復帰 (0x0D)

変更を有効にするために、パーサーを停止し、再開します。すでに解析済で、索引に入れている文書に変更を適用するには、目的の文書をもう一度クロールして解析してから、索引を再編成する必要があります。

手順

空白文字から改行文字を除去するには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. テキスト・エディターを使用して以下のファイルを編集します。ここで、`collection_ID` は、コレクションの作成時にそのコレクションについて指定された ID です (または、システムによって割り当てられたもの)。
`collection_ID.parserdriver/collection.properties`
3. `removeCjNewlineChars` プロパティの値を、`false` から `true` に変更します。

コレクション・パーサーと Stellent セッションに関連付けられた文書タイプ

クロール・スペース内の文書が正確にかつ効率的に構文解析されるように、どのタイプの文書をコレクション・パーサーで解析し、どの文書を Stellent 文書フィルター処理セッションで解析するかを指定する構成ファイルを作成できます。

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、ほとんどの文書フォーマットが標準装備の HTML パーサーまたは XML パーサーで処理されます。一定タイプの文書 (ポストスクリプト文書など) が、通常、解析されず、他に Stellent 解析機能で処理される文書タイプ (Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint、Lotus Freelance、Lotus 123、PDF、RT、および Ichitaro 文書タイプなど) があります。

メタデータは誤りを招きやすいため、プレーン・テキストおよび HTML 文書が Stellent セッションに間違っ て送信されて、それから標準装備のパーサーの 1 つに戻される可能性があり、パフォーマンスに影響を与えかねない状態になります。この状況を避けるために、構成ファイルを作成して種々のタイプの文書をどこでどのように解析するかを制御することができます。

文書タイプをコレクション・パーサーと Stellent セッションに関連付けるには、以下の作業が必要です。

1. コレクション・パーサー用の文書タイプを構成する。このステップでは、文書タイプをコレクションが使用するパーサーにマップする構成ファイルを作成します。コレクションごとに、こうした構成ファイルを 1 つ作成することができます。
2. Stellent セッション用の文書タイプを構成する。このステップでは、文書タイプをコレクションが使用する Stellent 文書フィルターにマップする構成ファイルを作成します。コレクションごとに、こうした構成ファイルを 1 つ作成することができます。
3. パーサーの停止と再始動。変更を有効にするには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、文書タイプを構成したコレクションをモニターしてから、パーサーを停止して再始動します。

文書タイプとコレクション・パーサーとの関連付け

特定の文書タイプをコレクション・パーサーと関連付けるには、構成ファイルを作成します。エンタープライズ・サーチ管理コンソールでは、このタスクのサポートはありません。

始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必要があります。

このタスクについて

構成ファイルが存在しない場合、コレクション・パーサーはデフォルトのパーサー・サービス規則を使用します。構成ファイルが存在する場合、ファイル内の規則は次のものを指定します。

- ファイル拡張子またはコンテンツ・タイプに応じて、Stellent セッションに送信したい文書。
- メタデータが不完全であるためにタイプが不明な文書の解析方法。

ファイルのフォーマットは、一連の行で、各行が以下の規則の 1 つです。

EXTENSION *extension parser*

指定の拡張子で終わる URL をもつすべての文書が、指定のパーサーによって処理されます。拡張子にピリオドを含めないでください。比較は大/小文字の区別はありません。

CONTENTTYPE *type/subtype parser*

指定のタイプ/サブタイプに一致するコンテンツ・タイプをもつすべての文書が、指定のパーサーによって処理されます。文書のコンテンツ・タイプ *t/s* を指定した場合、一致は、*t* が *type* に等しく、かつ、*s* が *subtype* に等しいか、またはサブタイプがワイルドカード (アスタリスク ***) である場合に発生します。

UNKNOWN *parser*

不明な拡張子とコンテンツ・タイプ (すなわち、クローラーにより使用可能にされていない) をもつすべての文書が、指定のパーサーによって処理されます。

DEFAULT *parser*

他のどの規則の対象にもならないすべての文書が、指定のパーサーによって処理されます。

いかなる場合でも、*parser* は、*html*、*xml*、*stellent*、または *none* を指定する必要があります。ここで、*none* は、そのタイプの文書が解析されないことを意味します。

1 つの文書に複数の規則が一致する場合は、規則の出現順は関係なく、より明確な特定の規則が優先されます。

- **EXTENSION** 規則は、**CONTENTTYPE** 規則よりも明確です。
- サブタイプが含まれている **CONTENTTYPE** 規則は、ワイルドカードをもつ規則よりも明確です。例えば、コンテンツ・タイプ *application/postscript* の規則は、*application/** の規則よりも優先されます。
- 同じ拡張子またはコンテンツ・タイプに規則が 2 つあってはなりません。規則が 2 つある場合、どちらの規則が優先されるかはインプリメンテーション次第です。

手順

文書タイプをコレクション・パーサーと関連付けるには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
2. 以下のように、構成ファイルを作成します。ここで、*collection_ID* は、構成したいコレクションを示します。
`ES_NODE_ROOT/master_config/collection_ID.parserdriver/parserTypes.cfg`
3. テキスト・エディターを使用して構成ファイルを編集し、パーサー・サービス規則を指定したら、そのファイルを保管して終了します。
4. 変更を有効にするために、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してコレクションのパーサーをモニターし、パーサーを停止して、再始動します。

例

この例では、組み込み HTML パーサーは、拡張子 `txt`、`htm`、または `html` をもつか、`text/` で始まるコンテンツ・タイプをもつ、あるいは不明な拡張子とコンテンツ・タイプをもつ、すべての文書を処理します。組み込み XML パーサーは、拡張子 `xml` をもつか、またはコンテンツ・タイプ `text/xml` をもつ、すべての文書を処理します。`application/` で始まるコンテンツ・タイプをもつ文書を含め、他の文書はすべて、Stellent セッションに送信されます。

```
EXTENSION doc stellent
EXTENSION txt htm
EXTENSION htm htm
EXTENSION html html
EXTENSION xml xml
EXTENSION ps none
CONTENTTYPE text/xml xml
CONTENTTYPE text/* htm
CONTENTTYPE application/* stellent
UNKNOWN htm
DEFAULT stellent
```

デフォルトのコレクション・パーサー・サービス規則

ファイル・タイプとコンテンツ・タイプをコレクションのパーサーにマッピングする構成ファイルを作成しない場合、文書の解析にはデフォルトの規則が使用されません。

コレクション・パーサーで使用されるデフォルトの規則は以下のようになります。

```
EXTENSION pdf stellent
EXTENSION ppt stellent
EXTENSION prz stellent
EXTENSION lwp stellent
EXTENSION doc stellent
EXTENSION rtf stellent
EXTENSION xls stellent
EXTENSION 123 stellent
EXTENSION vsd stellent
EXTENSION vdx stellent
EXTENSION jxw stellent
EXTENSION jsw stellent
EXTENSION jtw stellent
EXTENSION jaw stellent
EXTENSION juw stellent
EXTENSION jbw stellent
EXTENSION jvw stellent
```

```
EXTENSION jfw stellent
EXTENSION jtt stellent
EXTENSION jtd stellent
EXTENSION jttdc stellent
EXTENSION jtdc stellent
EXTENSION jtdx stellent
EXTENSION ps none
EXTENSION xml xml
EXTENSION txt text
EXTENSION htm html
EXTENSION html html
EXTENSION shtml html
EXTENSION xhtml html
EXTENSION asp html

CONTENTTYPE application/postscript none
CONTENTTYPE application/* stellent
CONTENTTYPE text/rtf stellent
CONTENTTYPE text/richtext stellent
CONTENTTYPE text/xml xml
CONTENTTYPE text/html html
CONTENTTYPE text/plain text

UNKNOWN html
DEFAULT html
```

文書タイプと Stellent セッションとの関連付け

Stellent 文書フィルターで解析する文書のタイプを指定するために、構成ファイルを作成します。エンタープライズ・サーチ管理コンソールでは、このタスクのサポートはありません。

始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必要があります。

このタスクについて

構成ファイルは、次のものを指定します。

- Stellent セッションによって解析されるファイル・タイプ。ファイル・タイプは、Stellent ライブラリーが認識するファイル・タイプの 1 つに一致します。
- コレクション・パーサーに送り返して、組み込みパーサーの 1 つで処理するファイル・タイプ。(このアクションが必要なのは、紛らわしいメタデータのために、コレクション・パーサーが誤って文書を Stellent セッションに送信する場合がありますからです。)
- エンタープライズ・サーチでサポートされていないためにリジェクトされるファイル・タイプ。

構成ファイルが指定されたが、存在しない場合、パーサーは開始できません。

stellent.properties ファイル内の `OutsideInSupportedTypes` プロパティーに構成ファイルが指定されていない場合、Stellent セッションのデフォルトの解析規則が使用されます。

構成ファイルには、文書タイプと、それらの取り扱い方法がリストされています。ファイルのフォーマットは、一連の行で、各行が以下の規則の 1 つです。

```
accept DEFAULT
accept ALL doctype
accept type doctype
native DEFAULT
native type doctype
reject type
```

ここで、それぞれ次のことを表します。

doctype

doctype 照会トークンに使用される値です。文書を文書タイプで検索できます。例えば、ユーザーは、PDF 文書を検索するために `$doctype::pdf` を指定できます。

type Stellent ライブラリー内の `FI_` 値の 1 つです。規則が適用された場合、*doctype* は *doctype* トークンに使用される値です。

DEFAULT

規則のタイプに応じて、受け入れられたタイプまたはネイティブ・タイプのリストにデフォルト・リストが含まれることを意味します。このオプションを選択すると、デフォルトの構成を置き換える代わりに、拡張することができます。

A11 明示的にリストされないすべてのタイプが指定の *doctype* トークンを使用して受け入れられることを意味します。

構成ファイル内の規則は、以下のように処理されます。

- `accept DEFAULT` が指定された場合のデフォルト・リストを含め、*type* について `accept` 規則がある場合、その規則は受け入れられます。
- また、*type* について `reject` 規則がある場合、その規則は受け入れられません。
- さらに、`accept ALL` が指定されている場合、その規則は受け入れられます。
- 上記以外の場合、その規則は受け入れられません。

文書タイプが受け入れられる場合、適用された規則に指定されている *doctype* 値が使用されます。この値は、解析されたコンテンツと一緒に、コレクション・パーサーに戻されます。文書タイプが受け入れられない場合に起こる動作は、以下の通りです。

- *type* のネイティブ規則 (`native DEFAULT` が指定されている場合のデフォルトの解析規則を含む) がある場合、文書は、この規則で指定された *doctype* トークンの値と一緒に組み込みパーサーに戻されます。*doctype* の値は、`txt`、`htm`、または `xml` のいずれかでなければなりません。それらは、それぞれ、プレーン・テキスト、HTML、または XML を示します。
- 上記以外の場合、文書はリジェクトされ、解析されません。

手順

文書タイプを Stellent セッションと関連付けるには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。

2. ES_NODE_ROOT/master_config/collection_ID.stellent/stellent.properties ファイルを編集します。ここで、*collection_ID* は、構成したいコレクションを示します。
3. `OutsideInSupportedTypes` プロパティに、作成している構成ファイルの絶対パスを指定します。

例えば、1 つのコレクションについて以下の構成ファイルを作成し、それを他のコレクション固有ファイルと一緒に保管できます。

```
ES_NODE_ROOT/master_config/collection_ID.stellent/stellenttypes.cfg
```

また、以下の構成ファイルを作成すると、同じ設定をすべてのコレクションで使用し、このファイルを他のシステム・レベルのファイルと一緒に保管することもできます。(この方法の場合、ステップ 2 に指定されているとおり、各コレクションの `stellent.properties` ファイルに、必ず、このパスを指定してください。)

```
ES_INSTALL_ROOT/default_config/stellent/stellenttypes.cfg
```

4. テキスト・エディターを使用して構成ファイルを作成し、Stellent 解析規則を指定したら、そのファイルを保管して終了します。
5. 変更を有効にするために、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してコレクションのパラーサーをモニターし、パラーサーを停止して、再始動します。

例

以下の構成ファイルでは、Stellent セッションは、デフォルトのリストのほかに、Microsoft Visio フォーマットを受け入れます。

```
accept DEFAULT
accept FI_VISIO3 visio
accept FI_VISIO4 visio
accept FI_VISIO5 visio
accept FI_VISIO6 visio
```

以下の構成ファイルでは、Postscript 文書がサポートされるため、`ps` という文書タイプで検索が可能です。X ピクスマップ・フォーマット (XPM) が組み込みテキスト・パラーサーに戻され、PNG イメージ・フォーマットはリジェクトされます。他のファイル・タイプはすべて受け入れられ、`other` という文書タイプで検索が可能になります。

```
accept DEFAULT
accept FI_POSTSCRIPT ps
native FI_XPIXMAP txt
accept ALL other
reject FI_PNG
```

Stellent セッション用デフォルト構文解析規則

ファイル・タイプを Stellant セッション文書フィルターにマッピングする 構成ファイルを作成しない場合、文書の解析にはデフォルトの規則が使用されます。

Stellent セッションで使用されるデフォルトの規則は以下のようになります。

```
ACCEPT FI_WORD4          doc
ACCEPT FI_WORD5          doc
ACCEPT FI_RTF             rtf
ACCEPT FI_WINWORD1       doc
```

ACCEPT FI_WINWORD1COMPLEX	doc
ACCEPT FI_WINWORD2	doc
ACCEPT FI_WORD6	doc
ACCEPT FI_WINWORD6	doc
ACCEPT FI_ICHITAR03	jxw
ACCEPT FI_ICHITAR04	jsw
ACCEPT FI_WINWORD1J	doc
ACCEPT FI_WINWORD5J	doc
ACCEPT FI_RTFJ	rtf
ACCEPT FI_WINWORD7	doc
ACCEPT FI_WORDPRO	lwp
ACCEPT FI_WINWORD97	doc
ACCEPT FI_ICHITAR08	jtd
ACCEPT FI_WORDPRO97	lwp
ACCEPT FI_WINWORD2000	doc
ACCEPT FI_WINWORD2002	doc
ACCEPT FI_WINWORD2003	doc
ACCEPT FI_123R1	123
ACCEPT FI_123R2	123
ACCEPT FI_123R3	123
ACCEPT FI_EXCEL	xls
ACCEPT FI_EXCEL3	xls
ACCEPT FI_EXCEL4	xls
ACCEPT FI_123R4	123
ACCEPT FI_EXCEL5	xls
ACCEPT FI_123R6	123
ACCEPT FI_EXCEL97	xls
ACCEPT FI_123R9	123
ACCEPT FI_EXCEL2000	xls
ACCEPT FI_EXCEL2002	xls
ACCEPT FI_EXCEL2003	xls
ACCEPT FI_FREELANCE	prz
ACCEPT FI_POWERPOINT4	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT3	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT7	ppt
ACCEPT FI_FREELANCE3	prz
ACCEPT FI_POWERPOINTMAC3	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINTMAC4	ppt
ACCEPT FI_PDF	pdf
ACCEPT FI_EXTPOWERPOINT4	ppt
ACCEPT FI_EXTPOWERPOINTMAC4	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINTMACB3	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINTMACB4	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT97	ppt
ACCEPT FI_PDFMACBIN	pdf
ACCEPT FI_POWERPOINT9597	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT2000	ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT2	ppt
NATIVE FI_HTML	htm
NATIVE FI_HTML_LATIN2	htm
NATIVE FI_HTML_JAPANESESJIS	htm
NATIVE FI_HTML_JAPANESEEUC	htm
NATIVE FI_HTML_CHINESEBIG5	htm
NATIVE FI_HTML_CHINESEEUC	htm
NATIVE FI_HTML_CHINESEGB	htm
NATIVE FI_HTML_KOREANHANGUL	htm
NATIVE FI_HTML_CYRILLIC1251	htm
NATIVE FI_HTML_CYRILLICKO18	htm
NATIVE FI_CYRILLIC1251	txt
NATIVE FI_CYRILLICKO18	txt
NATIVE FI_W2KHTML	htm
NATIVE FI_XL2KHTML	htm
NATIVE FI_PP2KHTML	htm
NATIVE FI_XML	xml
NATIVE FI_WML	xml
NATIVE FI_HTML_JAPANESESJIS	htm

NATIVE FI_WML_CHINESEBIG5	xml
NATIVE FI_WML_CHINESEEUC	xml
NATIVE FI_WML_CHINESEGB	xml
NATIVE FI_WML_CYRILLIC1251	xml
NATIVE FI_WML_CYRILLICKO18	xml
NATIVE FI_WML_JAPANESEJIS	xml
NATIVE FI_WML_JAPANESESJIS	xml
NATIVE FI_WML_JAPANESEEUC	xml
NATIVE FI_WML_KOREANHANGUL	xml
NATIVE FI_WML_LATIN2	xml
NATIVE FI_HTMLUNICODE	htm
NATIVE FI_XML_DOCTYPE_HTML	htm
NATIVE FI_XHTML	htm
NATIVE FI_ASCII	txt
NATIVE FI_ANSI	txt
NATIVE FI_UNICODE	txt
NATIVE FI_ASCII8	txt
NATIVE FI_ANSI8	txt
NATIVE FI_MAC	txt
NATIVE FI_MAC8	txt
NATIVE FI_SHIFTJIS	txt
NATIVE FI_CHINESEGB	txt
NATIVE FI_HANGEUL	txt
NATIVE FI_CHINESEBIG5	txt
NATIVE FI_LATIN2	txt
NATIVE FI_JAPANESE_EUC	txt
NATIVE FI_HEBREW_OLDCODE	txt
NATIVE FI_HEBREW_PC8	txt
NATIVE FI_HEBREW_E0	txt
NATIVE FI_HEBREW_WINDOWS	txt
NATIVE FI_ARABIC_710	txt
NATIVE FI_ARABIC_720	txt
NATIVE FI_ARABIC_WINDOWS	txt
NATIVE FI_7BITTEXT	txt
NATIVE FI_JAPANESE_JIS	txt
NATIVE FI_CENTRALEU_1250	txt
NATIVE FI_UTF8	txt
NATIVE FI_EBCDIC_37	txt
NATIVE FI_EBCDIC_273	txt
NATIVE FI_EBCDIC_277	txt
NATIVE FI_EBCDIC_278	txt
NATIVE FI_EBCDIC_280	txt
NATIVE FI_EBCDIC_284	txt
NATIVE FI_EBCDIC_285	txt
NATIVE FI_EBCDIC_297	txt
NATIVE FI_EBCDIC_500	txt
NATIVE FI_EBCDIC_870	txt
NATIVE FI_EBCDIC_871	txt
NATIVE FI_EBCDIC_1026	txt

エンタープライズ・サーチ索引の管理

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

クローラーが収集したデータを検索可能にするためには、索引を作成する必要があります。コレクションを最初に作成すると、エンタープライズ・サーチによって、当初クロールされたすべてのデータの索引が作成されます。クローラーが新規または変更されたデータ・ソースをクロールすると、エンタープライズ・サーチはその新規のコンテンツで索引をリフレッシュします。そして、リフレッシュされたコンテンツは、最終的にベースとなる索引にマージされる必要があります。このマージ・プロセスを再編成と言います。索引がリフレッシュまたは再編成されると、その新規のコンテンツが検索サーバーにコピーされ、検索可能にされます。

クローラーは、データ収集を連続的に、または定期的なスケジュールに基づいて行います。索引を頻繁にリフレッシュすれば、ユーザーが最新のデータを検索できるようになります。継続的にリフレッシュされている索引は、最終的に再編成する必要があります。リフレッシュされた索引が大きくなるにつれて、システム・リソースの消費が増大します。したがって、最適なパフォーマンスを維持するには、定期的に索引を再編成する必要があるわけです。

再編成する頻度は、以下のような条件によって異なります。

- システム・リソース (ファイル・システム・スペース、プロセッサの速度、およびメモリ)
- クロールおよび再クロールの必要がある文書数
- クロール対象のデータ・タイプ
- カテゴリ規則の変更回数 (変更は、索引を再編成しないと有効になりません)
- クローラーをスケジュールされていた時間に実行するのではなく強制始動した回数
- 外部クローラーが URI を除去または追加した回数 (外部クローラーはデータ・リスナー API によってエンタープライズ・サーチと通信します)

コレクションの文書が数百万あり、ほとんどが Web 文書で作成されている場合、索引の再編成を 1 日に 1 回、リフレッシュを 1、2 時間おきに行うのがその目安となります。

現行の、検索可能な索引を保守するには、次の作業を行います。

- 索引のリフレッシュおよび再編成スケジュールの設定
- 索引スケジュールの変更
- 索引スケジュールの使用可能/使用不可設定
- 同時索引作成の構成

また、索引のユーザー表示に影響するオプションを指定するために、以下の作業も実行できます。

- 照会用語でのワイルドカード文字使用のサポートを設定する
- ユーザーが検索できる文書の範囲を制限する有効範囲を設定する
- 検索結果で同じソースからの文書を省略表示する
- 索引から URI を除去する

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

関連タスク

216 ページの『コレクションの索引アクティビティのモニター』

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

217 ページの『エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター』

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

索引作成のスケジューリング

索引を再編成するスケジュールと、索引を新しいコンテンツでリフレッシュするスケジュールを指定できます。

始める前に

索引作成をスケジュールするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

ユーザーが検索するソースで常に最新情報にアクセスできるようにするため、索引の再編成とリフレッシュが定期的に行われるようにスケジュールしてください。索引が再編成されるときには、索引全体が再作成されます。索引作成プロセスによって、クローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータが読み込まれます。索引がリフレッシュされるときには、索引が最後に再編成されて以降にクロールされた情報が検索可能にされます。

索引作成をスケジュールするオプションは、デフォルトで選択されます。このオプションが選択されていると、スケジューラー・プロセスは、エンタープライズ・サーチが開始されるたびに索引の再編成とリフレッシュを実行するよう作業をスケジュールします。必要であればいつでも「システム始動時に有効化」チェック・ボックスをクリアして、スケジュール済みの索引作成が実行されないようにできます。例えば、問題をトラブルシューティングするときなどに、スケジュールを無効にしたいことがあります。

手順

索引作成をスケジュールするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「編集」をクリックします。
3. 「索引」ページで、「索引作成のスケジュール」をクリックします。
4. 索引が新しいコンテンツでリフレッシュされる頻度を指定するには、「索引のリフレッシュ・スケジュールの指定」領域の「索引作成のスケジュール」ページで以下のオプションを指定します。
 - a. 「開始日」領域の、「年」、「月」、「日」、「時間」「分」フィールドで、索引が最初にリフレッシュされる日時を指定します。
 - b. 「更新頻度」領域の「日」フィールドと「時間」フィールドで、索引がリフレッシュされる頻度を指定します。

通常、索引は、1 時間または 2 時間ごとのように、頻繁にリフレッシュするべきです。ソース・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整してください。例えば、毎時間 (0 日と 1 時間)、あるいは 12 時間ごと (0 日と 12 時間) などと指定します。

5. 索引が完全に再作成される頻度を指定するには、「索引の再編成スケジュールの指定」領域の以下のオプションを指定します。
 - a. 「開始日」領域の、「年」、「月」、「日」、「時間」「分」フィールドで、索引が最初に再編成される日時を指定します。
 - b. 「更新頻度」領域の「日」フィールドと「時間」フィールドで、索引が再編成される頻度を指定します。

通常、索引は、24 時間ごとのように、定期的に再編成するべきです。ソース・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整してください。例えば、12 時間ごと (0 日と 12 時間)、あるいは 2.5 日間ごと (2 日と 12 時間) などと指定します。

6. 「OK」をクリックします。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

索引スケジュールの変更

索引の再編成またはリフレッシュのスケジュールは、変更することができます。

始める前に

索引スケジュールを変更するには、操作者がエンタープライズ・サーチ管理者の役割の担当者か、またはそのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

索引スケジュールを変更するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 編集」をクリックします。
3. 「索引」ページの「月」、「日」、「年」、および「時」フィールドで該当する値を変更し、新規のコンテンツで索引をリフレッシュする頻度、または索引を再編成する頻度を指定します。
4. 「適用」をクリックします。

索引スケジュールの使用可能および使用不可設定

索引のリフレッシュおよび再編成スケジュールは、使用可能、使用不可を切り替えることができます。

始める前に

索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、操作者がエンタープライズ・サーチ管理者の役割の担当者か、またはそのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

スケジュール済みの索引作成を実行しないようにする必要がある場合、索引スケジュールを使用不可にすることができます。例えば、トラブルが発生し、それを解決するために、スケジュールされた日時に索引作成が行われないようにそのスケジュールを使用不可にすることが考えられます。

スケジュールの使用可能および使用不可設定は、コレクションの編集時、およびコレクションのモニター時に行うことができます。

手順

1. コレクションの編集で索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、次のステップに従います。
 - a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
 - b. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 編集」をクリックします。
 - c. 「索引」ページで、「システム始動時に有効化」チェック・ボックスを選択、または選択解除すると、索引のリフレッシュ・スケジュールが使用可能または使用不可になります。
 - d. 索引の再編成を使用可能または使用不可にする場合も、同様に「システム始動時に有効化」チェック・ボックスを選択、または選択解除します。
 - e. 「適用」をクリックします。
2. コレクションのモニターで索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、次のステップに従います。
 - a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
 - b. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、「 モニター」をクリックします。
 - c. 「索引」ページで、索引がスケジュール済みの場合にスケジュールされた日時に索引が作成されないようにするには、「 スケジュールを使用不可に

する」をクリックします。これで、索引は、スケジュールを使用可能にするか、「▶ 開始」をクリックして索引作成プロセスを開始するまで作成されなくなります。

- d. 索引がスケジュール済みであるが、索引作成のスケジュールが使用不可にされている場合、「🔒 スケジュールを使用可能にする」をクリックします。

索引は、索引スケジュールで指定した日時に作成されるようにキューに入られます。

索引の並行作成の構成

複数の索引が、索引付けプロセスを共用できます。プロセスを共用すると、大規模の索引の再編成で、キューで作成を待っている他の索引の可用性を妨げないようにすることができます。

始める前に

並行して索引キューに存在できる索引の数を指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

制約事項

並行する索引作成の数は、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクション数より大きくすることはできません。例えば、コレクションが 5 個ある場合、5 以下の数を入力する必要があります。

このタスクについて

索引作成は、リソース集約的なプロセスです。索引作成中には、大量のシステム・メモリーとディスク・スペースが消費されます。

エンタープライズ・サーチは、複数の索引を同時に作成できますが、同時にキューに存在できるのはコレクションごとに 1 つの索引のみです。索引作成が要求またはスケジュールされると、索引キューに入れられて処理される順番を待ちます。各コレクションには独自の索引があるので、索引キューには同時にいくつかの索引がある場合があります。索引並行作成の数を構成するとき、いくつかの索引がキューおよび索引作成用リソースを同時に共用できるのかを指定します。

例えば、並行作成では、索引付け処理は、1 つのコレクションの索引を処理し、次に他の索引の処理に移り（許可した並行作成の最大数まで）、その後、再び最初の索引の処理に戻ることができます。ある索引の作成は、キュー内のその索引に先行する他の索引の完了を待たずに処理を進行できます。

手順

索引作成キューを並行して共用できる索引の数を指定するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 🗑️ 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「索引」ページで、「索引作成オプションの構成」をクリックします。

- 「システム・レベルの索引付けオプション」ページで、システム・リソースを共用し、同時に作成可能な索引の数を入力します。
- 「OK」をクリックします。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

索引の検索可能表示に影響するオプション

文書に索引付けをすると、ユーザーが文書を検索したり検索結果に文書を表示したりする方法を制御するオプションを指定できます。

索引のユーザー表示に影響するオプションを指定するために、以下のタスクを実行します。

- 照会用語に末尾ワイルドカード文字使用のサポートを設定する。索引のワイルドカード照会のサポートを構築するか、照会処理の間に照会用語を拡張するオプションを指定します。
- ユーザーが検索できる文書の範囲を制限する有効範囲を設定する。ユーザーがコレクションを検索するとき、ユーザーは索引全体ではなく、有効範囲にある文書のみを検索します。
- 検索結果で同じソースからの文書を省略表示する。索引の URI あるいは URI パターンと一致する文書をグループ化して、検索結果に先頭の結果文書のみを表示することができます (ユーザーは、省略表示された結果文書を表示するオプションを指定できます)。
- 索引から URI を除去する。一時的に、ユーザーが索引の特定文書を検索できないようにする必要がある場合があります。

照会内のワイルドカード文字

ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を含め、指定のパターンで始まるワードを検索できるようにすることができます。

ワイルドカード照会用語は、末尾アスタリスク (*) が含まれている用語です。ワイルドカード文字が含まれている照会をユーザーが実行依頼した場合、検索結果には、その照会用語に一致する索引内のすべての文書のほか、ワイルドカード文字で表されるパターンに一致する索引内のすべての文書が含まれます。パターン・マッチングは、照会用語内の末尾の文字についてのみ行われます (例えば、sea* は、search、season、および seals に一致します)。

索引のワイルドカード設定を構成するときに、ユーザーが照会でワイルドカード文字を指定できるようにするかどうかを選択し、指定できる場合は、このサポートの提供方法を選択できます。ワイルドカード照会用語は、一致する索引内のすべての用語まで展開されます。用語展開を索引に組み込むこともできますし、照会が実行依頼されたときに用語を展開することもできます。

ワイルドカード設定に対する変更は、次の索引再編成の後で有効になります。

索引展開

ワイルドカード文字のサポートを索引に組み込むには、一致が発生するために照会用語内のパターン文字に一致する必要がある、1つのワード内の先行文字数を指定します。例えば、4を指定した場合、1つのワード内の最初の4文字が、ワイルドカード文字を使用する照会用語に一致する必要があります。

この例を示すと、ワード `technical` は、照会用語 `tech*` に一致しますが、照会用語 `te*` には一致しません。

索引が更新または再編成されると、文書内の各用語の考えられるすべての展開に、元の用語で索引付けされます。この方法は、照会処理中に用語を展開するのに追加の時間は必要でないという利点があります。ただし、この方法の場合、索引のサイズが大きくなります。つまり、大きい索引に対応できるような十分なシステム・リソースが使用可能でなければなりません。

これは、コレクションが相対的に小さい場合、または索引を作成するためのスペースと時間よりも照会応答時間を重視する場合に、とても役に立つ方法です。例えば、カタログまたは従業員ディレクトリーを検索するのに、この方法を選択できます。

照会展開

ワイルドカード文字が含まれている照会をユーザーが実行依頼したときに照会を展開し、パターン・マッチング規則を適用するには、一致を構成する照会用語のバリエーションの数を指定します。例えば、50を指定した場合、照会用語の最大50のバリエーションを、その照会用語の一致とみなすことができます。

この例を示すと、照会用語 `tech*` はワード `technical`、`technique`、`technology` と、さらに、文字 `tech` で始まる最大50個の異なるワードに一致します。

照会展開により、索引のサイズはあまり影響を受けませんが、照会パフォーマンスは低下する可能性があります。検索プロセスは、ワイルドカード設定に指定した限度まで、ワイルドカード照会用語の考えられるすべての展開に対して繰り返す必要があります。用語のバリエーションの数が、許される展開の数よりも多い場合、アルファベット順で、一致する文書が判別されます。例えば、`technique` または `technology` より前に、`technical` を `tech*` の一致とみなします。

この方法は、コレクションが相対的に大きく、しかも、索引を作成するためのスペースと時間が最小でなければならない場合に、とても役立ちます。例えば、Eメールのアーカイブ用にこの方法を選択します。その場合、索引は、急速に変化する文書に応じて増加する必要がありますが、照会応答時間はあまり重要ではありません。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

照会でのワイルドカード文字のサポートの構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションの索引作成オプションを構成するときに、ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を含められるようにしたいかどうかを指定できます。

始める前に

照会内でのワイルドカード文字のサポートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、その索引が所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

ワイルドカード設定を指定すると、変更は、次の索引の再編成後に有効になります。

手順

照会でのワイルドカード文字のサポートを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「索引」ページで、「**索引作成オプションの構成**」をクリックします。
4. 「索引作成オプション」ページで、このコレクションで使用したいワイルドカード設定を選択します。
 - ユーザーがこのコレクションを検索するときに照会用語にワイルドカード文字を指定できるようにしたくない場合は、「**ワイルドカード・サポートなし**」を選択します。
 - 索引のサイズを大きくすることによって、ワイルドカード文字のサポートを使用可能にしたい場合は、「**ワイルドカード文字のサポートを索引に組み込む**」を選択します。このオプションを選択した場合は、一致が発生するために照会用語内のパターン文字に一致する必要がある、1つのワード内の先行文字数も指定する必要があります。
 - 照会処理中に照会用語を展開したい場合は、「**ユーザーが照会を実行依頼するときに照会用語を展開する**」を選択します。このオプションは、照会パフォーマンスに影響する可能性があります。このオプションを選択した場合は、検索結果で戻ることができる照会用語のバリエーションの数も指定してください。
5. 「**OK**」をクリックします。

有効範囲

ユーザーにコレクションの限定ビューを表示する場合に、有効範囲を構成します。

有効範囲とは、索引内の関連した URI のグループのことです。有効範囲を構成することで、ユーザーが見ることができるコレクションの中の文書を制限します。ユーザーがコレクションを検索するとき、ユーザーは索引全体ではなく、有効範囲内の文書のみを検索します。この機能を使用するには、検索アプリケーションで有効範囲の検索をサポートしている必要があります。

有効範囲を作成するとき、索引にユーザーが検索できる URI の範囲を指定します。ユーザーが検索できる文書を制限することで、検索結果の中の文書をユーザーが探している情報に特定できることとなります。

例えば、技術サポート部門の URI を含んだ有効範囲と、人事管理部門の URI を含む別の有効範囲を作成することもできます。検索アプリケーションが有効範囲をサポートする場合、技術サポート部門のユーザーは、技術サポート部門有効範囲から文書を取得し、人事管理部門のユーザーは、人事管理部門有効範囲から文書を取得します。

有効範囲は必要なだけ作成できますが、多すぎるとパフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。ほとんどの検索要求が、1 つまたは 2 つの有効範囲のみをフィルタリングする必要があるように有効範囲を構成します。有効範囲には URI または URI パターンの全体を含めることができるので、同じ文書が複数の有効範囲に属することがあります。

有効範囲の構成時、変更を有効にするために、索引の再編成を 2 回行わなければならない場合があります。コレクションの索引の再編成を一度もしないうちに有効範囲を構成すると、ユーザーは、コレクションを検索できても、検索結果に有効範囲データを表示することはできません。索引をもう一度再編成して、検索結果が有効範囲の URI の範囲を反映していることを確認してください。

有効範囲を構成する前に、少なくとも 1 度は索引を再編成していれば、次の索引の再編成後に、その変更内容が有効になります。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

有効範囲の構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、ユーザーが検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パターンを指定します。

始める前に

有効範囲を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、その有効範囲が所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

検索アプリケーションで有効範囲のサポートが使用可能に設定されている場合、ユーザーはコレクションを検索する際に、有効範囲の境界を定義する URI に一致する文書のみを検索できます。

有効範囲の構成時、変更を有効にするために、索引の再編成を 2 回行わなければならない場合があります。コレクションの索引の再編成を一度もしないうちに有効範囲を構成すると、ユーザーは、コレクションを検索できても、検索結果に有効範囲

データを表示することはできません。索引をもう一度再編成して、検索結果が有効範囲の URI の範囲を反映していることを確認してください。

有効範囲を構成する前に、少なくとも 1 度は索引を再編成していれば、次の索引の再編成後に、その変更内容が有効になります。

手順

有効範囲を構成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、有効範囲を構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「索引」ページで、「有効範囲の構成」をクリックします。
4. 「有効範囲」ページで、「有効範囲の作成」をクリックします。
5. 有効範囲の名前と、有効範囲の境界を定義する URI および URI パターンを指定します。有効範囲から除外したい URI および URI パターンを指定することもできます。
6. 「OK」をクリックします。

新規有効範囲が、このコレクションに属している他の有効範囲と共に「有効範囲」ページにリストされます。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』
エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

省略表示した URI

エンタープライズ・サーチは、検索結果を編成し、索引で URI 接頭部が同じ結果文書をグループ化して、検索結果に省略表示できます。

結果が省略表示される場合、先頭の結果は、通常、左揃えで表示されます。それより下のランキングの結果は、グループ化され、先頭の結果より字下げされて表示されます。

URI 接頭部が異なる結果文書を単一のグループとして省略表示するには、それらの URI 接頭部を新しいグループ名と関連付けます。例えば、財務データを管理するサーバーが 3 つある場合、検索結果で 3 つのサーバーすべてからの文書をグループ化し、先頭の結果文書の下に低いランキングの結果を省略表示できます。

検索アプリケーションは、URI 接頭部あるいはグループ名を使用して、検索結果に文書を省略表示できます。エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションでは、先頭の 2 つの検索結果文書が表示されます。同じ URI 接頭部を持つ (あるいは、同じ URI グループに属す) 3 つ以上の結果文書が返された場合、結果を省略表示させるオプションを選択できます。

URI 接頭部とグループ名の編成方法

管理コンソールを使用して検索結果の省略表示規則を設定するとき、省略表示する文書の URI 接頭部を指定し、オプションで URI 接頭部をグループ名に関連付けることができます。

設定する URI 接頭部の順序は重要です。索引コンポーネントは、コレクションの中の各 URI の値を計算するときに、URI 接頭部の順序を使用します。それぞれの URI ごとに以下ようになります。

1. 索引コンポーネントは、検索結果の省略表示規則にある URI 接頭部を順番にスキャンします。
2. 索引コンポーネントは、索引内の文書と接頭部が一致する最初の URI 接頭部を検出すると、グループ名 (あるいは、規則でグループ名を指定していない場合は、URI 接頭部) をその文書の追加の検索語として関連付けます。
3. 文書が URI 接頭部と一致しない場合には、次のようにします。
 - Web URI の場合、索引コンポーネントは、URL のホスト名を URI 接頭部として使用します。
 - NNTP URI の場合、索引コンポーネントは、参照ヘッダーの値にある最初のメッセージ ID を URI 接頭部として使用します。

検索結果に省略表示される文書のリストに URI 接頭部を加えたら、索引コンポーネントがその URI 接頭部をスキャンをして、追加の検索語として索引内の文書に関連付ける場合の望ましい順序にそれを配置してください。

- URI 接頭部を追加しても、それをグループ名に関連付けないときは、個別の URI 接頭部を選択して、リスト内でそれを上下に移動させます。
- URI 接頭部を追加してそれをグループ名に関連付ける場合に、リスト内で URI 接頭部を上下に移動させるときはいつでも、同じグループに属している URI 接頭部のグループ全体を移動させます。(グループ内の URI 接頭部の順序は問題ではありません。個々の URI 接頭部を選択すれば、自動的にグループ全体が選択されます。)

グループ名を基準にして検索する照会構文

エンタープライズ・サーチ照会構文では、グループ名を指定して、そのグループ名に関連付けられた URI 接頭部のみを検索する機能をサポートしています。同じグループに属している文書を検索するには、以下の構文を使用してください。ここで、*group* は、グループ名か、そのグループに属している URI 接頭部のいずれかになります。

```
samegroupas:group
```

例:

```
samegroupas:hr  
samegroupas:http://mycompany.server3.com/news/
```

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

検索結果内の URI の省略表示

検索結果内で同じ URI 接頭部をもつ結果文書をグループ化し、省略表示するオプションを指定できます。異なる URI 接頭部をもつ結果文書をまとめて省略表示できるようにするグループ名も作成できます。

始める前に

検索結果を省略表示するオプションを指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

検索結果を省略表示するために行った変更は、次に索引が再編成されるまで、有効になりません。

手順

検索結果を省略表示するためのオプションを指定するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「索引」ページで、「検索結果の省略表示」をクリックします。
4. 「検索結果の省略表示」ページで、「URI 接頭部の追加」をクリックします。
5. 「結果を縮小するための URI 接頭部の追加」ページで、検索結果で省略表示したい文書の URI 接頭部を入力します。 例:

```
db2://financial/ROI/  
cm://enterprise/finance/  
http://server1.com/finance/
```

6. オプションで、この URI 接頭部と関連付けたい説明的なグループ名を入力します。いくつかのソースからの結果文書を単一グループとして省略表示するために、各 URI 接頭部を追加するときに同じグループ名を入力してください。
7. 「OK」をクリックします。
8. 「検索結果の省略表示」ページで、新しい規則を、索引コンポーネントにスキャンさせる順序で並べます。
 - URI 接頭部を追加し、それをグループ名と関連付けていない場合、新しい URI 接頭部は、リストの一番下に示されます。矢印キーを使用して、新しい接頭部を正しい位置に移動します。
 - 新しい URI 接頭部をグループ名と関連付けた場合、その URI 接頭部は、同じグループに所属する URI 接頭部のセットの一番下に示されます。矢印キーを使用して、URI 接頭部のグループ全体を正しい位置に移動します。
9. URI 接頭部またはグループ名を変更するには、目的の URI 接頭部を選択して、 「編集」をクリックします。
10. リストから URI 接頭部を除去するには、目的の URI 接頭部を選択して、 「除去」をクリックします。

索引から URI を除去

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

始める前に

索引から URI を除去するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

完全修飾 URI を指定すると、その URI はユーザーの検索結果に現れなくなります。ただし、ユーザーが同じ照会をサブミットし、その照会の結果文書が検索キャッシュに残っている場合には、除去した URI のキャッシュされた結果ページが検索結果に戻され続けます。索引が次にリフレッシュまたは再編成されるまで、検索キャッシュは更新されず、URI は索引から除去されません。

複数の URI を除去するようパターンを指定した場合、索引が次にリフレッシュまたは再編成されるまでは、そのパターンに一致する URI がユーザーの検索結果に戻され続けます。

索引から URI を除去しても、その URI はクロール・スペースから除去されるわけではありません。クローラーが次回にその文書をクロールすると、その URI が索引内に作成され、再び検索に使用可能になります。URI をクロール・スペースから除去するには、該当する文書を除外するようにクロール規則を更新し、クローラーをいったん停止して、再始動する必要があります。

手順

特定の文書の URI を索引から除去するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、変更したいコレクションを指定し、 「**編集**」をクリックします。
3. 「**索引**」ページで、「**索引から URI を除去**」をクリックします。
4. 「**索引から URI を除去**」ページで、索引から除去したい URI (または URI パターン) を入力します。

例:

```
http://domain.org/hr/*
db2://knowledgeManagement/ROI*
cm://enterprise/finance*
```

5. 「**OK**」をクリックします。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』
エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI)
は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

検索サーバーの管理

検索サーバーに指定できるオプションとして、検索結果を戻すキャッシュ・スペースを使用すること、検索結果に表示する文書サマリーの最大長を制御すること、照会用語の同義語を含む文書も検索できるようにするカスタム同義語辞書を関連付けること、および、照会に特定の用語が使用されたときに事前定義しておいた URI を検索結果に戻すことが含まれます。

ユーザーが照会をサブミットすると、検索サーバーは索引を使用して該当する文書を素早く探し出します。検索サーバーは、解析され、トークン化されたデータが保管されているエンタープライズ・サーチ・データ・ストアを使用して、該当する文書のメタデータを取得します。メタデータには、文書の URI、タイトル、説明、日付、データ・タイプなど (さらに多くのデータを格納することもできます) を入れることができます。

コレクションに対して検索サーバーを設定するときに、照会の処理方法に影響するオプションを指定することができます。これには、照会のパフォーマンスを左右する可能性のあるオプションも含まれます。

検索キャッシュの構成

照会のパフォーマンスを最適化するには、結果の文書をキャッシュに保管するように指定することができます。また、キャッシュに入れる文書用に割り当てるスペース量を設定することができます。

文書サマリーの表示最大長の設定

結果文書のほとんどで、ユーザーにとってその文書が取得したいものかどうかを見極められるように文書コンテンツのサマリーを表示します。この要約情報を表示するために、検索結果上で使用するスペースを指定することができます。

異なるデフォルト言語の指定

コレクションの文書を検索するためのデフォルト言語は、コレクション作成時に指定されていますが、必要に応じて別の言語を指定することができます。

同義語辞書の関連付け

アプリケーション開発者がカスタム同義語辞書を作成していれば、コレクションで使用する辞書を選択することができます。ユーザーがコレクションを検索すると、照会言語の同義語を含む文書が検索結果に含まれます。

クイック・リンクの構成

一定のキーワードおよび句に対して戻す URI を事前設定できます。ユーザーが照会に該当するキーワードまたは句を指定すると、事前定義された URI が検索結果と共に戻されます。クイック・リンク URI は、検索サーバーが索引検索によって戻す URI に追加される形で戻されます。

関連概念

157 ページの『エンタープライズ・サーチからの検索結果』
ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会
に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

検索キャッシュ

検索サーバーの負荷が高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフォーマンスを向上できます。

検索サーバーが検索要求を処理する場合、まず、同じ照会の結果がキャッシュにすでに存在していないかチェックされます。検索サーバーが該当する結果文書を検出できれば、検索結果をそのまますぐにユーザーに戻すことができます。該当の結果文書が見つからないと、検索サーバーは索引を検索します。

検索キャッシュが満杯になると、最も古い結果文書および頻度の低い照会の結果文書が、新たな検索結果用の場所を空けるためにキャッシュから出されます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、検索キャッシュを使用可能に設定し、また、キャッシュの容量 (結果を同時にキャッシュに入れられる照会数) を指定することができます。

検索キャッシュの設定を変更した場合、その変更を有効にするには検索サーバーを再始動する必要があります。

関連概念

8 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』
エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

検索キャッシュの構成

コレクションの検索キャッシュを使用可能または使用不可にできます。また、検索キャッシュのサイズを制御するオプションも指定できます。

始める前に

コレクションの検索キャッシュを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

検索キャッシュを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで検索キャッシュを構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「**検索**」ページで、「**検索サーバー・オプションの構成**」をクリックします。
4. 「**検索サーバー・オプション**」ページで、「**検索キャッシュを使用**」チェックボックスを選択します。

5. 「検索キャッシュ項目の最大数」フィールドに、検索キャッシュが保持できる検索結果セットの最大数を入力します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 変更を有効にするために、検索サーバーを停止し、再開します。

カスタム同義語辞書

検索結果の質を向上させるために、ユーザーがコレクションを検索するときに、その照会用語の同義語を検索できるようにします。

同義語辞書を作成し、それをエンタープライズ・サーチ・システムに追加して、コレクションに関連付けると、ユーザーが、そのコレクションを検索したときに、照会用語の同義語を含む文書を検索することができます。このように照会を拡張することで、ユーザーは、正確に照会用語と一致する文書だけでなく、興味のある文書をすべて検出できる可能性が高くなります。同義語辞書を作成するときに、どのワードとどのワードが互いに同義語であるかを定義するので、ユーザーが照会用語のあらゆるバリエーションを指定しなくても関係のある文書が見つけられるようになります。

例えば、ユーザーの組織で、部門や設備などを頭字語や省略語を使用して参照している場合もありますし、ユーザーのコレクション内の文書に、業界固有の用語が含まれている場合もあります。同義語辞書を作成すれば、頭字語 (例えば ACL など) を含む照会で、その頭字語を拡張したもの (例えば、ACLs、アクセス制御リスト (access control lists)、アクセス制御 (access controls) など) を扱う文書を返すことができます。

エンタープライズ・サーチ照会言語では、照会用語の前にチルド演算子を付加して同義語を指定することをサポートしています。例えば、`~WAS` という照会では、WebSphere Application Server を扱う文書を返すことができます。また、アプリケーション開発者は、照会のプロパティによって同義語サポートを使用可能にでき、これには特別な構文は必要ありません。

同義語辞書には、ワードのさまざまな変形を含み、以下のような特性があります。

- ワードは、言語に固有なものではないが、異なる言語で使用されることがある。コレクションごとに 1 つだけ同義語辞書があります。
- ワードは、語尾変化をしない。あらゆるすべての語尾変化は、同義語リストに追加する必要があります。例えば、ワードの単数形と複数形の語尾変化の場合もあります (ACL と ACLs など)。

同義語辞書に追加する用語のほとんどは、厳密な意味で同等です。つまり、用語 A が用語 B の同義語である場合、すなわち B は A の同義語です。A が照会で使用されるたびに、B が使用され、その反対もまた真です。

ただし、ある用語の異なる用途に対応する用語を追加することもでき、これにはその用語の汎用的変形、あるいはより特定のな変形も含まれます。例えば、1 つの同義語グループは building と house を含み、もう 1 つのグループは bank、shore、と credit union を含みます。

用語と用語の関係が厳密でないほど、検索結果は大きくなり、検索結果によっては照会に関係ないものになる場合があります。 Search and Index API では、ユーザーが検索要求をサブミットしたときに、適切な同義語を選択できるようにする方法や、ユーザーに照会用語がどの同義語に拡張されたかを示す方法もあります。

照会用語に空白文字を含む同義語を使うとき、その用語は二重引用符で囲んで示す必要があります。 WAS のような頭字語を入力すると、その拡張された形式が検出されます。しかし、その句を二重引用符で囲まないで WebSpere Application Server と入力すると、頭字語の WAS は検出されません。

同義語辞書を作成するには、そのコレクションの主題についてのエキスパートが XML フォーマットで同義語リストを作成する (あるいは、アプリケーション開発者と一緒に作業して XML ファイルを作成する) 必要があります。それから、DB2 II OmniFind Edition で提供されるツールを使用して、XML ファイルをバイナリー (.dic ファイル) に変換する必要があります。エンタープライズ・サーチ管理者は、このバイナリーをシステムにアップロードし、表示名を割り当てます。コレクション管理者は、コレクションに検索サーバー・オプションを設定するときに、コレクション内の文書の検索に使用する同義語辞書を選択します。

同義語辞書をシステムとコレクションに関連付けるには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

要件: カスタム同義語辞書をシステムに追加後は、それを編集することができません。コレクションに使用可能な同義語を修正するには、以下のようになります。

1. ソース XML ファイルを更新します。
2. XML ソースを新規ディクショナリー・ファイルに変換します。
3. 同義語辞書を使用するコレクションから同義語辞書を削除します。
4. システムから同義語辞書を削除します。
5. 同義語辞書の新しいバージョンをシステムに追加します。

関連概念

8 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれているテキスト分析』

検索アプリケーションの同義語サポート

照会用語の同義語を含む文書を検索することで検索結果を拡張することができます。

エンタープライズ・サーチの Search and Index API (SIAPI) インターフェースは、ユーザーが照会用語の同義語を検索する方法を複数サポートしています。

- SIAPI 照会構文は、同義語の拡張のチルド (~) 演算子をサポートしています。ユーザーがこの演算子を照会用語の先頭に付加すると、そのワードに対する同義語

の拡張が実施されます。例えば、~WAS という照会は、WebSphere Application Server を扱う文書を返し、この省略語について存在するその他の同義語を返します。

- 同義語の拡張は、検索アプリケーション内から SI-API 同義語の拡張インターフェースを使用して使用可能にすることができます。照会用語が自動的に拡張されて同義語を含むようになるか、あるいは、検索アプリケーションに、照会用語の同義語を検索結果に戻すかどうかをユーザーが指定できるオプションが含まれている場合があります。

同義語の自動拡張の間に、照会のすべてのワードとコンテンツ・フィールドに対して同義語の検索が行われます。検索結果には、照会用語か照会用語の同義語のいずれかを含む文書が入ります。また、検索結果には、どの用語がどの同義語に拡張されたかが表示されます。

ユーザー主導型のシナリオでは、照会が実際に行われる前に、それぞれの照会ワードに対してどの同義語が検出されたかを検索アプリケーションがユーザーに示します。その後、ユーザーはどの用語を検索に含めるかを選択するか、あるいは、再度検索の式を立て直して、元の照会用語を削除します。このシナリオで、ユーザーは、照会にどの用語を組み込むか、すなわち、厳密に同じ値か、あるいは、ワードの多様な意味や用法を含むか、いずれかを制御します。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれているテキスト分析』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『Search and Index API (SI-API)』

同義語に使用できる XML ファイルの作成

照会用語の同義語を含めるためにエンタープライズ・サーチで照会を展開するには、XML ファイルで、互いに同義語とみなされるワードを指定する必要があります。

このタスクについて

同義語をリストする XML ファイルは、以下の例に示すスキーマに適合する必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<synonymgroups xmlns="http://www.ibm.com/of/822/synonym/xml">
  <synonymgroup>
    <synonym>Think Pad</synonym>
    <synonym>Notebook</synonym>
    <synonym>Notebooks</synonym>
  </synonymgroup>
  <synonymgroup>
    <synonym>WebSphere Application Server</synonym>
    <synonym>WAS</synonym>
  </synonymgroup>
</synonymgroups>
```

制約事項

互いに同義語 (<synonym> エlement) であるワードを <synonymgroup> Element でグループ化する必要があります。同義語には、空白文字を含めることができます

が、コンマ (,) または垂直バー (|) などの句読文字は含めることができません。これらの文字は、エンタープライズ・サーチ照会構文を妨げる可能性があるためです。

同義語として追加する用語の、考えられるすべての語尾変化を列挙する必要があります。アクセントまたはウムラウトの除去といった、用語の正規化を列挙する必要はありません (エンタープライズは正規化を自動的に処理します)。例えば、用語 `météo` を同義語として含めたい場合、用語 `METEO` も含める必要はありません。

手順

エンタープライズ・サーチの同義語のリストを作成するには、次のようにします。

1. XML ファイルを作成します。XML 構文エラーを避けるために、選択した XML エディターまたは XML オーサリング・ツールを使用します。
2. `<synonymgroup>` エレメントを追加してから、同義語グループの他のワードの同義語として扱われる各ワードの `<synonym>` エレメントを挿入します。

マッピングは、必ず、`<synonymgroups xmlns="http://www.ibm.com/of/822/synonym/xml">` エレメントに入れてください。名前空間 (`xmlns` 属性に指定) は、表示どおりでなければなりません。

3. エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書を検索するのに使用したい同義語をすべて指定するまで、上のステップを繰り返します。
4. XML ファイルを保管して、終了します。

XML ファイルを作成したら、エンタープライズ・サーチ・システムに追加できるように、それを同義語辞書に変換する必要があります。

関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『文字の正規化』

同義語辞書の作成

同義語のリストを XML ファイルで作成または更新した後で、その XML ファイルを同義語辞書に変換する必要があります。

このタスクについて

同義語辞書を作成するには、DB2 II OmniFind Edition と一緒に提供される、`essyndictbuilder` というコマンド行ツールを使用します。このツールは、`ES_INSTALL_ROOT/bin` ディレクトリーにあります。

ツールへの入力、同義語がリストされる XML ファイルで、ツールからの出力は同義語辞書です。辞書は、接尾部 `.dic` をもっている必要があります。例えば、`c:\mydictionaries\products.dic` です。

どちらのファイルも、デフォルトの場所は、スクリプトが呼び出されるディレクトリーです。同じ名前をもつ辞書が存在する場合、スクリプトがエラーを出します。

手順

エンタープライズ・サーチの同義語辞書を作成するには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
2. 以下のコマンドを入力します。ここで、*XML_file* は、同義語のリストが含まれている XML ファイルまでの完全修飾パスであり、*DIC_file* は、同義語辞書までの完全修飾パスです。

UNIX: `essyndictbuilder.sh XML_file DIC_file`

Windows: `essyndictbuilder.bat XML_file DIC_file`

同義語辞書を作成したら、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、辞書をエンタープライズ・サーチ・システムに追加し、それを 1 つまたは複数のコレクションと関連付けます。

エンタープライズ・サーチ・システムには、生成された .dic ファイルだけがアップロードされます。ソース XML ファイルは、必ず、適切なバックアップ方針が整った状態で、アクセス制御された環境に保持してください。同義語辞書の更新には、この XML ファイルが必要です。

同義語辞書とシステムとの関連付け

コレクション内で文書を検索するためにカスタム同義語辞書を作成する場合、辞書をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付ける必要があります。コレクションの検索に使用したい同義語辞書を、後で選択できます。

始める前に

エンタープライズ・サーチ照会で使用するためにカスタム同義語辞書を追加するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

手順

同義語をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けるには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「検索」ページで、「同義語辞書の追加」をクリックします。
4. 「同義語辞書の追加」ページで、同義語辞書の固有の表示名を入力し、オプションで、説明を入力します。
5. 同義語辞書 (.dic ファイル) の完全修飾パスを入力するか、「参照」をクリックして、システム上でファイルを見付けます。
6. 「OK」をクリックします。カスタム同義語辞書が、エンタープライズ・サーチ・システムに追加され、コレクションの検索に使用できるようになります。

同義語辞書とコレクションとの関連付け

同義語辞書がエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている場合、そのうちの 1 つを選択して、コレクションの検索時に使用できます。照会用語が辞書内の用語に一致した場合、その用語の同義語が含まれている結果文書も、検索結果に入れて戻されます。

始める前に

コレクションの同義語辞書を選択するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

同義語辞書をコレクションと関連付けるには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「検索」ページで、「**検索サーバー・オプションの構成**」をクリックします。
4. 「検索サーバー・オプション」ページの「**同義語辞書名**」フィールドに、ユーザーがこのコレクションを照会するときを使用したい同義語辞書の名前を入力します。

使用できる同義語辞書のリストに、エンタープライズ・サーチ・システムに追加されたすべての同義語辞書が含まれます。

5. 「**OK**」をクリックします。

クイック・リンクに関する作業

クイック・リンクは、ユーザーが特定の語句を含む照会をサブミットしたときに検索結果に戻される 文書を指しています。

コレクションのクイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

クイック・リンク

クイック・リンクを使用すると、照会用語と関連があると事前指定された文書へのリンクをユーザーに 提供できるようになります。

クイック・リンクは、照会に特定の語句が含まれる場合に、検索結果に自動的に入れるようにする URI です。通常、クイック・リンク URI は結果リストの先頭に表示され、照会に適合するとあらかじめ設定した文書をユーザーが確実に参照できるようになっています。

クイック・リンクは、他の検索結果に追加する形で戻されます。検索プロセスでは、照会用語に一致する文書がないか索引を検索し、それらの文書の URI をクイック・リンクの URI に追加して戻します。

クイック・リンクを構成する場合、その URI を示すタイトルと要約を指定して、ユーザーがその文書の内容を把握し、それがそのユーザーが取得したい対象の文書かどうかをすぐに判断できるようにすることができます。

例えば、URI 「<http://www.ibm.com/education/us/>」ならば、「米国 IBM 教育関係サイト」というタイトルをつけ、要約として「米国内の教育関係者、専門家、および学生向けソリューション、製品、およびリソースの紹介」などと設定します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションでクイック・リンクを使用するには、クイック・リンクを表示するオプションが検索アプリケーションで使用可能になっていなければなりません。検索アプリケーションによっては、ユーザーがコレクションの検索時にクイック・リンクを戻す機能を使用可能/使用不可に設定できる場合があります。

関連概念

8 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』
エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

クイック・リンクの構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、文書の URI を、それを検索結果に含ませるためのキーワードと関連付けます。

始める前に

クイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのクイック・リンクが所属するコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

クイック・リンクのキーワードおよび URI の指定方法の例を参照するには、クイック・リンクを作成または編集しているときに「ヘルプ」をクリックしてください。

変更を有効にするのに、検索サーバーを再始動する必要はありません。

手順

クイック・リンクを構成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、クイック・リンクを構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
3. 「検索」ページで、「クイック・リンクの構成」をクリックします。
4. 「クイック・リンク」ページで、「クイック・リンクの作成」をクリックします。
5. このクイック・リンクが検索結果に戻されるようにするためのキーワードと句、この照会に関連すると事前判定した文書の URI、このクイック・リンクのその他のオプションを指定します。

1 行につき、1 つまたは複数のキーワードを指定するか、1 つの句 (2 つ以上の語を引用符で囲んだもの) を指定します。キーワードはスペースで区切ります (コンマを使用してキーワードを区切ることはできません)。Enter キーを押すと改行されます。

6. 「OK」をクリックします。

「クイック・リンク」ページに、このコレクションに属している他のクイック・リンクと共に新しいクイック・リンクがリストされます。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』
エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI)
は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

サンプル検索アプリケーション

サンプル検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチで使用可能な多くの検索、取り出し機能を実際に試すことができます。サンプル・アプリケーションは、企業の目標を反映する、対話式のカスタム検索アプリケーションを作成するために、IBM Search and Index API (SIAPI) の使用方法を示す実施例でもあります。

デフォルトの構成ファイルのプロパティを変更しないかぎり、サンプル検索アプリケーションを使用して、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのアクティブ・コレクションを検索することができます。新しいコレクションをユーザーに提供する前に、サンプル検索アプリケーションを使用したテストができます。

サンプル・アプリケーションは、それを使用する前に、エンタープライズ・サーチ管理コンソールで、特定のコレクション (あるいはすべてのコレクション) に関連付ける必要はありません。実稼働環境では、エンタープライズ・サーチ管理者が、さまざまなコレクションをどの検索アプリケーションで検索できるかを制御します。

カスタム検索アプリケーション

作成した検索アプリケーションは、IBM WebSphere Application Server 環境で独立型 Web アプリケーションとして実行することも、IBM WebSphere Portal 環境で、ポータルレットとして起動することもできます。Search and Index API を使用することによって、サンプル検索アプリケーションのように、両方の環境でシームレスに機能する検索アプリケーションを設計できます。

関連概念

8 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

12 ページの『エンタープライズ・サーチのカスタマイズ』

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すれば、カスタム検索アプリケーション、コレクションのコンテンツを更新するカスタム・アプリケーション、テキスト分析用のプログラム、およびカスタム同義語辞書を作成することができます。

13 ページの『エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション』

カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用のサンプル検索アプリケーションを使用することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『照会構文』

157 ページの『照会方式の種類』

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、さまざまな照会方式をサポートしており、その多くはインターネット検索でユーザーも慣れ親しんだ検索機能です。

157 ページの『エンタープライズ・サーチからの検索結果』

ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

172 ページの『検索アプリケーション ID を使用したセキュリティー』

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、各コレクションを検索できる検索アプリケーションを指定します。

173 ページの『文書レベル・セキュリティー』

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

186 ページの『ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー』

IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『Search and Index API (SI-API)』

コレクションとの検索アプリケーションの関連付け

新規の検索アプリケーションを使用するには、その検索アプリケーションを、それが検索できるコレクションに 関連付けておく必要があります。

始める前に

検索アプリケーションを、それが検索できるコレクションに関連付けるには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

手順

検索アプリケーションを 1 つ以上のコレクションに関連付けるには、次のようにします。

1. 管理コンソールのツールバーで「**セキュリティー**」をクリックします。
2. 「検索アプリケーション」ページで、「**検索アプリケーションの構成**」をクリックします。
3. 「検索アプリケーションとコレクションの関連付け」ページで、「**検索アプリケーションの追加**」をクリックします。
4. 検索アプリケーションの名前を入力します。
5. アプリケーションが検索できるコレクションを選択します。
 - 検索アプリケーションがすべてのコレクションをアクセスするようにするには、「**すべてのコレクション**」をクリックします。

- 検索アプリケーションが指定したコレクションのみをアクセスするようにするには、「特定のコレクション」をクリックします。

このオプションを選択すると、コレクション名のリストが表示されます。アプリケーションが検索できるコレクションごとに、その「選択」チェック・ボックスを選択します。

- 「OK」をクリックします。

サンプル検索アプリケーションの機能

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションを使用して、カスタム検索アプリケーションに構築できる検索機能のほとんどを実際に試してみることができます。このアプリケーションを使用して、一度に 1 つ、一度に複数、あるいは一度にすべてのコレクションの検索を行うことができます。

コレクション・レベル機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 検索するコレクションを選択する (実稼働環境では、エンタープライズ・サーチ管理者がユーザーの検索アプリケーションに関連付けたコレクションのみが、コレクションのリストに表示されます)。
- 新規コレクション、および既存のコレクションの変更を利用できるようにするために、コレクションのリストをリフレッシュする。

照会機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 単純なフリー・テキストの照会を指定する。
- 検索結果の精度を上げるために、より複雑な照会を指定する。例えば、文書内の特定のフィールドを検索できます。あるいは、構文表記法を使用して、特定の句を含んだり、特定の語を含まない文書を検索できます。
- 照会域のサイズを制御する。例えば、照会域を最大にして複雑な照会を入力してから、その照会をサブミットする前に照会用語を検討することができます。
- 特定のタイプの文書を検索する。コレクションに複数のデータ・ソース・タイプが含まれている場合、特定のタイプのデータを検索することもできます。例えば、Microsoft Word 文書のみであったり、PDF 文書のみであるなどです。
- コレクションのすべてのソースではなく特定のデータ・ソースを検索する。
- 使用する照会用語の言語を指定する。
- 検索結果に特定のフィールドの表示を指定する (通常、管理者がどのフィールドを検索結果に表示するかを決定しますが、追加のフィールドを要求できます)。
- 照会ストリングの中にミススペルの可能性のある語があれば、スペルの修正候補のプロンプトを出す。
- 照会を拡張して、照会用語の同義語を含める。同義語辞書がコレクションに関連付けられている場合、ユーザーの照会言語の同義語を含む文書が検索結果に戻されます。

- コレクションの特定のサブセットを検索する。例えば、検索アプリケーションは、事前に定義された文書の範囲 (有効範囲) にビューを制限できます。あるいは、指定されたカテゴリーに属する文書のみを検索する照会をサブミットできません。

検索結果機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 照会にマッチングした検索結果を表示する。検索結果の表示は、いつでもクリアできます。
- 各ページに表示する結果文書数を制御し、結果セットの間で前方または後方を参照する。
- 結果文書についての詳細を表示、または非表示にし、さらに結果文書のサマリーを表示、または非表示にする。例えば、文書タイトルを参照したり、各文書のサマリーと追加のフィールドを表示したりできます。
- 同じソースからの文書を省略表示する。例えば、1 つのソースが 100 件の文書を返す場合、結果セットの中では、もっとも関連する 2 文書がグループ化されて表示されます。残りの 98 文書は、それらを表示するオプションを選択すると表示されます。
- 検索結果の中の文書を、特定の言語に制限する。
- 関連性で文書をソートしたり、文書の日付の昇順にあるいは降順に文書をソートする。
- 結果の文書が属するカテゴリーについての情報を表示し (コレクションがカテゴリーを使用する場合)、特定のカテゴリーに属する文書のみを参照する。
- URI をクリックして、Web、NNTP、あるいは Microsoft Exchange Server 文書を取得する。
- クイック・リンクをクリックして、文書を取得する。クイック・リンクは、キーワードを URI に関連付けます。指定されたキーワードが照会の中に含まれていれば、関連した URI (これは、これらのキーワードに高い関連があると事前に決められている) が 検索結果の中に表示されます。

関連概念

13 ページの『エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション』カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

サンプル検索アプリケーション・プロパティの編集

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションは、システムの中のあるすべてのアクティブなコレクションを検索できます。プロパティ・ファイルを編集して、Web サーバー環境のオプションを指定したり、デフォルト・アプリケーションとして異なる検索アプリケーションを使用したりできます。

このタスクについて

インストール・プログラムは、エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションを、エンタープライズ・サーチの検索サーバー上の IBM WebSphere

Application Server にデプロイします。この検索アプリケーションを構成するには、そのアプリケーションと一緒にデプロイされるプロパティ・ファイル `config.properties` を編集します。

プロパティ・ファイルを編集するときに、Web サーバーでサンプル検索アプリケーションを使用することについての情報を指定します。

手順

デフォルトの検索アプリケーションのプロパティを構成するには、次のようにします。

1. 標準のテキスト・エディターで、`config.properties` ファイルを編集します。

`config.properties` ファイルは、以下の場所にインストールされています。ここで、`ES_INSTALL_ROOT` は、検索サーバー上の DB2 II OmniFind Edition のインストール・ディレクトリです。

```
ES_INSTALL_ROOT/installedApps/ESSearchApplication.ear/  
ESSearchApplication.war/WEB-INF/config.properties
```

2. ユーザーの環境の以下のプロパティを編集してから、ファイルを保管し、終了します。

applicationName

有効な検索アプリケーションの名前を指定します。デフォルト値は `Default` です。

サンプル検索アプリケーションをデフォルト・アプリケーションとして使用せず、その代わりに別のアプリケーションを使用する場合は、デフォルト値を変更します。

ヒント: アプリケーション名が `Default` の場合は、サンプル検索アプリケーションを使用して、1 回の照会ですべてのコレクションを検索できます。

hostname

WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように構成された、Web サーバーの完全修飾のホスト名を指定します。デフォルト値は `localhost` です。

検索アプリケーションが正しく機能するように、デフォルト値を、Web サーバーおよび WebSphere Application Server が使用するよう構成されている完全修飾ホスト名に変更します。例えば、コンピューターのホスト名が `MyMachine` で、Web サーバーがそのホスト名として `www.ibm.com` を使用するよう構成されている場合、`www.ibm.com` を指定します。

port

WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように構成された Web サーバーのポート番号を指定します。デフォルト値は `80` です。Web サーバー・インスタンスのポートを変更した場合にのみ、デフォルト値を変更します。

timeout

検索要求がタイムアウトになるまでに検索サーバーからの応答を待つ時

間の長さを秒数で指定します。この数値は整数でなければなりません (60.5 や sixty ではなく、60)。タイムアウト値を指定しない場合、デフォルト値は 30 秒です。

username

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にした場合は、ユーザー名を使用します。このユーザー名により、エンタープライズ・サーチは、検索要求を受け取った時点でユーザー認証を実行し、WebSphere Application Server でユーザーを認証することができます。

password

指定した username のパスワードを指定します。

3. WebSphere 管理コンソールを使用して、ESSearchApplication アプリケーションを停止して、再始動します。

- a. 検索サーバーで、WebSphere Application Server管理コンソールを開始します。

このプログラムは、Windows の「スタート」メニューを使って開始することもできますし、Web ブラウザーを開き、`hostname:port/admin` にアクセスすることもできます。ここで、`hostname` は検索サーバーのホスト名、`port` は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。

- b. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Serverユーザー・レジストリーに登録されているユーザー名とパスワードを入力します。ユーザー・レジストリーとしてローカル・オペレーティング・システムを使用している場合は、エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワードを指定できます。
- c. 管理コンソールにログインしたら、「アプリケーション」をクリックし、さらに「エンタープライズ・アプリケーション」をクリックします。
- d. ESSearchApplication のチェック・ボックスを選択して、「停止」をクリックします。
- e. アプリケーションが停止したら、そのアプリケーションのチェック・ボックスをもう一度選択して、「開始」をクリックします。

関連概念

13 ページの『エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション』カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

サンプル検索アプリケーションへのアクセス

Web ブラウザーで URL を指定することにより、サンプル検索アプリケーションにアクセスします。

始める前に

サンプル検索アプリケーションは、ご使用の Web サーバー環境に合わせて構成する必要があります。

このタスクについて

サンプル検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーにインストールされています。このアプリケーションをそのまま使用してコレクションをテストし、その後で、それらのコレクションをユーザーにも使用できるようにすることができます。また、このアプリケーションをモデルとして使用して、独自の検索アプリケーションを作成することもできます。

手順

サンプル検索アプリケーションを開始するには、次のようにします。

1. Web ブラウザーで検索アプリケーションの URL を入力します。 例:

```
http://SearchServer.com/ESSearchApplication/
```

SearchServer.com は、検索サーバーのホスト名です。

Web サーバーがポート 80 を使用するように構成されていない場合は、正しいポート番号を指定することも必要です。例:

```
http://SearchServer.com:9080/ESSearchApplication/
```

2. WebSphere Application Server でセキュリティーが使用可能になっている場合は、有効なユーザー ID とパスワードを使ってアプリケーションにログインします。

検索アプリケーションで使用可能なコレクションのいずれかがセキュリティーについて使用可能になっている場合や、機密保護機能のあるコレクションに Lotus Notes 文書が含まれている場合は、ユーザー・プロファイルを構成できます。

「マイ・プロファイル」ページで、LDAP ディレクトリーおよび各種の Lotus Notes データ・ソースにアクセスするために信用証明情報を指定します。そうすると、それらのソースに容易にログインして、検索できます。

3. 「検索」ページで、検索したいコレクションを選択し、照会を実行依頼します。

関連概念

13 ページの『エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション』カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

サンプル検索アプリケーションに対するセキュリティーの使用可能化

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にし、サンプル検索アプリケーションを使用して機密保護機能のあるコレクションを検索しようとする場合は、サンプル検索アプリケーションおよび WebSphere Application Server で構成設定を変更する必要があります。

始める前に

- エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。
- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定する必要があります。 DB2 II OmniFind Edition を複数サーバー構成としてインス

トールした場合は、検索サーバーでグローバル・セキュリティーを使用可能にします。グローバル・セキュリティーを使用可能にする方法については、資料「WebSphere Application Server」を参照してください。

- WebSphere Application Server のユーザー・レジストリー用に Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を選択する場合、エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワードを LDAP レジストリーに追加する必要があります (この ID とパスワードは、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されています)。

例えば、エンタープライズ・サーチ管理者 ID が adminUser の場合、LDAP レジストリーのユーザー項目は uid=adminUser,ou=Employees,o=IBM,c=US です。手順については、LDAP サーバーの資料を参照してください。

コレクションに Lotus Notes データ・ソースが含まれており、照会処理時に現行のユーザー信用証明情報を確認したい場合、WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーに LDAP を使用する必要があります。

手順

サンプル・アプリケーションに対するセキュリティーをエンタープライズ・サーチで使用可能にするには、次のようにします。

1. 管理コンソールの検索アプリケーション・プロパティーを更新します。
 - a. エンタープライズ・サーチ管理コンソールに、エンタープライズ・サーチ管理者特権をもつユーザーとしてログインします。
 - b. ツールバーで「**セキュリティー**」をクリックします。
 - c. 「検索アプリケーション」ページで、「**検索アプリケーションの構成**」をクリックします。
 - d. 「**検索アプリケーションの追加**」をクリックし、「**検索アプリケーション名**」フィールドに、DB2 II OmniFind Editionのインストール時に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者 ID を入力します。
 - e. 「**すべてのコレクション**」が選択されていることを確認して、「**OK**」をクリックします。
2. 次のようにして、config.properties ファイルを編集します。
 - a. UNIX を使用している場合は、コンソール・ウィンドウを開きます。Microsoft Windows を使用している場合は、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
 - b. サンプル検索アプリケーションの WEB-INF ディレクトリーに移動します。以下の例は、読みやすいように 2 行に示してありますが、コマンドは、1 行に指定してください。

UNIX:

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/installedApps/ESSearchApplication.ear/  
ESSearchApplication.war/WEB-INF
```

Windows:

```
cd %ES_INSTALL_ROOT%\installedApps\ESSearchApplication.ear\  
ESSearchApplication.war\WEB-INF
```

- c. テキスト・エディターを使用して config.properties ファイルを編集します。

- d. `username` プロパティを有効な WebSphere Application Server ユーザーの名前に変更します。
 - e. `password` プロパティを、指定されたユーザー ID のパスワードに変更します。
 - f. ファイルを保管して、終了します。
3. WebSphere Application Serverで ESSearchApplication アプリケーションを再始動します。
- a. 検索サーバーで、WebSphere Application Server管理コンソールを開始します。

このプログラムは、Windows の「スタート」メニューを使って開始することもできますし、Web ブラウザーを開き、`hostname:port/admin` にアクセスすることもできます。ここで、`hostname` は検索サーバーのホスト名、`port` は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。

- b. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティを使用可能にしたときに指定した管理者 ID とパスワードを入力します。
- c. 管理コンソールにログインしたら、「アプリケーション」をクリックし、さらに「エンタープライズ・アプリケーション」をクリックします。
- d. ESSearchApplication のチェック・ボックスを選択して、「停止」をクリックします。
- e. アプリケーションが停止したら、もう一度 ESSearchApplication のチェック・ボックスを選択して、「開始」をクリックします。

関連概念

13 ページの『エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション』カスタム検索アプリケーションを作成する場合、そのテンプレートとしてエンタープライズ・サーチ用の サンプル検索アプリケーションを使用することができます。

エンタープライズ・サーチからの検索結果

ユーザーが検索アプリケーションに照会を入力すると、検索プロセスでは照会に指定された用語および条件に照らして最も適合する結果を戻します。

エンタープライズ・サーチの検索サーバーは、豊富な照会構文をサポートし、次のようなさまざまな技法を使用して、最も適合性の高い検索結果を生成します。

- テキスト・ベースのスコアリング
- 静的ランキング結果
- 文書コンテンツの動的要約
- 同じ Web サイトの結果の省略表示

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

137 ページの『検索サーバーの管理』

検索サーバーに指定できるオプションとして、検索結果を戻すキャッシュ・スペースを使用すること、検索結果に表示する文書サマリーの最大長を制御すること、照会用語の同義語を含む文書も検索できるようにするカスタム同義語辞書を関連付けること、および、照会に特定の用語が使用されたときに事前定義しておいた URI を検索結果に戻すことが含まれます。

照会方式の種類

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、さまざまな照会方式をサポートしており、その多くはインターネット検索でユーザーも慣れ親しんだ検索機能です。

フリー・テキスト検索

エンタープライズ・サーチ索引は、さまざまなデータ・ソースのコンテンツで構成されるフルテキスト索引です。このすべてのコンテンツについて、自然言語で単純照会を指定することによって検索することができます。検索プロセスでは、すべてのフィールドおよびコンテンツを検索し、照会に適合する文書を検出します。

例:

フリー・テキスト検索は、次の例に示すように単純な照会です。

bicycle chain

文書中に含まれるべき語、含まれてはならない語を示したい場合、特殊な表記を入れればそのような指定が可能です。例えば、正符号 (+) を単語の前に置くと、文書にその語と一致する語がなければならないことを指定します。また、負符号 (-) を

単語の前に置くと、その語を含む文書を検索結果から除外します。複数の語を引用符 (") でくくると、その句全体に正確に一致するものを対象として検索が行われます。

例:

次のフリー・テキスト照会では、検索一致となるのは文書に「science fiction」に完全一致する句が含まれ、「robot」の語を含まない場合に限られます。

```
+ "science fiction" -robot
```

フィールド検索

フィールド検索では、照会対象を文書中の特定のフィールドおよびメタデータに限定することができます。例えば、文書のタイトルに特定の語がなければならないといった指定をすることができます。

エンタープライズ・サーチでフィールド検索を指定するには、照会にフィールド名とそのフィールドになければならない語句とを指定します。

例:

次の照会では、タイトル・フィールドに「ibm」という語と「enterprise search」という句を含む文書を検索します。

```
title:ibm title:"enterprise search"
```

フィールドをフィールド名で検索するには、クローラーの構成時にそのフィールドをフィールド検索使用可能に設定する必要があります。

パラメトリック検索

パラメトリック検索は、フィールド検索の一種で、数値および日付のフィールド、メタデータに対して比較、評価を含む照会を指定できます。例えば、一定サイズの文書、または一定の日付以降に書かれた文書などを検索することができます。また、属性値が指定した値より大きい、小さい、または等しいなどの条件に当てはまる文書を検索することもできます。

例 1:

次の照会では、価格がちょうど 50 ドル (ないし「price」フィールドの示す任意の通貨単位) の品目を検索します。

```
#price::=50
```

例 2:

次の照会では、ファイル・サイズが 1024 より大きく 2048 以下の文書を検索します。

```
#filesize::>1024<=2048
```

フィールドをパラメトリック照会で検索するには、クローラーの構成時にそのフィールドをパラメトリック検索使用可能に設定する必要があります。

拡張照会構文

エンタープライズ・サーチでサポートされている検索機能では、さらに細かい指定を設定して特定文書の属性を照会することができます。例えば、特定言語で記載された文書、特定の文書タイプの文書、および特定のデータ・ソース・タイプから取得された文書などを検索することができます。

例:

次の例では、英語で書かれ、Web クローラーによってコレクションに追加されたテキスト文書が検索されます。

```
$doctype::text/html $language::en $source::web
```

スペル・チェック

照会を指定する場合、エンタープライズ・サーチでは、照会に使用されている用語のスペルをチェックするオプションがあります。ユーザーが照会中の用語のスペルを間違えた場合、検索サーバーによって、その用語の正しいスペルが可能性として提示されます。

例えば、照会中の用語に「saerch」という語を指定した場合、当初指定した用語の正しいスペルの可能性として「search」と指定しなおすオプションが表示されます。

スペル検出サポートは、照会言語および検索対象のコレクション中の文書によって異なります。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『照会構文』

テキスト・ベースのスコアリング

エンタープライズ・サーチでは、照会中の用語に一致した各文書について、動的にスコアを計算します。

照会に一致する各文書のテキストのスコアを計算する場合、エンタープライズ・サーチでは次のようなさまざまな要素を計算に入れます。

- コレクション全体で各照会用語が出現する度数。一般的に、多くの文書に出現する照会用語は、より少ない文書にしか出現しない照会用語よりも文書に与えられるスコアとしては低くなります。

- 用語が一致する文書内で照会用語が出現する回数。一般的に、特定文書の中でその照会用語が多く出現するほどスコアは高くなります。
- 用語が一致する各文書内で照会用語が出現する近さ。一般的に、特定の文書中で照会用語が互いに近い場所に出現する場合、同じ用語でも出現する場所が互いに離れている場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。
- 用語が一致する各文書内で照会用語が出現するコンテキスト。例えば、文書のタイトルに照会用語が出現する場合、同じ用語でも文書の通常の本文中に出現する場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。

各文書の長さ、および語彙の多さもスコアを決定する際の要因となります。

静的ランキング

文書のタイプによっては、文書の重要度に加算する静的ランキング要素を検索結果に設定することができます。

コレクションを作成する場合、コレクションの文書に静的ランキング要素を適用するかどうかを指定します。Web コンテンツの場合、他の文書から特定の文書に対するリンク数、およびそれらのリンク元によって、検索結果におけるその文書の重要度を高くすることができます。

日付フィールドまたは日付メタデータを含む文書の場合、文書の日付を使用して適合度を高くするように設定することができます。例えば、NNTP ニュースグループではより最近の記事を古い記事よりも適合度を高くする設定ができます。データ・ソースに複数の日付値がある場合は、そのデータ・ソース内の文書の適合度を判定する上で、どの日付を最も重視するかを選択することができます。

静的ランキングをコレクションに使用する場合、異なるランキング・タイプを使用するデータ・ソースを同一のコレクションに混在させないように注意してください。例えば、ある文書に対して静的ランキング要素としてリンク数を使用したい場合、コレクション内の文書が Web 文書だけになっていることを確認してください。異なるランキング・モデルのソースが同じコレクションに混在していると、検索品質が低くなることがあります。

また、静的ランキングを適用できるフィールドと値がその文書に含まれていることを確認してください。例えば、コレクションの文書のランキング要素として文書日付を使用する指定をした場合に文書に日付フィールドまたは日付属性がないと、検索品質は低下することがあります。

関連タスク

191 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』
WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに コレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

動的要約

動的要約は、結果文書中のどの語句がユーザーの検索対象概念を最もよく表しているかを 判別する技法です。

エンタープライズ・サーチで、動的要約は、文書中のさまざまな検索語を多く含む文を捕捉しようとする機能です。検索結果には、いくつかの文、または各文の一部が選択されて表示されます。対象となる検索語は、検索結果の中で、HTML レンダリングによって強調表示されます。

コレクションの検索サーバー・オプションを構成するときに、管理者は検索結果に入れる文書サマリーの最大表示長を指定することができます。サマリーには強調表示文字が含まれるので、検索アプリケーションに戻されるバッファーは指定の最大値より大きくなる場合があります。ただし、表示長が指定の最大値を超えることはありませんが、(ソース文書から抽出されるサマリー・データに従って) サマリーはより短くなる可能性があります。

検索結果内のサマリーのカスタマイズ

エンタープライズ・サーチ照会の各結果文書にサマリーが含まれています。各サマリーに含まれる情報量はカスタマイズできます。

このタスクについて

ES_NODE_ROOT/master_config/collection_ID.runtime.node1/runtime-generic.properties ファイル内の以下のプロパティの値を変更することにより、検索結果の説明をカスタマイズできます。

MinWordsPerSentence

説明文に含めることができるワードの最小数。デフォルト値は 4 です。

MaxWordsPerSentence

説明文に含めることができるワードの最大数。デフォルト値は 20 です。

NumberOfReturnedSentences

文書の説明を構成する文の数。デフォルト値は 5 です。

MaxSentencesPerDocument

説明を作成するプロセスで候補と見なされる文書内の文の最大数。デフォルト値は 1000 です。

手順

検索結果内の文書サマリーをカスタマイズするには、次のようにします。

1. 検索サーバーに、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
2. テキスト・エディターを使用して以下のファイルを編集します。ここで、*coll_ID* は、コレクションの作成時にそのコレクションについて指定された ID です (または、システムによって割り当てられたもの)。

ES_NODE_ROOT/master_config/coll_ID.runtime.node1/runtime-generic.properties

ヒント: コレクション名とその ID との間でのマッピングを確認するためには、ES_NODE_ROOT/master_config/collections.ini ファイルを参照してください。

3. カスタマイズしたいプロパティを変更してから、ファイルを保管して終了します。

- I
4. 検索サーバーを停止して再始動して、変更を適用します。

エンタープライズ・サーチ・セキュリティ

エンタープライズ・サーチのセキュリティ機構によって、無許可でソースが検索されないようにし、管理機能の使用を特定のユーザーに制限することができます。

エンタープライズ・サーチによって、ユーザーは広い範囲のデータ・ソースを検索できます。コンテンツに対するアクセス許可を持つユーザーのみがアクセスすることを確認し、また許可されたユーザーのみが管理コンソールにアクセスできることを確実にするために、エンタープライズ・サーチは複数のレベルにおいてセキュリティの調整および実行を行います。

Web サーバー

セキュリティの第 1 レベルは Web サーバーです。WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティを使用可能にすると、ユーザーに管理役割を割り当てたり、システムを管理しようとするユーザーを認証することができます。ユーザーが管理コンソールにログインすると、そのユーザーが管理することを許可された機能とコレクションのみが使用可能になります。

また、検索アプリケーションは WebSphere Application Server の認証サポートを使用して、検索アプリケーションでコレクションを検索するユーザーを認証できます。

コレクション・レベルのセキュリティ

コレクションを作成するときに、コレクション・レベルのセキュリティを使用可能にできます。コレクションの作成後にこの設定を変更することはできません。コレクション・レベルのセキュリティを使用可能にしていない場合は、あとで文書レベルのセキュリティ制御を指定することはできません。

コレクション・レベルのセキュリティが使用可能な場合に、グローバル分析処理で以下の特別な規則を適用します。

- 文書ごとにセキュリティ制御が評価されるように、重複 (または重複に近い) のコンテンツの文書は、そのコンテンツが正規表現で関連付けられて索引が付けられるのではなく、別個に索引付けされます。
- グローバル分析のアンカー・テキスト処理フェーズは、通常、ある文書 (ソース文書) に現れるテキストを、そのテキストが必ずしも現れるとは限らない別の文書 (ターゲット文書) に関連付けます。これにより、ソース文書に現れるテキストを指定した照会で、ターゲット文書が検索されるようになります。このタイプのアンカー・テキスト処理は、ユーザーがソース文書は表示できないがターゲット文書の表示は許可されている場合に、セキュリティのリスクが生じます。コレクション・セキュリティが使用可能である場合、禁止文書へのリンクのアンカー・テキストは索引から除外されます。文書固有のコンテンツまたはメタデータが照会に一致している場合のみ、文書が検索結果に戻されます。

コレクション・セキュリティを使用可能にすることと、検索の質とでトレードオフが生じます。コレクション・セキュリティを使用可能にすると、

文書ごとに索引付けされる情報量が減ります。この副次作用は、照会によっては結果の数が少なくなることです。

コレクション・レベルのセキュリティーは、アプリケーション ID を通して検索アプリケーションでも使用できます。コレクションを検索するためにエンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションを、それが検索できる特定のコレクションに関連付ける必要があります。そして、標準アクセス制御機構を使用して、ユーザーに対し、検索アプリケーションへのアクセスを許可したり拒否したりできます。

文書レベル・セキュリティー

コレクションのクローラーを構成するときに、文書レベルのセキュリティーを使用可能にできます。このオプションを選択すると、クローラーは、クローラーする各文書にセキュリティー・トークンに関連付けることができます。セキュリティー・トークンは文書と一緒に索引の中に保管されます。Notes クローラーでは、照会処理中に、ユーザーの信用証明情報が現在のアクセス制御データで (ネイティブ・データ・ソースで構成されたのと同様に) 検証されることを指定できます。

検索アプリケーションではセキュリティー・トークンとユーザーの信用証明情報を使用して、アクセス制御を実施することができます。ユーザーが、アクセス許可を持つ文書のみを検索し取得するように、検索アプリケーションは、検索サーバーに渡す照会にログイン・ユーザーの信用証明情報を組み込むことができます。

コレクションに対するセキュリティーは、索引付けされたコンテンツを保護するためにエンタープライズ・サーチが使用できる認証とアクセス制御機構を越えて拡張されます。転送中に、悪意のある、あるいは無許可のユーザーにデータをアクセスさせないための安全機能も存在します。例えば、検索サーバーは、Secure Sockets Layer (SSL)、Secure Shell (SSH)、および Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) といったプロトコルを使用して、索引サーバーおよび検索アプリケーションと通信します。

暗号化によってさらにセキュリティーが強化されます。例えば、エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードが製品のインストール時に指定されますが、これは、暗号化されたフォーマットで保管されます。

セキュリティーを向上させるには、サーバー・ハードウェアが適切に隔離されており、無許可の侵入から保護されている必要があります。ファイアウォールをインストールすると、使用しているネットワークの別の部分を通じた侵入から、エンタープライズ・サーチ・サーバーを保護できます。また、エンタープライズ・サーチ・サーバーに、余計なポートが開いていないことも確認してください。システムが、エンタープライズ・サーチのアクティビティーとアプリケーション用に明示的に割り当てられたポートでのみ要求を listen するように、システムを構成してください。

管理役割

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind Edition) のインストール中に、インストーラーは、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを構成します。管理コンソールに最初にアクセスするときは、このユーザーとしてログインしなければなりません。WebSphere Application Server 内のグローバル・セキュリティーを使用可能に設定していない場合、このユーザー ID がエンタープライズ・サーチ管理コンソールのアクセスに使用できる唯一のユーザー ID です。

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしていれば、追加のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理ユーザーとして登録できます。ユーザーを役割に割り当てることによって、アクセスを特定のコレクションに制限し、それぞれの管理ユーザーが実行できる機能を制御できます。エンタープライズ・サーチ内の管理役割に割り当てるユーザー ID は、WebSphere Application Server ユーザー登録の中になければなりません。

管理ユーザーがログインするときに、エンタープライズ・サーチはユーザー ID を認証します。ユーザーが管理できるコレクションと機能のみが、コンソールの中で選択可能になっています。

次の管理役割にユーザーを登録できます。

エンタープライズ・サーチ管理者

これらのユーザーは、コレクションを作成し、エンタープライズ・サーチ・システムのすべての側面を管理する権限を持ちます。DB2 II OmniFind Edition がインストールされるときに、インストーラーは、最初のエンタープライズ・サーチ管理ユーザーのユーザー ID とパスワードを指定します。このユーザーは、他のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者の役割に割り当てることができます。

コレクション管理者

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの操作を、編集、モニター、および制御できます。これらのユーザーは、コレクションの作成や、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

オペレーター

これらのユーザーは、システム・アクティビティーをモニターし、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの操作を制御できます。例えば、これらのユーザーは、コレクション・アクティビティーの開始と停止はできますが、コレクションの作成や編集、あるいは、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

モニター担当者

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションのシステム・アクティビティーをモニターできます。操作の制御 (コンポーネントの開始や停止など)、コレクションの作成や編集、あるいは、複数のコレクションに及ぶコンポーネントの管理はできません。

関連概念

9 ページの『エンタープライズ・サーチ管理コンソール』

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザーで稼働します。すなわち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできる

こととなります。同時に、セキュリティー機構によって、管理機能にアクセスすることを許可されたユーザーしか コンソールにアクセスできないことが保証されています。

関連タスク

21 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を指定した後で、管理コンソールにログインします。

197 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクローリング、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

管理ユーザーの構成

管理役割を構成することで、コレクションへのアクセスを制限でき、各管理ユーザーが実行できる機能を制御できます。

始める前に

管理役割にユーザーを割り当てる前に、WebSphere Application Server でセキュリティーが使用可能にされていることを確認してください。また、WebSphere Application Server ユーザー・レジストリー内にユーザー ID が存在することを確認してください。

管理ユーザーを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

手順

ユーザーを管理役割に割り当てるには、次のようにします。

1. 「**セキュリティー**」をクリックして「セキュリティー」ビューを開きます。
2. 「管理役割」ページで、「**ユーザーの追加**」をクリックします。
3. 登録したいユーザーのユーザー ID を入力し、適当な管理役割を選択します。
4. このユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者として登録しない場合は、このユーザーが管理できるコレクションを選択します。

個々のコレクションのチェック・ボックスを選択するか、このユーザーがすべてのコレクションを管理できるようにします。

認証とアクセス制御

無許可のユーザーからコンテンツを保護し、管理機能へのアクセスを制御するために、エンタープライズ・サーチは、ユーザー認証とアクセス制御をサポートします。

認証

認証は、ユーザーが誰であるか、つまり、ユーザーが宣言するものをシステムが検証するプロセスです。アクセスは一般にリソースを要求するユーザーの ID を基にしているため、認証は、セキュリティーを実効あるものにするために不可欠です。

管理コンソールにアクセスしようとするユーザーを認証するため、エンタープライズ・サーチは、WebSphere Application Server で提供される認証サポートを利用します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するユーザーを認証するために、検索アプリケーションは WebSphere Application Server 内のセキュリティーを利用し、ユーザーの信用証明情報の認証のための優先メソッドをインプリメントできます。通常、ユーザーの信用証明情報は、ユーザーがログインするとき、または検索アプリケーションにアクセスするときに検索アプリケーションに渡されるユーザー ID とパスワードから成ります。

ユーザー認証は、ユーザーのエンタープライズで使用可能なリソースおよびプロトコルに応じて、他の方法でインプリメントされることも可能です。例えば、ユーザーの識別をスマート・カードで行うようにしたり、デジタル証明書と Public Key Infrastructure で行ったり、あるいは、ユーザーがログインするときにチケットを割り当ててユーザーの認証状態をトラッキングするようにしたりできます。

アクセス制御

アクセス制御とは、ユーザーが身元を明らかにし、それが認証されたあとで、ユーザーが行えることを制限することです。アクセス制御リスト (ACL) は、リソースへのアクセスを制限するための最も一般的な方法です。ACL は ユーザー識別 (ユーザー名、グループ名、ユーザー役割など) のリストです。各ユーザー識別は、ユーザーの権限と特権を定義する許可のセットに関連付けられています。

例えば、アクセス制御によって、ファイル・サーバー上のファイルへのアクセスを許可したり拒否したりできます。また、アクセスを許可されたユーザーが、ファイル・サーバー上のファイルの読み取り、作成、編集、または削除ができるかどうかを制御できます。

エンタープライズ・サーチの中で、すべてのアクセス制御は、ユーザーが索引の中のデータを読み取る権限があるかどうかによって異なります。検索アプリケーションの中でどのようにアクセス制御を有効にするかに応じて、また、エンタープライズ・サーチを管理するときにコレクションとクローラーに指定した規則に応じて、次のことができます。

- すべてのユーザーがコレクションの中のすべての文書を検索できる。
- すべてのユーザーが、特定のクローラーによってクロールされたすべての文書を検索できる。また、他のクローラーによってクロールされた文書のアクセスは制限される。
- 特定のユーザーが、特定の文書を検索できる。例えば、Notes クローラーでクロールするデータベースを指定するときに、特定のユーザーが特定のビューとフォルダーにアクセスできるというオプションを指定し、他のユーザーはこれらの文書を検索できないようにします。

WebSphere Application Server 内でエンタープライズ・アプリケーションのセキュリティーを使用不可にする

ユーザー認証を必要とする DB2 II OmniFind Edition アクティビティーを制御するために、WebSphere Application Server 内の個々のエンタープライズ・アプリケーションについてグローバル・セキュリティーを使用不可にすることができます。

このタスクについて

DB2 II OmniFind Edition インストール・プログラムは、次の 3 つのエンタープライズ・アプリケーションを WebSphere Application Server にデプロイします。

- ESAdmin アプリケーション。エンタープライズ・サーチ管理コンソールのインターフェースが含まれています。
- ESSearchApplication アプリケーション。サンプル検索アプリケーションのインターフェースが含まれています。
- ESSearchServer アプリケーション。DB2 II OmniFind Edition SIAPI インプリメンテーションのすべての遠隔通信を提供し、SIAPI インターフェースが検索サーバーと通信できるようにします。

デフォルトで、3 つのエンタープライズ・アプリケーションはすべて、WebSphere Application Server グローバル・セキュリティーをサポートします。これらのアプリケーションは、グローバル・セキュリティーが使用可能であることを検出すると、受信したすべての要求の認証を始めます。

組織によっては、特定の DB2 II OmniFind Edition エンタープライズ・アプリケーションについてセキュリティーを使用可能または使用不可にしたい場合があります。例えば、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにアクセスするすべてのユーザーを認証したいが、DB2 II OmniFind Edition SIAPI インターフェースまたはサンプル検索アプリケーションを使用するユーザーは認証したくない場合があります。

手順

特定のエンタープライズ・アプリケーションについてセキュリティーを使用不可にするには、次のようにします。

1. 検索サーバーで、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。

このプログラムは、Windows の「スタート」メニューを使って開始することもできますし、Web ブラウザーを開き、`hostname:port/admin` にアクセスすることもできます。ここで、`hostname` は検索サーバーのホスト名、`port` は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。

2. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしたときに指定した管理者 ID とパスワードを入力します。
3. 管理コンソールにログインしたら、「アプリケーション」をクリックし、さらに「エンタープライズ・アプリケーション」をクリックします。
4. セキュリティーを使用不可にしたいエンタープライズ・アプリケーションの名前の横にあるチェック・ボックスを選択します。

5. スクロールダウンして、「**ユーザー/グループへのセキュリティー役割のマップ**」リンクをクリックします。
6. **AllAuthenticated** 役割を見つけて、「**全利用者?**」欄の下のチェック・ボックスを選択します。
7. 「**OK**」をクリックします。
8. 「**保管**」リンクをクリックして、変更を保管します。
9. WebSphere Network Deployment を使用している場合は、「**ノードとの変更の同期化**」チェック・ボックスを選択します。
10. 「**保管**」をクリックします。
11. もう一度「**アプリケーション**」をクリックしてから、「**エンタープライズ・アプリケーション**」をクリックします。
12. 今変更したアプリケーションのチェック・ボックスを選択して、「**停止**」をクリックします。
13. アプリケーションが停止したら、そのアプリケーションのチェック・ボックスをもう一度選択して、「**開始**」をクリックします。

コレクション・レベルのセキュリティー

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、コンテンツの索引付けのオプションと、検索アプリケーションが特定のコレクションを検索できるようにする オプションを構成します。

コレクションを作成するときに、コレクション・セキュリティーを使用可能にするオプションを選択できます。このオプションを選択すれば、あとで文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。コレクション・セキュリティーが使用可能である場合、エンタープライズ・サーチのグローバル分析処理により、重複文書や文書内のアンカー・テキストを索引付けする別の規則も適用できます。

検索アプリケーションを作成したあと、検索アプリケーション ID によって、検索アプリケーションが検索できるコレクションと、検索アプリケーションにアクセスできるユーザーを指定できます。

重複文書分析

コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、コレクションの中の重複文書の識別は行いません。

グローバル分析の間、索引付けプロセスは、互いに重複している、またはほとんど重複している文書を識別します。そして、これらの文書をすべて、コンテンツの 1 つの正規表現に関連付けます。重複文書を識別することで、検索結果に、同じ (あるいはほとんど同じ) コンテンツの複数の文書が入ることがなくなります。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティーを使用可能にすると、重複文書は識別されず、それらの文書は共通の正規表現に関連付けられません。代わりに、各文書は、別個に索引付けされます。これによって、ユーザーは、ユーザーの信用証明情報とマッチするセキュリティー・トークンの文書のみを検索することになります。例えば、2 つの文書のコンテンツがほとんど同じかもしれませんが、異なるアクセス制御リストを使用して、セキュリティーを施行します。

重複文書分析を使用不可にすればコレクションの中の文書のセキュリティは強化されますが、検索結果の中に同じ文書の複数のコピーが返されると、検索の質は低下するかもしれません。

アンカー・テキスト分析

コレクション・セキュリティを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、Web クローラーでクロールされる文書の中のアンカー・テキストの索引作成に、特別な規則を適用します。コレクション・セキュリティを使用可能にしない場合は、個別の Web クローラーを構成するときに 禁止文書へのリンクのアンカー・テキストの索引を作成するかどうか指定することができます。

アンカー・テキストは、リンクの接続先のページを説明した、ハイパーテキスト・リンク内の情報です。例えば、次のリンクで、テキスト「Query Syntax」は、Web サイトの `syntax.htm` ページに接続するリンクの中の、アンカー・テキストです。

```
<a href="../doc/syntax.htm">Query Syntax</a>
```

一般に、Web クローラーは文書の中のリンクをたどって、追加の文書をクロールし、これらのリンクされたページを索引の中に組み込みます。グローバル分析の間、索引は、アンカー・テキストが組み込まれる文書 (ソース文書) だけでなく、ターゲット文書にもアンカー・テキストを関連付ける処理をします。上記の例では、アンカー・テキスト「Query Syntax」は、ターゲット・ページ `syntax.htm` とアンカー構成を含むページに関連付けられます。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティを使用可能にすると、アンカー・テキストの処理は使用不可になります。実際にそのテキストが文書または文書のメタデータに出現しない限り、そのアンカー・テキストはもはや文書に索引付けされません。このセキュリティ制御により、禁止文書へのアンカー・テキストがユーザーのアクセスできる文書に関連付けられることはないため、ユーザーがアクセスできない文書の情報を見ることはありません。

コレクション・セキュリティを使用可能にすることで、ユーザーが、ユーザーの信用証明情報とマッチするセキュリティ・トークンの文書のみを検索できるようにし、Web 文書のセキュリティを向上させることができます。しかし、アンカー・テキストを処理しないことで、照会に関連する可能性のある文書が、一部検索結果に含まれなくなるという可能性があります。

コレクション・セキュリティを使用可能にしない場合は、個別の Web クローラーを構成するときに禁止文書へのリンクのアンカー・テキストの索引付けをするかどうか選択することができます。アンカー・テキストの索引付けを指定すると、分析と索引付けのプロセスは、Web クローラーによって検索されたすべてのページのアンカー・テキストの索引付けを処理します。アンカー・テキストの索引付けをしないと指定すると、禁止文書へのリンクのアンカー・テキストは、この索引から削除されます。

禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成

Web Crawler がクローラを禁止されている文書へのリンクが文書に組み込まれている場合、しかもコレクション・セキュリティを使用可能にしていない場合は、Web Crawler を構成するときに索引内にそれらのリンクのアンカー・テキストを保持するかどうかを指定できます。

始める前に

アンカー・テキストの索引作成のためのオプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、構成したい Web Crawler のコレクション管理者でなければなりません。

このタスクについて

robots.txt ファイルまたは Web 文書のメタデータ内のディレクティブにより、Web Crawler が Web サイトで文書にアクセスできないようにすることができます。Web Crawler がクローラを許可されている文書に禁止文書へのリンクが組み込まれている場合、それらのリンクのアンカー・テキストをどのように取り扱うかを指定できます。

コレクションを作成するときにそのコレクションに対するセキュリティを使用可能にした場合、アンカー・テキストの索引作成は自動的に使用不可になり、ユーザーは、Web Crawler がクローラを許可されていないページを知ることはできません。この設定は変更できません。

コレクションの作成時にそのコレクションに対するセキュリティを使用可能に設定しない場合は、Web Crawler を構成するときに禁止文書へのアンカー・テキストの索引を付けるかどうかを指定できます。最も厳しいセキュリティを実現するためには、禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストに索引を付けないよう指定してください。アンカー・テキストの索引を作成しないことで、照会に関連する可能性のある文書が、一部検索結果に含まれなくなるという可能性があります。

手順

禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成を使用可能または使用不可に設定するには、以下のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「クローラ」ページで、構成したい Web クローラーを指して、 「**クローラーのプロパティ**」をクリックします。
4. 「**拡張 Web クローラー・プロパティの編集**」をクリックします。
5. このクローラーがクローラするすべての文書でアンカー・テキストに索引を付けるには、「**禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成**」チェックボックスを選択します。ユーザーは、それらのページをポイントするリンクのアンカー・テキストに入っているテキストを検索すると、Web Crawler がクローラを許可されていないページを知ることができます。

禁止文書へのアンカー・テキストを索引から除外するには、このチェック・ボックスを外します。ユーザーは、Web Crawler がクロールを許可されていないページを知ることができません。アンカー・テキストは、禁止文書と共に、索引から除外されます。

6. 「OK」をクリックし、「Web Crawler のプロパティ」ページで、もう一度、「OK」をクリックします。
7. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

以前に索引作成された文書の変更を適用するには、文書を再クロールして、索引をもう一度作成できるようにする必要があります。以前のクロールで禁止文書に関する情報が索引に追加されている場合、その情報は索引から削除されます。

検索アプリケーション ID を使用したセキュリティ

コレクション・レベルのセキュリティを提供するために、各コレクションを検索できる検索アプリケーションを指定します。

すべての検索アプリケーションは、アプリケーション ID を エンタープライズ・サーチ API に渡す必要があります。エンタープライズ・サーチ管理者と検索アプリケーションは、この ID を使用して、コレクション・レベルのセキュリティを施行できます。

検索アプリケーションがコレクションにアクセスして検索を開始する前に、エンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションを、それが検索できる特定のコレクションに関連付ける必要があります。検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのコレクションにアクセスできるか、あるいは、アクセスを特定のコレクションに制限されています。

アクセス制御を実施するには、セキュリティ・トークン(例えば、ユーザー ID、グループ ID、またはユーザー役割など) を検索アプリケーションに関連付けて、それらのユーザーのみがアプリケーションにアクセスでき、コレクションを検索できるようにします。例えば、ユーザーの検索アプリケーションを起動する URL にアクセスを制限することができます。

検索アプリケーション ID の詳細と、ユーザーのカスタム検索アプリケーションにセキュリティ制御を組み込む方法については、エンタープライズ・サーチの Search and Index API の説明を参照してください。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』
検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『Search and Index API (SI-API)』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『検索 API のセキュリティ』

文書レベル・セキュリティー

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

コレクションの文書へのアクセスを制御するために、クローラーが索引用のセキュリティーを収集します。また、Lotus Notes 文書の場合、照会がサブミットされるたびに、ユーザーの現行の信用証明情報を検証することもできます。ユーザーの現行の信用証明情報を検証するには、カスタム検索アプリケーションにユーザー・プロファイルのサポートを組み込んで作成します。ユーザー・プロファイルを保管することで、ユーザーが信用証明情報の入力を何度も求められることなく文書にアクセスできるようにします。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションの検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

186 ページの『ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー』

IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『検索 API のセキュリティー』

保管されたセキュリティー・トークンによる検証

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にした場合、索引にセキュリティー・データを保管することで、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。

デフォルトで、それぞれの文書は共用文書であるとみなされます。つまり、すべてのユーザーが検索できることを意味します。ほとんどの文書タイプで、1 つ以上のセキュリティー・トークンを文書に関連付けて、その文書付きトークンを索引に保管することで、文書レベルのセキュリティーを実現することができます。クローラーを構成するときに、そのクローラーがクロールした文書にアクセスできるユーザーを制限するために、セキュリティー・トークンを使用することを指定します。

データ・ソース・タイプにフィールドが含まれている場合、アクセス制御を行うために、そのフィールドの中の 1 つの値を使用することを指定できます。データ・ソースにフィールドがない場合、特定のフィールドの値をセキュリティー目的で使わない場合、あるいは、指定したフィールドに、アクセス制御の実施を可能にする値が含まれない場合は、クローラーに、文書に関連付けるためのセキュリティー・トークンを定義できます。

各コレクションの管理者は、クローラーが文書に関連付けるセキュリティー・トークンを決定します。例えば、セキュリティー・トークンは、ユーザー ID、グループ

ID、ユーザー役割、または管理者が決定した、データ・ソースに有効なその他の値を示すこともあります。データ・ソース管理者がネイティブのアクセス制御リストを更新した場合、その更新済みセキュリティ制御は、次に索引が更新されるか、あるいは再編成されるまで有効になりません。

セキュリティ・トークンは、文書が、解析、分析、および索引付けのステージに移動するときに文書に付随します。検索アプリケーションでセキュリティを使用可能にしている場合、セキュリティ・トークンを使用して文書へのアクセスを制御できます。コレクションを検索するユーザーは、ユーザーの信用証明情報によって表示が許可される文書のみを検索できます。ユーザーの信用証明情報がセキュリティの規則をパスしないと、ユーザーはセキュリティ・トークンによって保護される文書を検索できません。

照会処理中の現行の信用証明情報の検証

コレクションの作成時に、コレクションに対するセキュリティが使用可能になっていて、そのコレクションに Notes クローラーでクロールされた文書が含まれている場合、ユーザーが照会をサブミットするとき、ユーザーの現行の信用証明情報を検証することができます。

Notes クローラーを構成するときに、ユーザーの信用証明情報をネイティブのリポジトリが管理する現行のアクセス制御と比較して検証するオプションを選択できます。照会の応答を返す前に、検索サーバーはネイティブ・リポジトリとやりとりをして、ユーザーの現行のアクセス権を検証してから、ユーザーがアクセス権を持っていない文書はすべて検索結果に表示しないように除去します。

この文書レベルのセキュリティ実施方法により、ユーザーの信用証明情報が、索引に保管されているセキュリティ・データではなく、現行のセキュリティ・データと比較されるので、高水準のセキュリティが提供されます。また、この方法により、複雑さに関係なくネイティブ・リポジトリのセキュリティ機構のアクセス制御が確実に行われます。文書のフィルター操作がリアルタイムに行われるため、検索結果は、検索基準に一致したそれぞれの文書ごとの最新のアクセス制御設定を反映します。

この方法のもう一つの利点は、索引のサイズに影響を与えない (セキュリティ・トークンの索引付けに追加スペースを必要としない) ということです。ただし、検証にネイティブ・リポジトリとの接続が必要なため、この方法は照会のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

最も厳しいセキュリティを確保し、照会パフォーマンスへの影響を最小にするには、セキュリティ・トークンを索引に保管するオプションと現行アクセス制御を検証するオプションを組み合わせてください。ユーザーが照会をサブミットしたとき、2 段階の検証が行われます。

- まず最初に、検索サーバーが索引付きセキュリティ・データを使用して、文書がクロールされたサーバーとデータベースへのアクセス権をユーザーが持っているかどうかを即時に判断します (索引は速さにおいて最適化されて、サブ秒の応答時間を実現します)。
- 次に、検索サーバーは、ユーザーがアクセスを許可されているサーバー上のデータベースにある文書のみを含む一時的なリストを作成し、さらにそのリストを使

用してネイティブ・リポジトリに接続して、ユーザーが現在その要求文書の参照を許可されているかどうかを判断します。

ユーザーがサーバーとデータベースへのアクセス権がある場合は、そのユーザーが文書へのアクセス権を持っている可能性は高いですが、この最後のフィルター操作段階により、ユーザーの現行アクセス権設定に合った文書のみが検索結果に戻されるようになります。

ユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイルを 保管することで、ユーザーがアクセスのための信用証明情報の入力を求められることなく、機密保護機能のあるコレクションを検索したり、参照アクセス権のある文書を表示したりすることができるようになります。

コレクションの作成時にセキュリティーが使用可能になっていて、そのコレクションに Notes クローラーでクロールされた文書が含まれている場合、ユーザーの信用証明情報を暗号化してエンタープライズ・サーチ・システムに保管できるオプションを設定できます。

ユーザーは、ユーザー・プロファイルを作成し、検索アプリケーションの使用中に、信用証明情報をエンタープライズ・サーチに登録することができます。エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションでは、この機能をアプリケーション・ツールバーの「**個人用プロファイル**」オプションで提供しています (ご使用のカスタム検索アプリケーションでは、この機能を異なる方法でインプリメントしている可能性があります)。

ユーザー・プロファイルには、ユーザーの Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ユーザー名、パスワード、およびユーザーが検索対象のデータ・ソースの文書にアクセスできるようにするさまざまな信用証明情報が保管されます。ユーザーは、以下の条件がすべて当てはまる場合に、ユーザー・プロファイルを作成することができます。

- WebSphere Application Server でセキュリティーが使用可能にされていることと、WebSphere Application Server がユーザー・レジストリーに LDAP サーバーを使用するように構成されていること。
- シングル・サインオン機能をサポートするスキーマが LDAP サーバーにインポートされていること。
- LDAP ユーザー・レジストリーに、各ユーザーの LDAP 識別名 (DN) とパスワードを指定する項目が含まれていること。ユーザー・レジストリー内のユーザーのサブツリーに項目を追加するときにユーザーの DN とパスワードを使用できるように LDAP が構成されている必要があります。
- 検索アプリケーションが検索できるコレクションの少なくとも 1 つで、セキュリティーが使用可能になっていること。
- 機密保護機能のある少なくとも 1 つのコレクションに、エンタープライズ・サーチ Notes クローラーによってクロールされた文書が含まれていること。
- Notes クローラーに文書レベルのセキュリティーが構成されているときに、ユーザーの現行の信用証明情報を検証するオプションが選択されていること。

ユーザーはプロファイルを作成するとき、LDAP パスワードをエンタープライズ・サーチに保管するかどうかを選択します。このパスワードが保管されると、ユーザ

ーは検索アプリケーションにアクセスするたびに認証を求められることなく検証の必要なコレクションを検索することができます。このパスワードが保管されない場合は、機密保護機能のあるコレクションを検索する前に、LDAP パスワードを指定して認証を受ける必要があります。

プロファイルには、照会処理中にユーザーの信用証明情報を検証する必要があるデータ・ソースで、検索アプリケーションで使用可能なすべてのデータ・ソースがリストされます。ユーザーは、どのデータ・ソースに対して信用証明情報を保管するかを選択できます。ユーザーがデータソースの信用証明情報を指定しないと、そのデータ・ソースの文書が検索結果から除外されます。

ID 管理のサポートの構成

照会処理中に LDAP ユーザー・レジストリーを使用してユーザーの信用証明情報を検証するためには、シングル・サインオン機能をサポートするように LDAP を構成しておく必要があります。エンタープライズ・サーチでは、この機能を *ID 管理* と呼びます。

始める前に

LDAP スキーマをインポートするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

制約事項

WebSphere Application Server でセキュリティーが使用可能になっていることと、WebSphere Application Server がユーザー・レジストリーに LDAP サーバーを使用することが必要です。セキュリティーの使用可能化およびユーザー・レジストリーの構成について詳しくは、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

このタスクについて

この操作は、2 つの部分から成り立ちます。エンタープライズ・サーチで ID 管理を使用可能にするには、次のことを行う必要があります。

- IBM Tivoli® Directory Server (ITDS) の構成。エンタープライズ・サーチ LDAP スキーマを ITDS にインポートして、Tivoli Directory のユーザーが LDAP 項目を読み書きできるようにユーザー許可を構成する必要があります。
- Microsoft Active Directory Server (ADS) の構成。前提ソフトウェアをインストールし、エンタープライズ・サーチ LDAP スキーマを ADS にインポートして、Active Directory のユーザーが LDAP 項目を読み書きできるようにユーザー許可を構成する必要があります。

手順

1. 次のようにして、エンタープライズ・サーチ LDAP スキーマを Tivoli Directory Server にインポートします。
 - a. Tivoli Directory Server が実行していることを確認したら、tds.add.ldif ファイルを ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーから ITDS サーバーにコピーするか、FTP でファイル転送します。

- b. ITDS サーバーで、以下のコマンドを入力して、エンタープライズ・サーチの
カスタム・スキーマを ITDS ストアにインストールします。ここで、*LDAP ID*
および *LDAP password* は、LDAP サーバーのルート DN とパスワードで
す。

```
ldapadd -D "LDAP ID" -w "LDAP password" -f tds.add.ldif
```

- c. コマンド・ウィンドウで、以下のコマンドを入力するか、サード・パーティ
のツールを使用して、スキーマを参照します。

```
ldapsearch -b "cn=schema" objectclass=*
```

- d. 以下のカスタム属性が作成されていることを確認します。

```
vbrInfo  
vbrRepoUserName  
vbrRepoPassword  
vbrRepoOptionalToken  
vbrSaltValue
```

- e. 以下のカスタム・オブジェクト・クラスが作成されていることを確認しま
す。

```
vbrVenetica  
vbrRepositoryInfo  
vbrRepositoryCredential  
vbrUserSalt
```

2. エンタープライズ・サーチのユーザーが LDAP ユーザー・レジストリー内の項
目を読み書きできることを確認します。ユーザー許可の付与方法手順について
は、Tivoli Directory Server の管理資料のアクセス制御の節を参照してくださ
い。

3. Active Directory Server で、以下のソフトウェア前提条件をインストールしま
す。

- Windows Support Tools。このソフトウェアは、Windows 2000 インストール・
ディスクの *win2kcd/SUPPORT/TOOLS* ディレクトリーに収容されています。
- Schema Management Snap-In。このソフトウェアは、Windows 2000 インスト
ール・ディスクの *win2kcd/I386/AdminPak.msi* に収容されています。

4. 次のようにして、エンタープライズ・サーチ LDAP スキーマを既存の Active
Directory スキーマ構造にインポートします。

- a. Active Directory Server が稼動していることを確認したら、*ads.add.ldif* ファイル
を *ES_INSTALL_ROOT/bin* ディレクトリーから ADS サーバーにコピーす
るか、FTP でファイル転送します。

- b. ADS サーバーで、以下のコマンドを入力します。ここで、*mydomain* は、ご
使用の LDAP サーバーの基本識別名 (DN) です。

```
ldifde -i -f ads.add.ldif -c "DC=X" "dc=mydomain"
```

- c. エンタープライズ・サーチのカスタム LDAP スキーマが追加されていること
を確認するために、*schmmgmt.msc* コマンドを実行して、Schema Management
Snap-In を開きます。このスナップインを始動するには、「スタート」をクリ
ックし、「ファイル名を指定して実行 (R)」を選択して、入力します。

- d. Schema Management Snap-In が開いたら、Classes フォルダーを展開し、最下
行までスクロールして、以下のカスタム・オブジェクト・クラスが作成され
ていることを確認します。

```
vbrVenetica  
vbrRepositoryInfo  
vbrRepositoryCredential  
vbrUserSalt
```

5. エンタープライズ・サーチのユーザーが以下の LDAP オブジェクトに対して完全制御アクセス許可を持っていることを確認します。

```
vbrVenetica  
vbrRepositoryInfo  
vbrRepositoryCredential  
vbrUserSalt
```

エンタープライズ・サーチ・システムに信用証明情報を格納するには、エンタープライズ・サーチのユーザーがこれらのタイプのオブジェクトを読み書きできる必要があります。ユーザー許可の付与方法手順については、Active Directory Server の管理資料を参照してください。

LDAP サーバー・プロパティの構成

WebSphere Application Server 内で、1 つのコレクションについてセキュリティが使用可能になっている場合、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーに関する情報を保管し、ユーザーが自らを認証するプロンプトを出されずに複数のデータ・ソースを検索できるようにすることができます。

始める前に

LDAP サーバーのプロパティを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

制約事項

LDAP サーバーに関する情報を指定できるのは、コレクションの作成時にそのコレクションについてセキュリティが使用可能にされ、検索アプリケーションが WebSphere Application Server 内でグローバル・セキュリティを使用可能にしてあり、WebSphere Application Server がユーザー・レジストリー用の LDAP サーバーを使用し、Notesクローラーによってクロールされた文書がコレクションに含まれており、現行のユーザーの信用証明情報を検証するオプションが Notesクローラー構成で選択されている場合だけです。

このタスクについて

ユーザーは、ユーザー・プロファイルを構成できるようにする検索アプリケーションにアクセスしたときに、ユーザーの ID を認証できるようにする信用証明情報を指定する必要があります。検索サーバーは、LDAP サーバーにアクセスして信用証明情報を検証すると、そのユーザーがコレクションにアクセスする許可を持っているかどうかを判別し、許可がある場合は、ユーザーがコレクション内の Lotus Domino ドメインにアクセスする許可を持っているかどうかを判別できます。

エンタープライズ・サーチでは、LDAP ユーザー・レジストリーにユーザー用の項目が存在するかどうかを判別するために LDAP サーバーに関する情報が必要です。これらの情報を指定するために援助が必要な場合、LDAP 管理者に問い合わせてください。

システムは、ルートの信用証明情報、基本 DN、ユーザー ID 属性、およびオブジェクト・クラスを使用して、検索アプリケーションにログインしたユーザーの LDAP 項目を確認します。検索アプリケーションで、以下の LDAP 検索がシミュレートされます。

```
ldapsearch -D "cn=root" -w secretPassword -b "o=IBM,c=US"
"(&(uid=adminUser)(objectclass=ePerson))"
```

手順

LDAP サーバーのプロパティを構成するには、次のようにします。

1. 「**セキュリティ**」をクリックして「**セキュリティ**」ビューを開きます。
2. 「**検索アプリケーション**」ページで、「**LDAP サーバーのプロパティを構成**」をクリックします。
3. 「**LDAP サーバーのプロパティ**」ページで、「**この LDAP サーバーを使ってユーザーの信用証明情報を検証する**」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスをクリアにしておくと、このページで LDAP サーバーについて指定したプロパティは無視されます。ユーザーが機密保護機能のある Lotus Notes コレクションを検索すると、検証を必要とする文書は検索結果から除外されます。
4. 以下の、LDAP サーバーについての情報を指定します。
 - LDAP サーバー名およびポート。デフォルトのポート番号は 389 です。
 - ルート識別名 (DN) およびパスワード。エンタープライズ・サーチは、この情報を使用して、LDAP ユーザー・レジストリーから情報を検索できます。例:
cn=root。
 - ユーザー項目が格納されている LDAP ユーザー・レジストリーの領域の基本 DN。ユーザーが登録されているかどうかを確認する場合、エンタープライズ・サーチは、この場所からユーザー・レジストリーの検索を始めます。例:
o=IBM,c=US。
 - ユーザー名を識別するユーザー項目内の属性。例: uid。
 - ユーザー項目のデータ・タイプを識別するオブジェクト・クラス。例:
ePerson。
5. 「**OK**」をクリックします。

文書レベル・セキュリティを使用不可にする

アクセス制御が索引内の文書と関連付けられているかどうかに関係なく、ユーザーがコレクションを検索できるようにすることができます。Notes クローラーによってクロールされる文書について、ユーザーが、照会処理中に現行のアクセス制御を検証せずにコレクションを検索できるようにすることもできます。

始める前に

文書レベルのセキュリティ・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

制約事項

文書レベルのセキュリティー・オプションを指定できるのは、コレクションが作成されたときにセキュリティーがコレクションに対して使用可能にされている場合だけです。

このタスクについて

クローラーを構成する際に、クロール対象の文書にセキュリティー・トークンを関連付けることができます。検索アプリケーションは、索引に格納されているこれらのトークンを使用して、ユーザーがコレクションを検索する際にアクセス制御を施行できます。

Notesクローラーを構成する場合、照会処理中にネイティブ・リポジトリ内の文書と現在関連付けられているアクセス制御を検証することも指定できます。

これらのセキュリティー制限を除去するために、照会を使って渡されるセキュリティー・トークンを検索サーバーが無視することを指定できます。ユーザーが、信用証明情報を現行のアクセス制御と比較されることなく、Lotus Notes 文書を照会できるようにすることもできます。

新規コレクションをテストする場合や、検索アプリケーションの問題をトラブルシューティングする必要がある場合に、文書レベルのセキュリティーを一時的に使用不可にしたいことがあります。

手順

文書レベルのアクセス制御を使用不可にするには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、管理したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「**一般**」ページで、「**文書レベルのセキュリティーの構成**」をクリックします。
4. クローラーが文書と関連付けたセキュリティー・トークンを、ユーザーがコレクションを照会するときを使用したくない場合、「**文書レベルのセキュリティー**」ページで、「**索引内の文書レベルのアクセス制御を無視する**」チェック・ボックスを選択します。

クローラーは文書にセキュリティー・トークンを追加し続けますが、検索サーバーはトークンを無視し、ユーザーが以前に保護された文書を検索できるようにします。

5. ユーザーが照会を実行依頼したときに Lotus Notes のネイティブ・リポジトリ内の文書と現在関連付けられているアクセス制御を検証したくない場合は、「**照会処理中は現在の信用証明情報の検証をスキップする**」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスは、Notesクローラーによってクロールされた文書の場合にのみ有効です。

このチェック・ボックスを選択しても、その他の文書レベルのセキュリティー・オプションは有効なままです。例えば、Notesクローラーの構成時にアクセス制御を索引内に格納するオプションを指定した場合、「**索引内の文書レベルのアクセス制御を無視する**」チェック・ボックスも同様に選択しないと、それらのセキュリティー制御が引き続き適用されます。

l 6. 「OK」をクリックします。

エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合

IBM WebSphere Portal の検索機能は、WebSphere Portal および WebSphere ポータル検索センターにエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、その機能を拡張することができます。

統合の設定ポイント

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal に統合するには、次のようにいくつかの方法があります。

WebSphere Portal

WebSphere Portal には、ユーザーがアプリケーション、コンテンツ、プロセス、および人物と相互通信を行う単一のアクセス・ポイントがあります。この WebSphere Portal フレームワークにより、ポートレットと呼ばれる新規のアプリケーションを、他のポータル内のアプリケーションに影響を与えることなく統合し、デプロイすることができます。

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal にデプロイすれば、WebSphere Portal インターフェースからエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。WebSphere Portal の構成設定により、エンタープライズ・サーチ・ポートレットのルック・アンド・フィールは WebSphere Portal 環境の他のポートレットと同じ状態に保たれます。

ポータル検索エンジン

WebSphere ポータル検索エンジンは、Web サイト、Lotus Notes データベース、およびファイル・システムをクロールします。管理ポートレットを使用すれば、管理者は索引付けされたコレクションを作成することができ、さらに検索ポートレットにより、作成されたコレクションをユーザーが検索できるようになります。

WebSphere Portal Version 5.0.2 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、ポータル検索エンジン・コレクション用の構成および分類をエンタープライズ・サーチにマイグレーションすることができます。

WebSphere Portal Version 5.1 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、ポータル検索エンジン文書検索ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。構成プロパティを利用すれば、管理者が必要に応じて 2 つの検索機能を簡単に切り替えられるようにすることができます。

WebSphere ポータル検索センター

WebSphere ポータル検索センターは、WebSphere Portal で検索が可能になっているすべてのソースを検索するときに中心となる起点です。この検索センターおよびユニバーサル検索ポートレットを使用すれば、WebSphere Portal コンテンツ、および管理者が検索センターに登録したその他すべてのコレクションを検索することができます。

検索センターにはページ式のインターフェースがあります。利用できるすべてのコレクションの検索は、1 つの共通ページから行うこともできますし、個別のコレクションを検索するページを選択して行うこともできます。例えば、ポータル検索エンジン索引のページ、Portal Document Management ライブラリーのページなどがあります。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索センターから検索できるようにするため、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition (DB2 II OmniFind Edition) には、アダプターおよび登録ポートレットが提供されています。アダプターによってエンタープライズ・サーチのページが検索センター・インターフェースに追加され、登録ポートレットによってエンタープライズ・サーチ・ポートレットが検索センターに登録されます。

統合による利点

エンタープライズ・サーチによって、より広いデータ・ソース・タイプの検索がサポートされ、WebSphere Portal 検索環境が拡張されます。ポータル検索エンジン・ポートレットでは、Web、Notes、およびファイル・システム・ソースしか検索できません。エンタープライズ・サーチ・ポートレットを使用することにより、これらのタイプのソースに加え、エンタープライズ・サーチでサポートされる他のすべてのデータ・ソース・タイプを検索することができます。

また、エンタープライズ・サーチには、スケーラビリティの面でも利点があります。ポータル検索エンジンは、シングル・サーバーで十分に検索負荷をサポートできる中小規模の企業に便利です。これに対し、エンタープライズ・サーチでは、大規模な企業レベル能力をサポートするため、4 つのサーバー (データのクロールに 1 基、データの解析と索引作成に 1 基、および検索処理サポートに 2 基) に負荷を分散します。

ポートレットのデプロイメント概要

エンタープライズ・サーチに使用されるポートレットは、使用する WebSphere Portal のバージョンによって異なります。

WebSphere Portal バージョン 5.0.2

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンタープライズ・サーチ・コレクションに使用することができます。このポートレットは、ポータル検索エンジン・ポートレットと共存できます。

WebSphere Portal バージョン 5.1

- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンタープライズ・サーチ・コレクションに使用することができます。このポートレットは、ポータル検索エンジン・ポートレットと共存できます。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイ後、文書検索ポートレットをポータル検索エンジンに構成すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようになります。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere ポータル検索センターに登録すれば、検索センターを使用してエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できます。この場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションだけを検索するページを選択することもできますし、エ

エンタープライズ・サーチ・コレクションおよび検索センターで利用できる他のすべてのコレクションを検索する照会を入力することもできます。

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイするには、ポートレットを WebSphere Portal カタログ Web サイトからダウンロードし、WebSphere Portal の標準的なポートレット・デプロイメント手順に従ってデプロイします。カタログにポートレットと併せて収められている README ファイルを参照すれば、ポートレットの使用およびインプリメンテーションに関する追加情報を確認できます。

WebSphere Portal 用のエンタープライズ・サーチ・ポートレットに関する最新情報については、DB2 II OmniFind Edition の README ファイルを参照してください。

関連概念

189 ページの『WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション』

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするときを使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

WebSphere Portal へのエンタープライズ・サーチ・ポートレットのデプロイ

エンタープライズ・サーチ・ポートレットは IBM WebSphere Portal ポートレット・カタログ Web サイトからダウンロードできます。

手順

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal にデプロイするには、次のようにします。

1. DB2 II OmniFind Edition の README ファイルにエンタープライズ・サーチ・ポートレットの最新情報があるので、これを確認します。この README ファイルには、ポートレットの最新情報、および WebSphere Portal のポートレット・カタログでのそれらのリスト状況が記載されています。
2. 次のサイトにある WebSphere Portal ポートレット・カタログにアクセスします。

<http://catalog.lotus.com/wps/portal/portalworkplace>

3. エンタープライズ・サーチ・ポートレットに付属している README ファイルの内容を確認します。この README ファイルには、システム要件、構成、およびデプロイメントに関する現行情報が記載されています。
4. WebSphere Portal の標準的なポートレット・デプロイメント手順に従って、エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイします。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するためのポータル検索エンジンの構成

WebSphere ポータル 検索エンジンに文書検索ポートレットを構成すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。

始める前に

ポータル検索エンジンを構成してポートレットを使用するには、エンタープライズ・サーチ・ポートレットが WebSphere Portal にデプロイされていなければなりません。

このタスクについて

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイした後で、ポータル検索エンジンを使用して索引付けされたデータを WebSphere Portal で検索できます。ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようにするには、WebSphere Portal 管理者がポータル検索エンジン構成のプロパティを編集します。これら 2 つの検索機能が共存することによって、その 2 つの機能を切り替え、ニーズに合った適切な検索ソリューションを選択して使用できます。

手順

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを使用するためにポータル検索エンジンを構成する方法の具体的な説明は、DB2 Information Integrator OmniFind Edition README ファイルを参照してください。

ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー

IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

エンタープライズ・サーチ・クローラーが、クロール対象の文書にグループ ID セキュリティー・トークンを関連付け、ポータル検索エンジンの文書検索ポートレットを、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するように構成した場合、ポータル検索エンジンではログインしたユーザーのグループ ID を抽出して、照会したそのグループ ID に対するセキュリティー・トークンをエンタープライズ・サーチに渡すことができます。セキュリティー・トークンにより、ユーザーに表示を許可された文書だけが検索結果に戻されるようになります。

クローラーが、ユーザー ID またはユーザー役割など、グループ ID とは別のセキュリティー・トークンを文書に関連付けており、かつ、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行したい場合は、カスタム検索ポートレットを作成する必要があります。ポータル検索エンジンでは、グループ ID のセキュリティー・トークンしか抽出されません。

関連概念

147 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』

検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレ

クシヨンの 検索が可能になります。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、いくつものコレクションを検索できます。

173 ページの『文書レベル・セキュリティー』

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、 見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造および コレクションをマイグレーションするときに使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

分類構造およびコレクションをマイグレーションする場合、エンタープライズ・サーチ索引サーバーでマイグレーション・ウィザードを実行します。分類構造をマイグレーションすると、その分類をエンタープライズ・サーチ・コレクションで使用することができます。また、エンタープライズ・サーチを使用して、WebSphere Portal からマイグレーションしたコレクションを管理、検索することもできます。

エンタープライズ・サーチでは、分類構造はカテゴリー・ツリーと言います。ルール・ベースの分類構造をマイグレーションした場合、それをカテゴリー・ツリーとしてエンタープライズ・サーチ管理コンソールで管理することができます。モデル・ベースの分類構造をエンタープライズ・サーチで使用するには、索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされていなければなりません。

分類構造およびコレクションをマイグレーションしたい場合は、必ずモデル・ベースの分類ファイルを先にマイグレーションしてからコレクションをマイグレーションしてください。このようにしないと、モデル・ベースのカテゴリー化が WebSphere Portal からマイグレーションするコレクションについて適切に機能しなくなります。

関連概念

183 ページの『エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合』
IBM WebSphere Portal の検索機能は、WebSphere Portal および WebSphere ポータル検索センターにエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、その機能を拡張することができます。

関連タスク

100 ページの『カテゴリーの構成』
1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、各カテゴリーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に関連付けられる 文書が決まります。

WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション

ご使用の WebSphere Portal システムの分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類構造を選択しても その影響を受けることはありません。

このタスクについて

モデル・ベースの分類構造をマイグレーションする場合、WebSphere Portal の分類構造を選択し、エクスポートする必要があります。それから、エンタープライズ・サーチのマイグレーション・ウィザードを使ってその分類構造をエンタープライズ・サーチにマイグレーションします。

手順

モデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションするには、次のようにします。

1. 現行のモデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal 分類管理ポータルからエクスポートします。分類構造は、次の XML ファイルで構成されています。

```
synonyms.xml  
titles.xml  
treenodes.xml
```

2. これらのファイルをエンタープライズ・サーチ索引サーバーにコピーします。
3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
4. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

```
UNIX: cd $ES_INSTALL_ROOT/bin  
Windows: cd %ES_INSTALL_ROOT%\bin
```

5. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「次へ」をクリックします。

```
UNIX: ./eswpsmigrate.sh  
Windows: eswpsmigrate.bat
```

マイグレーション・ウィザードの実行中はエンタープライズ・サーチ・コレクションを作成しないでください。

6. 「**WebSphere Portal からモデル・ベースの分類ファイルをインポートする**」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. マイグレーション・ウィザードを初めて使用する場合は、WebSphere Application Server および WebSphere Portal がインストールされているパスをそれぞれ指定します。「次へ」をクリックします。
8. モデル・ベースの分類ファイルのあるディレクトリーを参照して探し、モデル・ベースの分類を使用するためにマイグレーションする必要がある XML ファイル (synonyms.xml、 titles.xml、 および treenodes.xml) を選択して、「次へ」をクリックします。

エラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイルを参照してください。

関連概念

97 ページの『モデル・ベースのカテゴリ』

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリを使用している場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでもそれらのカテゴリを継続して使用することができます。

関連タスク

100 ページの『カテゴリの構成』

1 つのコレクションのカテゴリはいくつも作成することができ、各カテゴリにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリと自動的に関連付けられる文書が決まります。

WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

手順

コレクションを WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションするには、次のようにします。

1. WebSphere ポータル検索エンジンで、マイグレーションするコレクションのすべてのクローラー・プロセスを停止し、保留中のすべての文書を承認または拒否します。(エンタープライズ・サーチでは、保留中の文書という概念はサポートしません。)
2. マイグレーションする各コレクションについて、ポータル検索エンジン・ポートレットを使用してその設定を XML ファイルにエクスポートします。
3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーが別のサーバーにインストールされている場合は、エクスポートした XML ファイルを索引サーバーにコピーします。
4. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された 管理者 ID です。
5. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

UNIX: cd \$ES_INSTALL_ROOT/bin

Windows: cd %ES_INSTALL_ROOT%\bin

6. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「次へ」をクリックします。

UNIX: ./eswpsmigrate.sh

Windows: eswpsmigrate.bat

7. 「WebSphere Portal のポータル検索エンジンから検索設定をマイグレーションする」を選択し、「次へ」をクリックします。
8. エクスポートされたポータル検索エンジン構成ファイルがあるディレクトリーを参照し、マイグレーションしたいファイルを選択して「次へ」をクリックします。選択された構成ファイルが分析、検証されます。

9. コレクションごとに次の情報を入力し、「次へ」をクリックすると、コレクションのエンタープライズ・サーチへのマイグレーションが開始されます。

- エンタープライズ・サーチで使用するコレクションの名前。
- コレクションで文書の重要度を判断するための基準。この静的ランキング要素は、なし、文書日付基準、他の Web 文書からの Web 文書へのリンク基準のいずれかにすることができます。
- このコレクションに使用するカテゴリーのタイプ。カテゴリーなし、ルール・ベースのカテゴリー、またはモデル・ベースのカテゴリーのいずれかを選択できます。

ルール・ベースのカテゴリーを選択した場合、WebSphere Portal コレクションの分類と規則がエンタープライズ・サーチにマイグレーションされます。

モデル・ベースのカテゴリーを選択できるのは、あらかじめモデル・ベースの分類を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーションしてある場合に限られます。

マイグレーション時にエラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイルを参照してください。

マイグレーションされたコレクションに追加設定を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用することができます。

要件: マイグレーションしたコレクションの Web クローラー・プロパティーを構成するときに、クローラーに関するコメントを受信する E メール・アドレスとユーザー・エージェント名を指定する必要があります (Web クローラー・プロパティーの構成中に不明な点があったら、「ヘルプ」をクリックしてください)。

10. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、マイグレーション済みコレクションに対してクロール、解析、および索引作成プロセスを開始します。
11. マイグレーション済みコレクションがエンタープライズ・サーチで検索できるとわかったら、ポータル検索エンジンにある元のコレクションを削除します。
12. オプション: WebSphere Portal 管理者が、WebSphere Portal のポータルからマイグレーションしたコレクションをユーザーが検索できるようにしたい場合は、以下のステップを実行します。
 - a. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal システムにデプロイします。

WebSphere Portal Server クラスターでは、この作業は WebSphere Application Server Deployment Manager がインストールされているサーバーに対して行う必要があります。WebSphere Portal Server クラスターの他のサーバーには、この Deployment Manager によってエンタープライズ・サーチ・ポートレットが配布されます。

- b. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを該当するポータル・ページに追加します。

WebSphere Portal では、検索ポータルレットのアクセス制御が、特定ページおよびポータルレットに対するアクセスによってモデル化されています。コレクション設定はマイグレーションされますが、ポータルレットは WebSphere Portal Server 管理者によって手動で配置する必要があります。

関連概念

29 ページの『エンタープライズ・サーチ・コレクション』

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複数の コレクションを 1 回の照会で検索することができます。

95 ページの『ルール・ベースのカテゴリ』

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリに関連付ける場合、規則を構成して どの文書に関連付けるか制御することができます。

97 ページの『モデル・ベースのカテゴリ』

カテゴリ・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべてのカテゴリを表示できます。 カテゴリ・ツリーを使って、カテゴリの作成、カテゴリの削除、およびカテゴリに文書に関連付けるときの 規則を編集することもできます。

160 ページの『静的ランキング』

文書のタイプによっては、 文書の重要度に加点する静的ランキング要素を検索結果に設定することができます。

マイグレーションされたコレクションの設定

IBM WebSphere Portal からコレクションをマイグレーションすると、 マイグレーション・ウィザードにより、コレクションおよびクローラーのデフォルト設定が作成されます。

ポータル検索エンジン・コレクションとエンタープライズ・サーチ・コレクションに同じ設定がある場合、ウィザードでは、コレクションのエンタープライズ・サーチへのマイグレーション時にポータル検索エンジンの設定を使用します。エンタープライズ・サーチだけにある設定については、コレクションのマイグレーション時に指定した設定、または、エンタープライズ・サーチのコレクションに対するデフォルト設定が使用されます。

とエンタープライズ・サーチの両方にある設定

マイグレーション・ウィザードは、マイグレーション対象の各コレクションについて、以下の設定をマイグレーションします。

- ポータル検索エンジン・コレクション内のポータル検索エンジン・サイト
- コレクション言語
- 分類構造 (カテゴリ・ツリー)、およびエンタープライズ・サーチ・コレクションでルール・ベースのカテゴリを使用する場合はルール・ベース・カテゴリの規則

コレクション内の各ポータル検索エンジン・サイトは、エンタープライズ・サーチ Web クローラーに統合されます。マイグレーション・ウィザードは、以下のクローラー設定をマイグレーションします。

- 開始 URL
- 並行クロール・プロセスの数
- クロールの深さ
- 文書検索のタイムアウト値 (秒)
- デフォルトの文字セット
- クロール対象への組み入れ規則および対象からの除外規則

エンタープライズ・サーチだけにある設定

コレクションをマイグレーションする場合、そのコレクションに関する情報を指定します。マイグレーション・ウィザードでは、それらの設定をマイグレーションし、コレクションに対するエンタープライズ・サーチのデフォルト設定を使用して、マイグレーションした各コレクションを構成します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、このコレクションおよびクローラー構成を変更することができます。括弧内に示された値は、マイグレーションされたデータに対するデフォルト設定です。

- コレクション名
- 文書のランキング方法: 文書日付など
- 使用されるカテゴリー化のタイプ: ルール・ベース、カテゴリー化なし、など
- 検索キャッシュを使用するかどうか、および検索キャッシュが保持できる照会および検索結果数 (使用する、5,000)
- 検索応答時間をモニターし、限度を超えたらアラートを発行するかどうか (モニターする、限度 5 秒)
- アクセス制御を使用するかどうか (しない)
- 索引のリフレッシュ・スケジュール
- 索引の再編成スケジュール
- ログの詳細レベル (すべてのメッセージ)

また、マイグレーション・ウィザードでは、各クローラーに対して以下の設定を作成します。

- クローラー名
- クローラーの説明
- 最大ページ長
- 文書セキュリティ設定
- データ・ソース・タイプで該当する場合、クロールする必要がある文書の MIME タイプ

新規にマイグレーションされた Web クローラーを開始する前に、クローラー・プロパティとクロール・スペース設定を全部よく検討し、必要な値がすべて指定されていることを確認してください (必要フィールドは、赤いアスタリスクでマークされています)。特に、クローラーに関するコメントを受信する E メール・アドレスとクローラーのユーザー・エージェント名を指定していることを確認してください。 Web クローラー・プロパティの構成中に不明な点があったら、「ヘルプ」をクリックしてください。

マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル

マイグレーション・ウィザードでは、すべてのメッセージを、マイグレーション・ウィザードがインストールされているディレクトリーにある `WpsMigratorLog.log` ファイルに書き込みます。

マイグレーション済みの各コレクションについて、`WpsMigratorLog.log` ログ・ファイルには、WebSphere ポータル検索エンジンから読み込まれたすべての設定値、およびそれらの設定値がエンタープライズ・サーチ・コレクションにインポートされた場所が格納されています。

エンタープライズ・サーチの開始と停止

コレクションを作成したあと、データのクロール、解析、索引付け、および検索のコンポーネントを開始しなければなりません。コレクションに変更を加えた後も、各コンポーネントを停止して再始動してください。

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、連続して、または指定されたスケジュールに従って実行できます。例えば、索引の再編成またはリフレッシュのスケジュールを指定できます。データの解析および索引の検索のコンポーネントを開始したあとは、構成の設定を変更するとき (カテゴリーの変更や検索キャッシュのサイズ増加など) 以外、通常、それらのコンポーネントを停止し再始動する必要はありません。

コレクションの内容を変更した場合、あるいは、エンタープライズの中のソースからクローラーがデータを収集する方法の規則を変更した場合は、それらの変更が有効になるように、通常、クローラーを停止し、再開する必要があります。クロール規則を変更していなければ、クローラーは、連続して実行されるか (Web および NNTP クローラーの場合)、指定されたスケジュールに従って実行されます。

関連概念

10 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムのモニター』

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システム・アクティビティをモニターし、必要に応じてその運用を調整することができます。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクロール、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

始める前に

クロールしたいデータ・ソースを構成し、そのデータがどのように解析、索引付け、検索されるのかに関するオプションを指定します。例えば、ユーザーが検索結果にカテゴリー詳細を表示できるようにしたい場合は、パーサーを開始する前にカテゴリーを構成します。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを開始するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者、またはそのコレクションを管理する権限をもつオペレーターである必要があります。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始は、正しい順序で行う必要があります。例えば、クローラーを開始してデータのクロールを行った後でないと、文書の解析および索引付けはできません。

手順

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを開始するには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールまたは検索アプリケーションを使用するには、次のようにします。
 - a. IBM HTTP Server がまだ稼働していない場合は、開始します。
 - b. ESAdmin およびESSearchApplication エンタープライズ・アプリケーションがまだ稼働していない場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して開始します。
2. エンタープライズ・サーチ・システムが稼働していない場合は、システムを始動します。
 - a. 索引サーバーで、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインします。
 - b. 次のコマンドを入力します。

```
esadmin start
```

3. エンタープライズ・サーチ管理コンソールを始動して、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。管理役割を使用した場合、開始したいコレクションに対する権限をもつコレクション管理者またはオペレーターとしてログインできます。
4. 「コレクション」ビューで、管理したいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。
5. 「クロール」ページで、開始したい各クローラーごとに、 「開始」をクリックします。
 - Web クローラーまたは NNTP クローラーを開始すると、クローラーは即時にデータのクロールを始めます。これらのタイプのクローラーは、連続して稼働し、Web サイトおよび NNTP ニュースグループの文書のクロールと再クロールを行ないます。
 - 他のクローラー・タイプのいずれかを開始すると、クローラーは、スケジュールされた日時にクロールを始めます。クローラーをスケジュールしていない場合、またはクローラーを早く開始したい場合は、以下の操作を行ってください。
 -  「詳細」をクリックします。
 - そのクローラーの「詳細」ページのクロール・スペース詳細領域で、クロールしたいそれぞれのデータ・ソース (サーバー、データベース、サブフォルダーなど) ごとに 「すべての更新のクロールの開始」アイコンまたは 「フル・クロールの開始」アイコン) をクリックします。
- クローラーが開始した後は、それを続けて実行させておくことができます。クローラーをスケジュールしていれば、スケジュール日時に再び実行されます。
6. データのクロールが終わったら、「解析」ページを開き、 「開始」をクリックしてパーサーを開始します。

パーサーは続けて実行させておくことができます。通常、データの解析方法 (カテゴリーまたは XML フィールド・マッピングの更新) を変更しない限り (例えば、カテゴリーまたは XML フィールド・マッピングの更新)、パーサーを停止する必要はありません。

- オプション: 索引付けがスケジュールされた日時に開始するのを待たずに、索引付けプロセスを強制始動するには、索引」ページを開き、「再編成」領域で  「開始」をクリックします。

索引付けプロセスは続けて実行させておくことができます。索引は、スケジュール日時にリフレッシュおよび再編成されます。

- 「検索」ページで、 「開始」をクリックします。

検索サーバーは続けて実行させておくことができます。通常、検索キャッシュ設定を変更しない限り、検索サーバーを停止する必要はありません。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

164 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制御するために、役割の概念を使用します。

関連タスク

21 ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を 指定した後で、管理コンソールにログインします。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを 停止して再始動する必要があります。

始める前に

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者、またはそのコレクションを管理する権限をもつオペレーターである必要があります。

このタスクについて

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、他のコンポーネントとは無関係に停止することができます。例えば、クローラーの構成を変更し、それを組み込むためにクローラーを停止して再始動する場合、パーサーを停止して再始動する必要はありません。

個々のコンポーネントを停止する代わりにエンタープライズ・サーチ・システムを停止したい場合、エンタープライズ・サーチ管理者 ID で索引サーバーにログインできます (このユーザー ID は DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。次に、以下のコマンドを入力します。

esadmin stop

手順

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止するには、次のようにします。

1. 管理コンソールの「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、管理したいコレクションを指して、 「**モニター**」をクリックします。
3. 「クロール」ページで、管理したいクローラーを見つけ、停止または休止します。

クロール・スペースまたはクローラーのプロパティを変更する場合は、変更を組み込むために、クローラーを停止して再始動してください。クロール・スペースを変更し、すでにコレクションに文書に変更を適用したい場合は、文書を再クロールすることも必要です。

ヒント: プロセスがバックグラウンドでまだ実行されているにもかかわらず、要求された操作がタイムアウトになったというメッセージが表示される場合があります。タスクが完了したかどうかを判断するには、管理コンソールで「**リフレッシュ**」をクリックします (Web ブラウザーの「**リフレッシュ**」はクリックしないでください)。プロセスは、クローラーの状況アイコンが停止したことを示したら完了です。

4. 「解析」ページで、 「**停止**」をクリックして、パーサーを停止します。

データを解析するための規則を変更する場合は、変更を組み込むために、パーサーを停止して再始動してください。変更は、新たにクロールされた文書にのみ適用されます。すでに索引に入っている文書に変更を適用したい場合は、フル・クロールを開始して、すべての文書を再クロールする必要があります。これにより、すべての文書が解析され、再度、索引付けられます。

5. 「索引」ページで、 「**停止**」をクリックして、現在、リフレッシュまたは再編成中の索引を停止します。

また、索引キューをモニター中にも、索引作成を停止できます。これを行うには、ツールバーで「**システム**」を選択し、「索引」ページを開いて、作成を停止したい索引について 「**停止**」をクリックします。

6. 「検索」ページで、 「**停止**」をクリックして、検索サーバーを停止します。通常、検索サーバーを停止して再始動する必要があるのは、検索キャッシュ設定を変更した場合だけです。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティ実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

エンタープライズ・サーチ・アクティビティのモニター

システム・アクティビティおよびコレクション・アクティビティをモニターすると、さまざまな プロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、または、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システムをモニターし、必要に応じて操作を調整することができます。主要アクティビティ (クロール、解析、索引作成、検索) については、詳細な統計データを参照することができます。統計データには、平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールまたは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティは、アイコンをクリックするだけで、開始および停止することができます。この開始/停止操作により、アクティビティを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシューティングを行い、アクティビティを進められる状況になった時点で処理を再開することができます。

関連概念

10 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムのモニター』

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システム・アクティビティをモニターし、必要に応じてその運用を調整することができます。

関連タスク

197 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、コレクションのクロール、解析、索引付け、検索を行うコンポーネントを開始する必要があります。

199 ページの『エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの停止』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを停止して再始動する必要があります。

単一コレクション内の文書数の見積もり

エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成または編集するときは、保持しておきたいコレクションの文書数の見積もりを用意します。リソース・マネージャーは、この数値を使用して、コレクションに必要なメモリーとディスク・リソースを見積もりますが、コレクションのサイズを制限することはありません。

始める前に

コレクションの見積もりサイズを変更するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

このタスクについて

コレクションが大きくなって、見積もったサイズに達しても、システムは索引への文書追加を停止しません。リソース・マネージャーは、メモリーおよびディスク・

リソースの所要量見積もりが、システムで現在使用可能になっている量より多くなると、警告を出します。この警告によって、将来のリソース不足を防止することができます。

コレクションについてアラートを構成し、索引内の文書の数が増えすぎたときオプションを通知できるようにした場合、デフォルトの限度は、コレクション内の見積もり文書数に指定した値と一致します。モニターは、指定されたアラートしきい値パーセントと一緒にこの数値を使用し、コレクションについて構成された最大文書数に近づいてくると、Eメールを送信します。

手順

コレクションの可能なサイズを見積もるには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「**コレクション**」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「**一般**」ページで、「**一般オプションの構成**」をクリックします。
4. 「**見積もり文書数**」フィールドに、コレクションの成長が見込まれる大きさを表す数値を入力します。デフォルト値は 1 000 000 文書です。

システム・リソースの可用性のチェック

コレクションまたはクローラーを作成してから文書のクロールを始めるまでにシステム・リソースをチェックすると、使用可能なシステム・リソースが、現在の構成設定に基づき DB2 II OmniFind Editionを全能力で実行するのに十分であるかどうかを確認できます。

始める前に

システム・リソースをチェックするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

このタスクについて

コレクションまたはクローラーを作成するときに、システムは、リソースの可用性を自動的にチェックします。オプションを選択して、いつでもシステム・リソースの可用性をチェックすることもできます。

システムは、コレクションおよびクローラーのプロパティを構成する際に使用すると見積もったスペースを、使用可能なシステム・スペースと比較して、リソースの可用性を通知するメッセージを表示します。メッセージは、リソースが十分でないサーバー、コレクションの見積もりサイズに必要なスペースの量、使用可能なフリー・スペースの量を示します。

リソースが十分でない場合は、以下の修正処置のいずれかを試みてください。

- メッセージ・テキストに示されているファイル・システムのサイズを増やす。
- コレクションの一般オプションを編集して、見積もり文書数にもっと小さい数値を指定する。

- クローラー・プロパティを編集して、クローリングする文書の最大数、最大ページ・サイズ、スレッドの最大数にもっと小さい数値を指定する。
- Web クローラーについて、クローラー・プロパティを編集して、アクティブ・ホストの最大数、新規文書の最大数、一時ストレージ内の文書の最大数にもっと小さい数値を指定する。
- システムの索引プロパティを編集して、並行実行を許可される索引作成の回数を減らす。
- 複数のコレクション内で、いつでも同時にアクティブなプロセスの数が多すぎないようにする。例えば、複数のコレクションからのクローラーとパーサーが同時に実行すると、リソースが影響を受ける可能性があります。
- システムからクローラーを削除する。
- システムからコレクションを削除する。

リソースが少ない可能性について警告が検出されなかった場合は、クローリングされて索引作成されるデータに対応できるだけの十分なリソースが存在すると考えられます。

手順

エンタープライズ・サーチ・システムの現在構成に大して十分なリソースが使用可能であるかどうかを判断するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 「一般」ページで、「システム・リソースのチェック」をクリックします。

コレクションのモニター

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、コレクションをモニターできます。コンポーネントの開始または停止を行うか、スケジュールを使用可能/使用不可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

コレクションをモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。各コレクション・コンポーネントの現在の状況が表示されます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「一般」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクションをモニターするためのビューに移動できます。

3. 特定の URI に関する詳細情報を表示したい場合は、 「URI 詳細」をクリックします。

例えば、特定の URI が索引中にあるかどうかや、その URI が含まれる索引が検索サーバーにコピーされたかどうかを見ることができます。

4. 個々のコンポーネントをモニターし、そのコンポーネントのアクティビティーに関する詳細な統計を表示するには、「状況」アイコンをクリックします。

関連概念

17 ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティーおよび ログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションへの関連付け、および セキュリティー実行のデータ指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

29 ページの『エンタープライズ・サーチ・コレクション』

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複数の コレクションを 1 回の照会で検索することができます。

URI についての詳細表示

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての現在情報および履歴情報を知ることができます。

始める前に

URI レポートを表示する要求、またはレポートを E メール・アドレスへ送信する要求をサブミットする前に、情報の発信元になるコンポーネントがアクティブであることを確認してください。例えば、文書がどのようにクロール、索引付け、検索されるのかについての詳細情報を表示する場合には、Web クローラー、索引サーバー、検索サーバー稼働中であることを確認してください。

このタスクについて

URI に関する情報の収集は、時間のかかるプロセスです。情報を要求した後、情報が表示されるのを待つというオプションを選択できます。より効率的なオプションは、指定した E メール・アドレスにレポートを送信するようにするオプションです。

レポートを受信できるようにするには、その前に、エンタープライズ・サーチに対してメール・サーバーの情報が構成されていることを確認する必要があります。この情報は、「システム」ビューの「ログ」ページで E メール・オプションを構成するときに指定します。

索引サーバーと検索サーバーは、すべての URI に関する 情報 (例えば、ある URI が索引にあるかどうか、それが検索サーバーにコピーされたかどうか) を提供できます。文書がどのようにクロールされたかに関する情報を表示するには、Web クローラーによってクロールされた文書の URI を指定する必要があります。

手順

URI に関する詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「一般」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクションをモニターするためのビューに移動できます。

3.  「URI の詳細」をクリックします。
4. 「URI の詳細」ページで、情報を見たい URI を入力します。
5. 見たい情報のタイプに合わせてチェック・ボックスを選択します。

クローラーの詳細

このチェック・ボックスを選択すると、Web クローラーによって文書がどのようにクロールされたかに関する情報と、クロール・スペース内の現在の状況に関する情報が示されます。

索引の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書が索引付けされたかどうかと、文書が検索サーバーにコピーされたかどうかを示されます。

検索の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書がどのように検索できるかに関する情報と、文書が検索に使用可能かどうかを示されます。

6. レポートが表示されるのを待つ場合は、「レポート表示」をクリックします。
7. 後でレポートを表示できるように E メール・アドレスにレポートを送信するには、「レポートの送信」をクリックします。
 - a. 「詳細 URI レポートの送信」ページで、「通知を受け取る E メール・アドレス」フィールドに、レポートを受け取る E メール・アドレスを入力します。
 - b. 「レポートの送信」をクリックします。

関連資料

86 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』
エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

クローラーのモニター

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、クローラーのアクティビティに関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

始める前に

コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表示することはできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

手順

クローラーをモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに移動できます。

4. クローラーが稼働中または休止されていて、クローラーに関する詳細な状況情報を表示したい場合、 「詳細」をクリックします。表示される統計のタイプは、クローラー・タイプによって異なります。

コレクションのプロセス管理を許可する管理役割を持っている場合、クローラー・アクティビティに関する詳細を表示中に、クローラーを開始、停止、休止することができます。クローラーがスケジュール可能である場合、クロールのスケジュールを使用可能または使用不可にすることもできます。

5. クローラーが停止または休止されていて、クローラー・セッションを開始したい場合、 「開始」または「再開」をクリックします。

Web クローラーおよび NNTP クローラーの場合:

クローラーが停止されていた場合、クローラーは再びクロールを開始し、クロール・スペース全体をクロールします。クローラーが休止されていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からクロールを再開します。

他のすべてのクローラー・タイプの場合:

クローラーが停止されていた場合、クローラーは、スケジュールされた日時にクロールを開始します。クローラーは、最初にデータ・ソースをクロールするときに、フル・クロールを実行します。クロールが繰り返しスケジュールされている場合、クローラーはデータ・ソースに対するすべての更新 (文書の追加、削除、および変更) をクロールします。

クローラー・スケジュールがまだ行われていない場合、またはクローラーを早く開始したい場合は、「詳細」アイコンをクリックしてください。次に、クロール・スペース詳細領域で、クロールしたい各データ・ソース (サーバー、データベース、サブフォルダーなど) ごとに「すべての更新のクロールの開始」アイコン (または「フル・クロールの開始」アイコン) をクリックします。

クローラーが休止されていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からクロールを再開します。例えば、DB2 クローラーは、停止されたときにクロール中だった表の先頭行からクロールを再開します。

6. 稼働中のクローラーを停止したい場合、 「停止」または  「休止」をクリックします。クローラーは、再始動または再開されるまで、データのクロールを停止します。

関連概念

3 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラー』

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、それらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

37 ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

Web クローラーのアクティビティ詳細の表示

Web クローラーのアクティビティに関する詳細を表示することによって、全体的なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティおよびクロール・スペース定義を調整できます。

始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、クローラーのアクティビティをモニターできます。クローラーの開始または停止を行うには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

Web クローラーのアクティビティに関する詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたい Web クローラーを所有するコレクションを見つけ、 「**モニター**」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、 「**モニター**」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに移動できます。

4. モニターしたい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、 「**詳細**」をクリックします。
5. Web クローラーの詳細ページで、クローラーの現在と過去のアクティビティに関する詳細な統計を表示するため、以下のオプションを確認または選択します。
 - a. 「**スレッドの詳細**」をクリックすると、アクティブに Web サイトをクロールしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数が示されます。
 - b. 「**アクティブ・サイト**」をクリックすると、クローラーが現在クロール中の Web サイトに関する情報が示されます。
 - c. 「**最近クロールされた URL**」をクリックします。この情報は、クローラーが現在クロールしている対象を示します。ビューをリフレッシュしてもリスト中の項目が変わらない場合、発生しているクロールはありません。

- d. 「クローラー履歴」をクリックすると、クローラーの過去のアクティビティに関するレポートが表示されます。
- e. 「URL 状況」領域で、情報を表示したい Web サイトの URL を入力し、「表示」をクリックします。

例えば、このオプションを使用して、ある URL がクロール・スペース内にあるかどうか、それがクロールされたのか、または、単にディスカバーされただけなのか、再度クロールされるべきなのはいつかを見たり、Web サイトに対する最新クロール試行に関する情報を見ることができます。

URL に関する詳細が表示された後、「サイト履歴」をクリックすると、その URL でのクローラーのアクティビティに関する追加の統計情報を見ることができます。

Web クローラーのスレッドの詳細

Web クローラーをモニターすることによって、アクティブに Web サイトをクロールしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クローラー・スレッドの状況を見ることができます。一般的な状態には次のものがあります。

待機 スレッドにはクロールすべき URL がないことを示します。この状態は、スレッドがクロールを完了し、クローラーがそれ以上のクロールすべき URL を見つける速度が不十分な場合に発生します。例えば、クローラーのプロパティの設定で、クローラーが同じサイトから別のページを取得できるまでに待たなければならない時間が長すぎる場合には、URL が供給される速度が十分ではないことがあります。

フェッチ中

スレッドが Web サイトからページをダウンロード中であることを示します。

完了 スレッドが、クロールしたページをクローラーの残りに送信中であるが、別の URL をクロールする準備はまだできていないことを示します。

中断 クローラーが休止していることを示します。

理想的なのは、すべてのスレッドが常にページをフェッチ中であることです。スレッドが頻繁に完了状態になる場合は、データベースにスループットの問題があると考えられます。

スレッドが頻繁に待機状態になる場合は、クローラーのプロパティの「**アクティブ・ホストの最大数**」フィールドに指定された値を検討してください。この値が小さい場合、スレッドを継続的にビジーにするにはクロール・スペース内のサイト数が十分でないか、クロールに適格な URL の数が十分でないことが考えられます。低アクティビティを引き起こす条件として、DNS ルックアップ失敗とロボット・ルックアップ失敗があります。

Web クローラー・アクティブ・サイト

Web クローラーをモニターして、クローラーがアクティブにクロール中の Web サイトに関する 情報を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、アクティブ・サイトに関する統計を見ることができます。統計には、以下の情報が示されます。

- 現時点でクロールのためにクローラーが内部データベースからメモリーへ移した URL の数。
- これまでにクローラーがクロールを試行した URL の数。
- サイトが非アクティブにされてクローラーのこの回の反復用のメモリーから除去されるまでの残り時間。
- これまでにサイトがメモリー内にあった時間。

この情報は、クローラーに対して構成されたクロール規則をクローラーが進んでいくのに従って刻々と変化します。アクティブにされた URL 数が、クローラーのプロパティーの「**アクティブ・ホストの最大数**」フィールドに構成された値と近いのが理想的です。

アクティブにされた URL 数がゼロに近い場合、クローラーは適格 URL を検出していません。そのような低いアクティビティーを引き起こす可能性のある条件には、DNS ルックアップの失敗、ネットワーク接続性の問題、データベース・エラー、クロール・スペース定義の問題があります。例:

- 長時間にわたってメモリー内に多数のサイトがあり、クロールされた URL が少数である場合、ネットワーク接続性の問題がないか調べてください。
- 十分な数のサイトがリストにある場合、クロール・スペース定義の問題、または DNS ルックアップの問題がないか調べてください。
- 妥当な速度でサイトがクロールされているが、多数の URL がクロールされないままメモリーからサイトが出ている場合、クローラーのプロパティーを編集し、「**メモリー内 URL の最大残存時間**」フィールド内のタイムアウト値を調整して、サイトをメモリーに保持する時間を長くしてください。

Web クローラーのクロール速度

Web クローラーをモニターして、クローラーが Web サイトから ページをダウンロードしている速度に関する情報を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クローラーがデータをクロールする速さ (クロール速度) に関する統計を見ることができます。また、現行セッションの開始以降にクローラーがクロールした URL の数に関する統計も見ることができます。

クロール速度は、1 秒あたりにクロールされているページ数です。この数は、Web クローラーに対して構成できるいくつかのプロパティーと関連しています。

- クローラー・スレッドの数
- アクティブ・サイトの数
- クローラーが同じ Web サーバーから別のページを取得できるまでに待たなければならない時間。

クローラーがクローラー・スレッドごとに 1 つのアクティブ・サイトを持っている場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページを取得できない場合、クローラーは 2 秒当たりに、スレッド当たり 1 ページより速くクロールすることはできません。例えば、クローラーがデフォルト数 (200) のスレッドを使用する場合、クローラーは 200 スレッドで 1 秒当たり 100 ページをクロールできます。

クローラー・スレッド数の倍のアクティブ・サイトがある場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページを取得できないとすると、クローラーは 1 秒にスレッド当たり 1 ページの速度に達すると考えられます。しかし、そうすると、ネットワークのダウンロード速度およびデータベース・スループットが速度を限定する要因になってきます。良好なクローラー・パフォーマンスが示されるのは、クロール速度が、クローラー・スレッド数、アクティブ・サイト数、およびクローラー待ち時間と調和している場合です。

Web クローラーのパフォーマンスをモニターするときに検討が必要なもう 1 つの因子は、現行クローラー・セッションの開始以降にクローラーがクロールした URL の数です。この数を、クローラーが稼働した合計時間で除算した値が、長期間の平均スループットです。この数値が増加しない場合、クローラーは完了しているか、進行できないかのいずれかです。例えば、ネットワーク接続エラー、データベース・エラー、DNS ルックアップ失敗などがあると、クローラーの進行が妨げられます。

Web クローラー・レポートの作成

Web クローラーの過去のアクティビティーに関するレポートを表示することによって、全体的なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティーおよびクロール・スペース定義を調整できます。

始める前に

コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表示することができ、クローラーのアクティビティーに関するレポートを作成することもできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

このタスクについて

さまざまなタイプのレポートがあり、Web クローラーのアクティビティーに関する情報が提供されます。レポートのタイプによっては、クローラーの内部データベースから収集できる限りの速度で情報が戻されるものもあります。サイト・レポートおよび HTTP 戻りコード・レポートは、作成に時間を要します。これらのタイプのレポートを作成する場合、結果がエンタープライズ・サーチ管理コンソールに戻されるのを待つ代わりに、レポートを受け取る E メール・アドレスを指定できます。

レポートでの統計の解釈方法については、Web クローラーのモニター中およびレポートの作成中に「ヘルプ」をクリックしてください。

手順

Web クローラー・レポートを作成するには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクション・リストで、モニターしたい Web クローラーを所有するコレクションを見つけ、 「モニター」をクリックします。
3. 「クロール」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「クロール」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、クローラーをモニターするためのビューに移動できます。

4. レポートを作成したい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、 「詳細」をクリックします。
5. Web クローラーの詳細ページで、作成したいレポートのタイプに応じてオプションを選択します。
 - クローラーと、クローラーがディスカバーまたはクロールするすべてのサイトに関するレポートを作成するには、「クローラー状況サマリー」領域で「クローラー履歴」をクリックします。
 - 「URL 状況」領域で、レポートを作成したい特定のサイトの URL を指定し、「表示」をクリックし、「サイト履歴」をクリックします。
6. クローラー履歴とサイト履歴の両方のレポートについて、レポートに入れたい統計のチェック・ボックスを選択し、「レポート表示」をクリックします。

これらのタイプの統計について、クローラーは、内部データベースから情報を取得できる限りの速度で、レポートを管理コンソールに戻します。

7. クローラー履歴レポートを作成する場合、サイト・レポートを作成するためのオプションを指定し、「レポートの実行」をクリックします。

このレポートは、選択した統計が組み込まれて作成され、指定するファイルに保存されます (このファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成後に E メールを受け取ることを指定できます。

8. クローラー履歴レポートを作成する場合、HTTP 戻りコード・レポートを作成するためのオプションを指定し、「レポートの実行」をクリックします。

このレポートには、サイトごとに分布している HTTP 戻りコードの数についての情報が示されます。このレポートは、指定するファイルに保存されます (このファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成後に E メールを受け取ることを指定できます。

このレポートを使用すると、4xx 戻りコード (ページが見つからなかったことを示す)、5xx 戻りコード (サーバー問題を示す)、6xx 戻りコード (接続での問題を示す) 等を多く戻しているサイトを確認できます。

このレポートは、クローラーがある程度の時間アクティブであった場合に最も利用価値があります (例えば、数週間にわたってアクティブであったクローラーの場合など)。このレポートは、消失したサイト、新着サイト、大量の URL が含まれるサイト (Lotus Notes データベースの重複クロールを表している可能性があります)、HTTP サーバーによる再帰的ファイル・システムのサービスを受けているサイトを識別するのに役立ちます。多数の HTTP 戻りコードがあるサイトが索引に寄与していない場合、それらのサイトをクロール・スペースから除去することによって、クローラーのパフォーマンスを向上させることができます。

Web クローラーの HTTP 戻りコード

Web クローラーをモニターするとき、クロールするページから クローラーが受け取る HTTP 戻りコードに関する情報を見ることができます。

表のサマリー

Web クローラー履歴をモニターするか、または特定の URL の状況をモニターするとき、クローラーに戻された HTTP 戻りコードを見ることができます。この情報を使用して、クロール・スペースの管理およびクローラー・パフォーマンスの最適化を行えます。例えば、ある URL に対して多数の HTTP 戻りコードをクローラーが受け取り、それらの戻りコードが、その場所にあるページがクロールできないことを示すものである場合、その URL をクロール・スペースから除去することによってパフォーマンスを改善できます。

以下の表に、HTTP 戻りコードと、Web クローラーがそれらをどのように解釈するのかを示します。100 から 505 までの値は標準 HTTP 戻りコードです (詳しくは、<http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616.html> を参照してください)。それ以外の HTTP 戻りコードは、エンタープライズ・サーチおよび Web クローラー専用のコードです。

表 2. Web クローラーからの HTTP 戻りコード

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
NULL	未クロール	401	無許可	500	内部サーバー・エラー	700	解析エラー (ヘッダー・エンドなし)
100	継続	402	支払要	501	未実装	710	解析エラー (ヘッダー)
200	成功	403	禁止	502	不正なゲートウェイ	720	解析エラー (HTTP コードなし)
201	作成されました	404	検出されません	503	サービス利用不可	730	解析エラー (本文)
202	受け入れられました	405	許可されないメソッド	504	ゲートウェイのタイムアウト	740	robots.txt ファイルにより除外
203	信頼できない情報	406	受け入れ不能	505	サポートされない HTTP バージョン	741	ロボットが一時的に利用不可
204	コンテンツなし	407	プロキシ認証が必要	611	読み取りエラー	760	クロール・スペース定義により除外
205	コンテンツのリセット	408	要求タイムアウト	612	接続エラー	770	不正なプロトコルまたは非標準システム・ポート
206	部分的コンテンツ	409	競合	613	読み取りタイムアウト	780	ファイル・タイプ排他により除外

表 2. Web クローラーからの HTTP 戻りコード (続き)

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
300	多肢選択	410	もう存在しない	614	SSL ハンドシェイク失敗	2004	索引 META タグなし
301	永久に移動済み	411	長さが必要	615	他の読み取りエラー	3020	ソフト・リダイレクト
302	検出されました	412	前提条件失敗	616	FBA 異常	4044	robots.txt ファイルにより除外
303	他を参照	413	要求エンティティが大きすぎる	617	エンコード・エラー		
304	未変更	414	要求 URI が長すぎる	680	DNS ルックアップ失敗		
305	プロキシ使用	415	サポートされないメディア・タイプ				
306	(未使用)	417	予想失敗				
307	一時的リダイレクト						

表の注

4xx 戻りコード

400 (不正な要求) コードは、めったにありません。HTTP 戻りコード標準によると、4xx コードは、クライアント (クローラー) が失敗したことを示します。しかし、サーバーに問題があるか、クローラーがリンクとして受け取った URL に問題があるのが普通です。例えば、一部の Web サーバーは、サイト・ルート (例えば、<http://xyz.ibm.com/./../foo>) からナビゲートしようとする URL を許容しません。他の Web サーバーでは、このような上方ナビゲーションでの問題はなく、クローラーがすでにルートにある場合は親ディレクトリー記号 (..) を無視します。

一部のサーバーはサイト・ルートに対する要求をエラーとして扱い、古くなったリンクが、もう認識または実装されていない操作を要求する可能性があります。もうサービスされていないページに対する要求があると、その要求はもう有効とは見なされないのので、アプリケーション・サーバーは例外をスローし、それが原因となって Web サーバーは HTTP 戻りコード 400 を戻します。

615 Web サイトからデータをダウンロードするクローラー・コンポーネントで予期しない例外が検出されたことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある場合、クローラーでの問題があると考えられます。

6xx 戻りコード

615 を除く 6xx 戻りコードは、タイムアウトなど、クローラーにおいて予想される問題を示します。以下の戻りコードについては、修正処置が必要な場合があります。

611、612、613

サイトが低速であるか、ネットワーク・パフォーマンスが不十分であることを示します。

- 614** クローラーがセキュア (HTTPS) サイトをクロールできないことを示します。これらのサイトがアクセス可能であるという確信がある場合、証明書がクローラー・サーバーおよびターゲット Web サーバー上で正しくセットアップされていることを確認してください。例えば、認識された認証局 (CA) によって認証済みのサイトの場合、クローラーが使用するトラスト・ストアに新しい CA を追加することができます。

また、クロールしようとしているサイトで自己署名証明書がどのように構成されているかも確認してください。クローラーは、自己署名証明書を受け入れるように構成されています。サイトによっては、ルート URL (例えば、`http://foo.ibm.com/`) に対して自己署名証明書を作成し、その後、サブドメイン (例えば、`http://bar.foo.ibm.com/`) でその証明書の使用を試みます。クローラーは、このような方法で使用される証明書を受け入れられません。クローラーが自己署名証明書を受け入れるのは、サブジェクトのドメイン名 (`foo.ibm.com`) および証明書の署名者が、要求されているページのドメイン名と一致する場合のみです。

- 616** ログイン・フォームが、再認証後にダウンロードにも出現することを表します。

- 617** エンコード・ストリング (文字セット) が正しくないか、または文書に無効なバイトが含まれているために、文書のバイト・コンテンツからストリングを作成できないことを表します。

- 680** おそらくネットワーク・アクセスの問題のため、クローラーが、クロール・スペース内でホストの IP アドレスを入手できなかったことを示します。このタイプのエラーは、クローラーが、いくつかの URL をクロールできなかったのではなく、サイト全体をクロールできないことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある場合、スループットが大幅に減少します。

7xx 戻りコード

7xx コードは、ほとんどの場合、クロール・スペースにおける規則が原因です。

710 - 730

問題があるためにクローラーがダウンロードを完全にできないこと、または、クローラーがサイトで無効な HTML データを検出したことを示します。これらのタイプの戻りコードが多数ある場合、エンタープライズ・サーチのサポート担当者に支援を依頼してください。

740 または 4044

サイトの `robots.txt` ファイル内の制限によって文書が除外されているため、ファイルのコンテンツを索引付けできないことを示します。

740 除外された文書をポイントするアンカー・リンクを索引に含められることを示します。

4044 除外された文書をポイントする文書内のアンカー・リンクが索引でも除外されることを示します。

741 サイトにはクローリングを許可する robots.txt ファイルがあるが、ダウンロードが失敗したことを示します。URL をクローリングできない状態が繰り返される場合、その URL はクローリング・スペースから除去されます。このタイプの戻りコードが多数ある場合、ターゲット・サイトが永久に利用不可なのか一時的に利用不可なのかをチェックしてください。ターゲット・サイトがもう使用可能でない場合、それをクローリング・スペースから除去してください。

残りの 7xx 戻りコードは、クローラーがしばらく稼働した後で、クローリング・スペースに変更を加えた場合に発生することがほとんどです。通常、これらの戻りコードが発生しても、解決が必要な問題はありません。

3020 戻りコード 200 をもつ文書に、別の URL へのユーザー・エージェントを参照するロケーション・ヘッダーが含まれることを表します。

パーサーのモニター

パーサーによって分析される文書に関する情報を表示する必要がある場合に、それがエンタープライズ・サーチ索引に追加される前にパーサーをモニターします。オプションを使用して、統計を検討し、パーサーのアクティビティを管理できます。

始める前に

管理役割がコレクションのモニターに限定されている場合、パーサーの状況を表示することはできますが、パーサーを開始したり、停止したりすることはできません。

このタスクについて

パーサーの詳細をモニターしているとき、特定の瞬間に合わせて構文解析アクティビティに関する統計を提供するパーサー・アクティビティのスナップショットが表示されます。統計により、クローリングが終了し、現在、解析中または解析を待っている文書の数や、解析が終了し、索引への格納を待っている文書の数が示されます。

パーサーがアクティブであれば、メッセージにより、パーサーの実際の状態に関するその他の情報が提供されます。例えば、パーサーが実際に文書を解析中であつたり、アイドル状態 (より多くの文書が構文解析可能になるまで活動を中止している、エラー状態のため再起動を待っている、あるいはパーサー・サービスが再起動されるのを待っている) であつたり、あるいは休止中 (例えば、索引の再編成が完了するのを待機中) であることが考えられます。

手順

コレクションのパーサーをモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。
3. 「解析」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「解析」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクションをモニターするためのビューに移動できます。

4. パーサーが稼働中で、解析アクティビティーに関する詳細な状況情報を表示したい場合は、 「詳細」をクリックします。

コレクションのプロセス管理を許可する管理役割を持っている場合、解析アクティビティーに関する詳細を表示中にパーサーを開始および停止することができます。

5. パーサーが停止されていて、それを開始したい場合、 「開始」をクリックします。

最初にコレクションを作成するときには、クローラーがデータのクロールを開始した後で、パーサーを開始してください。そうすれば、パーサーが分析とカテゴリ化を行うデータが必ずあることとなります。解析規則を変更しない限り、パーサーは続けて実行させておくことができます。

6. パーサーが実行中であり、それを停止したい場合は、 「停止」をクリックします。

構文解析規則を変更する場合、パーサーを停止して再始動する必要があります。例えば、カテゴリ化タイプ、カテゴリ規則、XML フィールド・マッピング規則、HTML メタデータ・マッピング規則、またはテキスト分析オプションを変更した場合は、パーサーを停止して、再始動した後でないと、変更が有効になりません。

重要: すでに索引に入れられている文書に解析変更を適用するには、文書をもう一度解析して、索引作成できるように、再クロールする必要があります。

関連概念

4 ページの『エンタープライズ・サーチ・パーサー』

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分析し、文書の索引作成の準備を行います。

コレクションの索引アクティビティーのモニター

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティーの開始/停止を行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、索引アクティビティーをモニターできます。索引作成の開始または停止を行うか、索引スケジュールを使用可能/使用不可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

コレクションの索引をモニターするには、次のようにします。

1. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「モニター」をクリックします。
3. 「索引」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集集中であり、すでに「索引」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクションをモニターするためのビューに移動できます。

4. 索引がスケジュール済みであり、スケジュールされた日時にその索引が作成されることを望まない場合、 「スケジュールを使用不可にする」をクリックします。その索引は、スケジュールを使用可能にするか、索引作成プロセスを開始するまで、作成されません。
5. 索引がスケジュール済みであるが、索引作成のスケジュールが現在使用不可にされている場合、 「スケジュールを使用可能にする」をクリックします。索引は、索引付けスケジュールに指定した日時に、作成のためにキューに入れられます。
6. 索引が停止されていて、それを開始したい場合、 「開始」をクリックします。

通常、索引付けは定期的なスケジュールに従って行われます。索引が作成されているときに停止した場合、または、索引のスケジュールを使用不可にした場合、「開始」をクリックして索引作成を強制開始できます。

7. 索引作成がアクティブであり、それを停止したい場合、 「停止」をクリックします。

例えば、索引作成を停止する必要がある場合として、コレクション内で使用されるカテゴリ化のタイプを変更した後に索引の再編成を強制する場合などが考えられます。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

123 ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキューからの索引の削除を行うことができます。

始める前に

索引キューを管理するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

このタスクについて

複数の索引を同時に作成することができますが、一度にキューに入れられるコレクションは 1 つだけです。システムの索引オプションを構成するとき、いくつかの索引がキューおよび索引作成用リソースを同時に共用できるのかを指定します。

手順

索引キューをモニターするには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2. 「索引」ページを選択します。

現在索引キュー内に索引があるコレクションのリストが表示されます。それぞれの索引ごとに、作成中の索引のタイプ (リフレッシュまたは再編成)、索引が索引キューに入れられた時刻、索引作成が始まった時刻 (作成が進行中である場合) が表示されます。

3. 個々の索引を管理するには、「状況」アイコンをクリックします。

例えば、ある索引がどの程度まで完了しているかを見たり、索引内の文書数を見たり、索引スケジュールを使用不可にすることができます。

4. 現在作成されている索引を停止するには、 「停止」をクリックします。

例えば、カテゴリ規則を変更した場合などに、索引の再編成を強制開始できるように索引のリフレッシュを停止することができます。

索引作成を停止した後に開始するには、スケジュールされている次の開始時刻に索引が索引キューに入るのを待つか、あるいは、「状況」アイコンをクリックして索引をモニターし、次に 「開始」をクリックして索引のリフレッシュまたは再編成を行います。

5. 索引キューから索引を削除するには、 「除去」をクリックします。

関連概念

6 ページの『エンタープライズ・サーチ索引』

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

123 ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

検索サーバーのモニター

ある特定のコレクションについて検索サーバーのアクティビティに関する詳細な状況情報を表示するか、または、エンタープライズ・サーチ・システム全体について検索サーバーの詳細な状況情報を表示することができます。

始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレクションの検索サーバーをモニターできます。エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

検索サーバーの開始または停止を行うには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

1. 単一のコレクションの検索サーバーをモニターするには、次のようにします。
 - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
 - b. コレクションのリストで、モニターしたいコレクションを指して、 「**モニター**」をクリックします。
 - c. 「**検索**」 ページを選択します。

ヒント: コレクションを編集途中であり、すでに「**検索**」 ページが表示されている場合は、 「**モニター**」 をクリックすれば、目的のコレクションをモニターするためのビューに移動できます。

2. エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするには、次のようにします。
 - a. 「**システム**」 をクリックして「システム」ビューを開きます。
 - b. 「**検索**」 ページを選択します。
3. 検索サーバーが停止されていて、それを開始したい場合、 「**開始**」 をクリックします。
4. 検索サーバーが実行中であり、それを停止したい場合は、 「**停止**」 をクリックします。

検索キャッシュを使用可能または使用不可にした、検索キャッシュのサイズを変更した、またはクイック・リンクを変更した場合は、変更を有効にするために、検索サーバーを停止して、再始動する必要があります。

5. 検索サーバーが検索要求の処理に費やす時間のサマリーを表示するには、「**応答時間 (履歴)**」 をクリックします。

このレポートには、ある特定の日に検索要求への応答に検索サーバーが費やした平均時間がミリ秒で示されます。

平均応答時間は、システムのパフォーマンスの指標であり、サービス品質に対応します。応答時間の増加は、システムに負荷がかかっていることを示します。例えば、検索対象のコレクションの数およびコレクション・サイズがシステムの負担になっていることが考えられます。

6. 最も頻繁にサブミットされている照会のリストを表示するには、「**高頻度の照会**」をクリックします。

このレポートでは、最も頻繁にサブミットされた上位 50 の照会におけるキーワードと、ある特定の照会をユーザーがサブミットした回数が表示されます。

高頻度の照会を検討することによって、クイック・リンクの候補を識別できます。クイック・リンクを作成すれば、多くのユーザーのために検索品質に良い影響を与えることができます。関連の高い文書が常に検索結果に戻されることを保証できます。

また、これらの照会に答えるようなリソースへのエンタープライズ・ポータルからのリンクを作成するといった場合もあります。例えば、交際費に関する情報をユーザーが頻繁に検索している場合に、イントラネット・ホーム・ページに、交際費手続きを議論するページへのリンクを組み込みます。

7. 最近サブミットされた照会のリストを表示するには、「**最新の照会**」をクリックします。

このレポートでは、最近サブミットされた 50 個の照会におけるキーワードが表示されます。

最新の照会を検討することによって、組織における現在の傾向と緊急事態を識別できます。例えば、何らかのトピックに対する関心が急に高まっていることなどが分かります。そのような関心の高まりは、そのトピック用のクイック・リンクの必要性を示していたり、そのトピックを他の方法 (エンタープライズ・ポータルでのリンクの提供など) でユーザーが使用できるようにする必要があることを示している可能性があります。

関連概念

8 ページの『エンタープライズ・サーチ用検索サーバー』

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携して、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

データ・リスナーのモニター

データ・リスナーをモニターしてその状況を確認し、クライアント・データ・リスナー・アプリケーションのアクティビティーに関する詳細を表示します。

始める前に

データ・リスナーをモニターするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

手順

データ・リスナーをモニターするには、次のようにします。

1. 「**システム**」をクリックして「**システム**」ビューを開きます。

2. 「データ・リスナー」ページで、状況アイコンを表示して、データ・リスナーがアクティブであるのか、停止しているのかを確認します。
3. データ・リスナーが稼働中で、クライアント・アプリケーションのアクティビティに関する詳細な状況情報を表示したい場合、 「詳細」をクリックします。

「データ・リスナー詳細」ページの状況アイコンは、データ・リスナーが稼働中か、停止しているかを示します。統計により、処理を待っている要求の数、クライアント・アプリケーション要求に対して作動している各スレッドの現在の状態、指定のスレッド状態についてアクティブなスレッドの数が示されます。

4. データ・リスナーのポート番号を変更する場合は、 「再始動」をクリックします。

データ・リスナーは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されたときに開始されます。データ・リスナーのポート番号を変更した場合を除き、データ・リスナーを再始動する必要はありません。

関連タスク

84 ページの『データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成』

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタープライズ・サーチを拡張することができます。カスタム・データ・リスナー・アプリケーションは、コレクションへのデータの追加、コレクションからのデータの除去、または Web クローラーに対する URL へのアクセスおよび再アクセスの指示を行えます。

エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理

コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを選択し、ログ・ファイルの作成と表示のオプション、アラート受信のオプション、およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

通常運用では、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、メッセージを共通のログ・ファイルに書き込みます。このログ・ファイルは、索引サーバーの `ES_NODE_ROOT/logs` ディレクトリにあります。管理コンソールを使用して、この共通ログ・データを表示することができます。

ネットワーク通信障害などの問題が発生すると、当該コンポーネントは、そのコンポーネントがインストールされているサーバーの `logs` ディレクトリにログ・メッセージを書き込みます。これらのローカル・ログ・ファイルを表示するには、UNIX システムの `tail` ユーティリティなど、当該コンピューターのファイル・ビューアーを使用してください。このタイプのログ・ファイルの表示に管理コンソールを使用することはできません。

ログ・ファイルの構成時には、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メッセージ、警告メッセージなど) の選択、古くなったログ・ファイルを廃棄して新規のログ・ファイル用のスペースを確保する場合の廃棄頻度の指定、ログ・ファイルの最大サイズの指定、およびメッセージ言語の選択を行うことができます。また、特定の事象が発生した場合や、特定のメッセージ、あるいは特定のタイプのメッセージがログに記録された場合に、必ず E メールを受信するようにするオプションを指定することもできます。

ログ・ファイルをモニターする場合、開きたいログ・ファイルを選択できます。ログ・ファイルの内容をフィルターに掛けて、特定の重大度レベル (エラー・メッセージのみなど) のメッセージ、または特定のエンタープライズ・サーチ・セッションが生成したメッセージだけを表示するように設定することができます。ログ・ファイルを表示する場合、個別のメッセージの詳細を表示することができます。例えば、メッセージを生成した機能名、その他問題に対処するときに役に立つ情報を必要に応じて確認することができます。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

239 ページの『エンタープライズ・サーチのメッセージ』

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・メッセージについて、修正処置の説明および提案が提供されます。

アラート

エンタープライズ・サーチでは、特定のイベントの発生が検出された場合に、メッセージをログ・ファイルに書き込むように構成することができます。

イベントによって起動され、作成されるメッセージ (アラートと呼ばれます) は、特定のリソースでフリー・スペースがなくなりかけているなど、対処が必要と思われる状態の発生を管理者に通知します。エンタープライズ・サーチでアラートを構成する場合、システムでモニターする条件を指定します。その条件に該当する状態が発生した場合、自動的にログ・ファイルにメッセージが書き込まれます。

特定の状態について、直接管理者に通知されるようにしたい場合は、モニターによる特定のメッセージがログに記録されたときに E メールを送信するオプションを指定できます。

アラートは、コレクション・レベルのイベント、およびシステム・レベルで発生したイベントに対して構成できます。コレクション・レベルでは次のような構成が可能です。

- 各クローラーがクロールする文書数をモニターし、指定された最大文書数に近くなった場合にアラート・メッセージを発行する。
- コレクションの索引に追加される文書数をモニターし、指定された最大文書数に近くなった場合にアラート・メッセージを発行する。
- 検索要求に対する応答時間が指定した限度を超える場合に通知する。

システム・レベルでは、エンタープライズ・サーチ・サーバーのディスク・スペースをモニターし、フリー・スペースの量が少なくなった場合にアラート・メッセージを発行する構成を設定することができます。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

コレクション・レベル・アラートの構成

アラートを構成することによって、特定のコレクション・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

始める前に

コレクションのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

手順

コレクション・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
2. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「**編集**」をクリックします。
3. 「ログ」ページで、「**アラートの構成**」をクリックします。
4. システムが、それぞれのクローラーがクロールしている文書の数をモニターするようにしたければ、次のステップを行います。

- a. 「クローラーがクロールした文書数が最大許容値の一定比率に達した場合」チェック・ボックスを選択します。
- b. 「比率 (%)」フィールドに、メッセージをログに記録する時点のパーセンテージを指定します。この数値は、クローラーがクロールできる最大文書数に対するパーセンテージで指定します (クローラー・プロパティを構成するときに、「最大文書数」を指定します)。デフォルト値は 90 % です。

それぞれのクローラーに異なる制限を構成できるので、クローラーごとに別個のメッセージがログに記録されます。例えば、デフォルトのアラートしきい値を使用し、DB2 クローラーは 200 万の文書をクロールでき、Notesクローラーは 100 万の文書をクロールできるようにした場合、DB2クローラーが 180 万の文書をクロールしたときにメッセージが 1 つログに記録され、Notesクローラーが 90 万の文書をクロールしたときに別のメッセージがログに記録されます。

- 5. システムが、索引に追加されている文書の数モニターするようにしたければ、次のステップを行います。
 - a. 「コレクション内の文書数が見積もり数の一定比率に達した場合」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「比率 (%)」フィールドに、メッセージをログに記録する時点のパーセンテージを指定します。この数値は、コレクションが保持すると想定される見積もり文書数のパーセンテージで指定します。デフォルト値は 85 % です。

「限度」フィールドに、コレクションの現在の見積もり数が表示されます。この値を変更するには、コレクションの「一般」ページを開き、一般オプションを構成するオプションを選択して、「見積もり文書数」フィールドに新しい値を指定します。

重要: この限度、およびあるコレクションのために構成する文書の見積もり数は、そのコレクションの拡大をモニターするためにのみ使用されます。それらの数値は、索引が拡大できる大きさの絶対的な制限を押しつけるものではありません。

- 6. システムが、検索要求の応答に必要な時間が限界を超えた場合に通知するようにしたければ、次のステップを行います。
 - a. 「検索応答時間が限度を超えた場合」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「限度」フィールドに、最長の検索応答時間として許容できる秒数を入力します。

この数を超えると、システムは、このイベントについてのログ・メッセージを書き込みます。例えば、デフォルト値のままにした場合、システムは、検索サーバーの検索要求に応答する時間が平均 5 秒以上かかると、ログ・メッセージを作成します。

標準的な応答時間は、0.5 秒以内です。平均が 1 秒を超える場合、オペレーティング・システムにパフォーマンスを改善する調整が必要であるか、あるいは、検索サーバーの構成設定に問題があることを示しています。例えば、検索キャッシュに割り振るスペースの量を増やすことも考えられます。

- 7. 「OK」をクリックします。

これらのイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、E メールを受信できるようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックして、E メール・アドレスを指定します。使用可能にしたアラートのメッセージ ID は、E メールが送信されるメッセージ ID のリストに自動的に追加されます。

E メールを受信できるようにするには、その前に、ユーザーのメール・サーバーの情報が構成されていることを確認する必要があります。これを行うには、エンタープライズ・サーチ管理者は、ツールバーの「システム」を選択し、「ログ」ページを開いて、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックする必要があります。

関連タスク

229 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

システム・レベル・アラートの構成

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

始める前に

システム・レベルのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。

手順

システム・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「ログ」ページで、「アラートの構成」をクリックします。
4. システムが、エンタープライズ・サーチ・サーバーで使用可能なフリー・スペースの量をモニターするようにしたい場合は、「ファイル・システムの使用可能スペース量が全体スペースの一定比率に達した場合」チェック・ボックスを選択します。
5. 「比率 (%)」フィールドに、システムが、サーバーのフリー・スペースの量が少なくなったことを通知する時点のパーセンテージを指定します。この数値は、ファイル・システムの合計スペースに対するパーセンテージで指定します。デフォルト値は 80 % です。

使用しているエンタープライズ・サーチ・システムが複数のサーバー上にセットアップされている場合、システムは、サーバーごとに別個のログ・メッセージを作成します。例えば、クローラー・サーバーのスペース量が低下したときにメッセージによって通知されます。また、別のメッセージで、索引および検索サーバー上のスペースの制限について通知されます。

6. 「OK」をクリックします。

このイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、E メールを受信するようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックして、E メール・アドレスと、メール・サーバーについての情報を指定します。

関連タスク

229 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

ログ・ファイルの構成

ログに記録したいメッセージのタイプを指定し、ログ・ファイル作成のオプションを指定できます。

始める前に

コレクション・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。システム・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。

このタスクについて

ログ・ファイルが消費するディスク・スペースが大きくなりすぎるのを防止するために、システムはログ・ファイルを循環させ、現在日付が変わるたびに新しいログ・ファイルを開始します。1 つのログ・ファイルが許容最大サイズに達し、日付が変わっていない場合、システムは新しいログ・ファイルを作成します。ログ・ファイルの最大数に達した場合、新しいログ・ファイルを作成できるように、最も古いログ・ファイルが廃棄されます。

ログに記録されたメッセージについての E メールを受信するには、まず E メールが配信される方法に関する情報を指定します。次に、どのメッセージについて E メールを受信したいのかを指定します。

手順

エンタープライズ・サーチ・ログ・ファイルを構成するには、次のようにします。

1. システム・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
 - a. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
 - b.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
 - c. 「ログ」ページで、「ログ・ファイル・オプションの構成」をクリックします。「システム・レベルのログ・ファイル・オプション」ページが表示されます。
2. コレクション・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
 - a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。

- b. コレクションのリストで、オプションを指定したいコレクションを指して、
 「編集」をクリックします。
- c. 「ログ」ページで、「ログ・ファイル・オプションの構成」をクリックします。
「コレクション・レベルのログ・ファイル・オプション」ページが表示
されます。

3. 「ログ対象の情報タイプ」フィールドで、ログに記録したいメッセージのタイプ
を選択します。

エラー・メッセージのみ

エラー・メッセージは、望ましくない状態または予期しない動作が発生
したことで、処理が継続できないことを示します。何らかの処置を実行
して問題を解決する必要があります。

エラーおよび警告メッセージ

警告メッセージは、起こりうる競合または不整合を示しますが、そのた
めに処理が停止するわけではありません。このオプションがデフォルト
です。

すべてのメッセージ

情報メッセージは、システムまたは現行タスクの一般情報を示し、修正
処置は何も必要ありません。

4. 「各ログ・ファイルの最大サイズ」フィールドに、各ログ・ファイルの最大サイ
ズを M バイトで入力します。デフォルト値は 5 MB です。

ログ・ファイルがこのサイズに達すると、ログ・ファイルの許容最大数に達する
まで新しいログ・ファイルが作成されます。ログ・ファイルを比較的小さいサイ
ズにしておく、表示して調べるときの効率がよくなります。

5. 「ログ・ファイルの最大数」フィールドに、作成したいログ・ファイルの最大数
を入力します。デフォルト値は 10 です。

古いログ・メッセージも確実に参照できるようにしたい場合は、この数値を大き
くしてください。関心があるのは最近のメッセージであり、長期間のアクティビ
ティー履歴を保持する必要がない場合は、この値を減らしてください。

6. 「デフォルト・ロケール」フィールドで、ログ・メッセージに使用したい言語を
選択します。デフォルト値は英語です。
7. 「OK」をクリックします。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに
対して作成されます。

SMTP サーバー情報の構成

エンタープライズ・サーチのアクティビティーに関する E メールを受信できるよう
にするには、その前に、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの情報を構
成しておく必要があります。

始める前に

SMTP サーバーの情報を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

このタスクについて

いくつかのエンタープライズ・サーチ管理機能を使用して、E メールを受信できます。これらの機能のいずれかから E メールを受信するには、その前に、SMTP サーバーの情報を指定する必要があります。

- コレクション・レベルのアラートまたはシステム・レベルのアラートを構成すると、これらのメッセージがログに記録されるかどうかに関係なく、E メールを受信できます。また、モニター対象のイベントに起因するメッセージだけでなく、他のメッセージがログに記録されたときに E メールを受信することもできます。
- 索引内の URI の詳細情報を表示したい場合、レポートを E メールで受け取ることができます。
- Web クローラーをモニターし、Web クローラーの履歴レポートを作成するよう指定した場合、レポートの作成後に E メールで通知されます。

手順

SMTP サーバーの情報を構成するには、次のようにします。

1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
2.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
3. 「ログ」ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックします。
4. 「システム・メッセージに対する E メール・オプション」ページで、「E メール配信に使用する SMTP メール・サーバー」フィールドに、使用したい SMTP サーバーの完全修飾ホスト名または IP アドレスを入力します。

システムは、このサーバーを使用して、指定したアドレスに E メールを送信します。

5. 「Eメールの確認頻度」フィールドに、適格メッセージのチェックとそれらに関する Eメールの送信をシステムが行う頻度を指定します。

システムは、1 つの特定の E メール・アドレス向けのメッセージはすべて結合して 1 つのメッセージにし、指定した頻度でそのメッセージを送信します。

6. 「OK」をクリックします。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

ログ・メッセージについての Eメールの受信

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら Eメールを受信するというオプションを指定できます。

始める前に

システム・レベル・メッセージの E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。コレクション・レベル・メッセージの E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

E メールを受信できるようにするには、最初に、E メールが送達できるように SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの情報を構成しておく必要があります。

このタスクについて

アラートの構成では、特定のイベントが発生したらメッセージをログに記録するというオプションを選択できます。それらのオプションを使用可能にした場合、それらのメッセージがログに記録されたら自動的に E メールを受信するというオプションを構成できます。また、イベントに起因するメッセージだけでなく、他のメッセージがログに記録されたときに E メールを受信するというオプションを指定することもできます。

手順

メッセージについての E メール・オプションを構成するには、次のようにします。

1. システム・メッセージに関して E メールを受け取りたい場合は、次のようにします。
 - a. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
 - b.  「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
 - c. 「ログ」ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックします。
 - d. 「システム・メッセージの E メール・オプション」ページで、「コレクション・レベル・メッセージに関する E メールを受信する」チェック・ボックスを選択します。
 - e. 「E メール受信用 E メール・アドレス」フィールドに、1 つ以上の E メール・アドレスを入力します。通常、エンタープライズ・サーチ管理者は、システム・メッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例:

```
steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com
```

- f. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて E メールを受信したい場合は、「全エラー・メッセージに関する E メールを受信する」チェック・ボックスを選択します。
- g. 特定のシステム・レベルのメッセージがログに記録されたときにのみ E メールを受信したい場合は、「特定のメッセージに関する E メールを受信する」領域でそれらのメッセージのメッセージ ID を入力します。1 行につき 1 つのメッセージ ID を入力してください。例:

```
FFQC4819E  
FFQ00005E
```

デフォルトでは、いくつかのメッセージ ID がリストされます (これらのメッセージの説明については、「ヘルプ」をクリックしてください)。

- h. 「OK」をクリックします。
2. コレクションのメッセージに関して E メールを受け取りたい場合は、次のようにします。
 - a. 「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
 - b. コレクションのリストで、構成したいコレクションを指して、 「編集」をクリックします。
 - c. 「ログ」ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックします。
 - d. 「コレクション・メッセージの E メール・オプション」ページで、「コレクション・レベル・メッセージに関する E メールを受信する」チェック・ボックスを選択します。
 - e. 「E メール受信用 E メール・アドレス」フィールドに、1 つ以上の E メール・アドレスを入力します。通常、コレクション管理者は、コレクション・レベルのメッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例:

```
steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com
```

- f. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて E メールを受信したい場合は、「全エラー・メッセージに関する E メールを受信する」チェック・ボックスを選択します。
- g. 特定のコレクション・レベルのメッセージがログに記録されたときのみ E メールを受信したい場合は、「特定のメッセージに関する E メールを受信する」領域でそれらのメッセージのメッセージ ID を入力します。1 行につき 1 つのメッセージ ID を入力してください。例:

```
FFQC4819E  
FFQ00005E
```

デフォルトでは、いくつかのメッセージ ID がリストされます (これらのメッセージの説明については、「ヘルプ」をクリックしてください)。

- h. 「OK」をクリックします。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

239 ページの『エンタープライズ・サーチのメッセージ』

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・メッセージについて、修正処置の説明および提案が提供されます。

関連タスク

224 ページの『コレクション・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、特定のコレクション・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

226 ページの『システム・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

ログ・ファイルの表示

システムおよびコレクション・コンポーネントが共通ログ・ファイルに書き込む ログ・メッセージを表示できます。また、フィルターを指定して、特定の重大度レベルのメッセージ、および特定のエンタープライズ・サーチ・セッションの メッセージのみを表示することもできます。

始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレクションのログ・ファイルを表示できます。システム・レベルのログ・ファイルを表示するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

手順

1. 単一のコレクションのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
 - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
 - b. コレクションのリストで、表示したいコレクションを指して、 「**モニター**」をクリックして、「ログ」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集途中であり、すでに「ログ」ページが表示されている場合は、 「**モニター**」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに移動できます。

2. システム・レベルのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
 - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
 - b. 「ログ」ページを選択します。
3. 「**ログ・ファイル**」フィールドで、表示したいログ・ファイルを選択します。

各ログ・ファイルの名前には、ログ・ファイルのタイプ (システムまたはコレクション ID など)、作成日、その日の作成順を示す数値が含まれています。例:

```
log_file_type_2004-05-26_1.log  
log_file_type_2004-05-26_2.log  
log_file_type_2004-05-25_1.log  
log_file_type_2004-05-25_2.log  
log_file_type_2004-05-25_3.log
```

4. 特定の重大度レベルのメッセージのみを表示したい場合は、「**重大度**」フィールドで適切なチェック・ボックスを選択します。
5. 特定のセッションからのメッセージのみを表示したい場合は、「**セッション**」フィールドで適切なチェック・ボックスを選択します。
6. 「**ログの表示**」をクリックします。

|
|
|

「ログ・ファイル・コンテンツ」ページの各メッセージごとに、メッセージが発行された日付と時刻、メッセージ重大度レベル、メッセージを発行したセッションの名前、メッセージ ID とエラー・テキストが表示されます。

7. 特定のメッセージについて詳しい情報を表示したい場合は、 「詳細」をクリックします。

「ログ・メッセージの詳細」ページに、メッセージを起こしたエンタープライズ・サーチ・サーバーのホスト名、エラーを引き起こしたファイルの名前、エラーが発生した関数および行番号、プロセス ID、スレッド ID が表示されます。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

エンタープライズ・サーチのバックアップおよびリストア

エンタープライズ・サーチ・システムは、バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトを使用することによって、バックアップおよびリストアすることができます。

回復不能エラーによってシステムが障害を起こした場合、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition を再インストールし、リストア・スクリプトを実行する必要があります。また、これらのスクリプトは、1 つまたは複数の新規サーバーに対して基本的な必須システム・ファイルをリストアする場合に使用することもできます。

これらのスクリプトは、次のファイルをバックアップおよびリストアします。

- ES_NODE_ROOT/master_config ディレクトリーの構成ファイル
- クローラーのデータベース・ファイル
- 索引作成ファイル

システムをバックアップする場合、バックアップ・ディレクトリー (*backup_directory*) の下に以下のサブディレクトリーが作成されます。

master_config

ES_NODE_ROOT/master_config ディレクトリーの構成ファイルが保管されます。

database

クローラー・サーバーのデータベース・ファイルが保管されます。

data 索引サーバーの索引作成ファイルが保管されます。

エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを別のディレクトリーにバックアップする場合、十分なディスク・スペースを確保する必要があります。バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトでは、ファイルのチェックは行いません。また、バックアップを開始すると、ほとんどのシステム・セッションは一時的に使用不可になりますが、検索プロセスは継続して実行されます。バックアップの実行は、最新の索引が保管されるようにするため、索引を再編成してから行うようにしてください。

複数サーバーがインストールされているシステムの場合、システムのバックアップおよびリストアは、エンタープライズ・サーチ索引サーバーから行ってください。索引サーバーは DB2 カタログを作成するため、索引サーバーならばクローラー・サーバーの DB2 表にアクセスし、それらをバックアップすることができます。

エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップ

エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップは、UNIX の場合 `esbackup.sh` スクリプトを、Microsoft Windows の場合は `esbackup.bat` スクリプトを使用して行います。

手順

エンタープライズ・サーチ・システムをバックアップするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
2. 次のコマンドを入力します。

UNIX: `esbackup.sh -c -d -i backup_directory`

Windows: `esbackup.bat -c -d -i backup_directory`

指定できるオプションは、次のとおりです。

- c 構成ファイルをバックアップします。このオプションがデフォルトです。
- d データベース内のクロール済み文書をバックアップします。
- i 索引ファイルをバックアップします。

エンタープライズ・サーチ・システムのリストア

システム構成ファイルは、DB2 II OmniFind を、`esrestore.sh` スクリプト (UNIX) または `esrestore.bat` スクリプト (Microsoft Windows) を使用して再インストール後、リストアすることができます。

手順

バックアップ・データからエンタープライズ・サーチ・システムをリストアするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. 共通通信層 (CCL) が開始されていない場合、これを開始します。

UNIX: `startccl.sh -bg`

Windows: `startccl.bat`

Windows のみ: CCL をバックグラウンドで開始するには、「スタート → プログラム → 管理ツール → サービス」の順にクリックし、IBM DB2 Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

3. コントローラーが稼働中の場合は、次のコマンドによってこれを停止します。

`esadmin stop`

4. 次のコマンドを入力します。

UNIX: `esrestore.sh -c -d -i backup_directory`
Windows: `esrestore.bat -c -d -i backup_directory`

指定できるオプションは、次のとおりです。

- c 構成ファイルをリストアします。
- d データベース中のクロール済みの文書をリストアします。
- i 索引ファイルをリストアします。

エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを新規のサーバーにリストアする

システム・ファイルをあるエンタープライズ・サーチ・サーバーからバックアップして、そのシステム・ファイルを現行サーバーではなく、1 基または複数の新規のサーバーにリストアすることもできます。

始める前に

リストア・スクリプトを実行するには、あらかじめ DB2 II OmniFind を対象となる新規のサーバーにインストールしておく必要があります。

このタスクについて

ES_NODE_ROOT/master_config/nodes.ini ファイルに格納されているサーバー情報は、バックアップ・ファイルには含まれていません。

手順

1 基または複数の新規のサーバーにエンタープライズ・サーチのシステム・ファイルをリストアするには、次のようにします。

1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。このユーザー ID は、DB2 II OmniFind のインストール時に指定された管理者 ID です。
2. バックアップ・スクリプトを現行 (リストア元) 索引サーバーに対して実行します。

UNIX: `esbackup.sh`
Windows: `esbackup.bat`

3. FTP プログラムを使用して、`backup_directory` のすべてのファイルを新規の索引サーバーに送信します。
4. 新規の索引サーバーに対してリストア・スクリプトを実行します。

UNIX: `esrestore.sh`
Windows: `esrestore.bat`

エンタープライズ・サーチのメッセージ

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・メッセージについて、修正処置の説明および提案が提供されます。

関連概念

11 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル』

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対して作成されます。

223 ページの『エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイルの管理』

コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを選択し、ログ・ファイルの作成と表示のオプション、アラート受信のオプション、およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

関連タスク

229 ページの『ログ・メッセージについての E メール受信』

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

コントローラーのメッセージ (FFQC)

FFQC0008E

コレクション (*collection_id*) の (*Reorganize or Refresh Type*) 索引を作成している間にエラーが発生しました。

説明: 索引の作成中、または索引の整合性検査時に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、システム・エラー・ログとそのコレクションのエラー・ログを確認してください。

FFQC0020I

コレクション *collection_id*、パーティション *partition_number*、タイプ *build_type* の索引作成は破棄されました。

説明: 索引作成を開始できませんでした。索引はすでに作成中であるか、すでに作成の待機中です。

ユーザー応答:

アクションは不要です。

FFQC0023E

コレクション *collection_name* をクリアできません。パーサーまたは索引作成が実行中です。

説明: コレクションに対してコレクション・クリアのコマンドが実行されました。しかし、コレクション *collection_name* に対してパーサーまたは索引作成はすでに実行中です。

ユーザー応答:

指定されたコレクションに対してパーサーまたは索引作成が実行中であるかどうかを確認してください。このコレクションをクリアしたい場合は、パーサーを停止し、索引作成を停止するかその完了を待ってから、コレクション・クリアのコマンドを再実行してください。

FFQC0027E

パーティション化されたコレクション *collection_name* に対してパーティション番号が指定されていません。

説明: パーティション化されたコレクションの場合には、コマンドにパーティション番号の指定が必要です。

ユーザー応答:

パーティション番号を引数に指定して、コマンドを再実行してください。

FFQC0032E

指定されたマージ・サイズが小さすぎます。

説明: ターゲット・マージ・パーティションに指定されたサイズが小さすぎます。コントローラーが、マージに関与して指定サイズに収まる新しいパーティションを生成できるパーティションの候補を見つけられません。

ユーザー応答:

パーティション・サイズの少なくとも 2 倍のサイズ値を指定してください。

FFQC0641E

解析済みデータ・ストア・パスが空であるため、新規パーティションに書き込めません。

説明: コントローラー・セッションが、新規コレクション・パーティションについて空のストア・パスを戻しました。

ユーザー応答:

コントローラーが新規パーティションについて空の解析済みデータ・ストア・パスを戻した理由については、システム・エラー・ログとコレクションのエラー・ログを確認してください。

FFQC1000E

コレクション名 *collection_name* はすでに存在します。

説明: 入力されたコレクション名 *collection_name* は、別のコレクションのエンタープライズ・サーチにおけるコレクション名としてすでに存在しています。

ユーザー応答:
別のコレクション名を入力してください。

FFQC1002E

索引データ・ディレクトリー *directory* を作成している間にエラーが発生しました。

説明: コレクションの索引データ・ディレクトリーを作成しようとしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:
コレクション・データ・ディレクトリー・パスに指定されたすべてのディレクトリーに、必要な作成許可があることを確認してください。

FFQC1003E

セッション名 *session_name* はすでに存在します。

説明: 入力されたセッション名 *session_name* は、別のセッションのエンタープライズ・サーチにおけるセッション名としてすでに存在しています。

ユーザー応答:
別のセッション名を入力してください。

FFQC1008E

セッション *session_id* はすでに構成されています。セッションを追加できません。

説明: 追加しようとしているセッション *session_id* はすでに構成されています。

ユーザー応答:
既存のセッションを除去した後で、そのセッション名 *session_id* を使用して新しいセッションを再作成できます。あるいは、既存のセッション構成で問題がない場合は、現行セッションのまま、何もする必要はありません。

FFQC1010E

コレクション *colleciton_id* を除去している間にエラーが発生しました。メッセージ・コード *message_id* を受け取りました。

説明: コレクションを除去しようとして、失敗しました。

ユーザー応答:
詳しくは、戻されたメッセージ・コードを参照してください。

FFQC1018E

セッション *session_id* をコレクション *collection_id* に追加している間にエラーが発生しました。メッセージ・コード *message_id* を受け取りました。

説明: コレクションにはいくつかのセッション (プロセス) を構成することができません。指定されたセッションをコレクションに構成しようとしていて、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、戻されたメッセージ・コードを参照してください。

FFQC1023E

クローラー・インスタンス *crawler_instance_id* を除去している間にエラーが発生しました。 *message_id*

説明: コレクションは、もうシステムにありません。ただし、コレクションの関連クローラー・インスタンス・マネージャーの表を除去できませんでした。

ユーザー応答:

さらなる支援については IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FFQC1041W

PID *pid* のロック所有者 *session_id* の構成ロック・ハンドル *lock_handle* を解放しました。このロックを解放せずにセッションが停止または強制終了されました。

説明: セッション *session_id* が保持している構成ロック *lock_handle* は、セッションが実行中でないように見えるため解放されました。

ユーザー応答:

セッションは、構成ロックを解放せずに正常または異常に終了しました。アクションは不要です。

FFQC1042E

コレクション ID *collection_id* はすでに存在します。

説明: 入力されたコレクション ID *collection_id* は、別のコレクションのエンタープライズ・サーチにおけるコレクション ID としてすでに存在しています。

ユーザー応答:

別のコレクション ID を入力してください。

FFQC1043E

コレクション ID が欠落しているか空です。

説明: コレクションの作成時には、コレクション ID の指定が必要です。

ユーザー応答:

コレクション ID を入力してください。長さがゼロの ID は許されません。

FFQC1044E

コレクション名が欠落しているか空です。

説明: コレクションの作成時には、コレクション名の指定が必要です。

ユーザー応答:

コレクション名を入力してください。長さがゼロの名前は許されません。

FFQC1046W

`appids.properties` ファイルは正常にマイグレーションされませんでした。

説明: `appids.properties` 構成ファイルをマイグレーションしている間にエラーが発生しました。コントローラー・サーバー (索引サーバー) で、マイグレーション・プロセスは `appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/master_config/admin` ディレクトリーから `$ES_NODE_ROOT/master_config` ディレクトリーに移動することを試みます。検索サーバーで、マイグレーション・プロセスは `appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/config/admin` ディレクトリーから除去することを試みます。

ユーザー応答:

複数サーバー・インストールの場合、コントローラー・サーバー (索引サーバー) で、`appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/master_config/admin` ディレクトリーから `$ES_NODE_ROOT/master_config` ディレクトリーに移動してください。検索サーバーで、`appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/config/admin` ディレクトリーから除去してください。単一サーバー・インストールの場合、`appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/master_config/admin` ディレクトリーから `$ES_NODE_ROOT/master_config` ディレクトリーに移動してください。また、`appids.properties` ファイルを `$ES_NODE_ROOT/config/admin` ディレクトリーから除去してください。

FFQC1072W

`nodes.ini` ファイルは正常にマイグレーションされませんでした。

説明: `nodes.ini` 構成ファイルをマイグレーションしている間にエラーが発生しました。検索サーバーの情報は、`$ES_NODE_ROOT/master_config/searchmanager/setup.ini` ファイルからマイグレーションされません。

ユーザー応答:

`$ES_NODE_ROOT/master_config/nodes.ini` ファイル内の全検索ノードに、`searchserverhost` (デフォルトは宛先と同じ)、`searchserverport` (デフォルトはポート 80)、および `searchservertimeout` (デフォルトは 60 秒) の適切な値が含まれることを確認してください。

FFQC2034E

索引のコンテンツをリフレッシュするのに使用可能な索引がありません。

説明: 索引のコンテンツは、既存の索引でのみリフレッシュできます。指定されたコレクションには索引が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

有効な索引が作成されていることを確認した後、索引のコンテンツをリフレッシュしてください。

FFQC2605E

キューに入れられる要求の最大数 *number* に達しました。

説明: URL 状況の取得要求の数が、要求キューの限度 *number* を超えました。

ユーザー応答:

キュー内の要求の処理を待ってください。要求をあとで再試行してください。

FFQC2607W

クローラー・セッション *crawler_id* のクロール文書数がしきい値を超えました。

説明: クローラー *crawler_id* に構成された文書最大数を超えました。

ユーザー応答:

パーサーがキュー内の文書を処理できるように、クローラーはその運用を自動的に休止します。クローラーは自動的に運用を再開します。クローラーをモニターし、アクティビティの再開を確認してください。

FFQC2611W

コレクション *collection_id* のコレクション文書数がしきい値を超えました。

説明: コレクション *collection_id* に構成された文書最大数を超えました。文書の最大数に関するコレクションの限度を超えると、システム・パフォーマンスやシステムに構成された他のコレクションに影響を与える可能性があります。

ユーザー応答:

しきい値の限度をより大きい値に再構成することができます。ただし、しきい値の限度を大きくすると、パフォーマンスやシステム・リソースに影響を与える可能性があります。特定のシステム・パフォーマンス・レベルの維持が必要な場合には、他のコレクションのしきい値の限度を小さくすることもできます。

FFQC2613W

検索セッション *session_id* の検索プロセス応答がしきい値を超えました。

説明: 照会要求の検索サーバー応答時間が、構成されたしきい値を超えました。

ユーザー応答:

この動作が続く場合、検索サーバーの照会負荷を調整することができます。検索サーバーにおける他のプロセスとのリソースの共有によって、パフォーマンスに影響が出る可能性もあります。サーバーの負荷の調整を検討してください。

FFQC2616W

使用可能なファイル・システム・スペースがサーバー *node_id* に構成されたしきい値より小さくなっています。実際のフリー・スペース率:

file_system_space_used_percentage 構成されたフリー・スペース率:

file_system_space_used_threshold_percentage

説明: 指定されたサーバー上で使用可能なファイル・システム・スペースが、構成されたしきい値を下回りました。構成されたファイル・システムに使用可能なスペースがないと、ファイル・システムへの書き込みを試行したプロセスが失敗する可能性があります。

ユーザー応答:

指定されたサーバー上のファイル・システムのサイズを大きくしてください。ファイル・システム・リソースを完全に使い尽くさないように、このファイル・システムに書き込むコレクションを再構成することができます。

FFQC3025E

文書 *URI* の処理の間に、パーサー・トークナイザー例外が発生しました。この文書はドロップされています。

説明: 指定された *URI* の文書の解析およびトークン化を実行している間にエラーが発生しました。文書は解析済みデータ・ストアに追加されず、次の索引作成に現れません。

ユーザー応答:

この文書が解析されなかった理由については、システム・エラー・ログを確認してください。

FFQC3026E

ソケット・アクション: *socket_operation* で例外が発生しました。

説明: 文書の解析およびトークン化を実行中にエラーが発生しました。パーサーは停止されます。

ユーザー応答:

パーサーでソケット・エラーが発生した理由については、システム・エラー・ログを確認してください。パーサーの再始動を試行してください。

FFQC4815E

コレクション ID *collection_id* は無効です。

説明: 指定されたコレクション ID でシステムに構成されたコレクションがありません。

ユーザー応答:

存在するコレクションを指定していることを確認してください。

FFQC4838E

無効なサーバー ID *node_id*。

説明: 指定されたサーバー ID でシステムに構成されたサーバーがありません。

ユーザー応答:

存在するサーバーを指定していることを確認してください。

FFQC5201E

api_name API 呼び出しで予期しないエラーが発生しました。

説明: セッションに対する API 呼び出しを行っているときに予期しないエラーが発生しました。

ユーザー応答:

API 呼び出しが失敗した理由については、システム・エラー・ログとコレクションのエラー・ログを確認してください。

FFQC5217E

プロパティ・ファイル *file_name* をロードしている間にエラーが発生しました。

説明: *file_name* のプロパティ・ファイル・コンテンツをロードしようとしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

ファイル *file_name* を参照し、ファイルのコンテンツが誤った形式のデータを含んでいないことを確認してください。

FFQC5228W

ファイル名 *file_name* のファイル・サイズは *file_size* です。これは、ファイル置換サイズの上限 *file_limit* を超えています。

説明: 一時変数のテキスト置換は、構成ファイル *file_name* に対して実行されませんでした。システムが作成するそれぞれの構成ファイルごとに、一時変数のスキャンが、ランタイム中に決定された値をリアルタイム値で置き換えます。このファイルのサイズが *file_size* であり、これはファイル・スキャンが実行される最大サイズ *file_limit* を超えています。

ユーザー応答:

ファイルにはおそらく一時変数は含まれておらず、したがって、スキャンは不要であり、アクションは不要です。

FFQC5233E

サーバー *node_id* が非アクティブです。

説明: 指定されたサーバー ID でエンタープライズ・サーチ・システムが稼働していません。

ユーザー応答:

このサーバーで CCL が稼働していることを確認してください。コントローラー・サーバー (索引サーバー) でエンタープライズ・サーチを再始動することもできます。

FFQC5234W

サーバー *node_id* でセッション *session_id* を開始できません。サーバー *node_id* が非アクティブです。

説明: セッションを開始できません。指定されたサーバー ID でエンタープライズ・サーチ・システムが稼働していません。

ユーザー応答:

このサーバーで CCL が稼働していることを確認してください。コントローラー・サーバー (索引サーバー) でエンタープライズ・サーチを再始動することができます。

FFQC5235E

API 呼び出し *api_name* が NULL の結果を戻しました。

説明: セッションに対する API 呼び出しを行ったときに NULL の結果が戻されました。

ユーザー応答:

API 呼び出しが NULL の結果を戻した理由については、システム・エラー・ログとコレクションのエラー・ログを確認してください。

FFQC5238E

コレクション *collection_id* に対して、パーティション番号 *partition_number* が無効です。

説明: 指定されたパーティションがコレクションに含まれないか、パーティション番号が指定されませんでした。

ユーザー応答:

有効なパーティション番号を指定していることを確認してください。

FFQC5800E

セッション *session identifier* で使用するファイル・システム・スペースの量を見積もり中にエラーが発生しました。

説明: セッション *session identifier* で使用するファイル・システム・スペース量の見積もりを生成中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

セッション *session identifier* で使用するファイル・システム・スペースの量をモニターし、適切なシステム運用に十分なファイル・システム・スペースが使用可能であることを確認してください。

FFQC5801E

セッション *session identifier* で使用する仮想メモリー量の見積もり中にエラーが発生しました。

説明: セッション *session identifier* で使用する仮想メモリー量の見積もりを生成中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

セッション *session identifier* で使用する仮想メモリーの量をモニターし、適切なシステム運用に十分な仮想メモリーが使用可能であることを確認してください。

FFQC5802E

コレクション *collection identifier* で使用するファイル・システム・スペースの量を見積もり中にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* で使用するファイル・システム・スペース量の見積もりを生成中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

コレクション *collection identifier* で使用するファイル・システム・スペースの量をモニターし、適切なシステム運用に十分なファイル・システム・スペースが使用可能であることを確認してください。

FFQC5803E

コレクション *collection identifier* で使用する仮想メモリー量の見積もり中にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* で使用する仮想メモリー量の見積もりを生成中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

コレクション *collection identifier* で使用する仮想メモリーの量をモニターし、適切なシステム運用に十分な仮想メモリーが使用可能であることを確認してください。

FFQC5804E

コレクション (*collection identifier*) に関連するサーバー (*node identifier*) でファイル・システム (*file system identifier*) に必要なサイズ (*amount of file system space in MB*) をファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: コレクション (*collection identifier*) に関連するサーバー (*node identifier*) でファイル・システム (*file system identifier*) に必要なサイズ (*amount of file system space in MB*) をファイルに書き込めませんでした。

ユーザー応答:

ファイル・システムに十分な使用可能スペースがあることを確認してください。

FFQC5805E

サーバー (*node identifier*) でコレクション (*collection identifier*) に必要な仮想メモリ・サイズ (*amount of virtual memory in bytes*) をファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: サーバー (*node identifier*) で仮想メモリに必要なサイズ (*amount of virtual memory in bytes*) をファイルに書き込めませんでした。

ユーザー応答:

ファイル・システムに十分な使用可能スペースがあることを確認してください。

FFQC5806E

コレクション (*collection identifier*) に関連するサーバー (*node identifier*) でファイル・システム (*file system identifier*) に必要なサイズを読み取り中にエラーが発生しました。

説明: コレクション (*collection identifier*) に関連するサーバー (*node identifier*) でファイル・システム (*file system identifier*) に必要なサイズをファイルから読み取れませんでした。

ユーザー応答:

ファイル・システムのログを確認してください。

FFQC5807E

サーバー *node identifier* で必要な仮想メモリを読み取り中にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* で仮想メモリに必要なサイズをファイルから読み取れませんでした。

ユーザー応答:

ファイル・システムのログを確認してください。

FFQC5808E

サーバー *node identifier* のファイル・システム・サイズ見積もり処理中にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* で使用されるファイル・システム・スペースの計算量を、サーバーで使用されているファイル・システム・スペースの実際量と比較できませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5809E

サーバー *node identifier* の仮想メモリ見積もり処理中にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* で使用される仮想メモリーの計算量を、サーバーで使用されている仮想メモリーの現在量と比較できませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5810W

サーバー *node identifier* のファイル・システム *file system identifier* で使用可能なフリー・スペースは、システムの適切な運用には不十分である可能性があります。サーバー *node identifier* 上のファイル・システム *file system identifier* から必要とされる追加スペースの見積もりは *size* MB ですが、使用可能なフリー・スペースは *size* MB しかありません。

説明: サーバー *node identifier* のファイル・システム *file system identifier* で使用可能なフリー・スペースは、システムの適切な運用には不十分である可能性があります。サーバー *node identifier* 上のファイル・システム *file system identifier* から必要とされる追加スペースの見積もりは *size* MB ですが、使用可能なフリー・スペースは *size* MB しかありません。

ユーザー応答:

起こりうるスペース上の問題を回避するには、以下のステップに従ってください。

1. 指定されたファイル・システムのサイズを大きくします。
2. 文書の最大数の値を小さくしてシステムを再構成します。
3. システムからクローラーを除去します。
4. システムからコレクションを除去します。
5. 一時点でシステム内で同時にアクティブであるコレクションが多くなりすぎないようにします。

FFQC5811W

サーバー *node identifier* で使用可能なフリーの仮想メモリー・スペースは、システムの適切な運用には不十分である可能性があります。サーバー *node identifier* で必要な追加仮想メモリー・スペースの見積もりは *size* MB ですが、使用可能なフリーの仮想メモリー・スペースは *size* MB しかありません。

説明: サーバー *node identifier* で使用可能なフリーの仮想メモリー・スペースは、システムの適切な運用には不十分である可能性があります。サーバー *node identifier* で必要な追加仮想メモリー・スペースの見積もりは *size* MB ですが、使用可能なフリーの仮想メモリー・スペースは *size* MB しかありません。

ユーザー応答:

起こりうるスペース上の問題を回避するには、以下のステップに従ってください。

1. 示されたサーバーにメモリーを追加します。
2. 索引作成する文書の最大数およびクローリングする文書の最大数の値を小さくしてシステムを再構成します。
3. システムからクローラーを除去します。

4. システムからコレクションを除去します。
5. 任意の時点でシステム内で同時にアクティブであるコレクションが多くなりすぎないようにします。

FFQC5812E

システム内の最大使用可能リソースを判別している間にエラーが発生しました。リソース・データ・ファイル: *filename*

説明: システムの最大使用可能ファイル・システム・スペースおよび最大使用可能メモリーを判別できません。

ユーザー応答:

指定されたファイル *filename* が存在する場合、それに適切な読み取り許可があることを確認してください。ファイルが存在しない場合は、指定されたディレクトリーに適切な書き込み許可があることを確認してください。また、システムの全サーバーが稼働していることを確認してください。

FFQC5813E

セッションが初期化されていないため、リソース・マネージャーは開始できません。

説明: セッションは、初期化されていないため、開始できません。

ユーザー応答:

リソース・マネージャー・セッションは、開始の前に初期化が必要です。

FFQC5814E

入力ファイル *filename* のロードの間に、リソース・マネージャー・セッション内でエラーが発生しました。

説明: ファイル *filename* のロードの間に、リソース・マネージャー・セッションでエラーが発生しました。

ユーザー応答:

ファイル *filename* が存在すること、およびファイルに読み取りおよび書き込みの許可があることを確認してください。

FFQC5815E

コレクション *collection identifier* に関連するサーバー *node identifier* 上のファイル・システム *file system identifier* のフリー・スペースを判別中にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* に関連するサーバー *node identifier* 上のファイル・システム *file system identifier* のフリー・スペースを判別できませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5816E

サーバー *node identifier* 上の使用可能メモリー・リソースを判別している間にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* 上の使用可能メモリー・リソースを判別できませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5817E

サーバー *node identifier* 上のファイル・システム・リソース見積もりと使用可能なファイル・システム・リソースを比較している間にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* 上のファイル・システム・リソース見積もりと使用可能なファイル・システム・リソースの比較をこの時点で実行できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5818E

サーバー *node identifier* 上のメモリー・リソース見積もりと使用可能メモリー・リソースを比較している間にエラーが発生しました。

説明: サーバー *node identifier* 上のメモリー・リソース見積もりと使用可能なメモリー・リソースの比較をこの時点で実行できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5819E

コレクション *collection identifier* 内の現在の文書数を判別しようとしている間にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* に含まれる文書の現在数を設定できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5820E

コレクション *collection identifier* に構成された文書の最大数を判別しようとしている間にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* に構成された文書最大数を設定できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5821E

コレクション *collection identifier* で現在使用しているファイル・システム・スペースの量を見積もり中にエラーが発生しました。

説明: コレクション *collection identifier* で現在使用しているファイル・システム・スペース量の見積もりを生成中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

コレクション *collection identifier* で使用するファイル・システム・スペースの量をモニターし、適切なシステム運用に十分なファイル・システム・スペースが使用可能であることを確認してください。

FFQC5822E

使用可能なシステム・リソースをシステム要件見積もりと比較している間にエラーが発生しました。リソース・レポート: *file name*

説明: システム要件の見積もりと使用可能なシステム・リソースの比較をこの時点で実行できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

FFQC5823E

リソース・マネージャーのリソース機能検査中にエラーが起きました。

説明: システム要件の見積もりと使用可能なシステム・リソースの比較を実行できません。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを確認してください。

クローラーのメッセージ (FFQD)

FFQD1003E

エラー: ユーザー *user* は存在しません。 *file* をチェックしてください。

説明: *es.cfg* ファイル中に指定されたユーザーは存在しません。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1011E

エラー: *file* が見つかりませんでした。

説明: 指定されたファイルが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1031E

エラー: このスクリプトはクローラー・サーバー上で実行されていません。このスクリプトをクローラー・サーバー上で実行してください。

説明: このスクリプトはクローラー・サーバー上で実行されていません。

ユーザー応答:

複数サーバー構成の場合、このスクリプトをクローラー・サーバー上で実行してください。単一サーバー構成の場合、構成ファイル内の `InstalledComponents` の値が "crawler" を含んでいることを確認してください。

FFQD1034E

エラー: 環境変数 `CMBROOT` が定義されていません。DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

説明: 環境変数 `CMBROOT` が定義されていません。DB2 Information Integrator for Content がインストールされていない可能性があります。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1035E

エラー: 環境変数 `CMCOMMON` が定義されていません。DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

説明: 環境変数 `CMCOMMON` が定義されていません。DB2 Information Integrator for Content がインストールされていない可能性があります。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator for Content が正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1036E

エラー: 環境変数 `ES_NODE_ROOT` が定義されていません。DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

説明: 環境変数 `ES_NODE_ROOT` が定義されていません。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

FFQD1037E

エラー: 環境変数 `ES_INSTALL_ROOT` が定義されていません。DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

説明: 環境変数 `ES_INSTALL_ROOT` が定義されていません。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、このスクリプトがエンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されたことを確認してください。

FFQD1101E

エラー: 未定義のプラットフォームです。

説明: セットアップ・スクリプトが、非サポート・プラットフォームで実行されました。

ユーザー応答:

サポートされるプラットフォームでセットアップ・スクリプトが実行されていることを確認してください。

FFQD1106E

エラー: `root` ユーザーではなく、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとして、このセットアップ・シェルを実行してください。

説明: セットアップ・スクリプトは、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーによって実行されなければなりません。

ユーザー応答:

現行ユーザーをエンタープライズ・サーチ・ユーザーに変更し、セットアップ・スクリプトを再実行してください。

FFQD1107E

エラー: `ES_CFG` 環境変数が定義されていません。このコンピューターに DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされていることを確認してください。

説明: `ES_CFG` 環境変数がセットアップ・スクリプトによって検出されませんでした。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、ES_CFG 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

FFQD1108E

エラー: エンタープライズ・サーチ構成ファイルが存在しません。

説明: エンタープライズ・サーチ構成ファイル es.cfg が、サーバー・ルート (ES_NODE_ROOT) ディレクトリーに存在しません。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition が正しくインストールされており、エンタープライズ・サーチ構成ファイル es.cfg がサーバー・ルート・ディレクトリー (ES_NODE_ROOT) に存在することを確認してください。

FFQD1123E

エラー: Lotus Notes ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: 指定された Lotus Notes ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

ユーザー応答:

Lotus Notes (Windows の場合) または Lotus Domino Server (UNIX の場合) がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1128E

エラー: Lotus Notes データ・ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: 指定された Lotus Notes データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

ユーザー応答:

Lotus Notes ディレクトリーがクローラー・サーバーに正しくデプロイされていることを確認してください。

FFQD1138E

エラー: *filename* の除去に失敗しました。それを除去し、このスクリプトを再度実行してください。

説明: このスクリプトは、ファイル *filename* を削除できません。

ユーザー応答:

ファイルを手動で除去し、このスクリプトを再実行してください。

FFQD1139E

エラー: *filename* の作成に失敗しました。

説明: このスクリプトは、ファイル *filename* を作成できません。

ユーザー応答:

ファイルを作成できるよう、ファイルとディレクトリーの権限を確認してください。

FFQD1142E

エラー: *filename* が見つかりませんでした。

説明: スクリプトは、ファイル *filename* を検出できません。

ユーザー応答:

ファイルが存在することを確認してください。

FFQD1407E

エラー: Venetica VeniceBridge ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: 指定された Venetica VeniceBridge ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

ユーザー応答:

Venetica VeniceBridge がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD1420E

エラー: WebSphere Application Server ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: 指定された WebSphere Application Server ディレクトリーがクローラー・サーバー内に見つかりませんでした。

ユーザー応答:

WebSphere Application Server がクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD2005E

クローラー・サーバーは、指定されたクローラー・タイプに対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。

説明: クローラー・サーバーは使用したいクローラー・タイプに対して構成されていません。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認し、セットアップ・スクリプトを実行してください。

FFQD2007E

操作 *operation_class* に対して *api_name* API を登録している間にエラーが発生しました。

説明: 内部エラーのため、*api_name* ディスカバリー API を登録できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチおよび前提ソフトウェアがクローラー・サーバーに正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD2100E

データベースにアクセスしている間に、SQL エラーが発生しました。エラー・コード: *error_message*。 エラー・メッセージ: *error_code*。

説明: DB2 データベース・サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

「IBM DB2 Universal Database メッセージ解説書」を参照してください。

FFQD2102E

ユーザー名またはパスワードが間違っています。

説明: DB2 サーバーへの接続を確立するために使用されたユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

ユーザー応答:

正しいユーザー名とパスワードで操作を再試行してください。

FFQD2103E

DB2 ディスカバリー API を実行している間に、次のエラーが発生しました。戻りコード: *return_code*。 エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: DB2 データベース・サーバーをディスカバーしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

「IBM DB2 Universal Database メッセージ解説書」を参照してください。

FFQD2104E

接続を確立できません。

説明: 指定された DB2 データベース・サーバーへの接続が失敗しました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。DB2 UDB サーバーが使用可能であることを確認してください。

FFQD2105E

スキーマ名 *schema_name* に対して表またはビュー *table_or_view_name* が見つかりませんでした。

説明: ディスカバリー・プロセスは、指定された表またはビューが DB2 データベース・サーバーに存在しないため、列をディスカバリーできませんでした。

ユーザー応答:

DB2 データベース・サーバー内に存在する表またはビューを指定してください。

FFQD2106E

DB2 インスタンス *server_name:port_number* が見つかりませんでした。

説明: 指定された DB2 インスタンスが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

DB2 インスタンスを識別するサーバー名とポート番号が正しいことを確認してください。

FFQD2107E

リモート・データベースをディスカバリーするための他の操作が要求されています。現在の操作は DB2 インスタンス *server_name:port_number* に対するものです。

説明: データベースをディスカバリーするための他の操作が実行されています。

ユーザー応答:

その操作が完了するのを待って再試行してください。それが意図的でない操作の場合は、指定されたサーバー上の DB2 Administration Server (DAS) が使用可能であることを確認してください。

FFQD2108E

ローカル・データベースをディスカバリーするための他の操作が要求されています。

説明: データベースをディスカバリーするための他の操作が実行されています。

ユーザー応答:

その操作が完了するのを待って再試行してください。

FFQD2109E

ディスカバリー操作が中断されました。

説明: 要求された操作が中断されました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。

FFQD2130E

サーバーにアクセスしている間に、Notes エラーが発生しました。 ID: *error_id*。
エラー・メッセージ: *error_message*

説明: Domino サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳細は、エラー・メッセージを参照してください。

FFQD2131E

指定された ID ファイルが存在しないか、読み取ることができません。

説明: 指定されたユーザー ID ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

ユーザー応答:

入力したユーザー ID ファイル・パスが正しく、ファイルを読み取りできることを確認してください。

FFQD2132E

Notes セッションを作成できません。

説明: ディスカバリー・プロセスは、Domino Server への Notes セッションを作成できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2133E

他の Notes クローラーが実行中です。それらはロック *lock_name* を保持しているため停止する必要があります。パス: *lock_filepath*。名前: *lock_filename*。

説明: ディスカバリー・プロセスは、他の Notes クローラー・プロセスと共存できません。それらの 1 つが *lock_name* を保持していました。

ユーザー応答:

Notes クローラーを停止し、再試行してください。

FFQD2135E

クローラー・サーバーは NRPC に対して構成されていません。クローラー・サーバーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていることを確認してください。

説明: NRPC (Notes Remote Procedure Call) に対する正しい Notes Java クラスをロードできませんでした。Notes クローラーに対してセットアップ手順が必要です。

ユーザー応答:

Notes クローラーに対してセットアップ手順を実行してください。

FFQD2136E

Domino Directory からドメイン・ネームを取得できませんでした。ID: *error_id*。エラー・メッセージ: *error_message*

説明: Domino Directory からドメイン・ネームを取得できませんでした。

ユーザー応答:

詳細は、エラー・メッセージを参照してください。クローラ・ユーザーが Domino Directory を読み取れることを確認してください。

FFQD2137E

サーバー名は、完全修飾のインターネット・ホスト名でなければなりません。サーバー名: *server_name*

説明: 指定されたサーバー名 *server_name* は、完全修飾インターネット・ホスト名ではありませんでした。例えば、*svename/org1/org2* のような標準のサーバー名は無効です。

ユーザー応答:

正しい完全修飾インターネット・ホスト名を指定してください。

FFQD2160E

ディレクトリー *directory name* が無効です。

説明: 指定されたディレクトリー名が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

既存のディレクトリー名を入力してください。

FFQD2161E

(*levels of subdirectories to discover*) 個を超える選択可能なサブディレクトリーがあります。この数を減らすには、メインディレクトリー名またはパターンを指定するか、ディスカバーするサブディレクトリーのレベルの指定を小さくしてください。

説明: (*levels of subdirectories to discover*) より多くの選択可能なサブディレクトリーがあります。

ユーザー応答:

この数を減らすには、メイン・ディレクトリー名またはパターンを指定するか、ディスカバーするサブディレクトリーのレベルの指定を小さくしてください。

FFQD2162E

指定された名前 *directory name* はディレクトリー名ではなく、ファイル名です。

説明: 指定された名前はファイル名でした。

ユーザー応答:

既存のディレクトリー名を入力してください。

FFQD2163E

指定されたディレクトリーのパターン *directory name or pattern* が無効です。

説明: 検索するためのパターンが正しく指定されませんでした。

ユーザー応答:

ディレクトリーを検索するための正しいパターンを入力してください。パターンを入力するには、名前の中の 1 つ以上の文字を置き換えるためのワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用します。

FFQD2164E

ファイル・ディレクトリーのディスカバーで、内部エラーが発生しました。

説明: クローラー・サーバー上で指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD2190E

ディレクトリーのネットワーク・パス *network path name* が見つかりませんでした (ディレクトリー = *network path name*)。エラー・メッセージ: *detail error message*。

説明: 指定されたネットワーク・パスが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

ディレクトリーを検索するための正しいパターンを入力してください。パターンを入力するには、名前の中の 1 つ以上の文字を置き換えるためのワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用します。

FFQD2191E

指定されたドライブ名が無効です。

説明: 指定されたドライブ名または指定されたファイル分離文字が無効です。

ユーザー応答:

ディレクトリーを検索するための正しいドライブ名を入力してください。

FFQD2210E

ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー ID は *user_id* です。

説明: Content Manager サーバーに接続するために入力されたユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

ユーザー応答:

正しいユーザー ID とパスワードで操作を再試行してください。

FFQD2211E

Content Manager サーバー *server* への接続が失敗しました。

説明: 指定された Content Manager サーバーへの接続が失敗しました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。Content Manager サーバーが使用可能であることを確認してください。

FFQD2212I

Content Manager サーバー *server* に接続しました。

説明: クローラー・サーバーは、Content Manager サーバーに正常に接続しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2213E

discovery.properties ファイルの中に CMCOMMON キーワードが見つかりません。

説明: ES_NODE_ROOT/master_config/discovery の下の discovery.properties ファイルの中に CMCOMMON キーワードがなかったため、ディスカバリー・プロセスは Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。Content Manager クローラーが適切なセットアップ・スクリプトによって構成されていない可能性があります。

ユーザー応答:

Content Manager クローラーを適切なセットアップ・スクリプトで構成し、操作を再試行してください。

FFQD2214E

CM INI ファイル *file* が見つかりませんでした。

説明: CM INI ファイルが見つからないため、ディスカバリー・プロセスは、Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。DB2 Information Integrator for Content が正しく構成されていない可能性があります。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator for Content のインストールと構成が正しく行われていることを確認してください。

FFQD2215E

CM INI ファイルを読み取ることができないか、CM INI ファイル *file* が見つかりませんでした。

説明: CM INI ファイルが見つからないため、ディスカバリー・プロセスは、Content Manager サーバーをディスカバーできませんでした。DB2 Information Integrator for Content が正しく構成されていない可能性があります。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator for Content のインストールと構成が正しく行われていることを確認してください。

FFQD2216E

項目タイプ *item_type* は存在しません。

説明: 指定された項目タイプが Content Manager サーバー内に存在しないため、ディスカバリー・プロセスは Content Manager 属性をディスカバーできませんでした。

ユーザー応答:

Content Manager サーバーに存在する項目タイプを指定してください。

FFQD2217E

CM DKException が発生しました。

説明: Content Manager サーバーをディスカバーしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD2218E

DB2 Content Manager エラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーをディスカバーしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD2240E

SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。

説明: SSL を使用するためにトラストストア・ファイルを指定する必要があります。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーにトラストストア・ファイルを準備し、そのパスを入力してください。

FFQD2241E

SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。

説明: SSL を使用するためのファイルのトラストストア・パスワードを指定する必要があります。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイルのパスワードを入力してください。

FFQD2242E

トラストストア・ファイル *truststore_file* は存在しません。

説明: 指定されたトラストストア・ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

ユーザー応答:

入力されたトラストストア・ファイルのパスが正しく、ユーザーがそのファイルを読み取れることを確認してください。

FFQD2243E

トラストストア・ファイル *truststore_file* を妥当性検査している間にエラーが発生しました。

説明: 指定されたトラストストア・ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

ユーザー応答:

入力されたトラストストア・ファイルのパスが正しく、ユーザーがそのファイルを読み取れることを確認してください。

FFQD2244E

トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは *truststore_file* です。

説明: トラストストア・ファイル・フォーマットが間違っています。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイル・フォーマットを検査してください。

FFQD2245E

不明なホスト名 *host_name* が検出されました。

説明: 指定されたパブリック・フォルダー URL 内のホスト名が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

ホスト名が正しいことを確認してください。

FFQD2246E

URL *public_folder_URL* が間違っています。

説明: 指定されたパブリック・フォルダー URL が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー URL が正しいことを確認してください。

FFQD2247E

public_folder_URL に接続している間に、入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーに接続している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

ネットワークおよびパブリック・フォルダー・サーバーが作動中であることを確認してください。

FFQD2248E

要求を *public_folder_URL* に送信している間に、プロトコル・エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2249E

要求を *public_folder_URL* に送信している間に、入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2250E

フォルダー数 (*actual_folder_count*) が上限 *folder_count_limit* を超えています。

説明: 検出されたサブフォルダーの数は上限以下でなければなりません。

ユーザー応答:

フォルダー数を減らすため、サブフォルダーを検出するためのパターンを変更してください。

FFQD2251E

ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。指定されたユーザー名は *user_name* です。

説明: 誤ったユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が指定されました。

ユーザー応答:

ユーザー名とパスワードを検査し、再試行してください。

FFQD2252E

指定されたフォルダー *public_folder_URL* は存在しません。

説明: 指定されたパブリック・フォルダー・サーバーは存在しますが、サーバーにフォルダーが存在していませんでした。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー URL が正しいことと、パブリック・フォルダー・サーバーが正しく作動していることを確認してください。

FFQD2253E

予期しない HTTP 応答を受け取りました。HTTP 状態コード: *HTTP_state_code*。
HTTP 応答メッセージ: *HTTP_response_message*。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーが予期しない HTTP 応答を戻しました。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく機能していることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2254E

public_folder_URL から応答を受信している間に、入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2255E

サーバー応答は間違った XML です。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーが戻した XML 文書には、正しくないエレメントおよび文字が含まれている可能性があります。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダーに、損傷した文書が含まれていないことを検証してください。

FFQD2256E

受け取った XML を解析している間に入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2257E

XML パーサー・エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーからの応答を解析するために XML パーサーを作成できませんでした。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD2258E

指定された URL *public_folder_URL* は有効ですが、パブリック・フォルダーではありません。

説明: 指定された URL はクローラーからアクセス可能ですが、パブリック・フォルダーではありません。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく作動していることと、Outlook Web Access がサーバー上で作動していることを確認してください。

FFQD2270E

指定された JNDI プロパティーが無効です。

説明: ディスカバリー・プロセスは、指定された JNDI プロパティーで VeniceBridge サーバーに接続できませんでした。

ユーザー応答:

指定された JNDI プロパティーが正しく、VeniceBridge サーバーが使用可能であることをチェックしてください。

FFQD2271E

指定されたりポジトリ名が無効です。

説明: ディスカバリー・プロセスは、指定されたりポジトリが VeniceBridge サーバー内に存在しないため、項目クラスをディスカバーできませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge サーバーに存在するリポジトリを指定してください。

FFQD2272E

指定されたユーザー名またはパスワードが無効です。

説明: リポジトリにログオンするためのユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が正しくありませんでした。

ユーザー応答:

正しいユーザー名とパスワードで操作を再試行してください。

FFQD2273E

指定された項目クラス名が無効です。

説明: ディスカバリー・プロセスは、指定された項目クラスが VeniceBridge サーバー内に存在しないため、プロパティをディスカバーできませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge サーバーに存在する項目クラスを指定してください。

FFQD2274E

VeniceBridge API エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2275E

VeniceBridge サーバー・インスタンスを作成できません。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2276E

VeniceBridge サーバーを見つけることができません。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2277E

通信エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2278E

指定されたリポジトリ *repository_name* が見つかりませんでした。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: 指定されたリポジトリは VeniceBridge サーバー内にありません。

ユーザー応答:

VeniceBridge サーバー内に存在するリポジトリを指定してください。

FFQD2279E

VeniceBridge ユーザー・インスタンスは初期化されませんでした。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2280E

repository_name リポジトリへのログオンに失敗しました。エラー・メッセージ: *error_message*。

説明: ディスカバリー・プロセスは、*repository_name* リポジトリにログオンできませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、VeniceBridge サーバーからのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD2282E

指定された項目クラス *item_class_name* が見つかりませんでした。リポジトリ: *repository_name*

説明: *item_class_name* 項目クラスは、VeniceBridge サーバー内の *repository_name* リポジトリ内にはありません。

ユーザー応答:

リポジトリ内に存在する項目クラスを指定してください。

FFQD2800E

クローラー・プラグインからエラーが生成されました。メッセージ: *message*

説明:

ユーザー応答:

エラー・メッセージ *message* がクローラー・プラグインから生成されました。クローラー・プラグインからのメッセージを参照してください。

FFQD2801W

クローラー・プラグインから警告が生成されました。メッセージ: *message*

説明:

ユーザー応答:

警告メッセージ *message* がクローラー・プラグインから生成されました。クローラー・プラグインからのメッセージを参照してください。

FFQD2802I

クローラー・プラグインから通知が生成されました。メッセージ: *message*

説明:

ユーザー応答:

情報メッセージ *message* がクローラー・プラグインから生成されました。クローラー・プラグインからのメッセージを参照してください。

FFQD2803I

クローラー・プラグイン・プロセスが正常に開始しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2804I

クローラー・プラグイン・プロセスが正常に停止しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2805I

クローラー・プラグイン・クラス *class_name* が正常にロードされました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2806E

クローラー・プラグイン・プロセスが開始に失敗しました

説明: クローラー・プラグイン・プロセスが開始に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2807E

クローラー・プラグイン・プロセスが正常な停止に失敗しました

説明: クローラー・プロセスの正常な停止に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2808E

クローラー・プラグインのユーザー定義クラスを作成できません。

説明: CrawlerPlugin クラスから派生したユーザー定義クラスを作成できません。

ユーザー応答:

クラス名と CLASSPATH が正しく設定されたことを確認してください。

FFQD2809E

クローラー・プラグイン・セッション *session_name* は使用可能ではありません。

説明: クローラー・プラグイン・セッションは使用可能ではありません。ユーザー定義クラスを正しく作成できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2810E

CrawlerPlugin クラス *user_defined_classname* の *init()* メソッドでエラーが発生しました。

説明: ユーザー定義クラスの *init()* メソッドが正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

ユーザー定義クラスのプログラムを確認してください。

FFQD2811E

CrawlerPlugin クラス *user_defined_classname* の *term()* メソッドでエラーが発生しました。

説明: ユーザー定義クラスの *term()* メソッドが正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

ユーザー定義クラスのプログラムを確認してください。

FFQD2812E

CrawlerPlugin クラス *user_defined_classname* の *isMetadataUsed()* メソッドでエラーが発生しました。

説明: ユーザー定義クラスの `isMetadataUsed()` メソッドが正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

ユーザー定義クラスのプログラムを確認してください。

FFQD2813E

CrawlerPlugin クラス `user_defined_classname` の `updateDocument()` メソッドでエラーが発生しました。

説明: ユーザー定義クラスの `updateDocument()` メソッドが正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

ユーザー定義クラスのプログラムを確認してください。

FFQD2900E

クローラー・プラグイン・サーバー (`server_url`) の準備ができていません。クライアントはサーバーに接続できませんでした。

説明: クローラー・プラグイン・サーバー (`server_url`) の準備ができていません。クライアントがそれに接続できないか、それを終了できません。

ユーザー応答:

クローラー・プラグイン・サーバー (`server_url`) が作動可能であることを確認してください。

FFQD2901I

クローラー・プラグイン・クライアント (`client_url`) が初期化されました。サーバー (`server_url`) に接続されました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2902W

クローラー・プラグイン・クライアント (`client_url`) は、終了中に警告を受け取りました。

説明: クローラー・プラグイン・クライアントが終了中に問題を検出しました。接続は異常終了しました。

ユーザー応答:

サーバーが適切に稼働していることを確認してください。

FFQD2903I

クローラー・プラグイン・クライアント (`client_url`) が終了しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2904E

クローラー・プラグイン・クライアントは初期化されていません。

説明: クローラー・プラグイン・クライアントは、使用の前に初期化が必要です。

ユーザー応答:

クローラー・プラグイン・クライアントを初期化してください。

FFQD2905E

クローラー・プラグイン・クライアントは、サポートされないデータを受け取りました。

説明: クローラー・プラグイン・クライアントが受け取ることができるのは、SocketData オブジェクトのみです。

ユーザー応答:

クローラー・プラグイン・サーバーが SocketData オブジェクトを送信することを確認してください。

FFQD2906I

クローラー・プラグイン・サーバーは、特定のポート番号なしで作成されました。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーは、初期化時に任意の空きポートを使用します。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2907E

クローラー・プラグイン・サーバーは作成されませんでした。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーは、クローラー・プラグイン・モジュールを必要とします。

ユーザー応答:

クローラー・プラグイン・サーバーを作成する前に、クローラー・プラグイン・モジュールが作成されていることを確認してください。

FFQD2908E

クローラー・プラグイン・サーバーを開始できませんでした。リスナー・ポート *listener_port* はすでに使用中でした。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーが開始できませんでした。リスナー・ポート *listener_port* はすでに使用中です。

ユーザー応答:

別のポート番号を指定するか、任意の空きポートを使用する場合は 0 を指定してください。

FFQD2909E

クローラー・プラグイン・サーバーを開始できませんでした。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーを開始中にエラーが発生しました。一般的に、入出力エラーはソケットをオープンする時に発生します。

ユーザー応答:

サーバーを再始動するか、入出力の問題を修正してください。

FFQD2910I

クローラー・プラグイン・サーバーが開始されました。リスナー・ポートは *listener_port* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2911E

クローラー・プラグイン・サーバー (*server_url*) の準備ができていません。サーバーを終了できませんでした。

説明: クローラー・プラグイン・サーバー (*server_url*) の準備ができていません。サーバーを終了できませんでした。

ユーザー応答:

終了するクローラー・プラグイン・サーバーのリスナー・ポート番号を確認してください。

FFQD2912W

クローラー・プラグイン・サーバー (*server_url*) が終了中に問題を検出しました。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーが終了中に問題を検出しました。サーバーは異常終了します。

ユーザー応答:

クライアントが適切に稼働していることを確認してください。

FFQD2913I

クローラー・プラグイン・サーバー (*server_url*) が終了しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2914I

クローラー・プラグイン・サーバーは listen しています。 リスナー・ポートは *listener_port* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2915I

クローラー・プラグイン・サーバーは、クライアント (*client_url*) から接続要求を受け入れました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2916I

クローラー・プラグイン・サーバーは、クライアント (*client_url*) への接続をクローズしました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD2917E

クローラー・プラグイン・サーバーは、サポートされないクラス・オブジェクトを受け取りました。

説明: クローラー・プラグイン・サーバーは、サポートされないクラス・オブジェクトを受け取りました。このオブジェクトは、クローラー・プラグイン・モジュールに送信できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2997E

クローラー・プラグイン・ソケット・クライアントでエラーが発生しました。

説明: クローラー・プラグイン・ソケット・クライアントで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2998E

クローラー・プラグイン・ソケット・サーバーでエラーが発生しました。

説明: クローラー・プラグイン・ソケット・サーバーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD2999E

クローラー・プラグイン・ソケットでエラーが発生しました。

説明: クローラー・プラグイン・ソケットで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3000I

crawler_name クローラーは正常に開始しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3001E

crawler_name クローラーの開始に失敗しました。

説明: クローラー・プロセスの開始に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3002I

crawler_name クローラーは正常に停止しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3003E

crawler_name クローラーは正常に停止しませんでした。

説明: クローラー・プロセスの正常な停止に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3004I

crawler_name クローラーが正常に休止しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3005E

crawler_name クローラーが休止に失敗しました。

説明: クローラーの休止に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3006I

crawler_name クローラーが正常に再開しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3007E

crawler_name クローラーが再開に失敗しました。

説明: クローラーの再開に失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3008E

ファクトリー・エラーが発生しました。モジュールが正しくインストールされていることを確認してください。

説明: インストールされた JAR ファイルが見つからないか、正しく設定されていません。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3009I

server_name 上で *crawler_name* のためのクロールを開始します。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3010I

server_name 上で *crawler_name* のためのクロールを完了しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3011E

target_name 上の *target_host_name* に対するクローリングに失敗しました。

説明: クローラーは、指定されたターゲットに対するクローリングに失敗しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3012I

クローラーはすでにサーバー *server_name* 上でクローリングしています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3013W

クローリングされたデータは切り捨てられました。URI: *URI*。サーバー: *target_host_name*。ターゲット: *target_name*。

説明: クローリングされたデータは切り捨てられました。

ユーザー応答:

すべてのデータをクローリングする必要がある場合は、管理コンソールでクローラー用の最大ページ・サイズを変更してください。

FFQD3014E

クローリングされた履歴を処理している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3015E

クローリングされた履歴を処理している間にエラーが発生しました。URI: *uniform_resource_identifier*。サーバー: *server_name*。ターゲット: *crawler_name*。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3016E

データベースにアクセスしている間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3017E

データベースにアクセスしている間にエラーが発生しました。URI:
uniform_resource_identifier。 サーバー: *server_name*。 ターゲット:
crawler_name。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3018E

クローラー構成を処理している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3019I

server_name サーバーにサーバー・スケジュールが設定されています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3020I

server_name サーバーのスケジュールは使用不可にされています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3021W

指定されたサーバー *server_name* のスケジュールはすでに設定されています。

説明: 指定されたスケジュール済みクローラーはすでに使用可能にされています。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3022W

指定されたサーバー *server_name* のスケジュールはすでに使用不可になっています。

説明: 指定されたスケジュール済みクローラはすでに使用不可にされています。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3023W

サーバー *server_name* はスケジュールされていません。

説明: 指定されたクローラはスケジュールされていません。

ユーザー応答:

クローラ・スケジュールを使用可能/使用不可にするには、前もってクローラがスケジュールされている必要があります。

FFQD3024E

フェッチの戻りコードが間違っています。戻りコード: *return_code*。状態: *state*

説明: クローラで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3025E

データをフェッチしている間にエラーが発生しました。

説明: クローラで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3026E

スレッド *thread_id* を処理している間にエラーが発生しました。

説明: クローラで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3027E

クローラでエラーが発生しました。

説明: クローラで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3028E

指定されたサーバー *server_name* が見つかりません。

説明: クローラで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3029E

接続マネージャーを初期化している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーを初期化している間に内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3030E

状態マネージャーを初期化している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーを初期化している間に内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3031E

クローラー状況が要求されている間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3032E

クロール・スペースの状況が要求されている間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3033E

クロール・スペース状況が要求されている間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。モニター機能は正しく機能しませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3034I

古くなった文書を削除しています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3035W

古くなった文書の削除が中断されました。次の機会に再試行します。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3036I

server_name の *crawler_name* の古くなった文書の削除が終了しました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3037E

内部状況を更新している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3038E

状況の矛盾のためにエラーが発生しました。情報: *additional_data*

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3039E

内部状況をアクセスしている間にエラーが発生しました。情報: *additional_data*

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3040E

古くなったレコードを削除している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3041I

スケジュール・コンポーネントが正常に開始しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3042E

スケジュール・コンポーネントが開始に失敗しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3043I

スケジュール・コンポーネントが正常に停止しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3044E

スケジュール・コンポーネントが停止に失敗しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3045I

crawler_name のスケジュールされたクローラーを開始しています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3046E

スケジュール・コンポーネントの中でエラーが発生しました。

説明: クローラーで内部エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3047I

内部リポジトリが正常に初期化されました。

説明: クローラーがクローラー内部リポジトリを初期化しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3048E

不明な内部リポジトリ・タイプ *internal_repository_type* が検出されました。

説明: クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3049E

内部リポジトリの初期化エラー。

説明: クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3050E

アクセス違反。

説明: クローラー内部リポジトリを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3051E

別のリポジトリがオープンしています。

説明: 別のクローラー内部リポジトリがすでにオープンされ、初期化されていません。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3052E

データベース接続がありません。

説明: クローラー内部リポジトリはオープンされましたが、リポジトリを使用するためのデータベース接続が存在しませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチのための DB2 データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

FFQD3053E

内部リポジトリをオープンしている間にデータベース・エラーが発生しました。

説明: クローラー内部リポジトリを使用するためのデータベース接続を確立できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチのための DB2 データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

FFQD3054E

内部リポジトリをクローズしている間にデータベース・エラーが発生しました。

説明: クローラー内部リポジトリをクローズ中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3055E

内部リポジトリにレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record_hash* です。

説明: クローラー内部リポジトリに情報を書き込み中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3056E

最終変更日付を取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record_hash* です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

FFQD3057E

最終変更日付を更新している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは `record_hash` です。

説明: クローラー内部リポジトリに情報を書き込み中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

FFQD3058E

レコード変更を検出している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは `record_hash` です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

FFQD3059E

チェックサムを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは `record_hash` です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `SQLException` メッセージを参照してください。

FFQD3060E

チェックサムを取得している間に入出力エラーが発生しました。レコード・ハッシュは `record_hash` です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `IOException` メッセージを参照してください。

FFQD3061E

レコードを検査している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record_hash* です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3062E

除外されたレコードを書き込んでいる間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record_hash* です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3063E

リポジトリからレコードを削除している間にデータベース・エラーが発生しました。レコード・ハッシュは *record_hash* です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3064E

古くなったレコードを取得している間にデータベース・エラーが発生しました。ターゲット ID は *record_hash* で、しきい値時間は *threshold_time* です。

説明: クローラー内部リポジトリにアクセス中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの SQLException メッセージを参照してください。

FFQD3065I

内部リポジトリが正常にオープンしました。

説明: クローラーがクローラー内部リポジトリをオープンしました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3066I

内部リポジトリが正常にクローズしました。

説明: クローラーがクローラー内部リポジトリをクローズしました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3067I

クローラー構成ファイル *general_config_file* および *crawler_config_file* をロードしています。

説明: クローラーがクローラー構成ファイルのロードを開始しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3068I

構成ファイルのロードが正常に完了しました。

説明: クローラーがクローラー構成ファイルのロードを完了しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3069E

構成ファクトリーを作成している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーがクローラー構成ファイルのロードを完了しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD3070E

構成ファイル *general_config_file* のロードが失敗しました。

説明: クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルのエラー・メッセージを参照してください。通常、そのエラーは `IOException` です。

FFQD3071E

ロードされた構成ファイルはありません。

説明: クローラーが構成ファイルをロードしませんでした。

ユーザー応答:

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3072E

不明な構成オブジェクトが検出されました。

説明: クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3073E

文書ビルダーの取得に失敗しました。

説明: クローラー構成ファイルをロードするために XML パーサーを作成できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3074E

構成ファイルのフォーマット・エラーが検出されました。

説明: クローラー構成ファイルが、XML 文書として無効です。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3075E

構成を解析している間に入出力エラーが発生しました。

説明: クローラー構成ファイルをロード中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルの `IOException` メッセージを参照してください。

FFQD3076E

クローラー構成ファイル `crawler_config_file` が見つかりませんでした。

説明: 期待されるパスにクローラー構成ファイルがありませんでした。

ユーザー応答:

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3077E

クローラー構成ファイルの中で、ルート・エレメント名が *expected_root_element* であるはずのところに、*detected_root_element* が検出されました。

説明: クローラー構成ファイルのルート・エレメントの名前が、予期されたものではありませんでした。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3078E

element_name エレメントの中に属性 *attribute_name* が必要です。

説明: 必要な属性がクローラー構成ファイルに見つかりませんでした。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3079E

重複した名前 *value_of_name_attribute* がエレメント *element_name* で検出されました。

説明: 同じターゲット名がクローラー構成ファイルに含まれました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3080E

element_name エレメントの中で、間違っただ付ストリング・フォーマットが検出されました。

説明: クローラー構成ファイルに誤りの日付ストリングが含まれました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3081E

element_name エレメントの中で、間違っただインターバル・ストリング・フォーマットが検出されました。

説明: クローラー構成ファイルに誤りのクローラー・インターバル時間が含まれました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3082E

element_name エレメントの値 *actual_value* は範囲外です。

説明: クローラー構成ファイルに、1 つ以上の誤った値が含まれました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3083W

XML パーサーが警告を報告しました。

説明: クローラー構成ファイル・パーサーが XML 警告を報告しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3084E

XML パーサーがエラーを報告しました。

説明: クローラー構成ファイル・パーサーが XML エラーを報告しました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3085E

XML パーサーがリカバリー不能エラーを報告しました。

説明: クローラー構成ファイル・パーサーが、リカバリー不能な XML エラーを報告しました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD3086E

フォーマッターが初期化されていません。

説明: 検索エンジン用に XML メタデータを生成するフォーマッターが作成されませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3087E

XML に変換できません。

説明: フォーマッターは、検索エンジン用に XML メタデータを生成しません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3088W

非パラメトリック・フィールドに、パラメトリック検索可能と設定されています。パラメトリック検索フラグは使用不可にされました。

説明: クローラーがこのフィールドをパラメトリック検索可能として指定しましたが、クロールされたフィールドは数値ではありません。このフィールドについてパラメトリック検索は使用不可になります。

ユーザー応答:

管理コンソールからこのフィールドを非パラメトリック・フィールドに指定してください。この操作の実行については、エンタープライズ・サーチのオンライン・ヘルプを参照してください。

FFQD3089W

メタデータは切り捨てられました。

説明: 最大文書サイズの設定の制限により、メタデータが切り捨てられました。切り捨てられたメタデータでは検索できません。

ユーザー応答:

より大きなメタデータをクロールするには、管理コンソールからクローラーの「最大ページ長サイズ」を増やしてください。この操作の実行については、エンタープライズ・サーチのヘルプを参照してください。

FFQD3090W

一時ファイル *filename* は削除されません。

説明: 一時ファイル *filename* は削除されません。

ユーザー応答:

クローラーの一時ディレクトリーに削除の適切な権限があることを確認してください。

FFQD3091W

フォーマット済みデータ・レコードはヌルです。アクションは必要ありません。

説明: クローラーがフェッチしたメタデータまたはバイナリーのコンテンツは、エンタープライズ・サーチ・リポジトリーに書き込まれません。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3102E

内部データ・ストアをオープンできません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、クロール・データを保管する内部データベース *database_name* をオープンできません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3103E

内部データ・ストアをクローズできません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、クロール・データを保管する内部データベース *database_name* をクローズできません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3104E

FileNotFoundException のために、メタデータをファイル *file_name* に書き込むことができません。

説明: パブリッシャーが、クロール・データを保管した一時ファイルをオープンできません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3105E

内部データ・ストアに書き込むことができません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、クローラーによってクロールされた情報を内部データベース *database_name* に書き込むことができません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3106E

内部データ・ストアに書き込むことができません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、クローラーによってクロールされた情報を内部データベース *database_name* に書き込むことができません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3107E

内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新ができません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、検索索引から情報を削除するために削除フラグを内部表にマーク付けできません。ターゲット・データ・ソースに存在しない文書の情報が、検索索引に残ることになります。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3108E

内部データ・ストアに対し、削除フラグによる更新ができません。DBName: *database_name*。DBSchema: *schema_name*。DBUser: *database_user*。TableName: *table_name*。

説明: パブリッシャーが、検索索引から情報を削除するために削除フラグを内部表にマーク付けできません。ターゲット・データ・ソースに存在しない文書の情報が、検索索引に残ることになります。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3109W

クロールされるファイル *file_name* は、内部データ・ストアの更新の間に他のプログラムによって更新されます。

説明: クロールされるファイル *file_name* は、クローラーによってクロールされたため、変更されています。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3110E

ファイル・ストリームをクローズできません。

説明: 一時ファイルに保管されたクロール・データのファイル・ストリームが、エラーのためクローズされません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3111E

パスワードの復号が失敗しました。

説明: パスワード復号モジュールが 1 つ以上のエラーを報告しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3112E

セキュリティー・トークン・プラグインをロードできません。クラス：
security_token_class_name

説明: セキュリティー・トークン・プラグインの指定されたクラス名をロードできません。

ユーザー応答:

セキュリティー・トークン・プラグイン・モジュールが適切にインストールされていること、および指定されたクラス名が正しいことを確認してください。マニュアルおよびリリース情報を参照してください。

FFQD3113E

セキュリティー・トークン・プラグインによって
`SecurityTokensGeneratorException` がスローされました。

説明: セキュリティー・トークン・プラグインによって
`SecurityTokensGeneratorException` がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:

アクションは不要です。

FFQD3114E

セキュリティー・トークン・プラグインによって予期しない例外がスローされました。

説明: セキュリティー・トークン・プラグインによって予期しない例外がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:

クローラーの停止にセキュリティー・トークン・プラグイン・モジュールがスローするのは `SecurityTokensGeneratorException` のみです。予期しない例外をセキュリティー・トークン・プラグインがスローしないことを確認してください。

FFQD3115E

一時ファイル *filename* は削除されません。

説明: 一時ファイル *filename* は削除されません。

ユーザー応答:

クローラーの一時ディレクトリーに削除の適切な権限があることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3116E

ファイル・ストリームをクローズできません。

説明: ファイル・ストリームはエラーのためにクローズされませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3117E

メタデータ・プラグインによって `MetadataGeneratorException` がスローされました。

説明: メタデータ・プラグインによって `MetadataGeneratorException` がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:

アクションは不要です。

FFQD3118E

メタデータ・プラグインによって予期しない例外がスローされました。

説明: メタデータ・プラグインによって予期しない例外がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:

クローラーの停止にメタデータ・プラグイン・モジュールがスローするのは `MetadataGeneratorException` のみです。予期しない例外をメタデータ・プラグインがスローしないことを確認してください。

FFQD3119E

metada plug-in configuration file ファイルが無効でした。

説明: メタデータ・プラグインの構成ファイルが無効でした。

ユーザー応答:

メタデータ・プラグインの構成ファイルに正しいプロパティを入力してください。

FFQD3120E

メタデータ・プラグインの構成を処理している間にエラーが発生しました。

説明: メタデータ・プラグイン関数が正しく機能しませんでした。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3121W

`CLASSPATH` が無効でした。

説明: 構成ファイルで定義された `CLASSPATH` プロパティが無効でした。

ユーザー応答:
正しい CLASSPATH を入力してください。

FFQD3122E

メタデータ・プラグイン関数のユーザー定義クラスを作成できません。

説明: MetadataGenerator クラスから派生したユーザー定義クラスを作成できません。

ユーザー応答:
クラス名と CLASSPATH が正しく設定されたことを確認してください。

FFQD3123E

parameter_name パラメーターが欠落しているか、無効です。

説明: *parameter_name* パラメーターのためにクローラー構成ファイルが無効でした。

ユーザー応答:
詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3124E

class_name クラスを正しくロードできませんでした。

説明: 指定されたクラス *class_name* を正しくロードできませんでした。

ユーザー応答:
WebSphere Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正しくインストールされていることを確認してください。

FFQD3125E

クローラー・パブリッシャーのフォーマッターをオープンできません。

説明: クローラーが XML フォーマッターを初期化できません。

ユーザー応答:
詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3126E

クローラー・パブリッシャーのフォーマッターをクローズできません。

説明: クローラーが XML フォーマッターを終了できません。

ユーザー応答:
詳しくは、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3127I

クローラー・プラグインが正常に初期化されました。

説明: クローラー・フォーマッターはクローラー・プラグインを正常に初期化しました。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD3128E

クローラー・プラグインによって `CrawlerPluginSocketException` がスローされました。

説明: クローラー・プラグイン・クライアントによって `CrawlerPluginSocketException` がスローされました。クローラーは停止されません。

ユーザー応答:
クローラー・プラグインとそのセッションが正しく機能することを確認してください。

FFQD3129E

クローラー・プラグインによって `CrawlerPluginException` がスローされました。

説明: クローラー・プラグインによって `CrawlerPluginException` がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:
アクションは不要です。

FFQD3130E

クローラー・プラグインによって予期しない例外がスローされました。

説明: クローラー・プラグイン・クライアントによって予期しない例外がスローされました。クローラーは停止されます。

ユーザー応答:
クローラー・プラグインとそのセッションが正しく機能することを確認してください。

FFQD3131W

クローラー・プラグインがヌルのメタデータ・リストを戻したので、この文書は索引付けされません。

説明: クローラー・プラグインがヌルのメタデータ・リストを戻すので、この文書は索引付けされません。

ユーザー応答:
クローラー・プラグインは、現行文書に索引付けしないために関数 `updateDocument()` の結果としてヌル・オブジェクトを戻します。クローラー・プラグインの仕様を確認してください。

FFQD3132W

クローラー・プラグインが新規セキュリティー・トークンとして空ストリングを戻したので、この文書のセキュリティー・トークンは空になります。

説明: クローラー・プラグインが新規セキュリティー・トークンとして空ストリングを戻したので、この文書のセキュリティー・トークンは空になります。

ユーザー応答:

クローラー・プラグインは新規セキュリティー・トークンに対して何らかのストリングを戻すはずです。クローラー・プラグインの仕様を確認してください。

FFQD3133E

クローラー・プラグイン・エラー: *message*

説明: クローラー・プラグインのエラーがあります。

ユーザー応答:

付随するメッセージを参照し、問題発生個所についての詳細はログ・ファイルを参照してください。

FFQD3134W

クローラー・プラグイン警告: *message*

説明: クローラー・プラグインの警告があります。

ユーザー応答:

付随するメッセージを参照し、問題発生個所についての詳細はログ・ファイルを参照してください。

FFQD3135E

クローラーはすでに開始しています。

説明: 指定されたクローラーはすでに開始しています。

ユーザー応答:

「管理者」ページの情報を最新表示してください。

FFQD3136E

クローラーはすでに停止しています。

説明: 指定されたクローラーはすでに停止しています。

ユーザー応答:

「管理者」ページの情報を最新表示してください。

FFQD3137E

クローラー状況をモニターに表示できませんでした。

説明: クローラー状況がクローラーによって正しく報告されませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3138E

要求をクローラーに送信している間に、タイムアウト・エラーが発生しました。

説明: クローラー・プロセスの正常な停止に失敗する可能性があります。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3500E

JDBC クラス *jdbc_driver_class* が見つかりません。

説明: JDBC ドライバー・クラス *jdbc_driver_class* が CLASSPATH に見つかりませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3501W

table_name 表を変更している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表を変更しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3502W

table_name 表を作成している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表を作成しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3503W

トランザクションのロールバックが失敗しました。

説明: トランザクションをロールバックしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3504W

トランザクションのコミットが失敗しました。

説明: トランザクションをコミットしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3505W

表 *orig_table_name* の表 *dest_table_name* への名前変更が失敗しました。クローラーは、名前変更ではなく、コピーしてドロップすることを試します。

説明: *orig_table_name* 表を *dest_table_name* 表に名前変更しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。クローラーは代わりに、新規の表を作成し、全データをそれにコピーして、元の表をドロップします。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3506W

table_name 表からすべてのデータを削除している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表からデータを削除しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3507W

データを *table_name* 表に挿入している間に例外が発生しました。

説明: データを *table_name* 表に挿入しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3508W

table_name 表をドロップしている間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表をドロップしようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3509W

table_name 表の URI *URI* (*uri_length* バイト) が長すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum_length* バイトです。

説明: URI *URI* が長すぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3510W

table_name 表 (URI : *URI*、*document_size* バイト) には大きすぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum_size* バイトです。

説明: 文書が大きすぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3511W

table_name 表 (URI : *URI*、*metadata_size* バイト) にはメタデータが多すぎるために、この文書はリジェクトされました。最大長は *maximum_size* バイトです。

説明: メタデータが大きすぎるため、クロールされた文書は内部表に保管されませんでした。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD3512W

table_name 表に挿入している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。

説明: *table_name* 表にデータを挿入していて、挿入行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、挿入できませんでした。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3513W

table_name 表を更新している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。

説明: *table_name* 表でデータを更新していて、更新行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、更新できませんでした。

ユーザー応答:

このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3514W

table_name 表から削除している間に、予期しない行カウントが戻されました。期待されたカウントは *expected_count* でしたが、戻されたのは *actual_count* でした。

説明: *table_name* 表からデータを削除していて、削除行の期待カウントと実際のカウントが等しくないため、削除できませんでした。

ユーザー応答:

このメッセージが再度表示された場合には、エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3515W

table_name 表を照会している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表に対して SELECT ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3516W

table_name 表に挿入している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表に対して INSERT ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3517W

table_name 表を更新している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表に対して UPDATE ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3518W

table_name 表から削除している間に例外が発生しました。

説明: *table_name* 表に対して DELETE ステートメントを実行しようとしていて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3519W

table_name 表の照会を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。

説明: *table_name* 表に対する SELECT ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3520W

table_name 表への挿入を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。

説明: *table_name* 表に対して INSERT ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3521W

table_name 表の更新を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。

説明: *table_name* 表に対して UPDATE ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3522W

table_name 表からの削除を準備している間に例外が発生しました。SQL は *sql_statement* です。

説明: *table_name* 表に対する DELETE ステートメントを準備していて、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の SQLException) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3523W

接続マネージャーはすでに初期化されています。

説明: データベース接続を管理している内部マネージャーの 1 つがすでに初期化されています。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD3524E

JNDI 検索が *jndi_name* について失敗しました。

説明: JNDI 検索が *jndi_name* について失敗しました。

ユーザー応答:
例外 (該当がある場合) を参照し、JNDI 名 *jndi_name* が正しくて使用可能であることを確認してください。

FFQD3534E

component_name が状態を *from_state* から *to_state* に変更している間に例外が発生しました。

説明: 内部状態を *from_state* から *to_state* に変更していて、1 つ以上の例外が発生しました

ユーザー応答:
他のログ・メッセージや例外を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD3540E

IOException のために、ファイル・ロック *file_name* の取得に失敗しました。

説明: ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを取得できませんでした。

ユーザー応答:
問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3541E

FileNotFoundException のために、ファイル・ロック *file_name* の取得に失敗しました。

説明: ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを取得できませんでした。

ユーザー応答:
問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3543E

ファイル・ロック *file_name* の解放に失敗しました。

説明: ファイル・ロック機能を使用するクローラーについて、ファイル・ロックを解放できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3544E

ファイル・ロックがヌルであるために、ファイル・ロック *file_name* の解放に失敗しました。

説明: ロックが取得されなかったため、クローラーについてファイル・ロックを解放できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD3545E

トラストストア・ファイルのロードのアルゴリズム *algorithm_name* が見つかりませんでした。

説明: トラストストア・ファイルのロードのアルゴリズムが JRE に含まれませんでした。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3546E

ロードされた証明書はありません。

説明: 指定されたトラストストア・ファイルに、適切な証明書が含まれませんでした。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイルに有効な証明書が含まれることを確認し、再試行してください。

FFQD3547E

不明な鍵ストア・タイプ *keystore_type* が検出されました。

説明: 予期しないトラストストア・ファイル・タイプが検出されました。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition (エンタープライズ・サーチ) が正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD3548E

トラストストア・ファイル・フォーマットまたはパスワードが無効です。指定されたトラストストア・ファイルは *truststore_file* です。

説明: トラストストア・ファイル・フォーマット、またはトラストストア・ファイルに指定されたパスワードが誤りである可能性があります。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイル・フォーマットとパスワードが正しいことを確認し、再試行してください。

FFQD3549E

トラストストア・ファイル *truststore_file* をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

説明: トラストストア・ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイルにアクセス可能であることを確認し、再試行してください。

FFQD3550E

`javax.net.ssl.TrustManager` の初期化に失敗しました。

説明: `javax.net.ssl.TrustManager` オブジェクトを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD3551E

`javax.net.ssl.SSLContext` の初期化に失敗しました。

説明: `javax.net.ssl.SSLContext` オブジェクトを初期化中に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ログ・ファイルのエラー・メッセージを参照してください。

FFQD3553E

データベース *database_name* への接続を作成している間に例外が発生しました。

説明: データベース *database_name* への接続を作成中に、1 つ以上の例外が発生しました。

ユーザー応答:

例外 (通常、DB2 の `SQLException`) を参照し、このエラーの実際の原因を判別してください。

FFQD4000E

Notes クラスが見つかりません。Notes クローラーのセットアップが必要です。

説明: 必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

ユーザー応答:

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

FFQD4001E

Notes NRPC クラス (Notes.jar) が見つかりません。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。

説明: NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールに必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

ユーザー応答:

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

FFQD4002E

NRPC アクセスのための Notes ネイティブ・ライブラリー *library_name* が見つかりませんでした。Notes NRPC クローラーのセットアップが必要です。

説明: NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールに必要な Notes ライブラリーをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

ユーザー応答:

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

FFQD4003E

Notes DIIOP クラス (NCS0.jar) が見つかりません。Notes DIIOP クローラーのセットアップが必要です。

説明: DIIOP (Domino Internet Inter-ORB Protocol) クロールに必要な Notes Java クラスをロードできません。Notes クローラーのセットアップ処理が必要です。

ユーザー応答:

Notes クローラーを機能させるセットアップ手順を実行してください。

FFQD4004E

検出されたプラットフォーム *platform* から、Notes ライブラリー名を判別できません。

説明: NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) クロールについて必要な Notes ライブラリー名を判別できません。

ユーザー応答:

Notes クローラーが、サポートされるプラットフォームで実行されることを確認してください。

FFQD4005E

サーバーまたはターゲット、あるいは両方の情報が指定されていませんでした。

説明: Domino サーバーまたはターゲットが適切に設定されませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

FFQD4006E

構成ファイルの中のサーバー名 *server_string* は、Lotus Notes サーバーとデータベースを表していません。

説明: サーバー・ストリング *server_string* は、「*server_name!!database_name*」というようなフォーマットに従っていません。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

FFQD4007E

構成ファイルの中のサーバー名 *server_string* は、Lotus Notes データベース *database_name* を表していません。データベース名を指定しなければなりません。

説明: サーバー・ストリング *server_string* にデータベース名が含まれません。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラー設定を構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

FFQD4008E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* への接続はすでにアクティブです。

説明: サーバー *server_name* への接続がすでに確立されていますが、クローラーが切断せずにサーバーへの接続を試行しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4009E

サーバー *server_name* 上の Lotus Notes データベース *database_name* に接続できません。

説明: Notes クローラーは、クローラー設定またはサーバー設定が無効なため、サーバーに接続できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。ターゲット Domino サーバーとターゲット・データベースがクローラー・サーバーからアクセス可能であることを確認してください。例えば、Domino サーバーが利用不能であるかどうか、データベース・アクセス制御リストが変更されてクローラーしないように設定されたかどうかを確認してください。

FFQD4010E

ID を *id_file_name* に変更できません。

説明: Notes クローラーが ID を *id_file_name* に変更できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4011E

サーバー *server_name* 上の Lotus Notes データベース *database_name* を切断できません。

説明: Domino サーバーまたはデータベースが切断できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4012E

ID を *id_file_name* に変更できません。

説明: Notes クローラーが ID を *id_file_name* に変更できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4013E

次のレコードの存在を確認できません。サーバー: *server_name*。データベース: *database_name*。ビュー/フォルダー: *view_folder_name*。

説明: Notes クローラーが、指定された Notes データベースから文書をフェッチ中に、Notes 文書が存在するかどうかを検証できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4014E

ID を *id_file_name* に変更できません。

説明: Notes クローラーが ID を *id_file_name* に変更できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4015E

URI を作成できません。

説明: URI (Uniform Resource Identifier) を作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4016E

最後のクロール以降の、未変更の添付ファイル名を収集できません。

説明: Notes データベース内の未変更の文書からファイル名を収集しようとしていてエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4017E

ターゲット・コンテンツをフェッチできません。サーバー: *server_name*。データベース: *database_name*。ビュー/フォルダー: *view_folder_name*。

説明: サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* からターゲット・コンテンツをフェッチ中に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4018E

内部リポジトリ内に未定義のレコード状況 *status_code* が見つかりました。

説明: エンタープライズ・サーチ内部表から予期しない状況コード *status_code* が戻されました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4019E

添付ファイル名を取得できません。

説明: 添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4020E

一時ファイル *filename* に書き込むことができません。

説明: 一時ファイルにコンテンツを書き込んでいる間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

一時ファイルが生成される一時ディレクトリーに適切な権限が付与されていることを確認してください。

FFQD4021E

添付ファイルをフェッチできません。

説明: Notes 文書から添付ファイルをフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。
Domino サーバーが利用可能であることを確認してください。

FFQD4022E

バイナリー・コンテンツを読み取りまたは書き込みしている間に入出力エラーが発生しました。

説明: バイナリー・コンテンツを読み取りまたは書き込みしている間に入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。一時ファイルのディレクトリー容量を確認してください。

FFQD4023E

未定義のレコード状況 *status_code*。

説明: エンタープライズ・サーチ内部表から予期しない状況コード *status_code* が戻されました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4024E

入出力エラーのために、ストリングの長さを評価できません。

説明: Notes クローラーが、入出力エラーのためにストリングの長さを評価できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4025W

Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。

説明: フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4026W

Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。

説明: フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4027W

セキュリティー・フィールド値を取得できません。

説明: セキュリティー値として指定されたフィールドは、存在しないか、値を含みません。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4028W

データ・ソース・メタデータのファイル名を取得できません。

説明: セキュリティー値として指定されたフィールドは、存在しないか、値を含みません。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4029W

Lotus Notes 文書から最終変更日付を取得できません。代わりに 0 が使用されます。

説明: フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4030W

Lotus Notes 文書から作成日を取得できません。代わりに 0 が使用されます。

説明: フェッチされた日付/時刻フィールドに有効な値が含まれません。このフィールド値として 0 が使用されます。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQD4031E

サーバー *server_name* の接続は、ユーザー *user_name* を使用して、すでにアクティブです。

説明: クローラーに対して接続がすでにアクティブです。

ユーザー応答:
問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4032E

サーバー *server_name* へのアクセスは拒否されました。ユーザー *user_name* の Java/CORBA アクセスを許可しているサーバー設定を確認してください。

説明: サーバーが、クローラー・ユーザーからのアクセスを拒否しています。

ユーザー応答:
クローラーが指定のターゲット・データベースにアクセスできるように、Domino サーバーを構成してください。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

FFQD4033E

サーバー *server_name* に対し、ユーザー ID *user_name* またはパスワード、あるいは両方が無効です。

説明: ユーザー名またはパスワードが無効なため、サーバーがクローラー・アクセスを拒否しています。

ユーザー応答:
Notes クローラー設定で指定された有効なユーザー ID とパスワードを、管理コンソールから構成してください。

FFQD4034E

ユーザー *user_name* で、サーバー *server_name* の Notes セッションは作成できません。

説明: クローラーの設定が無効であるか、Domino サーバーが利用不可であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

ユーザー応答:
管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。HTTP および DIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIOP クローラー・

ユーザーの特権などについて、ターゲット Domino サーバーを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」を参照してください。

FFQD4035E

server_name 上のデータベース *database_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

説明: クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、HTTP および DIIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIIOP クローラー・ユーザーの特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

FFQD4036E

server_name 上のデータベース *database_name* に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

説明:

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、HTTP および DIIOP タスク、ターゲット・サーバー、およびデータベースに対する DIIOP クローラー・ユーザーの特権について、ターゲット Domino サーバーを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

FFQD4037E

式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: *server_name*。ユーザー: *user_name*。データベース: *database_name*。式: *formula*。

説明: 指定された式は、Notes 式として無効です。あるいは、Domino サーバーまたはデータベースがクローラーへのアクセスを拒否されました。

ユーザー応答:

指定された Notes 式を管理コンソールから確認し、修正してください。クローラーが適切にターゲット・データベースにアクセスできるように、クローラー、Domino サーバー、およびターゲット・データベースを確認してく

ださい。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Designer のヘルプを参照してください。

FFQD4038E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection *view_or_folder_name* を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットが指定されたユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4039E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4040E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *user_name* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効である (ターゲットのビューまたはフォルダーが存在しない) か、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4041E

Notes スレッドを初期化できません。

説明: Notes スレッドは、エラーのために始動されません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4042E

サーバー *server_name* の現行の Notes ユーザー ID *id_filename* を取得できません。

説明: Notes クローラーが、サーバー・セッションから Notes ユーザー ID を抽出できませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4043E

サーバー *server_name* への接続はすでにアクティブです。ID ファイル: *id_filename*。

説明: クローラーに対して接続がすでにアクティブです。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4044E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* に接続している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クロール・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。

説明: クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、サーバーおよびデータベースに対するクローラー・ユーザー ID の特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

FFQD4045E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* に接続できません。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。

説明: クローラーまたは Domino サーバーの設定が無効であるため、Notes クローラーが Domino サーバーとそのデータベースにアクセスできません。

ユーザー応答:

管理コンソールから Notes クローラーの設定 (特にサーバー名、ユーザー ID とそのパスワード) を確認してください。Notes クローラーがターゲット・データベースにアクセスできるように、サーバーおよびデータベースに対するクローラー・ユーザー ID の特権について、ターゲット Domino サーバーの状態を確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」、Lotus Domino Designer のヘルプ、または Lotus Domino Administrator のヘルプを参照してください。

FFQD4046E

式が選択した文書を選択できません。文書にアクセスできることと、式が Notes 式に基づくことを確認してください。サーバー: *server_name*。ID ファイル: *id_filename*。データベース: *database_name*。式: *formula*。

説明: 指定された式は、Notes 式として無効です。あるいは、Domino サーバーまたはデータベースがクローラーからのアクセスを禁止されています。

ユーザー応答:

指定された Notes 式を管理コンソールから確認し、修正してください。クローラーが適切にターゲット・データベースにアクセスできるように、クローラー、Domino サーバー、およびターゲット・データベースを確認してください。「エンタープライズ・サーチの管理」または Lotus Domino Designer のヘルプを参照してください。

FFQD4047E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得している間にエラーが発生しました。そのデータベースにアクセスできることと、クローラー・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクローラー・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4048E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできると、クロール・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4049E

サーバー *server_name* 上のデータベース *database_name* から、ビューまたは DocumentCollection を取得できません。そのデータベースにアクセスできると、クロール・ターゲットがユーザー *id_filename* に対して使用可能になっていることを確認してください。ビュー/フォルダー: *view_or_folder_name*。

説明: 指定されたターゲット (Notes ビューまたはフォルダー) が無効であるか、クローラーから文書を読み取るために適切な権限がターゲットに付与されていません。

ユーザー応答:

文書を読み取るために、管理コンソールから、適切なビューまたはフォルダーをクロール・ターゲットとして指定してください。クローラーが読み取れるように、Notes ビューまたはフォルダーの権限を変更してください。

FFQD4050E

ビューまたは DocumentCollection はヌルです。

説明: 指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。指定されたターゲットがヌルです。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4051E

ビューから文書をフェッチできません。

説明: 指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4052E

式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、ビューまたはフォルダーから文書をフェッチできません。

説明: 指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4053E

DocumentCollection から文書をフェッチできません。

説明: 指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4054E

式が選択した文書のユニバーサル ID と比較しながら、DocumentCollection から文書をフェッチできません。

説明: 指定されたターゲットから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4055E

現行の文書はヌルです。

説明: Notes 文書の作成日を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4056E

現行の文書から作成日を取得できません。

説明: Notes 文書の作成日を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4057E

現行の文書はヌルです。

説明: Notes 文書の最終変更日付を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4058E

現行の文書から最終変更日付を取得できません。

説明: Notes 文書の最終変更日付を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4059E

現行の文書のサイズを取得できません。

説明: Notes 文書のサイズを取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4060E

現行の文書からフィールドをフェッチできません。

説明: Notes 文書の文書フィールド値を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4061E

項目をリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4062E

現行の文書からフィールドをフェッチできません。

説明: Notes 文書から添付ファイル属性を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4063E

項目をリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4064E

現在の EmbeddedObject はヌルです。

説明: Notes 文書の添付ファイルから入力ストリームを取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4065E

現在の EmbeddedObject から InputStream を取得できません。

説明: Notes 文書の添付ファイルから入力ストリームを取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4066E

現在の EmbeddedObject はヌルです。

説明: Notes 文書から添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4067E

現在の EmbeddedObject からファイル名を取得できません。

説明: Notes 文書から添付ファイル名を取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4068E

現在の EmbeddedObject はヌルです。

説明: Notes 文書から添付ファイル・サイズを取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4069E

現在の EmbeddedObject からファイル・サイズを取得できません。

説明: Notes 文書から添付ファイル・サイズを取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4070E

現行の文書はヌルです。

説明: Notes 文書で定義されたフォーム名を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4071E

現行の文書からフォーム名を取得できません。

説明: Notes 文書で定義されたフォーム名を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4072E

現行の文書はヌルです。

説明: Notes 文書で定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4073E

文書ユニバーサル Notes ID を取得できません。

説明: Notes 文書で定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4074E

現行のビューまたは DocumentCollection はヌルです。

説明: Notes ビューまたはフォルダーで定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4075E

ビューについてユニバーサル ID を取得できません。

説明: Notes ビューまたはフォルダーで定義されたユニバーサル Notes ID (UNID) を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4076E

現行のデータベースはヌルです。

説明: Notes データベースで定義された Notes レプリカ ID を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4077E

データベース・レプリカ ID を取得できません。

説明: Notes データベースで定義された Notes レプリカ ID を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4078E

クロールされる項目を収集できません。

説明: Notes 文書に保管されたフィールド値を取得中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4079E

ID ファイル *id_filename* は存在しません。

説明: 指定された ID ファイルは存在しません。

ユーザー応答:

管理コンソールから有効な Notes ID ファイルを指定してください。

FFQD4080E

ID ファイル *id_filename* の ID 許可が失敗しました。

説明: 指定されたパスワードは、与えられた Notes ユーザー ID ファイルに対して無効です。

ユーザー応答:

管理コンソールから与えられた Notes ID ファイルに対して有効なパスワードを指定してください。

FFQD4081E

Notes セッションを作成できません。

説明: Notes セッションを作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4082E

登録はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4083E

ID を *id_filename* に変更できません。

説明: Notes クローラーが指定された ID に切り替わることができません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4084E

このセッションは、DIIOP 上にあります。

説明: Notes クローラーは、DIIOP クロール用ですが、ID を変更しようとした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4085E

セッションはリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4086E

現行の文書はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4087E

ビュー /DocumentCollection はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4088E

現行の文書はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4089E

現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4090E

現行の EmbeddedObject はリサイクルできません。

説明: Notes オブジェクトのメモリーを解放している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4091W

長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: *uri*。

説明: 生成された URI は長すぎて、内部表を保管できません。この URI が指定する文書は、内部表に保管されず、検索で使用されません。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。URI の長さを短くするには、Domino サーバー・データ・ディレクトリーからのデータベース相対パスを短くし、添付ファイル名を短くしてください。

FFQD4092E

サーバーへの通信が失敗しました。

説明: サーバーへの通信中にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

サーバーへのネットワーク接続を確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4093E

Notes データベース ACL を取得できません。ターゲット・データベースへの接続が存在しません。

説明: ターゲット・データベースへの接続が存在しないため、Notes データベース ACL を取得できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4094E

Notes データベース ACL を取得している間にエラーが発生しました。

説明: Notes データベース ACL を取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4095E

サーバーから Notes データベース・リストを取得できません。ターゲット・サーバーへの接続が存在しません。

説明: ターゲット Domino サーバーへの接続が存在しないため、Notes データベース・リストを取得できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4096E

Notes データベース・リストを取得している間にエラーが発生しました。

説明: Domino サーバーから Notes データベース・リストを取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4097E

Notes 階層名を変換できません。Notes セッションが存在しません。

説明: Notes セッションが存在しないため、Notes 階層名を変換できません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4098E

Notes 階層名を変換している間にエラーが発生しました。

説明: Notes 階層名を変換している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4099E

サーバー ACL を取得している間にエラーが発生しました。

説明: domino ディレクトリーのサーバー文書からサーバー ACL を取得している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4100E

式によって選択された文書コレクションを比較している間にエラーが発生しました。サーバー: *server_name*。ID: *id*。データベース: *database_name*。式: *formula*。

説明: 式によって選択された文書コレクションを比較している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4101W

ターゲット・データベースは、指定された式に対して結果を戻しませんでした。クローラーは文書をクロールしません。ターゲットに対する式文節が有効であることを確認してください。サーバー: *server_name*。ID: *id*。データベース: *database_name*。式: *formula*。

説明: ターゲット・データベースは、指定された式に対して結果を戻しませんでした。クローラーは文書をクロールしません。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。ターゲットに対する式文節が有効であることを確認してください。

FFQD4102E

サーバー名は Domino ディレクトリーに登録されていなければなりません。サーバー名: *server_name*

説明: 指定されたサーバー名 *server_name* は、ターゲット Domino サーバー上の Domino ディレクトリー内のどのサーバー文書にも登録されていませんでした。

ユーザー応答:

正しい完全修飾インターネット・ホスト名を指定してください。ターゲット Domino サーバー上の Domino ディレクトリー内のサーバー文書 (names.nsf ファイル) を参照し、サーバー名 *server_name* が完全修飾インターネット・ホスト名のフィールド値と同じであることを確認してください。

FFQD4200I

ユーザー *user_name* を使用して *database_URL* に接続しました。

説明: DB2 クローラーは指定されたデータベースに接続しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4201I

database_URL から切断しました。

説明: DB2 クローラーは指定されたデータベースから切断しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4202W

メタデータは、サイズの上限 *data_size_limit* を超えたため、切り捨てられました。

説明: サイズがその上限より大きかったため、DB2 クローラーはメタデータ・データを切り捨てました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4203W

コンテンツは、サイズの上限 *data_size_limit* を超えたため、無視されました。

説明: 全体レコード・サイズがサイズの上限より大きかったため、DB2 クローラーはコンテンツを無視しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4204W

データベース *database_URL* 上の表 *table_name* 内の行は、列 *column_name* にヌル・キーが検出されたため、無視されました。

説明: 固有キー列として指定された列に NULL データが検出されたため、DB2 クローラーは行を無視しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4205W

URI が長すぎるため、行は無視されました。URI: *URI*。

説明: URI が長すぎるため、DB2 クローラーは行を無視しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4207E

フィールドの指定が無効です。

説明: DB2 クローラー構成ファイルに誤りの列定義が含まれました。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4208E

ユーザー ID かパスワード、または両方が間違っています。 *database_URL* への接続を確立できません。

説明: DB2 クローラー構成ファイルに誤りのユーザー ID またはパスワードが含まれました。

ユーザー応答:

ユーザー名とパスワードが最新であることを確認してください。

FFQD4209E

データベース *database_URL* が見つかりませんでした。

説明: DB2 クローラーはデータベースを見つけられませんでした。

ユーザー応答:

データベースが存在することを確認してください。

FFQD4210E

表またはビュー *database_URL* が見つかりませんでした。

説明: DB2 クローラーは表またはビューを見つけられませんでした。

ユーザー応答:

データベースが存在することを確認してください。

FFQD4211E

列が見つかりませんでした。

説明: DB2 クローラー構成ファイルに誤りの列定義が含まれました。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4212E

SQL 構文エラーが検出されました。データベース: *database_URL*。SQL: *SQL_statement*。

説明: 行を選択する SQL ステートメントが誤りでした。DB2 クローラー構成ファイルに、誤りの WHERE 文節が含まれる可能性があります。

ユーザー応答:

行を選択するための条件が正しいことを確認してください。

FFQD4213E

ユーザー *user_name* は、CONNECT または SELECT 特権を持ちません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。

説明: ユーザーに表のアクセス権がありません。

ユーザー応答:

ユーザーに CONNECT および SELECT の特権を付与してください。

FFQD4214E

database_URL へのデータベース接続がフルです。

説明: DB2 クローラーは、データベースへの接続数が最大に達したため、接続を確立できませんでした。

ユーザー応答:

接続最大数を増やすか、しばらくしてから再試行してください。

FFQD4215E

データベース *database_URL* からの接続は終了しました。

説明: データベース接続がデータベースから予期せず終了されました。

ユーザー応答:

データベースが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

FFQD4216E

database_URL への接続が失敗しました。

説明: データベースに接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4217E

database_URL からの切断が失敗しました。

説明: データベースから切断している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4218E

入出力エラーが発生しました。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。

説明: データベースからデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4219E

データベース・エラーが発生しました。データベース: *database_URL*。SQLCODE: *SQLCODE*。SQLSTATE: *SQLSTATE*。

説明: データベースにアクセスしている間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4220E

データベース接続がありません。

説明: DB2 クローラーは正常に開始しましたが、データをクロールするためのデータベース接続が予期に反してヌルです。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4221E

クロールされる列が指定されていません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。

説明: DB2 クローラー構成ファイルに、列名が含まれません。

ユーザー応答:

開始するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD4222E

セキュリティー・フィールドはストリング列でなければなりません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *security_type*。

説明: セキュリティー・フィールドがストリング列ではありませんでした。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4223E

日付フィールドは、DATE または TIMESTAMP 列でなければなりません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *date_type*。

説明: 日付フィールドがストリング列ではありませんでした。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4224E

サポートされないデータ・タイプが見つかりました。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *data_type*。

説明: DB2 クローラーは、サポートされないデータ・タイプ列が構成ファイルに含まれることを検出しました。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4225E

DATE または TIMESTAMP 列がコンテンツとして指定されました。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。

説明: DB2 クローラーは、コンテンツとして非 LOB 列が指定されたことを検出しました。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4226E

非数値列 (BIGINT を含む) が、パラメトリック検索可能フィールドとして指定されました。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *data_type*。

説明: DB2 クローラーは、パラメトリック検索可能フィールドとして非数値列が指定されたことを検出しました。数値列は以下のものです。

- DATE
- DECIMAL
- DOUBLE
- INTEGER

- REAL
- SMALLINT
- TIME
- TIMESTAMP

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4227E

非バイナリー列がコンテンツとして指定されました。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *data_type*。

説明: DB2 クローラーは、コンテンツとして非バイナリー列が指定されたことを検出しました。バイナリー列は以下のものです。

- BLOB
- CLOB
- DBCLOB
- CHARACTER FOR BITDATA
- VARCHAR FOR BITDATA
- LONG VARCHAR FOR BITDATA

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4228E

複数のコンテンツはサポートされません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。

説明: DB2 クローラーは 2 つ以上のコンテンツを検出しました。

ユーザー応答:

DB2 クローラー構成ファイルが現行のターゲット表と対応することを確認してください。

FFQD4230E

固有 ID の値は、表全体で固有でなければなりません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。(key_value)

説明: 固有 ID の値が固有でないことを DB2 クローラーが検出しました。固有 ID は文書の URI の生成に使用され、固有でなければなりません。

ユーザー応答:

固有 ID が固有であることを確認してください。

FFQD4231E

LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC データ・タイプは、この表の固有 ID にはサポートされていません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。

説明: LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC データ・タイプは、次の場合に固有 ID に使用できません。 i) コンテンツとしてバイナリー列が指定されている ii) ターゲット・データ・ソースが CURSOR WITH HOLD をサポートしない

ユーザー応答:

固有 ID に他の列を指定してください。

FFQD4232E

更新検出のために指定されたフィールドの列タイプはサポートされていません。データベース: *database_URL*。表: *table_name*。列: *column_name*。タイプ: *date_type*。

説明: 行の更新を示すフィールドの列タイプがサポートされていませんでした。サポートされるタイプ: TIMESTAMP、CHARACTER(8) FOR BIT DATA、VARCHAR(8) FOR BIT DATA

ユーザー応答:

正しい列を指定してください。

FFQD4300E

内部エラーが発生しました (別の接続が存在します)。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。同じ問題が再発した場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

FFQD4301E

項目タイプ *item_type* が存在しないか、項目タイプがパーツ項目タイプです。

説明: 構成ファイルで指定された項目タイプは、Content Manager サーバーに存在しなかったか、パーツ項目タイプでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クロール・スペースを編集してその項目タイプを除去してください。

FFQD4302E

接続が失敗しました。データベース: *database*。ユーザー: *user*。

説明: 指定された Content Manager サーバーへの接続が失敗しました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。サーバーが稼働していることと、パスワードが有効であることを確認してください。

FFQD4303E

切断が失敗しました。

説明: Content Manager サーバーからの切断が失敗しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4304E

コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: *pid*。

説明: Content Manager サーバーからコンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

FFQD4305E

一時ファイルを作成している間にエラーが発生しました。

説明: クローラーが大容量のコンテンツを一時ファイルとして保管しようとしているときに、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳細は、クローラー・ログを参照してください。

FFQD4306E

データベース接続は存在しません。

説明: Content Manager サーバーに対して接続が確立されませんでした。接続が破棄された可能性があります。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。サーバーが稼働していることを確認してください。

FFQD4307E

照会コマンド *cmd* を実行している間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager の照会コマンドを実行している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4308E

レコードをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: *pid*。

説明: Content Manager サーバーからレコードをフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

FFQD4309E

パーツをフェッチしている間にエラーが発生しました。PID: *pid*。

説明: Content Manager サーバーからパーツをフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

FFQD4310E

属性 *attribute* は存在しません。

説明: 構成ファイルで指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4311E

属性 *attribute* が存在しないか、属性が BLOB タイプです。

説明: 構成ファイルで指定された属性は存在しないか、属性は BLOB タイプでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4312E

コンポーネント *component* は存在しません。

説明: 構成ファイルで指定されたコンポーネントは、Content Manager サーバーに存在していませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4313E

属性をフェッチしている間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーから属性の値をフェッチしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4314E

最終変更日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーから最終変更日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4315E

作成日をリトリブしている間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーから作成日をリトリブしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4316E

日付 *date* を解析している間にエラーが発生しました。

説明: 日付を解析している間にエラーが発生しました。これは予期しないエラーです。

ユーザー応答:

詳細は、クローラー・ログを参照してください。

FFQD4317E

項目タイプ *item_type* をリトリブしている間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーから項目タイプをリトリブしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4318E

オリジナル・ファイル名をリトリブしている間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーからオリジナル・ファイル名をリトリブしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。リソース・マネージャーが稼働していることを確認してください。

FFQD4319E

アクセスを制御するためのフィールドとして指定された属性 *attribute* は存在しません。

説明: 構成ファイルでアクセス制御のフィールドとして指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。
項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4320E

文書日付として指定された属性 *attribute* が間違っています。

説明: 構成ファイルで文書日付として指定された属性は、TIMESTAMP タイプでも DATE タイプでもありません。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。
項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4321E

文書日付として指定された属性 *attribute* は存在しません。

説明: 構成ファイルで文書日付として指定された属性は、Content Manager サーバーに存在しませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クローラー・スペースを編集してください。
項目タイプを除去してから、その項目タイプを再び追加して構成してください。

FFQD4322E

文書日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。属性: *attribute*。

説明: Content Manager サーバーから文書日付をリトリブしている間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4323W

長すぎる URI が生成されました。この行は無視されます。生成された URI: *uri*。

説明: 生成された URI は長すぎます。この行は無視されます。

ユーザー応答:

データをクローリングするには、URI を短くしてください。サーバー名または項目タイプ名が短くなると、URI が短くなります。

FFQD4324I

サーバーに接続しました。データベース: *database*。ユーザー: *user*。

説明: クローラー・サーバーは、Content Manager サーバーに正常に接続しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4325I

サーバーから切断しました。

説明: クローラー・サーバーは、Content Manager サーバーから正常に切断しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4326E

リソース・マネージャーがオンラインでないか、使用可能ではありません。

説明: リソース・マネージャーがオンラインでないか、使用可能ではありませんでした。

ユーザー応答:

リソース・マネージャーを始動し、操作を再試行してください。

FFQD4327W

コンテンツをフェッチしている間にエラーが発生しました。この文書をスキップします。PID: *pid*。

説明: Content Manager サーバーから文書をフェッチしている間にエラーが発生しました。文書は、Content Manager に正しく保管されていない可能性があります。この文書はクロールされませんでした。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2 Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。指定された文書が正しいことを確認してください。

FFQD4328E

Content Manager サーバーへの接続を検査している間にエラーが発生しました。

説明: Content Manager サーバーへの接続を検査している間にエラーが発生しました。接続は終了された可能性があります。

ユーザー応答:

詳しくは、「IBM DB2 Content Manager for Multiplatforms/IBM DB2

Information Integrator for Content for Multiplatforms メッセージとコード」を参照してください。これには、DB2 Content Manager と DB2 Information Integrator for Content の両方のメッセージが示されています。

FFQD4402W

プロパティ *property_name* は、今は変更できません。クローラーを再始動してください。

説明: このプロパティ *property_name* は、クローラーの実行中に変更できません。

ユーザー応答:

クローラーを停止し、再始動してください。

FFQD4409W

記事数が上限 *max_num_of_articles* を超えたため、NNTP クローラーは休止します。

説明: NNTP クローラーは、記事の最大数で指定された記事数に達したため、自動的に休止状態になりました。

ユーザー応答:

記事をさらに必要な場合は、記事の最大数を増やし、クローラーを再始動してください。それ以外の場合は、クローラーを単に停止してください。

FFQD4413W

エラーのために、クローラーは *sleep_interval* 秒間、休止します。

説明: ネットワーク・エラーが検出されたため、NNTP クローラーはしばらく休止します。

ユーザー応答:

一時的にネットワークを利用できないことが理由の場合は、しばらくお待ちください。クローラーは再びクロールを開始します。それ以外の場合は、ネットワークがこのクローラー・サーバーで利用可能であることを確認してください。

FFQD4414E

サーバー状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。

説明: NNTP クローラーは、内部リポジトリでサーバー状況の更新に失敗しました。クローラーはしばらく休止し、再試行します。

ユーザー応答:

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの原因を判別してください。

FFQD4415E

ニュース・グループ状況の更新に失敗しました。クローラーはあとで再試行します。

説明: NNTP クローラーは、内部リポジトリーでニュースグループ状況の更新に失敗しました。クローラーはしばらく休止し、再試行します。

ユーザー応答:

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの原因を判別してください。

FFQD4416E

メッセージ ID の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。

説明: NNTP クローラーは、内部リポジトリーに記事のメッセージ ID を挿入できませんでした。クローラーはしばらく休止し、再試行します。

ユーザー応答:

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの原因を判別してください。

FFQD4417E

ニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。

説明: NNTP クローラーは、内部リポジトリーに記事を挿入できませんでした。クローラーはしばらく休止し、再試行します。

ユーザー応答:

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの原因を判別してください。

FFQD4418E

削除されたニュース記事の挿入が失敗しました。クローラーはあとで再試行します。

説明: NNTP クローラーは、内部リポジトリーに削除された記事の情報を挿入できませんでした。クローラーはしばらく休止し、再試行します。

ユーザー応答:

他のログ・メッセージを参照し、このエラーの原因を判別してください。

FFQD4419W

クローラーは、サーバー状況の更新を失敗しましたが、停止されます。

説明: NNTP クローラーは、サーバー状況を更新できませんでした。古くなった、または矛盾するサーバー情報がエンタープライズ・サーチ管理コンソールで表示される可能性があります。この情報は、クローラーの次回始動時に更新されます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4420W

クローラーは、ニュース・グループ状況の更新を失敗しましたが、停止されます。いくつかの記事の再クロールが必要になるかもしれません。

説明: NNTP クローラーは、ニュースグループ状況を更新できませんでした。古く

なった、または矛盾するサーバー情報がエンタープライズ・サーチ管理コンソールで表示される可能性があります。この情報は、クローラーの次回始動時に更新されます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4421W

クローラーは、メッセージ ID の更新を失敗しましたが、停止されます。いくつかの記事の再クロールが必要になるかもしれません。

説明: NNTP クローラーがメッセージ ID を内部リポジトリに記録できませんでした。クローラーは次回同じ記事をクロールしますが、再クロールされた記事が重複であれば除去されるため、検索結果には影響しません。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4422W

クローラーは、記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。

説明: NNTP クローラーは記事を内部リポジトリに保管できませんでした。しかし、それはクローラーの次回始動時にクロールされます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4423W

クローラーは、削除された記事の挿入を失敗しましたが、停止されます。

説明: NNTP クローラーは、削除された記事の情報を内部リポジトリに保管できませんでした。しかし、クローラーの次回始動時に記事を保管します。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4427E

不明なホスト *host_name* のために、ニュース・グループ・リストをリトリブできませんでした。

説明: 指定されたサーバー *host_name* が不明なホストのため、NNTP クローラーは、サーバー上のニュースグループ・リストをリトリブしようとして、サーバーにアクセスできません。

ユーザー応答:

ホスト名が正しいことを確認してください。

FFQD4428E

host_name 上のネットワーク・エラーまたはサーバー・エラーのために、ニュースグループ・リストをリトリブできませんでした。

説明: ネットワーク・エラーが発生したため、NNTP クローラーはサーバー上のニュースグループ・リストをリトリブできませんでした。

ユーザー応答:

ログのメッセージを参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

FFQD4433W

クリーニングが中断されました。このプロセスは、次の機会に再始動されます。

説明: 削除文書の情報を内部リポジトリに書き込んでいる間に、NNTP クローラーが停止されました。このタスクは、クローラーの次回始動時に再開されます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4434W

この記事の中にメッセージ ID が見つかりませんでした。*message_id*。この記事は無視されます。

説明: NNTP クローラーが、誤った形式の記事を検出しました。この記事は無視されます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4435W

メッセージ ID が矛盾します (*message_id1* と *message_id2* は同一でなければなりません)。この記事は無視されます。

説明: NNTP クローラーが、誤った形式の記事を検出しました。この記事は無視されます。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4436W

予期しない日付形式 *date*。

説明: NNTP クローラーが、記事の中に予期しない日付形式を検出しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4437E

記事を解析している間に入出力エラーが発生しました。

説明: ニュース・サーバーからリトリブした記事を解析している間に、ネットワーク入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

ログのメッセージを参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

FFQD4449E

api_name でエラーが発生しました。

説明: *api_name* API を実行している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4450E

ファイル *file_name* が見つかりませんでした。

説明: 構成ファイル *file_name* が見つかりませんでした。 NNTP クローラーはクローリングを開始できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD4451E

ネットワーク入出力エラーが発生しました。

説明: サーバーにアクセスしている間に、ネットワーク入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

ログのメッセージを参照し、ネットワークが利用可能であることを確認し、ニュース・サーバーがアクティブであることを確認してください。

FFQD4452E

コマンド *nntp_command* で、 予期しない応答 *server_response* が戻されました。

説明: NNTP クローラーは、 NNTP コマンド *nntp_command* について、サーバーから予期しない応答 *server_response* を受け取りました。

ユーザー応答:

ニュース・サーバーが適切に機能していることを確認してください。

FFQD4453W

記事ポインターの状況をリトリブできませんでした。戻りコードは *return_code* です。

説明: NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード *return_code* を受け取りました。これは、ニュースグループ内の一部の記事がサーバーから削除されたときに発生する可能性があります。

ユーザー応答:

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

FFQD4454W

記事をリトリブできませんでした。戻りコードは *return_code* です。

説明: NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード *return_code* を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止する直前か、利用できないことによるものです。

ユーザー応答:

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

FFQD4455W

クローラーは次の記事に移動できませんでした。戻りコードは *return_code* です。

説明: NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード *return_code* を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止する直前か、利用できないことによるものです。

ユーザー応答:

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

FFQD4456W

クローラーは、*server_name* 上の ニュースグループ *newsgroup_name* に切り替えることができませんでした。戻りコードは *return_code* です。

説明: NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード *return_code* を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止する直前か、利用できないことによるものです。

ユーザー応答:

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

FFQD4457W

ニュースグループ・リストをリトリブできませんでした。戻りコードは *return_code* です。

説明: NNTP クローラーは、正常終了でない 戻りコード *return_code* を受け取りました。多くの場合、これはサーバーが停止する直前か、利用できないことによるものです。

ユーザー応答:

サーバーがアクティブである場合、アクションは必要ありません。それ以外の場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。

FFQD4458E

サーバー名 *server_name* を解決できませんでした。

説明: NNTP クローラーは、サーバー *server_name* のサーバー・アドレスを解決できませんでした。

ユーザー応答:

サーバーが存在しない場合は、クロール・スペースからサーバーを除去してください。存在する場合は、クローラー・サーバーのネットワーク環境を確認してください。

FFQD4461E

クローラーは、サーバーから、サービス切断のメッセージを受け取りました。

説明: NNTP クローラーは、サーバーから、サービス切断のメッセージを受け取りました。サーバーへの接続は切断されます。

ユーザー応答:

サーバーが利用可能であることを確認してください。

FFQD4500E

directory_name ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: 指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーのディレクトリーを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを構成してください。

FFQD4501E

directory_name ディレクトリーが見つかりませんでした。エラー・メッセージ : *detail_message*

説明: 指定されたディレクトリーが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーのディレクトリーを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを構成してください。

FFQD4502E

filename ファイルのオープンに失敗しました。ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。

説明: ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。ファイルはクローラールされませんでした。

ユーザー応答:

そのクローラール・ファイルを使用している他のプログラムを停止し、クローラールを再始動してください。

FFQD4503E

filename ファイルを読み取っている間にエラーが発生しました。

説明: ファイルは別のプログラムが使用している可能性があります。ファイルはクローラールされませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4504E

サブディレクトリー・レベル (*levels of subdirectories*) が間違っています。

説明: 指定されたサブディレクトリー・レベルが無効でした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4505W

ディレクトリー名が長すぎて保管できません。ディレクトリー: *directory_name*。

説明: 指定されたディレクトリー名が長すぎて保管できませんでした。

ユーザー応答:

クローラール対象のディレクトリーを移動し、管理コンソールでクローラール・スペース・ページを構成してください。

FFQD4506W

URI 名が長すぎて保管できません。URI: *directory_name*。

説明: 指定された URI が長すぎて保管できませんでした。URI 名の長さは、UTF-8 バイト・ストリングとして計算されます。

ユーザー応答:

ディレクトリーを移動するか、クローラール対象のファイル名を変更し、管理コンソールでクローラール・スペース・ページを構成してください。

FFQD4507E

ネットワーク・ドライブを使用できません。エラー・メッセージ : *detail_message*

説明: ネットワーク・ドライブが使用可能ではありませんでした。

ユーザー応答:

ネットワークとクローラー・サーバーのディレクトリーを確認してください。

FFQD4508E

ユーザー ID *user_name* またはパスワードが間違っています。ネットワーク・フォルダー:*directory_name*。

説明: 誤ったユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が指定されました。

ユーザー応答:

ユーザー名とパスワードを確認し、管理コンソールでクロール・スペース・ページを設定してください。

FFQD4509E

一時ファイル *temporary_file* は作成されませんでした。

説明: ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを作成できませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

FFQD4510E

一時ファイル *temporary_file* のロードに失敗しました。

説明: ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを読み取れませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

FFQD4511E

一時ファイル *temporary_file* の保管に失敗しました。

説明: ファイル・システム・クローラーは、一時ファイルを書き込めませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・サーバーの空きディスク・スペースを確認し、クローラーを再始動してください。

FFQD4600E

URL *public_folder_URL* からの応答を受信している間に入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーから応答を受信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4601E

XML パーサー構成エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーからの応答を解析するために XML パーサーを作成できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチが正常にインストールされていることを確認し、再試行してください。

FFQD4602E

URL *public_folder_URL* からの WebDAV 応答は、間違った XML 文書です。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーが戻した XML 文書には、正しくないエレメントおよび文字が含まれている可能性があります。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダーに、損傷した文書が含まれていないことを検証してください。

FFQD4603I

ユーザー *user_name* を使用して *public_folder_URL* に接続しました。

説明: Exchange クローラーは指定された URL に接続しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4604I

ユーザー *user_name* とトラストストア・ファイル *truststore_file* を使用して *public_folder_URL* に接続しました。

説明: Exchange クローラーは指定された URL に接続しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4605I

public_folder_URL から切断しました。

説明: Exchange クローラーは指定された URL から切断しました。

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQD4607E

public_folder_URL への接続に失敗しました。

説明: 指定された URL に接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4608E

次のレコードの検査が失敗しました。

説明: 指定された URL から文書を取得している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4609E

URL *uniform_resource_locator* からのコンテンツの取得でエラーが発生しました。

説明: 指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4610E

URL *public_folder_URL* からコンテンツを取得している間に入出力エラーが発生しました。

説明: 指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4611E

パブリック・フォルダー *public_folder_URL* をクロールできませんでした。 HTTP 状況は *HTTP_state_code* です。

説明: 指定された URL からデータを転送している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4612E

public_folder_URL に対する WebDAV 要求が失敗しました。戻された状況コードとメッセージは、*HTTP_state_code*、*HTTP_response_message* です。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーが予期しない HTTP 応答を戻しました。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく機能していることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4613W

値 *string* を解析している間に、時刻形式のエラーが検出されました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーは、誤りの日付ストリングを含む応答を戻しました。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD4614W

指定された URL *document_URL* はすでに存在します。

説明: Exchange クローラーは、重複した URL を検出しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4616E

一時ファイル *temporary_file* は存在しません。

説明: Exchange クローラーは、一時ファイルを見つけられませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

FFQD4617E

オブジェクトを一時ファイル *temporary_file* に書き込んでいる間に入出力エラーが発生しました。

説明: Exchange クローラーは、データを一時ファイルに書き込めませんでした。

ユーザー応答:

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

FFQD4618E

ファイル *temporary_file* へのオブジェクト出力ストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

FFQD4619E

ファイル *temporary_file* をクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

クローラー・マシンに空きディスク・スペースがあることを確認し、再試行してください。

FFQD4620E

一時ファイル *temporary_file* からオブジェクトを読み取っている間に入出力エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

クローラー・マシンが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

FFQD4621E

ファイル *temporary_file* からのオブジェクト入力ストリームをクローズしている間に入出力エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルをクローズ中に 1 つ以上の入出力エラーが発生しました。

ユーザー応答:

クローラー・マシンが正しく機能していることを確認し、再試行してください。

FFQD4622E

不明なホスト名 *host_name* が検出されました。

説明: 指定されたパブリック・フォルダー URL 内のホスト名が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

ホスト名が正しいことを確認してください。

FFQD4623E

URL *public_folder_URL* が間違っています。

説明: 指定されたパブリック・フォルダー URL が見つかりませんでした。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー URL が正しいことを確認してください。

FFQD4624E

public_folder_URL への接続をリフレッシュできませんでした。

説明: Exchange クローラーは、パブリック・フォルダー・サーバーへの接続をリセットできませんでした。

ユーザー応答:

パブリック・フォルダー・サーバーが正しく機能していることを確認してください。問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4625E

要求を *public_folder_URL* に送信している間に、入出力エラーが発生しました。

説明: パブリック・フォルダー・サーバーに要求を送信している間に、1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4626E

public_folder_URL への接続に失敗しました。

説明: 指定された URL に接続している間に 1 つ以上のエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4627E

SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。

説明: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルの指定が必要です。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD4628E

SSL を使用するには、トラストストア・パスワードの指定が必要です。

説明: SSL を使用するには、トラストストア・ファイルのパスワードの指定が必要です。

ユーザー応答:

実行するクローラーが正しく構成されていることを確認し、再試行してください。

FFQD4629E

トラストストア・ファイル *truststore_file* は存在しません。

説明: 指定されたトラストストア・ファイルが存在しないか、ファイル読み取り権限がありません。

ユーザー応答:

入力されたトラストストア・ファイルのパスが正しく、ユーザーがそのファイルを読み取れることを確認してください。

FFQD4631E

トラストストアのファイル・フォーマットまたはパスワードが間違っています。指定されたトラストストアは *truststore_file* です。

説明: トラストストア・ファイル・フォーマット、またはトラストストア・ファイルに指定されたパスワードが誤りである可能性があります。サポートされるフォーマットは JKS、JCEKS、および PKCS#12 です。

ユーザー応答:

トラストストア・ファイル・フォーマットとパスワードが正しいことを確認し、再試行してください。

FFQD4632W

URI が長すぎるため、文書は無視されました。URI: *URI*。

説明: URI が長すぎるため、Exchange クローラーは文書は無視しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4633W

URI が長すぎるため、フォルダーは無視されました。URI: *URI*。

説明: URI が長すぎるため、Exchange クローラーはフォルダーは無視しました。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4707E

構成ファイルの中のサーバー名 *server_string* は、VeniceBridge サーバーとリポジトリ名を表していません。

説明: サーバー・ストリング *server_string* の形式が正しくありませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールから VeniceBridge クローラー設定を構成してください。

FFQD4708E

VeniceBridge API エラーが発生しました。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4709E

VeniceBridge API はライセンス交付を受けていません。

説明: VeniceBridge クローラーは、 VeniceBridge コンポーネントの一部がライセンス交付を受けていないため、 VeniceBridge サーバーにアクセスできませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4710E

VeniceBridge サーバー・インスタンスを作成できません。

説明: VeniceBridge クローラーは、 指定された JNDI プロパティが誤りのため、 VeniceBridge サーバーにアクセスできませんでした。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4711E

VeniceBridge API 構成エラーが発生しました。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4712E

VeniceBridge サーバーを見つけることができません。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4713E

通信関連エラーが発生しました。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4714E

リポジトリ *repository_name* が見つかりません。

説明: *repository_name* リポジトリは、VeniceBridge サーバーに存在しません。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット・リポジトリと対応することを確認してください。

FFQD4715E

VeniceBridge ユーザー・インスタンスは初期化されませんでした。

説明: VeniceBridge サーバーにアクセスしている間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4716E

repository_name リポジトリへのログオンに失敗しました。

説明: VeniceBridge クローラーは、*repository_name* リポジトリにログオンできませんでした。

ユーザー応答:

正しいユーザー名とパスワードが指定されていることを確認してください。

FFQD4718E

リポジトリ *repository_name* の項目クラス *item_class* が見つかりませんでした。

説明: 構成ファイルで指定された項目クラスは、VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

ユーザー応答:

管理コンソールにログオンし、クロール・スペースを編集してその項目クラスを除去してください。

FFQD4719E

プロパティ *property* が見つかりませんでした。リポジトリ:
repository_name。項目クラス: *item_class*。

説明: 構成ファイルで指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4720E

ランキング日付のプロパティ *property* が見つかりませんでした。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。

説明: 構成ファイルで文書データとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在していませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4721E

セキュリティー・フィールドのプロパティ *property* が見つかりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。

説明: 構成ファイルでセキュリティー・フィールドとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在していませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4722E

指定された選択基準 *condition_statement* に問題があります。

説明: 構成ファイルで指定された条件ステートメントの構文が誤りでした。

ユーザー応答:

条件ステートメントの構文が正しいことを確認してください。

FFQD4723E

ランキング日付フィールドは、DATE または DATETIME データ・タイプでなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。タイプ: *data_type*。

説明: 構成ファイルで文書データとして指定されたプロパティは、DATE タイプでも DATETIME タイプでもありません。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4724E

サポートされないデータ・タイプ *data_type* が見つかりました。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルで指定されたプロパティは、サポートされないデータ・タイプでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4725E

実行した照会に問題があります。

説明: VeniceBridge サーバーに対して照会コマンドを実行している間に、エラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4726E

順序キーが見つかりません。キー: *order_key_property*。

説明: 構成ファイルで順序キーとして指定されたプロパティは、VeniceBridge サーバーに存在しません。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4728W

長すぎる URI が生成されました。このレコードは無視されます。URI: *uri*。

説明: 生成された URI は長すぎて、内部表を保管できません。この URI が指定する文書は、内部表に保管されず、検索で使用されません。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQD4729W

プロパティ *property* が見つかりませんでした。

説明: 構成ファイルで指定されたプロパティは、見つかりませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4730E

コンテンツを書き込んでいる間に入出力エラーが発生しました。

説明: VeniceBridge サーバーからデータを転送している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題発生個所についての詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

FFQD4731E

ランキング日付フィールドは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルで文書データとして指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4732E

セキュリティー・フィールドは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルでセキュリティー・フィールドとして指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4733E

改訂日付プロパティは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルで改訂日付として指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4734E

作成日付プロパティは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルで作成日付として指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4735E

コンテンツ・サイズ・プロパティは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルでコンテンツ・サイズとして指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4736E

ソート・キー・プロパティは、照会内の選択プロパティとして適切でなければなりません。リポジトリ: *repository_name*。項目クラス: *item_class*。プロパティ: *property*。

説明: 構成ファイルでソート・キーとして指定されたプロパティは、照会内の選択プロパティとして適切ではありませんでした。

ユーザー応答:

VeniceBridge クローラー構成が現行のターゲット項目クラスと対応することを確認してください。

FFQD4737W

指定されたネイティブ・コンテンツが見つかりませんでした。この記録は無視されます。URI: *uri*。

説明: URI によって指定されたネイティブ・コンテンツが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

バックエンドのコンテンツ・マネージメント・システムが正しく機能していることを確認してください。

FFQD4738W

指定されたコンテンツが見つかりませんでした。この記録は無視されます。URI: *uri*。

説明: URI によって指定されたコンテンツが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

バックエンドのコンテンツ・マネージメント・システムが正しく機能していることを確認してください。

FFQD4739E

無視された文書の数に限度 *warning_limit* を超えました。

説明: 無視されたコンテンツおよびネイティブ・コンテンツの数が限度を超えました。

ユーザー応答:

バックエンドのコンテンツ・マネージメント・システムが正しく機能していることを確認してください。

FFQD4741W

指定された文書が保管されているフォルダーをリトリブして、エラーが発生しました。URI: *uri*。

説明: 指定されたコンテンツが保管されているフォルダーを検索していて、エラーが発生しました。1 つ以上の文書の収容フォルダー・メタデータが欠落しています。

ユーザー応答:

バックエンドのコンテンツ・マネージメント・システムが正しく機能していることを確認してください。

一般システム・メッセージ (FFQG)

FFQG0026E

入力ファイルと出力ファイルは別のファイルでなければなりません。該当するファイル設定を訂正して、要求を再サブミットしてください。 - 入力ファイル: *input_file* 出力ファイル: *output_file*

説明: 入力と出力の両方に同じファイルが使用されました。入力ファイルと出力ファイルは異なる必要があります。

ユーザー応答:

正しい入力または出力ファイルを指定して要求を再サブミットしてください。

オペレーティング・システム・サブシステム (OSS) のメッセージ (FFQO)

FFQO0034E

パス *path_name* は存在しません。

説明: *path_name* によって指定されたディレクトリー・パスは存在しません。操作にディレクトリー・パスが必要ですが、パスが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

パスが存在することを確認してください。パスが存在する場合は、ディレクトリーに適切な許可があることを確認してください。多くの場合、これは予期されたエラーのため、支障なくこのエラーを無視することができます。

FFQO0086E

トレース・ダンプ・ファイル *file_name* の検査が失敗しました。 OSSe エラー・コード: *err_code* OSSe エラー名: *err_name* OSSe メッセージ: *err_msg*。

説明: 指定されたトレース・ダンプ・ファイルの検査がエラーで失敗しました。トレース・ダンプ・ファイルが不完全であることによる可能性があります。

ユーザー応答:

トレース・セッションが終了し、トレース・ダンプ・ファイルを完成したことを確認してください。セッションの終了を確実にするには、`stopccl` コマンドを発行するか、実行中のトレース・セッションを停止します。

FFQO0141E

ソケット・エラーが発生しました。エラー・コード *error_code*。 アドレス *host_name* およびポート *port_number*。

説明: ソケット操作の結果、指定された *error_code* になりました。

ユーザー応答:

error_code が **22** (UNIX) または **10022** (Windows) でランタイム・シャットダウンの場合には、支障なくこのエラーを無視することができます。 **10093** (Windows) の場合にも、このエラーを無視できます。

FFQO0164E

プロパティ・ファイル *file_name* をロードできません。

説明: 構成ファイル *file_name* をロードできませんでした。

ユーザー応答:

ログで追加のメッセージがあるかを確認してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。ファイルのアクセス許可を確認し、この構成ファイルで組み込まれるすべてのファイルについて確認してください。

FFQO0165E

組み込まれたプロパティ・ファイル *file_name* をロードできません。

説明: 別の構成ファイルによって組み込まれた構成ファイル *file_name* をロードできませんでした。

ユーザー応答:

ログで追加のメッセージがあるかを確認してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。ファイルのアクセス許可を確認し、この構成ファイルで組み込まれるすべてのファイルについて確認してください。

FFQO0168E

プロパティをファイル *file_name* に保管できません。

説明: 構成をファイル *file_name* に保管できませんでした。

ユーザー応答:

構成ファイルを保管するディレクトリまたはファイル・システムが存在し、それに書き込み許可があることを確認してください。書き込み保護された同じ名前のファイルが存在しないことを確認してください。

FFQO0193W

number のチャンクがまだ使用中であるのに、一時プール *memory_pool_name* が消去されました。

説明: *memory_pool_name* という名前の一時メモリー・プールの一部が、プールが消去された時点でまだ使用中でした。

ユーザー応答:

ログで追加のメッセージがあるかを確認してください。これ以上のアクションは不要です。

FFQO0223E

1 文字のパスワードは許されません。

説明: 長さが 1 文字のみのパスワードを指定することはできません。

ユーザー応答:

2 文字以上の長さのパスワードを指定してください。

FFQO0258E

セッション *session_name* は異常終了しました。

説明: セッション *session_name* は異常終了しました。

ユーザー応答:

session_name に関連するログ・ファイルを確認し、セッション異常終了の理由を調べてください。

FFQO0259E

要求された操作がタイムアウトになりました。

説明: 要求された操作がタイムアウトになりました。

ユーザー応答:

操作を再試行してください。

FFQO0273W

内部警告 *exception_message*。

説明: 予期しない例外が発生しました。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

パーサーのメッセージ (FFQT)

FFQT0059E

Stellent パーサーは、文書ハンドルのオープンに、コード *stellent_error_code* で失敗しました。文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、Stellent パーサーによって解析できませんでした。そのコンテンツには索引作成が行われません。

ユーザー応答:

url の文書が有効な文書であることを確認してください。ファイル・タイプに対して適切なビューアーを使用して、その読み取りを試行してください。それが有効でない場合は、それを有効なバージョンで置き換えて、URL を再クロールしてください。

FFQT0060E

Stellent パーサーは、コンテンツ・ハンドルのオープンに、コード *stellent_error_code* で失敗しました。文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、Stellent パーサーによって解析できませんでした。そのコンテンツには索引作成が行われません。

ユーザー応答:

url の文書が有効な文書であることを確認してください。ファイル・タイプに対して適切なビューアーを使用して、その読み取りを試行してください。それが有効でない場合は、それを有効なバージョンで置き換えて、URL を再クロールしてください。

FFQT0061E

Stellent パーサーは、最初のコンテンツ・セグメントの取得に、コード *stellent_error_code* で失敗しました。文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、Stellent パーサーによって解析できませんでした。そのコンテンツには索引作成が行われません。

ユーザー応答:

url の文書が有効な文書であることを確認してください。ファイル・タイプに対して適切なビューアーを使用して、その読み取りを試行してください。それが有効でない場合は、それを有効なバージョンで置き換えて、URL を再クロールしてください。

FFQT0062E

Stellent パーサーは、次のコンテンツ・セグメントの取得に、コード *stellent_error_code* で失敗しました。 文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、Stellent パーサーによって完全には解析できませんでした。コンテンツの最初の部分のみに索引作成が行われます。おそらく、これは文書の切り詰めが原因です。

ユーザー応答:

url の文書が有効な文書であることを確認してください。ファイル・タイプに対して適切なビューアーを使用して、その読み取りを試行してください。それが有効でない場合は、それを有効なバージョンで置き換えて、URL を再クロールしてください。

FFQT0065I

Stellent パーサーは、サポートされるファイル・タイプ *stellent_file_type* の文書 (*doc_type*) を受け取りました。 文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、タイプ *stellent_file_type* と認識されました。それは文書タイプ *doc_type* で検索可能になります。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQT0066I

Stellent パーサーは、サポートされないファイル・タイプ *stellent_file_type* の文書を受け取りました。 文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、タイプ *stellent_file_type* と認識されました。そのタイプは検索可能な文書タイプにマップされません。そのコンテンツには索引作成が行われません。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQT0067I

Stellent パーサーは、ネイティブ・パーサーがサポートするファイル・タイプ *stellent_file_type* の文書 (*doc_type*) を受け取りました。 文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書は、タイプ *stellent_file_type* と認識されました。このタイプは、組み込みパーサーの 1 つによってサポートされ、そのコンテンツの解析に Stellent は使用されません。それは文書タイプ *doc_type* で検索可能になります。

ユーザー応答:

アクションは必要ありません。

FFQT0072I

Stellent パーサーは、URL *url* の文書のファイル・タイプを認識できませんでした。

説明: Stellent パーサーは、URL *url* の文書のタイプを認識できませんでした。そのコンテンツには索引作成が行われません。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQT0078W

Stellent パーサーは、サイズが *document_size* の文書の解析に失敗しました。文書の URL は *url* です。

説明: URL *url* の文書を正常に解析できませんでした。そのコンテンツの全部または一部には索引作成が行われません。

ユーザー応答:
アクションは必要ありません。

FFQT0084E

Stellent パーサー・サーバーからの応答待ちがタイムアウトになりました。サーバーはおそらくループしており、再始動が必要です。

説明: Stellent パーサーが応答していません。おそらく未定義の状態にあり、再始動が必要です。

ユーザー応答:
Stellent パーサーが自動的に再始動されたかどうかをログで確認してください。再始動されていない場合は、パーサーを停止して再始動してください。

FFQT0085E

文書进行处理している間に、Stellent パーサー・サーバーへの接続が切れました。サーバーが停止した可能性があり、再始動が必要です。

説明: Stellent パーサーへの接続が中断されました。それはおそらく停止したか、異常終了しており、再始動が必要です。

ユーザー応答:
Stellent パーサーが自動的に再始動されたかどうかをログで確認してください。再始動されていない場合は、パーサーを停止して再始動してください。

FFQT0086W

Stellent パーサーは *number_of_docs* の文書进行处理しました。サーバーをリサイクルして、サーバーのリソースをクリーンアップする必要があります。

説明: Stellent パーサーは、多数の文書进行处理した後、次第に不安定になる可能性があります。そのため、指定された数の文書进行处理した後、再始動する必要があります。

ユーザー応答:

Stellent パーサーが自動的に再始動されたかどうかをログで確認してください。再始動されていない場合は、パーサーを停止して再始動してください。

FFQT0138E

マッピング・ファイル *file* を解析している間にエラーが発生しました。

説明: 名前 *file* の文書を正常に解析できませんでした。

ユーザー応答:

XML ファイルの構造とエレメントが正しいことを確認してください。
indexBuildSpecification タグに、
xmlns:namespace="http://www.ibm.com/of/822/consumer/index/xml" ではなく、
適切なネームスペース情報
xmlns="http://www.ibm.com/of/822/consumer/index/xml" があることを確認してください。

ユーティリティのメッセージ (FFQU)

FFQU0269E

計算器は、式 "*variable_expression*" を含む変数 "*variable_name*" で、文字位置 *position_within_the_expression* で、構文エラーを検出しました。

説明: 変数 *variable_name* が含む式 *variable_expression* の位置 *position_within_the_expression* に構文エラーがあるため、計算器はその変数の評価を継続できません。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FFQU0270E

計算器は、式 "*variable_expression*" を含む変数 "*variable_name*" で、文字位置 *position_within_the_expression* で、無効なオペランド "*invalid_operand*" を検出しました。

説明: 変数 *variable_name* が含む式 *variable_expression* の位置 *position_within_the_expression* に無効なオペランドがあるため、計算器はその変数の評価を継続できません。有効なオペランドは変数名または定数ですが、変数または定数として認識されない *invalid_operand* を計算器が検出しました。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FFQU0271E

計算器は、式 "*variable_expression*" を含む変数 "*variable_name*" で、文字位置 *position_within_the_expression* で、無効な定数 "*invalid_constant*" を検出しました。

説明: 変数 *variable_name* が含む式 *variable_expression* の位置 *position_within_the_expression* に無効な定数があるため、計算器はその変数の評価を継続できません。有効な定数は 10 進数形式浮動小数点のリテラルですが、無効な定数である *invalid_constant* を計算器が検出しました。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FFQU0272E

計算器は、未定義の変数 "*variable_name*" を検出しました。

説明: 変数 *variable_name* の式が欠落しているため、計算器はその変数の評価を継続できません。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

FFQU0273E

計算器は、変数 "*variable_name*" の従属関係が循環していることによる、無限ループを検出しました。

説明: 変数 *variable_name* が含む式が最終的にそれ自身を参照して無限ループとなるため、計算器はその変数の評価を継続できません。

ユーザー応答:

このメッセージが繰り返される場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

同義語辞書のメッセージ (FFQV)

FFQV0001E

Frost 初期化が失敗しました。

説明: Frost の初期化中に例外が発生しました。おそらく Frost ライブラリー (*dlt40.jar* および *dlt40.dll*) が欠落しています。

ユーザー応答:

dlt40.jar ファイルおよび *dlt40.dll* ファイルが存在していること、およびシステムの PATH 変数に *dlt40.dll* ファイルが含まれることを確認してください。

FFQV0002E

同義語 XML ファイル *file_name* が見つかりませんでした。

説明: 指定された同義語ファイルが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

存在する同義語ファイルを指定し、そのファイル許可が正しく設定されていることを確認してください。

FFQV0003E

同義語 XML ファイル *file_name* にアクセスできませんでした。

説明: 指定された同義語ファイルにアクセスできませんでした。ファイルに適切な許可が設定されていない可能性があります。

ユーザー応答:

指定された同義語ファイルのファイル許可を検査し、ファイルが破壊されていないことを確認してください。

FFQV0004E

同義語 XML ファイル *file_name* は、有効な XML ファイルではありません。

説明: 指定された同義語ファイルは、整形形式でないか、XML スキーマの *synonyms.xsd* に従っていません。

ユーザー応答:

XML エディターを使用して XML ファイルを検証してください。

FFQV0005E

次の同義語セットを辞書ファイル *file_name* に保管している間にエラーが発生しました。

説明: 指定された同義語ファイルが破壊されているか、辞書ファイルを保管するために使用可能なディスク・スペースがありません。

ユーザー応答:

XML エディターを使用して XML ファイルを検証してください。ファイルに適切な許可があること、および十分なディスク・スペースがあることを確認してください。

FFQV0006E

同義語辞書ファイル *file_name* を初期化しようとしている間にエラーが発生しました。

説明: 指定された辞書ファイルは、すでに存在するか、許可の誤りにより作成できませんでした。

ユーザー応答:

指定されたパスが正しく、それに書き込み許可があるかどうかを確認してください。

FFQV0007E

辞書ファイル *file_name* をクローズしようとしている間にエラーが発生しました。

説明: 指定された辞書をクローズできませんでした。

ユーザー応答:

十分なディスク・スペースがあるかどうかを確認してください。

FFQV0008E

辞書ファイル *file_name* はすでに存在します。

説明: 既存の辞書ファイルは上書きされません。

ユーザー応答:

別の辞書ファイル名を指定するか、既存の辞書ファイルを削除または名前変更してください。

FFQV0009E

ログ・ファイル *file_name* を作成できませんでした。

説明: 例外が発生しましたが、ログ・ファイルにアクセスできなかったため、それはログに記録されませんでした。

ユーザー応答:

ログ・ファイルに適切な許可があること、および十分なディスク・スペースがあることを確認してください。

FFQV0010E

file_name は、無効な XML 同義語ファイルのようです。同義語ファイルの拡張子は "*.xml" でなければなりません。

説明: 同義語ファイルの拡張子は "*.xml" でなければなりません。

ユーザー応答:

拡張子が "*.xml" である有効な XML 同義語ファイルを指定するか、既存のファイルを名前変更してください。

FFQV0011E

file_name は、辞書ファイルの有効な拡張子ではありません。辞書ファイルの拡張子は "*.dic" でなければなりません。

説明: 辞書ファイルの拡張子は "*.dic" でなければなりません。

ユーザー応答:

拡張子が "*.dic" であるファイル名を使用してください。

FFQV0012E

システム・コンソールにロギングしようとしてエラーが発生しました。

| **説明:** メッセージを生成してそれをシステム・コンソールに書き込もうとしてエラー
| が発生しました。

| **ユーザー応答:**

| エラーの詳細についてはログ・ファイルを確認してください。

| **FFQV0021E**

| xsd スキーマ・ファイル (synonyms.xsd) が現行のクラスパスに見つかりませんで
| した。

| **説明:** 同義語ファイルを有効にするには、synonyms.xsd という名前のファイルが必要
| ですが、それが現行クラスパスに見つかりませんでした。

| **ユーザー応答:**

| synonyms.xsd ファイルをクラスパスに追加するか、スクリプト
| `essyndictbuilder` を使用してクラスパスをセットアップしてください。

マイグレーション・ウィザードのメッセージ (FFQW)

FFQW0001E

message_key キーのメッセージは見つかりませんでした。エンタープライズ・サー
チ管理者に問い合わせてください。

説明: ウィザードが使用するメッセージ・ファイルが見つかりませんでした。

ユーザー応答:

DB2 Information Integrator OmniFind Edition のエンタープライズ・サーチ・
コンポーネントが正しくインストールされていることを確認してください。

FFQW0002E

ファイル *file_name* を読み取ることができません。選択を変更してください。

説明: 選択されたファイルまたはディレクトリは、ウィザードを開始したユーザ
ーが読み取れません。

ユーザー応答:

ファイルが正しい場合は、管理者に連絡してファイルのアクセス権を変更し
てください。

FFQW0003E

ファイル *file_name* にコレクション名が設定されていません。

説明: マイグレーションするそれぞれのコレクションについて、エンタープライ
ズ・サーチにまだ存在しないコレクション名が必要です。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチに存在しないコレクション名を指定してくださ
い。

FFQW0008E

ユーザー ID またはパスワードが無効です。

説明: マイグレーション・ウィザードにログインするには、インストール中に入力されたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードの入力が必要です。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを入力し、再試行してください。

FFQW0011E

ファイル *file_name* 中の WebSphere ポータル検索エンジン・コレクションをインポートしている間にエラーが発生しました。行 *line_number*、列 *column_number* で、次のエラーが発生しました。 *error_message*。ファイルはインポートできませんでした。

説明: 文書に予期しないコンテンツが含まれます。それは無効なコレクション構成ファイルである可能性があるか、ファイルが破損しています。

ユーザー応答:

ファイルが WebSphere Portal からエクスポートしたものであるかを確認してください。それが正しいファイルである場合には、ポータル検索エンジン・コレクションから新しいファイルに構成設定をもう一度エクスポートし、ウィザードを再度実行してください。

FFQW0012E

コレクション *collection_name* を作成している間にエラーが発生しました。次のエラーが戻されました。 *error_code*。

説明: エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題を訂正し、やり直してください。

FFQW0013E

コレクション *collection_name* の Web クローラーを作成している間にエラーが発生しました。次のエラーが発生しました。 *error_code*。

説明: Web クローラーを作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

問題を訂正し、やり直してください。

FFQW0014E

コレクション *collection_name* を作成している間にエラーが発生しました。 ID *user_name* のセッションが見つかりませんでした。

説明: ウィザードがエンタープライズ・サーチに接続できませんでした。

ユーザー応答:

エンタープライズ・サーチ・システムが稼働していることを確認してください。

FFQW0016E

コレクション *collection_name* を作成している間にエラーが発生しました。
error_message。

説明: エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳しくは、ウィザード・ログ・ファイルを確認してください。問題を訂正し、やり直してください。

FFQW0019E

クローラー構成ファイルを作成している間にエラーが発生しました。例外メッセージ: *error_message*

説明: Web クローラー構成ファイルを作成している間にエラーが発生しました。

ユーザー応答:

詳細は、ウィザードのログ・ファイルを参照してください。問題を訂正し、やり直してください。

FFQW0120I

マイグレーションは正常に完了しました。詳細は、ログ・ファイルを参照してください。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0140I

コレクションは WebSphere Portal 構成ファイル *file* からインポートされました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0141I

コレクション *collection_name* は正常に作成されました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0142I

コレクション *collection_name* の Web クローラーは正常に作成されました。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0154I

コレクション *collection_name* のクローラー・データを作成しています。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0155I

クロール・スレッドの最大数について、次の設定が見つかりました。
list_thread_numbers。インポートされた値は *maximum_threads* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0156I

クロール・パスの深さの最大値について、次の設定が見つかりました。
list_path_depths。インポートされた値は *maximum_path_depth* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0157I

クロール文書タイムアウトについて、次の設定が見つかりました。
list_timeout_limits。インポートされた値は *maximum_timeout_limit* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0158I

デフォルトの文字セットについて、次の設定が見つかりました。
list_charsets。
インポートされた値は *charset* です。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

FFQW0159I

構成ファイル *file* が作成されました。戻りコード: *return_code*。

説明:

ユーザー応答:

このメッセージは、通知のみです。アクションは必要ありません。

エンタープライズ・サーチの用語集

この用語集では、エンタープライズ・サーチのインターフェースおよび資料で使用される用語を定義します。

アラート (alert)

問題、あるいは今にも起こりそうな問題を示すメッセージや標識。

アンカー・テキスト (anchor text)

ハイパーリンクに関連付けられたテキスト。

エスケープ文字 (escape character)

後続の 1 つ以上の文字に対して特殊な意味を抑制または設定する文字。

エンキュー (enqueue)

キューに項目を入れること。

エンタープライズ・サーチ管理者 (enterprise search administrator)

エンタープライズ・サーチ全体を管理できる管理役割。

オペレーター (operator)

エンタープライズ・サーチで、コレクション・レベルのプロセスを監視、開始、停止する権限を持つユーザー。

解析 (parse)

エンタープライズ・サーチで、文書から有用なテキストやメタデータを抽出すること。このプロセスには、文書のランキングにかかわるアルゴリズムの実行や、複合語の分解や同義語の設定を行う言語分析が含まれる。

概念抽出 (concept extraction)

テキスト文書にある重要な語彙項目 (人、場所、製品など) を識別し、その項目リストを生成する検索機能。『テーマ抽出』も参照。

カテゴリー (category)

類似した特性を持つ文書のグループ。

カテゴリー・ツリー (category tree)

エンタープライズ・サーチで、エンタープライズ・サーチ管理コンソールに表示されるカテゴリー階層。

管理役割 (administrative role)

エンタープライズ・サーチ管理コンソールで実行できる機能を決めるユーザー種別。この役割により、ユーザーが管理できるコレクションも決まる。

近接検索 (proximity search)

同一のセンテンス、パラグラフ、または文書にある一定の語を探す検索タイプ。

クローラー (crawler)

データ・ソースから文書を取り出し、検索索引作成用の情報を収集するソフトウェア・プログラム。

クロール・スペース (crawl space)

指定パターン (データベース名、ファイル・システム・パス、ドメイン・ネ

ーム、IP アドレス、URL など) に一致するソースの集合。クローラーはここから読み取って索引用の項目を取り出す。クローラ・スペースには、例えば、リレーショナル・データベース表の集合、1 つ以上の DB2 Content Manager サーバー上にある項目タイプ、または複数の Notes データベースなどが含まれる。

言語の識別 (language identification)

文書の言語を判別するエンタープライズ・サーチ機能。

言語分析検索 (linguistic search)

基本形に戻した語を使用して文書を表示、取得、索引付けする検索タイプ。例えば、mice は mouse として索引を作成する。

検索アプリケーション (search application)

エンタープライズ・サーチ・システムで、照会の処理、索引の検索、検索結果の表示、コレクション用のソース文書の取得を行うプログラム。

検索エンジン (search engine)

検索要求を受け取り、文書リストをユーザーに戻すプログラム。

検索キャッシュ (search cache)

以前の検索要求のデータと結果を保持するバッファ。

検索結果 (search results)

検索要求に一致する文書のリスト。検索結果は多くの場合、文書の照会適合度に関する検索エンジンの尺度によって決まった適合順でソートされる。通常の結果リストには、文書を取得した URL、文書のタイトル、短い要約が含まれる。日付、ファイル・サイズ、その他の文書属性 (文書が属するカテゴリーなど) も含まれるものもある。

検索索引ファイル (search index file)

検索エンジンで索引が保管されているファイル。

高頻度ランキング (popular ranking)

文書の既存のランキングに、その検索頻度を基に加算するランキング・タイプ。

語のステミング (word stemming)

言語学的な正規化のプロセス。1 つのワードの異形を一般形に分解する。例えば、「connections」、「connective」、および「connected」は「connect」に分解される。

コレクション (collection)

データ・ソースと、そのクローラ、解析、索引作成、検索用のオプションの集合。コレクション内のデータ・ソースは、1 つの照会で検索できる。エンタープライズ・サーチ管理者が、コレクション内のデータのクローラ、解析、索引作成、検索の方法に関するオプションを指定する。

索引 (index)

データ項目を参照し、照会用語を含む文書を検索で迅速に見つけられるようにするデータ構造。

索引キュー (index queue)

処理される索引の再編成要求や索引のリフレッシュのリスト。

索引の再編成 (index reorganization)

エンタープライズ・サーチ・システムで索引を作成する処理。『索引のリフレッシュ』と対比。

索引のリフレッシュ (index refresh)

エンタープライズ・サーチ・システム内の既存の索引に新しい情報を追加する処理。『索引の再編成』と対比。

字句類縁性 (lexical affinity)

文書内の検索語間の関係。字句類縁性を使用して、結果の適合度を算出する。

自然言語照会 (natural language query)

キーワードを単純に並べるのではなく、文語表現 (「Who runs the finance department?」など) を分析する検索のタイプ。

条件加重検索 (weighted term search)

一定の条件が重視される照会。

情報抽出 (information extraction)

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目 (名前、用語、式など) を自動的に認識するもの。

スコア (score)

該当の文書が、他の検出文書と相対的に、検索基準にどの程度一致しているかを示す値 (通常 0 から 1 まで)。

ステミング (stemming)

『語のステミング』を参照。

ストップワード (stop word)

よく使用され、検索アプリケーションが照会応答時に無視する語。「the」、「an」、「and」など。

ストップワードの除去 (stop word removal)

テキスト索引のサイズを減らすために、索引からストップワードを除去するプロセス。

静的要約 (static summarization)

要約タイプの 1 つ。検索結果には、文書の指定および保管された要約が含まれる。『動的要約』と対比。

静的ランキング (static ranking)

ランキング・タイプの 1 つ。日付や、その文書を指すリンク数など、ランキングされる文書に関する要素でランキングが上がる。『動的ランキング』と対比。

セキュリティー・トークン (security token)

コレクションの文書へのアクセス許可に使用される ID とセキュリティーに関する情報。データ・ソース・タイプによって、サポートするセキュリティー・トークンのタイプは異なる。例えば、ユーザー役割、ユーザー ID、グループ ID や、コンテンツへのアクセス制御用のその他の情報などがある。

データ・ソース (data source)

文書を検索できるデータ・リポジトリ。 Web、リレーショナルおよび非リレーショナル・データベース、およびコンテンツ・マネージメント・システムなど。

データ・ソース・タイプ (data source type)

データ・アクセス用のプロトコルに応じたデータ・ソースのグループ。

テーマ抽出 (theme extraction)

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目を自動的に認識して、文書のテーマやトピックを抽出するもの。『概念抽出』も参照。

ディスカバラー (discoverer)

クローラー機能の 1 つで、クローラーが情報検索に使用できるデータソースを判別する機能。

テキスト・ベースのスコアリング (text-based scoring)

照会内の語に対する文書の適合度を表す整数値を、文書に割り当てるプロセス。整数値が大きいほど、照会への一致が緊密であることを表す。『動的ランキング』も参照。

テキスト分析 (text analysis)

コレクションのデータの検索性を高めるために、テキストから意味やその他の情報を抽出するプロセス。

デキュー (dequeue)

キューから項目を除去すること。

トークナイザー (tokenizer)

テキストをスキャンし、一続きの文字をトークンとして認識できる場合にそれを判別する解析プログラム。

トークン (token)

コンピューティング言語の基本構文単位。トークンは、ブランク文字を除き、またストリング定数や区切り ID 内の文字を除いた 1 つ以上の文字から構成される。

動的要約 (dynamic summarization)

要約タイプの 1 つ。検索語が強調表示され、検索結果には検索している文書の概念を最もよく表す句が含まれる。『静的要約』と対比。

動的ランキング (dynamic ranking)

照会の条件を検索中の文書に関して分析し、結果のランクを決定するランキングのタイプ。『テキスト・ベースのスコアリング』も参照。『静的ランキング』と対比。

パーサー (parser)

エンタープライズ・サーチ・データ・ストアに追加された文書を解釈するプログラム。パーサーは、文書から情報を抽出し、索引付け、検索、取得の準備を行う。

ハイパーテキスト・アンカー (hypertext anchor)

HTML 文書において、別のページやその文書内の他の場所へのハイパーテキスト・リンクを定義するためのコード。

ハイパーリンク (hyperlink)

テキスト・ストリングやイメージなど、URI と関連付けられた Web ページ上の領域。クリックすると、その URI が開く。

ハイブリッド検索 (hybrid search)

ブール検索とフリー・テキスト検索を組み合わせたもの。

パラメトリック検索 (parametric search)

数値または属性 (日付、整数、その他のデータ・タイプなど) を含むオブジェクトを探す検索のタイプ。

ブール検索 (Boolean search)

1 つ以上の検索語が、AND、NOT、OR などの演算子を使って結合された検索。

ファジー検索 (fuzzy search)

検索語にスペルが似た語を戻す検索。

フィールド検索 (fielded search)

特定のフィールドに限定された照会。

フリー・テキスト検索 (free text search)

フリー・フォーム・テキスト、つまり、検索対象を自然言語で記述した句や文によって、検索語を表現した検索。

分類構造 (taxonomy)

類似性に基づいてオブジェクトをグループに分類したもの。エンタープライズ・サーチでは、分類構造によってデータはカテゴリとサブカテゴリに編成される。『カテゴリ・ツリー』も参照。

マスク文字 (masking character)

検索語の先頭、中間、および末尾にある任意の文字を表す文字。マスク文字は通常、精密な索引で語の異形を検索するために使用される。『ワイルドカード』も参照。

モデル・ベースのカテゴリ (model-based category)

類似した内容を含む文書で文書を索引付けおよび検索するために、文書の主題の判別に使われる事前定義用語を使用した分類構造。

モニター担当者 (monitor)

エンタープライズ・サーチで、コレクション・レベルのプロセスを監視する権限を持つユーザー。

ユーザー ID (user ID)

ユーザーがシステムにサインオンするときに、ユーザー・プロフィールをユーザーと関連付けるために使用される名前。

ユーザー・エージェント (user agent)

Web をブラウズし、アクセスしたサイトに自身の情報を残すアプリケーション。エンタープライズ・サーチで、Web クローラーはユーザー・エージェント。

有効範囲 (scope)

検索要求の範囲を定義するための関連 URI のグループ。

要約 (summarization)

文書の内容を簡潔に記述する文を検索結果に組み込むプロセス。『動的要約』と『静的要約』も参照。

ランキング (ranking)

照会検索結果の各文書に整数値を割り当てるプロセス。検索結果における文書の順序は、照会への適合度に基づいて決まる。ランクが高いほど、緊密な一致を表す。『動的ランキング』と『静的ランキング』も参照。

リンク分析 (link analysis)

コレクション内のどのページがユーザーにとって重要かを判別するための方法。

ルール・ベースのカテゴリ (rule-based category)

規則を定義して作成されるカテゴリ。規則によって、カテゴリに関連付けられる文書が決められる。例えば、一定の語を含む、または含まない文書や一定の URI パターンに一致する文書を、特定のカテゴリと関連付ける規則を定義する。

ワイルドカード文字 (wildcard character)

検索語の先頭、中間、または末尾にある任意の文字を表す文字。

Extensible Markup Language (XML)

文書処理や Web 上の情報公開に使用されるテキスト・ベースのタグ言語。

URI (Uniform Resource Identifier)

抽象的または物理的リソースを識別するためのコンパクトな文字ストリング。最も一般的な URI のフォームは Web ページ・アドレスである。これは、URL (Uniform Resource Locator) と呼ばれる URI の特定フォームまたはサブセットである。URI では通常、リソースへのアクセス方法、そのリソースを含むコンピューター、そのコンピューター上のリソースの名前 (ファイル名) を記述する。

URL (Uniform Resource Locator)

コンピューター上、またはインターネットなどのネットワーク内の情報リソースを表す一続きの文字。この一続きの文字には、その情報リソースへのアクセスに使用されるプロトコルの省略名、およびそのプロトコルが情報リソースを見つけるために使用する情報が含まれる。

XML 『Extensible Markup Language』を参照。

DB2 Information Integrator の資料

ここでは、DB2 Information Integrator の資料についての情報を提供します。

次のトピックの表は、正式な資料名、資料番号、および PDF 文書の場所を示しています。ハードコピー版の資料を注文するには、正式な資料名または資料番号が必要です。DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件の資料名、ファイル名、および場所についても、以下のトピックの中に含まれています。

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料

目的

z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する資料。

表 3. z/OS 上の DB2 Universal Database のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none">• 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」>「インフォメーション・インテグレーション」>「DB2 Information Integrator 概説」>「問題、予備手段、および資料の更新」• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド• DB2 Information Integrator Support の Web サイト• DB2 Information Integrator 製品 CD

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料

目的

z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する資料。

表 4. z/OS 上の IMS および VSAM のイベント・パブリッシング機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のクライアント・ガイド	SD88-7512	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> の Data Mapper ガイド	SD88-7515	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> はじめに	GD88-7516	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のインストール・ガイド	GD88-7517	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> オペレーション・ガイド	SD88-7510	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Event Publishing</i> 計画ガイド	SD88-7511	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> の管理ガイド	SD88-7509	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Classic Federation</i> および <i>Classic Event Publishing</i> のシステム・メッセージ	SD88-7514	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for IMS リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for VSAM リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

Linux、UNIX、および Windows におけるイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows におけるイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料

目的

Linux、UNIX、および Windows におけるイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する資料。

表 5. Linux、UNIX、および Windows 上のイベント・パブリッシングおよびレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF Documentation CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF Documentation CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none"> DB2 PDF Documentation CD DB2 Information Integrator Support の Web サイト
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none"> 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」>「インフォメーション・インテグレーション」>「DB2 Information Integrator 概説」>「問題、予備手段、および資料の更新」 DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

Linux、UNIX、および Windows におけるフェデレーテッド機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows におけるフェデレーテッド機能に関する資料

目的

Linux、UNIX、および Windows におけるフェデレーテッド機能に関する資料。

表 6. Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
アプリケーション開発者向けガイド	SC88-9609	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発における C++ API リファレンス	SC88-9921	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
データ・ソース構成ガイド	なし	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
フェデレーテッド・システム・ガイド	SC88-9614	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Guide to Configuring the Content Connector for VeniceBridge</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
インストール・ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)	GC88-9562	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発における Java API リファレンス	SC88-9922	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
マイグレーション・ガイド	SC88-9610	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
ラッパー開発者向けガイド	SC88-9923	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 6. Linux、UNIX、および Windows 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料 (続き)

資料名	資料番号	場所
Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS	なし	<ul style="list-style-type: none"> 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」>「インフォメーション・インテグレーション」>「DB2 Information Integrator 概説」>「問題、予備手段、および資料の更新」 DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド DB2 Information Integrator Support の Web サイト DB2 Information Integrator 製品 CD

z/OS におけるフェデレーテッド機能に関する資料

z/OS におけるフェデレーテッド機能に関する資料

目的

z/OS におけるフェデレーテッド機能に関する資料。

表 7. z/OS 上のフェデレーテッド機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
Classic Federation および Classic Event Publishing のクライアント・ガイド	SD88-7512	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing の Data Mapper ガイド	SD88-7515	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation はじめに	GD88-7508	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing のインストール・ガイド	GD88-7517	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing の管理ガイド	SD88-7509	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation および Classic Event Publishing のシステム・メッセージ	SD88-7514	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
Classic Federation トランザクション・サービシス・ガイド	SD88-7513	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

z/OS におけるレプリケーション機能に関する資料

z/OS におけるレプリケーション機能に関する資料

目的

z/OS におけるレプリケーション機能に関する資料。

表 8. z/OS 上のレプリケーション機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
<i>ASNCLP Program Reference for Replication and Event Publishing</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング 入門	GC88-9895	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Migrating to SQL Replication</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
レプリケーションとイベント・パブリッシング ガイドおよびリファレンス	SC88-9893	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Replication Installation and Customization Guide for z/OS</i>	SC18-9127	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス	SC88-9163	<ul style="list-style-type: none">• DB2 PDF Documentation CD• DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for Replication and Event Publishing Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Tuning for SQL Replication Performance</i>	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	なし	<ul style="list-style-type: none">• 「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」>「インフォメーション・インテグレーション」>「DB2 Information Integrator 概説」>「問題、予備手段、および資料の更新」• DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド• DB2 Information Integrator Support の Web サイト• DB2 Information Integrator 製品 CD

Linux、UNIX、および Windows におけるエンタープライズ・サーチ機能に関する資料

Linux、UNIX、および Windows におけるエンタープライズ・サーチ機能に関する資料

目的

Linux、UNIX、および Windows におけるエンタープライズ・サーチ機能に関する資料。

表 9. Linux、UNIX、および Windows 上のエンタープライズ・サーチ機能に関する DB2 Information Integrator の資料

資料名	資料番号	場所
エンタープライズ・サーチの管理	SD88-6374	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド	GD88-6373	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス	SD88-6375	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ リリース・ノート	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

リリース情報およびインストール要件

リリース情報には、製品のリリースとフィックスパック・レベルに特有の情報が入っています。また、それぞれのリリースの資料に対する最新の訂正も含まれています。インストール要件には、製品のリリースに特有の情報が入っています。

表 10. DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件

資料名	ファイル名	場所
<i>Installation Requirements for IBM DB2 Information Integrator Event Publishing Edition, Replication Edition, Standard Edition, Advanced Edition, Advanced Edition Unlimited, Developer Edition, and Replication for z/OS</i>	Prereqs	<ul style="list-style-type: none">DB2 Information Integrator 製品 CDDB2 Information Integrator のインストール・ランチパッド
<i>Release Notes for IBM DB2 Information Integrator Standard Edition, Advanced Edition, and Replication for z/OS</i>	ReleaseNotes	<ul style="list-style-type: none">「DB2 インフォメーション・センター」で、「製品概要」>「インフォメーション・インテグレーション」>「DB2 Information Integrator 概説」>「問題、予備手段、および資料の更新」DB2 Information Integrator のインストール・ランチパッドDB2 Information Integrator Support の Web サイトDB2 Information Integrator 製品 CD
<i>IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for IMS</i> リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

表 10. DB2 Information Integrator のリリース情報とインストール要件 (続き)

資料名	ファイル名	場所
IBM DB2 Information Integrator Classic Event Publisher for VSAM リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
IBM DB2 Information Integrator Classic Federation for z/OS リリース情報	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト
エンタープライズ・サーチ リリース・ノート	なし	DB2 Information Integrator Support の Web サイト

リリース情報およびインストール要件の表示

リリース情報およびインストール要件の表示

目的

Windows オペレーティング・システム上で、CD に入っているインストール要件およびリリース情報を表示するには、次のように入力します。

```
x¥doc¥%L
```

パラメーター

x Windows CD ドライブ名

```
%L
```

使用したい資料のロケール。例えば、en_US

目的

UNIX オペレーティング・システム上で、CD に入っているインストール要件およびリリース情報を表示するには、次のように入力します。

```
/cdrom/doc/%L
```

パラメーター

```
cdrom
```

CD の UNIX マウント・ポイント

```
%L
```

使用したい資料のロケール。例えば、en_US

PDF 文書の表示および印刷

PDF 文書の表示および印刷

DB2 PDF Documentation CD から DB2 Information Integrator PDF ブックを表示および印刷するには、次のようにします。

1. DB2 PDF Documentation CD のルート・ディレクトリーから、index.htm ファイルをオープンします。

2. 使用したい言語をクリックします。
3. 表示したい文書のリンクをクリックします。

DB2 Information Integrator の資料へのアクセス

DB2 Information Integrator の資料へのアクセス

すべての DB2 Information Integrator ブックおよびリリース情報の PDF ファイルは、www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/support.html にある DB2 Information Integrator Support の Web サイトから入手できます。

DB2 Information Integrator Support の Web サイトから、最新の DB2 Information Integrator 製品資料にアクセスするには、394 ページの図 2 に示すように、「Product Information」リンクをクリックします。

The screenshot shows the IBM DB2 Information Integrator Support website. The top navigation bar includes 'Home', 'Products & services', 'Support & downloads', and 'My account'. Below this, a breadcrumb trail reads 'Software > DB2 Information Management > DB2 Information Integration >'. The main heading is 'DB2 Information Integrator'. A search bar is present with the text 'Search support for this product' and 'Enter search terms, phrase, error code or APAR number'. Below the search bar, there are checkboxes for 'Solve a problem (FAQs, APARs, Technotes)', 'Download (Fixes, Patches)', and 'Learn (Manual Papers, etc.)'. A 'Submit' button is highlighted with a blue circle. Below the search bar, there are links for 'Advanced search for this product' and 'Search all software support'. The left sidebar contains a 'Support' section with links for 'My support', 'Submit & track problems', 'How to buy software support', 'Help', 'Site tours', and 'Feedback'. The main content area has a 'Self help' section with sub-sections: 'Solve a problem' (link to Technotes), 'Download' (links to Get Statistics Utilities and Version 8.1 Fix Packs), and 'Learn' (links to Product information and Redbooks). The 'Product information' link is highlighted in yellow and circled in blue. To the right, there is a 'Problem submission' section with text 'If you didn't find a solution to problem and you have a maintenance contract:' and links for 'Submit & track problem:' and 'How to buy support for your software'. At the bottom right, there is an 'Other resources' section.

図2. DB2 Information Integrator Support の Web サイトの「Product Information」リンク

「Product Information」リンクから、サポートされるすべての言語の最新の DB2 Information Integrator の資料にアクセスできます。

- DB2 Information Integrator 製品資料 (PDF ファイル)
- リリース情報も含めた、フィックスパック製品資料
- Linux、UNIX、および Windows の DB2 Information Center のダウンロードとインストールの説明
- DB2 Information Center オンラインへのリンク

DB2 Information Integrator Support の Web サイトは、サポート資料、IBM Redbooks、白書、製品のダウンロード、ユーザー・グループへのリンク、および、DB2 Information Integrator についてのニュースも提供します。

アクセス支援

アクセス支援機能は、身体に障害のある（身体動作が制限されている、視力が弱いなど）ユーザーがソフトウェア製品を十分活用できるように支援します。DB2[®]バージョン 8 製品に備わっている主なアクセス支援機能は、以下のとおりです。

- すべての DB2 機能は、マウスの代わりにキーボードを使ってナビゲーションできます。詳細については、『キーボードによる入力およびナビゲーション』を参照してください。
- DB2 のユーザー・インターフェースのフォント・サイズおよび色をカスタマイズすることができます。詳細については、396 ページの『アクセスしやすい表示』を参照してください。
- DB2 製品は、Java™ Accessibility API を使用するアクセス支援アプリケーションをサポートします。詳細については、396 ページの『支援テクノロジーとの互換性』を参照してください。
- DB2 資料は、アクセスしやすい形式で提供されています。詳細については、396 ページの『アクセスしやすい資料』を参照してください。

キーボードによる入力およびナビゲーション

キーボード・フォーカス

キーボード・フォーカス

UNIX[®] オペレーティング・システムでは、アクティブ・ウィンドウの中で、キー・ストロークによって操作できる領域が強調表示されます。

キーボード入力

キーボード入力

キーボードだけを使用して DB2 ツールを操作できます。マウスを使って実行できる操作は、キーまたはキーの組み合わせによっても実行できます。標準オペレーティング・システム・キー・ストロークを使用して、標準オペレーティング・システム操作を実行できます。

キーまたはキーの組み合わせによって操作を実行する方法について、詳しくは、「キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help」を参照してください。

キーボード・ナビゲーション

キーボード・ナビゲーション

キーまたはキーの組み合わせを使用して、DB2 ツールのユーザー・インターフェースをナビゲートできます。

キーまたはキーの組み合わせによって DB2 ツールをナビゲートする方法の詳細については、「キーボード・ショートカットおよびアクセラレーター: Common GUI help」を参照してください。

アクセスしやすい表示

アクセスしやすい表示

目的

アクセスしやすい表示

フォントの設定

フォントの設定

「ツール設定」ノートブックを使用して、メニューおよびダイアログ・ウィンドウに使用されるテキストの色、サイズ、およびフォントを選択できます。

フォント設定に関する詳細情報は、「メニューおよびテキストのフォントを変更する: Common GUI help」を参照してください。

色に依存しない

色に依存しない

本製品のすべての機能を使用するために、ユーザーは必ずしも色を識別する必要はありません。

支援テクノロジーとの互換性

支援テクノロジーとの互換性

DB2 ツールのインターフェースは、Java Accessibility API をサポートします。これによって、スクリーン・リーダーその他の支援テクノロジーを DB2 製品で利用できるようになります。

アクセスしやすい資料

アクセスしやすい資料

DB2 の資料は、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で提供されています。XHTML により、ご使用のブラウザに設定されている表示設定に従って資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーや他の支援テクノロジーを使用することもできます。

シンタックス・ダイアグラムはドット 10 進形式で提供されます。この形式は、スクリーン・リーダーを使用してオンライン資料にアクセスする場合にのみ使用できます。

IBM と連絡を取る

IBM へのお問い合わせ先は、Web サイト www.ibm.com/planetwide にある「IBM Directory of Worldwide Contacts」をご覧ください。

製品情報

DB2 Information Integrator 製品に関する情報は、Web により入手できます。

Web サイト www-6.ibm.com/jp/software/data/ をご覧ください。

このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 技術ライブラリー
- 資料の注文方法
- 製品のダウンロード
- ニュースグループ
- フィックスパック
- ニュース
- Web リソースへのリンク

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品、プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）の間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠し

たアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

Outside In[®] Viewer Technology, ©1992-2004 Stellent, Chicago, IL., Inc. All Rights Reserved.

IBM XSLT Processor Licensed Materials - Property of IBM ©Copyright IBM Corp., 1999-2004. All Rights Reserved.

商標

ここでは、IBM の商標と、特定の IBM 以外の商標をリストします。

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
AIX
AIX 5L
DB2
DB2 Universal Database
Domino
Domino.doc
Hummingbird
Informix
Lotus
Lotus Notes
Notes
OmniFind
POWER4
POWER5
RISC System/6000
Tivoli
WebSphere
Workplace
xSeries
z/OS

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、MMX および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス制御

 現行の検証 174

 コレクションに対する使用不可化 179

 説明 166

 文書レベル・セキュリティ 173, 186

 ポータル検索エンジン・サポート 186

 ユーザー・プロファイル 175

アクティブ Web サイトのモニター 207, 209

アノテーター 106

アラート

 クロール済み文書数 224

 検索応答時間 224

 コレクション・レベル 201, 224

 サーバー上のフリー・スペース 226

 索引付けされた文書 224

 索引の制限 201

 システム・レベル 226

 説明 224

 E メールでの受信 229

 E メール・オプション 224, 226

 SMTP サーバー構成 228

アンカー・テキスト分析

 グローバル分析 170

 コレクション・セキュリティ 170

 説明 163

 文書の索引作成 171

エラー・メッセージ

 エンタープライズ・サーチ 239

 ログ・ファイルの表示 232

 E メールでの受信 227, 229

 SMTP サーバー構成 228

エンタープライズ・サーチ

 概要 1

 管理コンソール 9

 管理役割 165

 クローラー・サーバー 4

 検索アプリケーション 13

 検索サーバー 8

 コレクション・レベルのセキュリティ 169

 コンポーネント 2

エンタープライズ・サーチ (続き)

 コンポーネントの開始 197

 コンポーネントの停止 197, 199

 索引サーバー 6

 システム・ファイルのリストア 237

 セキュリティ 163

 データ・フロー・ダイアグラム 14

 パーサー 4

 バックアップ 235, 236

 バックアップ・データからのリストア 236

 文書レベル・セキュリティ 173

 ポータル検索エンジン・ポートレットの構成 186

 ポートレット 183

 ポートレットのデプロイメント 185

 メッセージ 239

 モニター 201

 リストア 235

 ログ・ファイル 223

 API 12

 URI フォーマット 86

 WebSphere Portal との統合 183

エンタープライズ・サーチ管理者

 説明 165

 変更、単一サーバー上のパスワード

 22

 変更、複数サーバー上のパスワード

 23

 役割の構成 166

エンタープライズ・サーチのバックアップ 235, 236

エンタープライズ・サーチのメッセージ 239

応答時間履歴のモニター 219

オペレーター

 説明 165

 役割の構成 166

[カ行]

開始

 エンタープライズ・サーチ・コンポーネント 197

 クローラー 205

 検索サーバー 219

 索引作成 216

 サンプル検索アプリケーション 152

 データ・リスナー 220

 パーサー 215

開始 (続き)

 マイグレーション・ウィザード 189, 191

「解析」ページ、説明 17

外部クローラー

 構成 84

 データ・リスナー API 12

 データ・リスナー・アプリケーション 84

カスタム・テキスト分析

 共通分析構造のマッピング 111

 索引への分析結果のマッピング 111

 説明 106

 分析エンジン 108, 109

 XML エLEMENTのマッピング 110

カテゴリ

 カテゴリ化タイプ 99

 カテゴリ・ツリー 98

 検索 94

 作成 100

 サブカテゴリのネスティング 98

 説明 94

 モデル・ベース 97, 99

 ルール・ベース 95, 99

 URI フォーマット 86

 WebSphere Portal からのマイグレーション 189, 191

カテゴリ化タイプ

 選択 31, 99

 モデル・ベース 97

 ルール・ベース 95

カテゴリ規則

 構成 100

 文書コンテンツ 95, 100

 URI パターン 95, 100

カテゴリ・ツリー

 説明 98

 WebSphere Portal からのマイグレーション 189, 191

韓国語、N-gram セグメンテーション 114

管理コンソール

 インターフェース 17

 説明 9

 タスクの概要 17

 ログイン 21

管理者パスワード

 変更、単一サーバー上 22

 変更、複数サーバー上 23

- 管理役割
 - エンタープライズ・サーチ管理者 165, 166
 - オペレーター 165, 166
 - 構成 166
 - コレクション管理者 165, 166
 - 説明 165
 - モニター担当者 165, 166
- キーワード、クイック・リンク 144, 145
- 共通分析構造
 - 索引へのマッピング 111
 - 説明 106
 - XML エLEMENTのマッピング 110
- クイック・リンク
 - 検索 144
 - 作成 145
 - 説明 144
 - URI フォーマット 86
- グローバル Web クロール・スペース 79
- グローバル分析
 - アンカー・テキスト分析 163, 170
 - 説明 6
 - 重複文書分析 163, 169
- クローラー
 - 開始 197, 205
 - 外部サポート 12, 84
 - クローラーのプロパティの編集 40
 - クロール・スペースの編集 41
 - 構成の概要 37
 - 異なるクローラー・タイプの組み合わせ 37
 - 削除 42
 - 作成 39
 - システム状況 205
 - 初期値 39
 - スケジューリング 37
 - 説明 4
 - データ・リスナー・アプリケーション 84
 - 停止 199, 205
 - デフォルトのマイグレーション設定 193
 - 文書タイプ 85
 - 文書レベル・セキュリティ 173
 - 文書レベル・セキュリティを使用可能にする 37
 - ベースとなる値 37
 - モニター 205
 - Content Manager 42
 - DB2 49
 - Exchange Server 50
 - NNTP 52
 - Notes 53
 - UNIX ファイル・システム 60
 - URI フォーマット 86
 - VeniceBridge 61
- クローラー (続き)
 - Web 65
 - Windows ファイル・システム 83
- クローラーのプロパティ
 - 説明 4
 - 編集 40
- クローラー履歴レポート
 - サイト・レポート 210
 - 作成 210
 - 説明 207
 - HTTP 戻りコード・レポート 210
- クローラー・タイプ
 - 単一コレクション内に組み合わせる 37
 - ベースとなる値の選択 37
 - 「クロール」ページ、説明 17
 - クロールする最大の深さ 68
 - クロール速度のモニター 209
- クロール・スペース
 - アラート 224
 - 説明 4
 - 編集 41
 - Web クローラーの構成 68
- 言語的サポート、同義語辞書 139
- 検索
 - カテゴリ 94
 - クイック・リンク 144
 - コレクション 157
 - HTML 文書 105
 - XML 文書 102, 110
 - 「検索」ページ、説明 17
- 検索アプリケーション
 - アプリケーション ID 172
 - カスタム 147
 - コレクションとの関連付け 148
 - コレクション・レベルのセキュリティ 172
 - サンプル 147, 149
 - 説明 13
 - 同義語サポート 140
- 検索応答時間
 - アラート 224
 - モニター 219
- 検索キャッシュ
 - 構成 138
 - 説明 138
- 検索結果
 - グループ化 132, 134
 - サマリー 161
 - サマリーのカスタマイズ 161
 - 省略表示 132, 134
 - 静的ランキング 160
 - 説明 157
 - テキスト・ベースのスコアリング 159
 - 動的要約 161
 - 動的ランキング 159
- 検索結果 (続き)
 - ワイルドカード展開 128, 130
- 検索結果の省略表示
 - 構成 134
 - 説明 132
- 検索サーバー
 - 応答時間履歴 219
 - 開始 197, 219
 - 検索キャッシュ 138
 - 高頻度の照会 219
 - 最新の照会 219
 - システム状況 219
 - 説明 8, 137
 - 停止 199, 219
 - 同義語 XML ファイル 141
 - 同義語辞書 139
 - 同義語辞書の関連付け 143, 144
 - 同義語辞書の作成 142
 - モニター 219
- 検索センター、WebSphere Portal の
 - 説明 183
 - 登録ポートレット 183
- 検証、現行の信用証明情報の 174
- 高頻度の照会のモニター 219
- コレクション
 - アプリケーション ID セキュリティー 172
 - アンカー・テキスト・セキュリティ 170
 - 検索 157
 - 検索アプリケーションとの関連付け 148
 - 検索サーバー 137
 - 構文解析 93
 - 「コレクション」ビューを使用した作成 31
 - コレクション・ウィザードを使用した作成 30
 - サイズの見積もり 31
 - 削除 34
 - 作成方法 29
 - システム状況 203
 - セキュリティ 169
 - 説明 2
 - 重複文書セキュリティ 169
 - デフォルトのマイグレーション設定 193
 - ドラフト 30
 - フェデレーション 29
 - 文書レベルのアクセス制御の迂回 179
 - 編集 33
 - モニター 203
 - リソースの見積もり 201
 - MigrationWizard.log ファイル 191
 - WebSphere Portal からのマイグレーション 189, 191

- コレクション ID、構文規則 31
 - 「コレクション」ビュー
 - コレクションの作成 31
 - 説明 17
- コレクション管理者
 - 説明 165
 - 役割の構成 166
- コレクション・ウィザード 30
- コレクション・レベルのセキュリティー
 - アプリケーション ID 172
 - アンカー・テキスト分析 170
 - 使用可能化 31
 - 説明 163, 169
 - 重複文書分析 169

[サ行]

- 最近クローラされた URL のモニター 207
- 最小再クローラ間隔 72
- 最新の照会のモニター 219
- 最大再クローラ間隔 72
- サイト履歴レポート
 - 作成 210
 - 説明 207
- 索引
 - アラート 224
 - アンカー・テキスト (anchor text) 171
 - 開始 197
 - キューからの削除 217
 - 省略表示した URI 128, 132, 134
 - スケジューリング 124
 - スケジュールの変更 125
 - スケジュールを使用可能にする 126, 216
 - スケジュールを使用不可にする 126, 216
 - 説明 6, 123
 - 停止 199
 - 並行作成 127
 - モニター 216, 217
 - 有効範囲 128, 130
 - ワイルドカード文字 128, 130
 - URI の除去 128, 135
 - 「索引」ページ、説明 17
- 索引キュー 217
- 索引作成
 - 開始 216
 - システム状況 217
 - 停止 216, 217
- 索引スケジュールを使用可能にする 126
- 索引スケジュールを使用不可にする 126
- 索引付けしないディレクティブ
 - 構成 82
 - 説明 81
- 索引の再編成 6, 123

- 索引の再編成 (続き)
 - スケジューリング 124, 125
 - 説明 6, 123
- 索引のリフレッシュ 6, 123
 - スケジューリング 124, 125
 - 説明 6, 123
- 削除
 - キューから索引を 217
 - クローラー 42
 - コレクション 34
- 作成
 - クイック・リンク 145
 - クローラー 39
 - コレクション 30, 31
 - 有効範囲 131
 - ルール・ベースのカテゴリ 100
 - HTML 検索フィールド 105
 - Web クローラー・レポート 210
 - XML 検索フィールド 102
- サマリー
 - カスタマイズ 161
 - 動的 161
- サンプル検索アプリケーション
 - アクセス 152
 - 開始 152
 - 検索機能 147, 149
 - セキュリティーの使用可能化 153
 - セキュリティーの使用不可化 168
 - 説明 13, 149
 - デフォルトのデプロイメント 150
 - プロパティ・ファイル 150
 - WebSphere グローバル・セキュリティー 153
 - 「システム」ビュー、説明 17
- システム状況
 - クローラー 205
 - 検索サーバー 219
 - コレクション 203
 - 索引作成 217
 - パーサー 215
 - Web クローラー 207
- システムのバックアップ 235, 236
- システムのリストア 235, 236, 237
- システム・リソース
 - チェック 202
 - 見積もり 201
- システム・リソースのチェック 202
- システム・リソースの見積もり 201
- 照会
 - 拡張技法 157
 - スペル・チェック 157
 - パラメトリック 157
 - フィールド検索 157
 - フリー・テキスト検索 157
- 照会の検証 174
- 照会のスペル・チェック 157

- 省略表示した URI
 - 構成 134
 - 説明 132
- 除去、索引から URI を 135
- スキーマ、LDAP 176
- スクリプト
 - esbackup.bat 236, 237
 - esbackup.sh 236, 237
 - escrm.sh 44, 46
 - escrm.vbs 47
 - escrnote.sh 55
 - escrnte.vbs 57
 - escrvbr.sh 62
 - escrvbr.vbs 63
 - esrestore.bat 236, 237
 - esrestore.sh 236, 237
 - essyndictbuilder 142
 - startccl 236
- スケジューリング
 - クローラー 37
 - 索引作成 124, 125
- スレッドの詳細のモニター 207, 208
- 静的ランキング
 - コレクションの使用可能化 31
 - 説明 160
 - マイ그레이ションされたコレクションにおける 191
- セキュリティー
 - アクセス制御 166
 - アンカー・テキスト分析 170
 - 管理役割 166
 - 検索アプリケーション ID 172
 - コレクションの使用可能化 31, 163
 - コレクション・レベル 169, 179
 - サンプル検索アプリケーション 153
 - 説明 163
 - 重複文書分析 169
 - 認証 166, 168
 - 文書レベル 173, 174, 178, 179
 - 文書レベルのアクセス制御の迂回 179
 - ユーザー・プロファイル 175
 - LDAP サーバー 176, 178
 - LDAP スキーマ 176
 - WebSphere Application Server 内でのエンタープライズ・アプリケーション 168
 - WebSphere グローバル・セキュリティー 168
 - 「セキュリティー」ビュー、説明 17
- セキュリティー・トークン
 - クローラー構成 173
 - コレクションに対する使用不可化 179
 - 文書レベル・セキュリティー 173, 186
 - ポータル検索エンジン処理 186
- セマンティック検索 106, 110

ソフト・エラー・ページ、Web クローラ
ー 73

[夕行]

タスクの概要、管理コンソール 17

中国語

改行文字の解析 114

N-gram セグメンテーション 114

重複文書分析

グローバル分析 169

セキュリティの使用可能化 169

説明 163

データ・ソース・タイプ

エンタープライズ・サーチでサポート
されている 1

外部サポート 1, 12

リレーショナル・データベース 49

DB2 Content Manager 項目タイプ 42

DB2 データベース 49

Exchange Server のパブリック・フォ
ルダー 50

NNTP ニュースグループ 52

Notes データベース 53

UNIX ファイル・システム 60

VeniceBridge 項目クラス 61

Web サイト 65

Windows ファイル・システム 83

データ・フロー、エンタープライズ・サ
ーチ・システム 14

データ・リスナー

構成 84

再始動 84, 220

モニター 220

データ・リスナー API 1, 12

停止

エンタープライズ・サーチ・コンポー
ネント 197, 199

クローラー 205

検索サーバー 219

索引作成 216, 217

パーサー 215

ディスカバリー 4

テキスト分析 (text analysis)

アノテーター 106

共通分析構造 106, 111

分析エンジン 106, 108, 109

XML エLEMENTのマッピング 110

テキスト・ベースのスコアリング 159

デフォルトの検索アプリケーション 150

同義語辞書

検索アプリケーション・サポート 140

コレクションとの関連付け 144

システムとの関連付け 143

説明 139

DIC ファイルの作成 142

同義語辞書 (続き)

XML ファイルの作成 141

動的要約 161

動的ランキング 159

[ナ行]

日本語

改行文字の解析 114

N-gram セグメンテーション 114

認証

使用不可化 168

説明 166

ネイティブ XML 検索 113

[ハ行]

パーサー

改行文字 114

開始 197, 215

空白文字 114

構文解析、文書タイプの 115

システム状況 215

説明 4, 93

データ分析タスク 4

停止 199, 215

ネイティブ XML 検索 113

パーサー・サービスの文書タイプ
116, 117

モニター 215

N-gram セグメンテーション 114

Stellent セッション用の文書タイプ
118, 120

パスワード、エンタープライズ・サーチ管
理者 22, 23

パスワード保護された Web サイト 75

フォーム・ベースの認証 77

HTTP 基本認証 76

バックアップ・スクリプト

稼働中 236, 237

説明 235

パラメトリック照会 157

表示

ログ・ファイル 232

URI の詳細 204

ファイル拡張子

コレクション・パーサーによってサポ
ートされている 116, 117

除外、Web クロール・スペースから
68

Stellent セッションでサポートされて
いる 118, 120

フィールド照会 157

フェデレーテッド・コレクション 29

フォーム・ベースの認証 75, 77

フリー・スペースのアラート 226

フリー・テキスト照会 157

プロキシ・サーバー 74

文書検索ポートレット 186

文書タイプ

構文解析 115

デフォルト、パーサー・サービスの
117

パーサー・サービスの 116

Stellent セッション用 118, 120

文書の重要度

コレクションの使用可能化 31

マイグレーションされたコレクション
における 191

文書レベル・セキュリティ

クローラー構成 37

現行の信用証明情報の検証 174

索引付きアクセス制御 173

セキュリティ・トークン 173

説明 163, 173

ポータル検索エンジン・サポート 186

ユーザー・プロファイル 175

リアルタイムの検証 174

ID 管理 176

LDAP サーバー構成 178

分析エンジン

コレクションとの関連付け 109

システムとの関連付け 108

説明 106

分析結果のマッピング 111

XML エLEMENTのマッピング 110

分類、WebSphere Portal からのマイグレ
ーション 189, 191

分類管理ポートレット 189

並行索引作成 127

編集

クローラーのプロパティ 40

クロール・スペース 41

検索アプリケーションのプロパティ
150

コレクション 33

データ・リスナー・アプリケーション
84

ポータル検索エンジン

エンタープライズ・サーチを使用する
ための構成 186

セキュリティ・トークンを渡す 186

説明 183

文書レベル・セキュリティ 186

ポートレット

エンタープライズ・サーチ 183

カタログ Web サイト 185

サポートされる WebSphere Portal の
バージョン 183

説明 183

デブロイ 185

ポートレット (続き)
分類管理ポートレット 189

[マ行]

マイグレーション
コレクション 191
モデル・ベースの分類 189
ルール・ベースの分類 191
マイグレーション・ウィザード
開始 189, 191
コレクション 191
説明 189
デフォルトのクローラー設定 193
デフォルトのコレクション設定 193
モデル・ベースの分類 189
ルール・ベースの分類 191
ログ・ファイル 195
マッピング
共通分析構造 111
共通分析構造への XML エLEMENTの
110
HTML 検索フィールド 105
XML 検索フィールド 102
モデル・ベースのカテゴリ
カテゴリ化タイプの選択 99
説明 97
モデル・ベースの分類、WebSphere Portal
からのマイグレーション 189
モニター
エンタープライズ・サーチ 201
応答時間履歴 219
クローラー 205
検索サーバー 219
高頻度の照会 219
コレクション 203
最新の照会 219
データ・リスナー 220
パーサー 215
ログ・ファイル 232
Web クローラー 207
Web クローラーのクローリング速度 209
Web クローラーのスレッドの詳細
208
Web クローラー・アクティブ・サイト
209
「モニター」ビュー、説明 17
モニター担当者
説明 165
役割の構成 166

[ヤ行]

ユーザー・エージェント 66
ユーザー・プロフィール 175

有効範囲
検索 130
作成 131
説明 130
URI パターン 130, 131
URI フォーマット 86

[ラ行]

ランキング
静的 160
テキスト・ベースのスコアリング 159
動的 159
リストア
システム・ファイルを新規のサーバー
に 237
バックアップ・データからの 236
リストア・スクリプト
稼働中 236, 237
説明 235
リンクをたどらないディレクティブ
構成 82
説明 81
ルール・ベースのカテゴリ
カテゴリ化タイプの選択 99
作成 100
説明 95
ルール・ベースの分類、WebSphere
Portal からのマイグレーション 191
ルール・ベースの分類、WebSphere Portal
からのマイグレーション 189
「ログ」ページ、説明 17
ログイン、管理コンソールへの 21
ログ・ファイル
最大サイズ 227
重大度レベル 227
循環 227
説明 223
デフォルトの場所 223
表示 232
フィルター 232
マイグレーション・ウィザード 195
モニター 232
E メール・オプション 229
SMTP サーバー構成 228

[ワ行]

ワイルドカード文字
索引展開 128, 130
照会展開 128, 130

A

Active Directory Server 176
ads.add.ldif ファイル 176
AIX
Content Manager クローラーの構成
44
Notes クローラーの構成 55
VeniceBridge クローラーの構成 62
API
説明 12
データ・リスナー 1, 12
Search and Index 12, 147

C

config.properties ファイル 150
Content Manager クローラー
構成 42
AIX でのセットアップ 44
Linux でのセットアップ 46
URI フォーマット 86
Windows でのセットアップ 47
Content Manager の Java コネクタ 44,
46, 47
cookies.ini ファイル
構成 79
説明 78
フォーマット 78
Cookie, Web クローリングの
構成 79
説明 78
フォーマット 78
crawl.rules ファイル 79

D

DB2 II OmniFind Edition
概要 1
管理コンソール 9
クローラー・サーバー 4
検索アプリケーション 13
検索サーバー 8
コンポーネント 2
索引サーバー 6
データ・フロー・ダイアグラム 14
パーサー 4
ポートレットのデプロイメント 185
メッセージ 239
API 12
WebSphere Portal との統合 183
DB2 クローラー
構成 49
URI フォーマット 86
DIC ファイル 142

DIIOOP プロトコル、Notes クローラー構成
59

E

E メール通知

アラート 229

メッセージ 229

SMTP サーバー構成 228

ESAdmin アプリケーション

セキュリティの使用不可化 168

ログイン 21

esbackup.bat スクリプト 236, 237

esbackup.sh スクリプト 236, 237

eschangepw スクリプト 22, 23

escrcm.sh スクリプト 44, 46

escrcm.vbs スクリプト 47

escrnote.sh スクリプト 55

escrnte.vbs スクリプト 57

escrvbr.sh スクリプト 62

escrvbr.vbs スクリプト 63

esrestore.bat スクリプト 236, 237

esrestore.sh スクリプト 236, 237

ESSearchApplication アプリケーション

再始動 150, 153

セキュリティの使用可能化 153

セキュリティの使用不可化 168

プロパティ・ファイル 150

ESSearchServer アプリケーション 168

essyndictbuilder.bat スクリプト 142

essyndictbuilder.sh スクリプト 142

es.cfg ファイル 22, 23

ES_INSTALL_ROOT、説明 22, 23

ES_NODE_ROOT、説明 22, 23

Exchange Server クローラー

構成 50

URI フォーマット 86

F

followindex.rules ファイル

構成 82

説明 81

G

global.rules ファイル 79

H

HTML 検索フィールド

エレメントのマッピング 105

作成 105

説明 105

HTML 文書、検索 105

HTTP 基本認証 75, 76

HTTP プロキシ・サーバー 74

HTTP 戻りコード

Web クローラーが受け取った 210

Web クローラー・レポート 210

I

ID 管理 176

J

JavaScript サポート、Web クローラーの
67

L

LDAP サーバー

構成 178

スキーマのインポート 176

ユーザー・プロファイル 175, 178

Active Directory Server 176

ID 管理のサポートのサポート 176

Tivoli Directory Server 176

ldapadd コマンド 176

ldifde コマンド 176

Linux

Content Manager クローラーの構成
46

Notes クローラーの構成 55

VeniceBridge クローラーの構成 62

M

MIME タイプ、Web クロール・スペース
に入れる 68

N

NNTP クローラー、構成 52

Notes クローラー

構成 53

AIX でのセットアップ 55

DIIOOP プロトコル構成 59

Linux でのセットアップ 55

NRPC プロトコル 55, 57

URI フォーマット 86

Windows でのセットアップ 57

NRPC プロトコル、Notes クローラー構成
55, 57

N-gram セグメンテーション 114

P

parserTypes.cfg ファイル 116

R

Robots Exclusion プロトコル 66

robots.txt ファイル 66

runtime-generic.properties ファイル 161

S

Search and Index API 12, 147

SIAPI (Search and Index API) 12, 147

SMTP サーバー構成 228

startccl スクリプト 236

Stellent セッション

構文解析、文書タイプの 115

デフォルトの文書タイプ 120

文書タイプの関連付け 118

stellentypes.cfg ファイル 118

stellent.properties ファイル 118

synonyms.xml ファイル 189

T

tds.add.ldif ファイル 176

titles.xml ファイル 189

Tivoli Directory Server 176

treenodes.xml ファイル 189

U

UIMA

共通分析構造 111

索引への分析結果のマッピング 111

説明 106

分析エンジンの関連付け 108, 109

XML エレメントのマッピング 110

UNIX ファイル・システム・クローラー
構成 60

URI フォーマット 86

URI

エンタープライズ・サーチにおけるフ
ォーマット 86

カテゴリ規則 95, 100

クイック・リンク 144, 145

検索結果の省略表示 132, 134

索引からの除去 135

詳細情報の表示 204

有効範囲 130, 131

URL にできる限り早くアクセスする 72

URL にできる限り早く再アクセスする
72

V

vbr_access_services.jar ファイル 62, 63

VeniceBridge クローラー

構成 61

AIX でのセットアップ 62

Linux でのセットアップ 62

URI フォーマット 86

Windows でのセットアップ 63

W

Web クローラー

アクティブ・サイト 207, 209

グローバル・クロール・スペース 79

クローラー履歴 207

クロール規則 68

クロール速度 209

クロール・スペース の制限 68

構成 65

最近クロールされた URL 207

再クロール間隔 72

サイト履歴 207

索引付けしないディレクティブ 81, 82

シード URL 68, 72

システム状況 207

スレッドの詳細 207, 208

ソフト・エラー・ページ 73

パスワード保護された Web サイト
75, 76, 77

プロキシ・サーバー 74

モニター 207

ユーザー・エージェント 66

リンクをたどらないディレクティブ
81, 82

レポートの作成 210

Cookie 78

Cookie 構成 79

Cookie フォーマット 78

followindex.rules ファイル 81, 82

JavaScript サポート 67

URL 状況 207

URL にできる限り早くアクセスする
72

Web クローラーの IP アドレス規則 68

Web クローラーのアドレス規則 68

Web クローラーの再クロール間隔 72

Web クローラーのシード URL 68, 72

Web クローラーの接頭部規則 68

Web クローラーのドメイン規則 68

Web クロール・スペースの制限 68

WebSphere Application Server 内でのエン
タープライズ・アプリケーション 168

WebSphere Portal

エンタープライズ・サーチとの統合
183

カタログ Web サイト 185

カテゴリ・ツリーのマイグレーション
189

コレクションのマイグレーション 189

デフォルトのマイグレーション設定
193

分類管理ポートレット 189

分類のマイグレーション 189

ポートレットのデプロイメント 185

モデル・ベースの分類 189

WebSphere グローバル・セキュリティ
検索アプリケーションのプロパティ
150

使用不可化 168

WebSphere ポータル検索センター 183

説明 183

登録ポートレット 183

Windows オペレーティング・システム

Content Manager クローラーの構成
47

Notes クローラーの構成 57

VeniceBridge クローラーの構成 63

Windows ファイル・システム・クローラ
ー

構成 83

URI フォーマット 86

WpsMigratorLog.log ファイル 195

X

XML エlement

共通分析構造へのマッピング 110

検索 102, 110

XML 検索フィールド

Element のマッピング 102, 110

作成 102

説明 102, 110

XML 照会構文、ネイティブ 113

XML フラグメント、ネイティブ XML 検
索 113

XML 文書、検索 102

XPath、ネイティブ XML 検索 113



Printed in Japan



SD88-6374-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12